

二日市イシバチ遺跡 3

2013

石川県野々市市教育委員会

ふつ か いち
二日市イシバチ遺跡 3

2013

石川県野々市市教育委員会



調査区遠景（北西から）



A - E 区遠景（北から）



G、H、J、K区遠景（東から）



D区 S15（上空から）



I区 SI15、SI29 (上空から)



I区 SI15 土器 144・150 出土状況



M区 古墳4、5 (南から)



B区 SI17・SI18、SB20・SB21、SD5～7 (上空から)

例 言

- 1 本書は、二日市イシバチ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は、石川県野々市市二日市町地内である。
- 3 調査原因は、野々市市西北部土地区画整理事業にともなうものである。
- 4 調査は、野々市市西北部土地区画整理組合からの依頼を受けて野々市市教育委員会が実施した。
- 5 調査にかかる費用は、野々市市西北部土地区画整理組合と野々市市が負担した。
- 6 現地調査の年度・期間・面積・担当者は以下のとおりである。

平成18年度 第1次

期 間 平成18年5月8日～平成19年1月16日
面 積 7,819㎡
担当者 田村昌宏 野々市町教育委員会文化振興課職員

平成20年度 第5次

期 間 平成20年7月15日～平成20年9月5日
面 積 565㎡
担当者 田村昌宏

平成21年度 第6次

期 間 平成21年4月13日～平成21年8月28日
面 積 2,130㎡
担当者 横山貴広 野々市町教育委員会文化振興課職員

- 7 出土品整理は平成23、24年度に野々市市教育委員会が実施した。
- 8 報告書の刊行は平成23年度に野々市市教育委員会文化振興課が実施した。担当及び執筆・編集は田村昌宏、編集補助・遺物写真撮影・レイアウトは菊地由里子、布尾幸恵が行った。
- 9 現地調査から出土品整理、報告書刊行に至るまでに、野々市市西北部土地区画整理組合、林大智、安中哲徳の協力を得た。(敬称略)
- 10 本書についての凡例は以下のとおりである。
 - (1) 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅲ系に準拠している。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T. P. (東京湾平均海面標高)による。
 - (3) 出土遺物番号は、本文・観察表・挿図・写真に対応する。
 - (4) 挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
 - (5) 土層図の注記は、農林水産省農林水産技術会事務局・財団法人 日本色彩研究所監修「新版標準土色帖」に拠った。
 - (6) 遺構名称の略号は以下のとおりである。
掘立柱建物：SB 溝：SD 井戸：SE 占墳：SH
竪穴建物、竪穴状遺構：SI 上坑：SK 小穴：P 性格不明遺構：SX
- 11 調査に関する記録と出土遺物は、野々市市教育委員会が一括して保管・管理している。

目 次

第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘作業の経過	1
第3節 整理作業の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の方法と成果	8
第1節 調査区の設定	8
第2節 調査の方法	8
第3節 層序	8
第4節 遺構	10
第5節 遺物	114
第4章 総括	164
遺物観察表	166
写真図版	

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

本書収録の二日市イシバチ遺跡が所在する野々市市西北部地域は、整然とした水田が広がる農業振興地域であった。しかし、近年における周辺地域の都市化に伴い、本地域も住生活環境の変化が必要となり宅地化の促進が図られることになった。そこで、平成11年に野々市町西北部土地区画整理事業が施行されることが決定した。

西北部土地区画整理施行区域65.4ha内には、埋蔵文化財の存在する可能性があり、詳細な確認調査を行う必要が生じた。そこで、平成11年8月25日付で野々市町産業建設部長から野々市町教育委員会教育長宛に上地区画整理事業区域内の埋蔵文化財の分布調査についての依頼が出され、同年8月31日付けで同区域での分布調査を行う旨の回答をした。これに基づき、西北部土地区画整理施行区域内に試掘坑352箇所を設定し、宅地化など掘削作業できない箇所を除いた337箇所を、同年9月27日～10月19日にかけて試掘調査を実施した。その結果、以前より存在が確認されていた二日市イシバチ遺跡の南側の範囲が確定したほか、新たに、三日市ヒガシタンボ遺跡、三日市八遺跡、郷クボタ遺跡、徳用クヤダ遺跡を発見した。

この結果から、野々市町西北部土地区画整理組合、野々市町都市計画課、野々市町教育委員会と協議を重ね、埋蔵文化財包蔵地のうち、道路等恒久化する工事箇所と、民有地内で十分な遺跡の保護層が確保できない箇所については、発掘調査を行うことで合意した。平成12年4月13日付けで、野々市町と野々市町西北部土地区画整理組合との間で野々市町西北部土地区画整理事業地区内埋蔵文化財に関する協定書が交わされた。

二日市イシバチ遺跡、三日市ヒガシタンボ遺跡、三日市八遺跡、郷クボタ遺跡、徳用クヤダ遺跡に関する文化財保護法第57条の3に基づく届出については、西北部土地区画整理組合から文化庁長官宛に提出されたものを、平成12年3月29日付けで野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会教育長宛に递達した。これを受けて、同年3月30日付けで石川県教育委員会教育長から野々市町教育委員会教育長宛に埋蔵文化財発掘調査の届出に関する通知がなされた。

以上の手続きを終えて、平成13年度より上記5遺跡の発掘調査が開始された。

第2節 発掘作業の経過

第1次（平成18年度調査）

第1次発掘調査は、野々市市西北部土地区画整理地区内の区画道路工事に伴う事業を調査原因とする。

平成18年4月3日、野々市町西北部土地区画整理組合（当時以下、西北部組合と呼称する。）から野々市町（当時）に当該地域における発掘調査の依頼があった。同日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を西北部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と西北部組合との間で委託契約を締結した。

現地調査は調査面積が広大なこともあって、A～C区、D・E区、F・I・L・M区の3区画に分けて実施した。A～C区については、表土除去は5月8日より開始し5月15日に完了した。発掘作業員による人力作業は5月12日より始め7月5日に完了。継続して遺構清掃を行い、7月7日にラジコンヘリコプターによる空中写真測量を実施した。D・E区については、表土除去を6月26日より開始し6月29日に完了した。発掘作業員による人力作業は6月29日より始め9月27日に完了し、そのまま遺構清掃を行い、10月13日にラジコンヘリコプターによる空中写真測量を実施した。F・I・L・M区については、表土除去を8月1日より開始し8月10日に完了した。発掘作業員による人力作業は10月12日より始め12月27日に完了。そのまま遺構清掃を行い、平成19年1月11日にラジコンヘリコプターによる空中写真測量を実施した。その後、主要遺構の補足調査、調査器材の搬出を経て、1月16日現地調査を完了した。

第5次（平成20年度調査）

第5次発掘調査は、野々市市西北部土地区画整理地区内の河川水路工事事業に伴う仮設水路の設置を調査原因とする。

平成20年6月30日、北西部組合から野々市町に当該地域における発掘調査の依頼があった。7月2日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。現地調査は、7月15日より大型掘削機による地山面までの掘削から始まった。掘削機による表土除去は、7月17日に完了した。7月22日から発掘作業員による人力作業が始まった。9月2日人力による掘削作業が完了し、翌3日より遺構清掃を開始した。9月5日、遺構清掃が終わり、ラジコンヘリコプターによる空中写真測量を実施。測量後は遺物の取り上げ、調査器材を搬出して、現地調査は完了した。

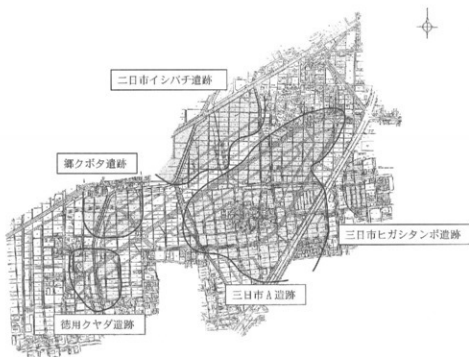
第6次（平成21年度調査）

第6次発掘調査は、野々市市北西部土地区画整理地区63・64街区の一部と区画道路を調査原因とする。

平成21年4月1日、北西部組合から野々市町に当該地域における発掘調査の依頼があった。同月同日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。現地調査は4月13日より始め、8月28日に完了した。

第3節 整理作業の経過

出土品の整理は平成22年9月1日より出土品の洗浄作業から始まった。洗浄は10月20日に終了し、翌21日より記名・分類・接合作業にとりかかった。平成23年1月16日から出土品の一部の実測作業が始まり、実測については、平成24年度に入ってから継続して実施した。平成23年度は一時中断し、平成24年4月2日から実測作業を再開した。8月31日実測作業が完了し、9月3日からは出土品等の製図作業を始め、9月24日に終了した。平成24年9月3日～9月28日、11月1日～11月30日までの間は出土品の写真撮影作業を実施した。平成24年12月から発掘調査報告書の原稿執筆や編集作業を実施して、3月28日までこれらの作業を完了した。



第1図 北西部土地区画整理事業地区遺跡位置図



第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

野々市市は石川県のほぼ中央、石川平野の要地に位置する。市の大きさは南北約6.7 km、東西4.5 kmで、県内で最も面積の小さい自治体である。市域は霊峰白山を源とする県下第一級河川手取川によって形成された手取川扇状地の北東部にあたり、扇尖部と扇端部の狭間に位置する。本市で最も高い標高地は50 m、最も低い地点は10 mで、なだらかな緩斜面となる地勢をみせている。

現在の野々市市は平坦な地形が広がっているが、従前は手取川から派生する多くの小河川によって形成された微高地と微低地が混在する地形であった。野々市で人々の生活が認められるのは縄文時代後期前半からで、集落の拠点は標高の高い微高地であった。この時代は扇状地の大部分が未開の原野で、スキヤや低木が生い茂る荒地であったようである。これが稲作の伝わる弥生時代から石川平野の中で水田耕作が営まれるようになり、土地の開墾が始まっていった。古代以降、農具の発達などにより凸凹の多い土地は次々と開発されていき、未開発地は耕作地として生まれ変わっていった。明治時代以降は、田区改正による耕地整理が各地で急速に広がり、市内全域は起伏のない平坦な地形へと移り変わり、水田区画は碁盤目のように整然となった。このような、大きく広がった田園風景は昭和30年代ころまで見られた。

しかし、昭和40年代の高度経済成長期以降は、県庁所在地金沢市の隣接地という地理的条件から、住宅地や商業施設の建設などが著しくなり、急速に水田風景は失われていった。特に、北部の御経塚地区や南部の三納・栗田・新庄地区は区画整理事業が進み、住宅地として生まれ変わっていった。今回、発掘調査箇所となる市域北西部地区も区画整理事業の一貫として行われており、周辺地は大きな変貌を遂げてきている。また、市内の東部には金沢工業大学、南部には石川県立大学といった教育機関が置かれ、若者が多く集う学園都市としての性格も持ち合わせている。

今回の発掘調査地である二日市イシバチ遺跡は、標高約15 mで、手取川から派生する小河川によって形成された微高地上に立地する。ただし、市域上流部と比較して、大きな川原石の堆積は少なく、微低地との高低差も大差ないことから、当時の生活拠点の場としては、非常に適した地であったと思われる。



第3図 野々市市位置図

第2節 歴史的環境

二日市イシバチ遺跡周辺に点在する遺跡を、時代別に概観する。

縄文時代

本遺跡より北東方約1 km離れたところには国指定史跡となっている6御経塚遺跡が存在する。御経塚遺跡は、縄文時代後期中葉～弥生時代初頭にかけて営まれた地域における拠点集落である。当遺跡で発見された御経塚式土器は縄文時代晩期の基準資料となる。御経塚遺跡の近隣には、縄文時代後期後半～晩期後半の1チカモリ遺跡や縄文時代後期後半～晩期後半の2中屋サワ遺跡といった集落遺跡が点在し、御経塚遺跡の拠点集落を中心に展開した出村的な集落であったようである。これらの遺跡は標高6～10 mに立地し、扇状地を伏流する地下水の湧水域であった。また、当時の生活に必要な落葉広葉樹と照葉樹が混在する豊かな

林野が大きく広がっていた場所でもあったことから、この地帯は当時の人々にとって生活環境に最適な場であったようである。

本遺跡より南東約2 kmのところには、縄文時代晩期の17長竹遺跡がある。長竹遺跡は縄文時代後半の基準資料となる土器が出土した遺跡で、水田稲作農耕が西日本に波及した極めて重要な時期である。なお、12二日市A遺跡及び御経塚遺跡からは、当該時期の稲穂の正痕のついた土器が出土している。

弥生時代

手取川扇状地一帯における弥生時代の遺跡分布を見ると、前期～中期にかけては極めて少なく、後期に数多く存在する。御経塚遺跡（ツカダ地区）、15 乾遺跡からは、柴山出村式と呼ばれる弥生時代前期の土器が確認されているが、この時期は弥生文化の波及が十分ではなく、まだ縄文文化の影響が強く残っていたようである。

弥生時代後期になると、鉄器の普及などを要因とする生産力の向上から人口が増え、それに伴い手取川扇状地一帯にも集落が展開するようになる。本遺跡をはじめ、周辺にある5 御経塚シンデン遺跡、御経塚遺跡、7 長池ニシタンボ遺跡、10 郷クボタ遺跡、三門市A遺跡、13 三門市ヒガシタンボ遺跡、14 徳丸ジョウジャダ遺跡などからは、竪穴建物や掘立柱建物などで構成される集落跡が見つまっている。これは、農耕社会が急速に広がったことから、安定した農耕地の確保が必要となったため、広範にわたってムラが形成されていったと考えられる。

古墳時代

古墳時代前半については、本遺跡で、弥生時代後期からの流れを汲む集落跡を確認することができるが、扇状地上での集落数は激減し、一旦取東傾向となる。ただし、本遺跡より北方1 kmにある御経塚シンデン遺跡・御経塚シンデン古墳群では、弥生集落廃絶後に15基の前方後方墳、方墳からなる大古墳群を造立している。また、本遺跡の集落域からやや離れた箇所には、一辺約18 mの規模を中心とした大小の方墳7基を確認しており、各地域を治める首長層の存在を伺い知ることができる。

古墳時代後半になると、本遺跡から南方約4 kmの市上流域の扇状地扇状部で末松古墳や上林古墳など後期古墳が築かれるようになる。これは河川上流域における開発が広がり始めていったことを意味する。

古代

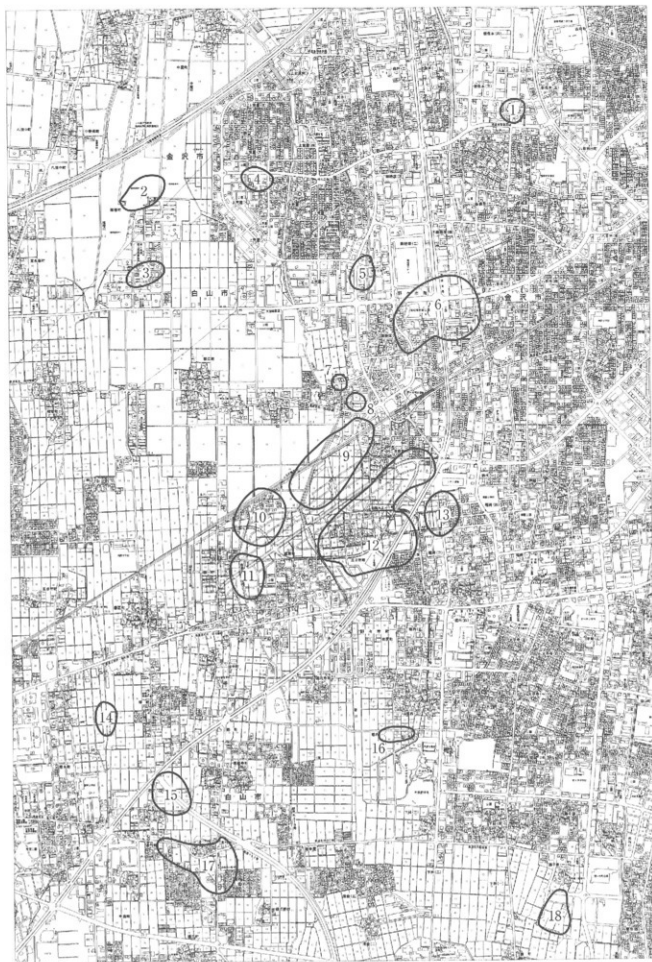
7世紀後半には、手取川扇状地扇状部に、県内最古の古代寺院である末松廃寺が建立される。末松廃寺は、東に塔、西に金堂が置かれた法起寺式の伽藍配置をもち、この寺院建立以降、市内南部地域を含む手取川扇状地扇状部一帯で耕作地開発が急速に進み、特に8世紀後半以降は18 藤平田ナカシンギ遺跡をはじめとする周辺各地に集落が増大していく。扇状地扇状部には、初期荘園の遺跡である3 横江荘々家跡、4 上荒屋遺跡が存在する。また、本遺跡の南方部には、9世紀頃に成立した古代の官道である北陸道の跡が見つかり、上記荘園遺跡との関係が指摘されている。

中世

11世紀後半～12世紀頃から、在地領土層の武士団の形成がはかれるようになった。地元武士団である林氏や富樫氏は、手取川扇状地での新開発や再開発に大きな影響を与えた。ただし、市内において現在のところ中世前半にかけての遺跡はあまり多く確認されていない。中世の遺跡が多く認められるようになるのは、富樫氏が加賀国の守護職に任じられ、野市に守護所を置く14世紀頃からである。本遺跡をはじめ、近隣の三門市A遺跡や郷クボタ遺跡、中屋サワ遺跡では、溝で囲まれた中に建物などが配置される散居村のような景観が広がる集落が認められる。また、本遺跡南方1.5 kmにある16 堀内館跡では、幅1.5 m、深さ1 mほどの大きな堀で囲まれた屋敷地の跡も確認されている。15世紀以降になると、集落跡である本遺跡、8 長池キタノハシ遺跡、11 徳用クヤダ遺跡では、掘立柱建物、竪穴状遺構などの主要遺構が密集した村落形態を示し、14世紀頃までみられた散村から集村へと大きく変わる様相となる。

近世

現在見ることでできる集落は、近世に成立したと考えられる。御経塚集落内（御経塚遺跡テ地区）や郷町集落（徳用クヤダ遺跡）隣接地での発掘調査でも、近世の遺構・遺物を発見している。また、乾遺跡や、三門市A遺跡からは、近世前半の墓地跡を確認している。



第4図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (S=1/20000)

第1表 野々市市と周辺の遺跡

番号	遺跡名	種別	時代
1	チカモリ遺跡	集落跡	縄文
2	中屋サワ遺跡	集落跡	縄文～中世
3	横江荘々家跡	荘園	古代
4	上荒原遺跡	集落跡 荘園跡	縄文～中世
5	御経塚シンデン遺跡 御経塚シンデン古墳群	集落跡 古墳	弥生～中世
6	御経塚遺跡	集落跡	縄文～中世
7	長池ニシタンゴ遺跡	集落跡	弥生
8	長池キタノハシ遺跡	集落跡	中世
9	二口市イシバナ遺跡	集落跡 古墳	縄文 弥生 古墳 中世
10	郷クボタ遺跡	集落跡	弥生 古代 中世
11	郷川クヤタ遺跡	集落跡	古代 中世
12	二口市A遺跡	集落跡	弥生 古代 中世
13	三日山ヒガシケンボ遺跡	集落跡	弥生 古代 中世
14	徳丸ジョウジャタ遺跡	集落跡	弥生 古代
15	乾遺跡	集落跡・墓地	縄文～近世
16	堀内遺跡	館跡	中世
17	長竹遺跡	墓地・散布地	縄文～古墳
18	藤平田ナカシキジ遺跡	集落跡	古代 中世

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査区の設定

本調査区は、平成18・20・21年度と年を跨いで発掘調査を実施している。また、調査区域内には既設農業用道路や耕作地や排水用の生活用水が縦断している。これらの箇所については、発掘調査の対象から外したことから、調査区域内に小区画が設定されることとなった。本報告では、小区画毎にアルファベットA～Mの区名を設けて、その呼称を使用して遺跡の概要を紹介する。

第2節 調査の方法

現地調査は、大型掘削機による表上の除去作業からはじめた。重機による掘削は、遺構面直上までとした。重機掘削完了後、人力による作業を実施した。人力による作業は、鍬鏝などの道具で遺構面の検出を行い、その後、移植ゴテなどで遺構を掘削していく。遺構検出及び遺構掘削の作業の中で、遺跡の様相を把握するため、写真撮影や、遺構平面図・断面図などの作成を同時に行っていった。記録を完了した遺構については、順次完掘していった。調査区内の遺構完掘後は、清掃作業を行ってから、空中写真測量及び完掘状態の個別遺構の写真を撮影して調査を完了していった。

整理作業については、野々市市ふるさと歴史館内にある調査整理室で実施した。作業手順は、出土した遺物を水で洗浄し乾燥させ、乾燥した遺物に遺跡名や出土した地点などを注記した。注記後、一部の遺物を実測し、この遺物実測図や現地で表記した遺構実測図を製図トレスした。

これらの作業完了後、遺物の写真を撮影し、調査担当者が原稿執筆、図面・写真のレイアウト等を行い、報告書を刊行した。

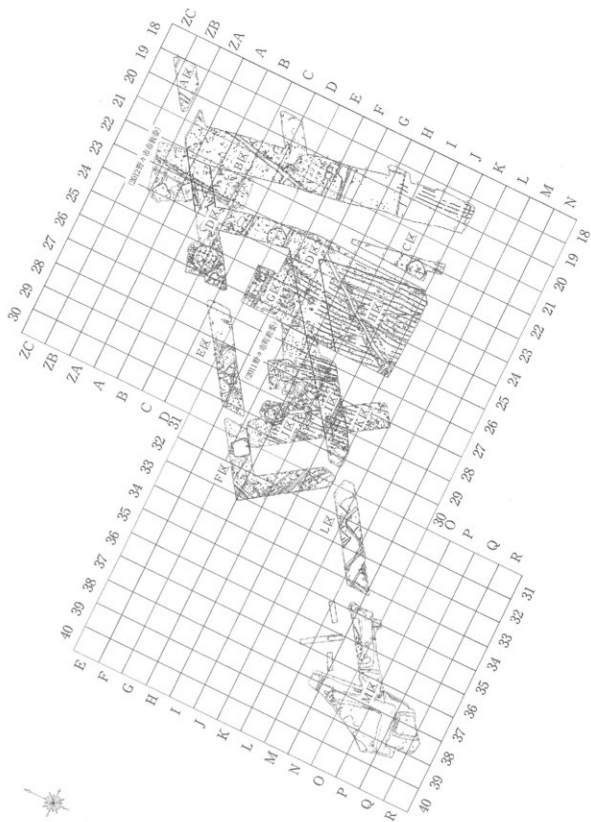
第3節 層序

層序については、第5図の土層断面模式図を基に説明していく。

1の灰色粘質土は土地区画整理事業以前まで行われていた水田耕作土である。2の橙灰粘質土は、これら耕作土の整地層にあたる。3の暗灰粘質土は、近世から近代までの水田耕作土と考えられる。その下の4暗灰褐粘質土は古代以前の遺物包含層にあたり、中世の遺構面にも相当すると思われる。その下にある5黄褐色粘質土は、古代より古い時期の遺構面（地山面）である。上記の土層は基本土層である。場所によっては、3暗灰粘質土の中に間層が入り、水田耕作と考えられる土層が複数確認できる箇所がある。また、F・L区の鞍部やM区古墳群周辺では、3暗灰粘質土と4暗灰褐粘質土の間



第5図 土層断面模式図



第6図 調査区グリッド図

第4節 遺構

本調査では、堅穴建物跡、掘立柱建物跡、布掘建物跡、土坑、古墳、溝などを確認した。以下、各個別遺構について説明する。

S I 1

B区グリッドB-20で見つかった隅丸方形型の堅穴建物である。堅穴の東半分は調査区外へと延びるため、全体の様相はわからないが、堅穴の北西隅と南東隅の角が確認できたことから、一辺約3mの小型規模のタイプと想定される。方位はN44°Eである。規模は、北西-南東方が295cm、北東-南西方が240cm以上、深さ16~20cmを測る。貼床及び柱穴は確認されなかった。壁面際には周溝が認められる。周溝は、南西隅のコーナーより北西方へ190cm、南東方へ220cmにわたって確認でき、幅20~30cm、深さ6~8cmを測る。堅穴廃絶後に堆積した土は、12黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土、14灰褐色粘質土、13黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土、11暗灰褐色粘質土の順で、12~14の覆土は床面及び壁際で少しずつ堆積し、残りは11が全域に渡って埋まっていく。床面より約10cm上面の暗灰褐色粘質土の覆土からは、甕、高坏などの土器や人頭大の自然石が出土した。

S I 2

B区グリッドC-20で確認した隅丸方形型の堅穴建物である。堅穴の東側3分の1は調査区外へと延びるため、全体の様相はわからないが、S I 1と同様、一辺約3.5mの小型規模のタイプと考えられる。方位はほぼ真北である。規模は、東西方270cm以上、南北方が360cm、深さ地山面から20cm前後を測る。貼床は確認されなかった。壁面際には周溝が認められるが、南東コーナー付近では確認できなかった。周溝は、幅20~28cm、深さ5cm前後を測る。堅穴廃絶後に堆積した土は、5淡灰褐色粘質土、4灰褐色粘質土、3黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土、1暗灰褐色粘質土の順で、レンズ状に堆積していった。床面より約20cm上面の暗灰褐色粘質土や黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土の覆土からは、甕、壺、高坏などの土器群や人頭大の自然石、炭化材が出土した。出土した土器には6、7、13など復元可能な一括土器が多く見ついている。炭化材が出土していることで焼失家屋の可能性も否定できないが、炭化材の数量が少ないこと、焼土痕跡が認められないことなどから、堅穴内で発見した遺物などは建物廃絶後の廃棄によるものと考ええる。建物内部には7基のピットを確認した。P1は北面壁際にあり、長径58cm×短径50cm、深さが床面から48cmを測り、他の穴に比べて最も規模が大きい。当該時期の堅穴建物で所見の多い松葉甲ピットかもしれない。その他のピットは、直径20~45cm、深さが床面から8~16cmを測る。深さや配置箇所から、いずれのピットも柱穴とは考えにくい。

S I 3

D区グリッドA-23で確認した方形型の堅穴建物である。本調査では南側3分の1程の検出しかできなかったが、平成22年度調査で北側の箇所全域を調査できたことで、全容が明らかとなった。(野々市市教委 2012) 今回の報告については、平成22年度調査で明らかになった箇所を含めたものを記述する。

方位はN44°Wで、規模は北東-南西ラインが546cm、北西-南東ラインが620cm、深さは地山面から10~25cm、面積が約335m²である。床面には厚さ4~12cmの貼床が施されている。堅穴内部には4基の柱穴が認められる。柱穴は円形を基本とし、堅穴各コーナーより約200cm中に入ったところに設置している。規模は直径20~40cm前後、深さは30~60cmを測る。壁面際を巡る周溝は、南西側で一部途切れるが、基本的には全周していたと思われる。周溝の大きさは、幅15~25cm、深さ床面から5~8cmを測る。

また、堅穴南東側壁面中央部からは長径40cm、短径32cm、床面からの深さ59cmのP1を検出した。このP1の北西と南東部には幅約8cm、高さ3~5cmの十手状の高まりを設けている。堅穴廃絶後の堆積土は、11暗灰褐色粘質土、10灰黄褐色粘質土の順で、レンズ状に堆積している。

なお、S I 3は一度大きな改修を加えている。前述した内容は改修後のプランである。改修前の堅穴も方形型で、規模は北東-南西ラインが445cm、北西-南東ラインが420cm、深さは遺構面から

28～38 cm、面積は約 18.7 m²である。床面には厚さ 4～12 cm の貼床が施されている。内部には 4 基の柱穴が認められる。柱穴はほぼ円形を呈し、各コーナーから 160 cm 前後、中に入ったところに設置している。柱穴の大きさは直径約 20 cm、深さ 35～65 cm を測る。ところで、第 13 図では南東側しか図示していないが、壁面周囲には周溝が全周していたことがわかっている。溝幅は 15～19 cm、深さは床面から 3～5 cm である。また、改修後のプランと同様、南東側壁面中央部に長径 50 cm、短径 29 cm、床面からの深さ 29 cm の P 2 を確認した。P 2 の周囲には、幅 12～20 cm、高さ 5～8 cm の土手状の高まりが、この穴を囲むように構築されている。

S I 4

D 区グリッド B-23 で確認した方形型の竪穴建物である。竪穴の南東側 3 分の 1 は調査区外へと延びるため、全体の詳細な様相はわからない。方位は N 56° W である。規模は北東-南西ラインが 415 cm、北西-南東ラインが 470 cm 以上の長方形プランとなり、深さは地山面から 5～10 cm 被と浅い。貼床は確認されなかった。壁面際には周溝が認められる。大きさは幅 23～35 cm、深さは床面から 5 cm 前後を測る。竪穴廃絶後に堆積した土は、2 灰黄褐色粘質土、1 暗灰褐色粘質土が順に堆積している。1 及び 2 の覆土からは、甕などの土器片や自然石などが点在して埋まっていた。竪穴中央部には、柱穴の可能性をもつ長径 35 cm × 短径 20 cm、深さ床面より約 40 cm の P 1 が存在する。

S I 5

D 区 B・C-25 で見つかった五角形の大型竪穴建物である。竪穴とその周辺には中世集落の中心箇所であった。そのため、当該時期の柱穴や竪穴状遺構、井戸、溝などの遺構が錯綜して掘られていたことから、S I 5 の遺存状態はよいとはいえない。規模は、最大径約 11.1 m、深さ地山面から 25～cm を測る。床面には厚さ約 5 cm の貼床が全面に施されていた。壁面際には幅 35～50 cm、床面からの深さ 7～10 cm の周溝が認められる。竪穴廃絶後に堆積した土は、3 灰褐色粘質土、2 暗灰褐色粘質土、1 灰褐色粘質土の順で、レンズ状に堆積していった。壁面際の床面直上より、28・31・44 などの完形に近い甕や高坏が見ついている。土器祭祀に伴うものかもしれない。建物内部には主柱穴と目される 1～5 と、その間に掘られた支柱穴 6～10 のピットを検出した。P 1 は長辺 60 cm、短辺 45 cm、最深部床面より 41 cm を測る。深さ床面より 19 cm のテラスが設けられている。P 2 は長辺 76 cm、短辺 61 cm、最深部床面より 36 cm を測る。ピット 1 と同様、床面より深さ 25 cm のテラスが存在する。P 3 は長辺 83 cm、短辺 60 cm の楕円形をし、最深部床面より 69 cm を測る。床面からの深さ 44 cm のテラスが認められる。P 4 は直径 52 cm の円形をし、最深部床面より 45 cm を測る。床面からの深さ 22 cm の三日月型のテラスが存在する。一部中世のピットに切られている。P 5 は、長辺 80 cm、短辺 55 cm、深さ床面から 39 cm を測る。P 6 は直径 45 cm、深さ床面より 23 cm を測り、北側の一部は中世のピットに切られている。P 7 は長辺 69 cm、短辺 61 cm、深さ床面から 32 cm を測る。一部中世のピットに切られている。P 8 は直径 38 cm の円形ピットで、床面より 30 cm の深さをもつ。P 9 は長辺 40 cm、短辺 35 cm、深さ床面から 17 cm を測る。P 10 は、長辺 38 cm、短辺 34 cm、深さ床面から 30 cm を測る。各主柱穴と支柱穴の長さは以下のとおりである。P 1 - P 6 225 cm、P 6 - P 2 175 cm、P 2 - P 7 180 cm、P 7 - P 3 210 cm、P 3 - P 8 270 cm、P 8 - P 4 185 cm、P 4 - P 9 165 cm、P 9 - P 5 260 cm、P 5 - P 10 170 cm、P 10 - P 1 275 cm。

また、竪穴中央付近には一回り大きな P 11、P 12 が存在する。P 11 は南北に長い楕円形をしており、長辺 121 cm、短辺 80 cm、床面からの深さ 48 cm を測る。穴内部の北半には、深さ床面から 7 cm 程の三日月型のテラスが設けられている。P 12 は、2 基の大きなピットが連なる形状をしている。(P 12 - a、P 12 - b) 北側は中世のピットによって切られている。長辺 138 cm、短辺 100 cm、P 12 - a の深さは床面より 46 cm、P 12 - b の深さは床面より 40 cm を測る。P 11 と P 12 は規模や配置状況などから、松菊里ピットと考えられる。

S I 6

D 区グリッド D・E-23 で確認した五角形の竪穴建物である。竪穴の西側端部は調査区外へ、南端は中世溝 S D 15 に切られているため、全容は明らかではない。規模は、最大径約 7.5 m、深さ地山面から 18～23 cm を測る。床面には厚さ 3 cm 前後の貼床が全面に施されていた。壁面際には幅 28～

38 cm、床面からの深さ6 cm 前後の周溝が認められる。堅穴廃絶後に堆積した土は、大略的に3 灰黄褐色粘質土、2 灰褐色粘質土、1 暗灰褐色粘質土の順で、レンズ状に堆積していった。1 及び2 の覆土からは、甕などの土器片が散在して埋まっていた。土器の出土状況は堅穴の南東部に集中している。出土土器はいずれも破片で、完形品や一個体となるものはない。

堅穴内部には複数のピットが存在するが、柱穴となるのはP1～P5である。P1は長辺55 cm、短辺44 cm、最深部床面より30 cmを測る。穴内には3 個の三日月型をしたテラスがある。床面からの深さは、北側が15 cm、西側が7 cm、南側が25 cmである。P2は2 基並ぶようにして存在する。北側のP2-aは、長径48 cm、最深部床面より26 cmを測り、穴内の南側には床面からの深さ17 cmを測るテラスが存在する。もう一方のP2-bは、長辺51 cm、短辺38 cmの楕円形をし、穴内には中央にテラスがあって、その両側に小ピットが存在する。両側の小ピットの深さは床面から39 cmと22 cmである。P3は北西側に中世と思われるピットと接している。長径70 cm、短径62 cm、最深部は床面から38 cmを測る。穴内の北側には床面からの深さ21 cmを測るテラスが1 基存在する。P4は半分が調査区外となる。直径71 cm、床面からの最深部は32 cmである。穴内には床面からの深さ20 cmのテラスが存在する。P5は長径66 cm、短径52 cm、床面からの深さ49 cmで、南東側に細いテラスが存在する。深さは床面から18 cmを測る。堅穴中央部には不定形な土坑状遺構の中にP6が存在する。不定形な土坑の規模は、長辺172 cm、短辺128 cm、深さ床面から14 cmである。P6は長径58 cm、短径50 cm、深さが床面から51 cmとなる。これらの他にも堅穴内には大小のピット状遺構が複数検出されているが、いずれも中世以降のものと考えられる。

S I 7

D区グリッドF-23で確認した隅丸方形型の堅穴建物である。方位はN27°Wである。大きさは北東-南西ラインが610 cm、北西-南東ラインが680 cmの長方形プランとなり、深さは地山面から32～35 cmである。貼床は厚さ3～5 cmで、全面に施されていた。壁面際には周溝が認められた。大きさは幅20～32 cm、深さは床面から5 cm前後を測る。堅穴廃絶後に堆積した土は、4 黄灰褐色粘質土、3 黒灰褐色粘質土、4 再び黄灰褐色粘質土、2 灰褐色粘質土、1 黒灰色粘質土がレンズ状に堆積している。1 及び2 の覆土からは土器片や玉製品の素材となる緑色凝灰岩などが出土したが、総体的には少ない。そのような中、北西部壁面際から94 小甕の完形品が見つかった。堅穴廃絶後の祭祀土器と思われる。柱穴はP1～P4の4 本柱である。P1は長径75 cm、短径62 cm、深さは床面から46 cmである。P2は、長径75 cm、短径62 cmの楕円形をし、深さは床面から55 cmを測る。P3は長径80 cm、短径63 cmの楕円形をし、深さは床面から53 cmを測る。P4は略円形で、直径80 cm、深さ床面から64 cmを測る。P5は松菊里ピットと思われる。長径80 cm、短径70 cmをし、深さは床面から32 cmを測る。

S I 7は一度大きな改修を経て拡張している。前述した記載は改修後のものである。改修前の大きさは、北東-南西ラインが500 cm、北西-南東ラインが594 cmの隅丸長方形プランとなり、壁面際には周溝が巡る。周溝の大きさは幅が18～30 cm、深さは床面より5 cmを測る。柱穴の地点は改修後の場所と変わっていない。また、堅穴内部と周辺には大小様々なピットが見られるが、中世以降の遺構と考えられる。

S I 8

C区グリッドJ-22で確認した隅丸方形型の堅穴建物である。西側4分の1ほどは調査区外となるため、全容は明らかではない。方位はN52°Wである。大きさは北東-南西ラインが763 cm、北西-南東ラインが686 cmの長方形プランとなり、深さは遺構前から45～52 cmである。貼床は厚さ5～10 cmで、全面に施されていた。壁面際には周溝が認められた。大きさは幅20～35 cm、深さは床面から7～15 cmを測る。堅穴廃絶後に堆積した主要な土は、11 灰黄色粘質土、9 暗灰褐色粘質土、8 灰褐色粘質土、7 黒灰色粘質土で、レンズ状に堆積している。7 及び8 の覆土からは多量の土器片や自然石が埋まっていた。ほとんどの土器は廃棄による破片であったが、101 などのように一個体のうち半分以上残存するものも見受けられた。柱穴はP1～P4の4 本柱である。P1は長径61 cm、短径40 cmの楕円形で、深さは床面から32 cmである。北西側に床面からの深さ29 cmのテラスがある。P2は、長径42 cm、短径35 cm、深さは床面から27 cmを測る。P3は長径40 cm、短径36 cm

の略円形をし、深さは床面から33cmを測る。P4は西半分が調査区外となる。大きさは48cm×28cm以上、深さは床面から24cmを測る。この柱穴以外に、方形の土坑状遺構の中にあるP5とP6、堅穴のほぼ中央に位置するP7とP8が堅穴建物に付随する遺構と思われる。P5長径77cm、短径59cm、深さは床面から42cmを測る。P6は長径74cm、短径54cmの楕円形をし、深さは床面から38cmを測る。両ピットを開くように掘られている長方形の土坑状遺構は長辺158cm、短辺98cm、床面からの深さ15cmである。S18のほぼ中央にあるP7は直径約50cmの略円形をしており、深さは床面から7cmである。

S I 9

E区グリッドD・E-28で確認した堅穴建物である。堅穴の平面プランから多角形型になると思われるが、3分の2以上は調査区外へと延びるため、詳細な様相は不明である。また、本堅穴建物の中央部には中世溝S D 21が東西方向に横断し、堅穴北東部では後世の削半などで明確な平面プランを抽出することができなかったため、全般的な遺存状態はよくない。大きさは最大辺820cm、深さは遺構面から25cmであるが、地山面からは10cm前後となる。床面には厚さ1～3cmの貼床が施されていたようであるが、検出した堅穴のなかで南側の一部でしか確認できなかった。周溝も南から南西方向にかけてのみ確認できた。長さ370cm、幅30cm、深さは床面から7cmであった。堅穴廃絶後に堆積した主要な土は、6淡灰褐色粘質土、5暗灰褐色粘質土、9黒灰褐色粘質土で、レンズ状に堆積している。5及び6の覆上からは、甕などの土器片が出土したが総体的に少ない。P1とP2は柱穴になる。P1はテラスを有した不定形なプランで、長辺70cm以上、短辺40cm、床面からの深さがテラスで15cm、最深部で24cmを測る。P2は長径77cm、短径62cmの楕円形をしており、内部で2ヶ所の小穴に分かれる。床面からの深さは北西側の穴が38cm、南東側の穴が47cm、穴と穴の間のテラスが19cmを測る。

S I 10

E区グリッドE-29で確認した方形型の堅穴建物である。北西側5分の1ほどは調査区外となるため、全容は明らかではない。また、中世溝S D 25と26が堅穴内を横断するように走っているため、遺存状態もよくない。方位はN47°Wである。大きさは北東-南西ラインが540cm以上、北西-南東ラインが595cmで、深さは遺構面から25cm、地山面から10cm前後である。貼床は存在していたかもしれないが、ほとんど確認できなかった。壁面際には周溝が認められた。大きさは幅18～25cm、深さは床面から7cm前後を測る。堅穴廃絶後に堆積した主要な土は、9淡灰褐色粘質土、8暗灰褐色粘質土、の順でレンズ状に堆積している。出土遺物の数は、他の堅穴建物と比較すると極めて少ない。柱穴はP1～P4にあたる。4本柱により構築されていたと考えられるが、北西側の柱穴は調査区外に存在すると思われる、構造はわからない。P2とP3は隣接しており、建替の際に掘り直されたためと考えられる。ただし、前後関係はわからない。P1はテラスを有した不定形プランである。長辺73cm、短辺38cmで、床面からの深さはテラスが18cm、最深部で40cmを測る。P2は、一辺35cmの隅丸方形をしており、深さは床面から33cmを測る。P3も一辺38cmの隅丸方形をし、深さは床面から26cmを測る。P4は長径54cm、短径43cmの楕円形をしており、深さは床面から24cmを測る。この柱穴以外に、P5が堅穴建物に付随するピット状遺構になると考えられる。P5は長径65cm、短径40cm、深さは床面から33cmを測る。

S I 11

F区グリッドG-31で確認した堅穴建物である。方位はN48°Wである。プランは方形型であるが、北西の面と南東の面の長さは若干相違するため、実際は台形の形状をする。北西面の長さは560cm、南東面の長さは652cm、北西-南東ラインが647cmで、深さは地山面から20cm前後である。最大厚10cmの貼床が堅穴全面に施されていたが、顕著な叩き占めはしておらず、堅穴廃絶時の堆積覆土と見間違えてしまった。壁面際には周溝が認められた。大きさは幅25～35cm、深さは床面から5cm前後を測る。堅穴廃絶後に堆積した主要な土は、5暗灰褐色粘質土の1層のみである。柱穴は確認することができず、ピット状遺構については、南東側壁面際の中央部にP1を検出したにすぎなかった。P1は直径90cmの略円形で、床面から30cmの深さをもつ。出土遺物は土器片が見つかったが、

数は少ない。

S I 12

G区グリッドE-25で確認した堅穴建物である。方位はN12°Eである。プランは隅丸方形型で、北側は中世溝SD16に切られており、全容は明らかではない。大きさは北西-南東ラインが486cm、北東-南西ラインが414cm以上、深さは地山面から30cm前後である。床面全域に貼床が施されていた。貼床の厚さは5~8cmを測る。北西側と南西側の壁面際には、幅約30cm、深さ床面から3~8cmの周溝が巡る。堅穴廃絶後に堆積した主要な土は、5 淡灰褐色粘質土、4 淡暗黄褐色粘質土、3 褐灰色粘質土、2 暗褐色粘質土の順で、時間をかけて徐々に堆積していったようである。柱穴はP1~4の4本柱で構成されている。P1は長径62cm、短径50cmの楕円形をし、床面からの深さ48cmを測る。P2は長径72cm、短径49cmの楕円形をし、床面からの深さは43cmである。P3は長径75cm、短径65cm、深さは床面から54cmを測る。P4はSD16に一部切られており、全体の形状は不明である。長径69cm、短径52cm、穴内には一段のテラスが見られる。床面からの深さは、テラスが23cm、最深部が49cmである。

S I 13

G区グリッドE-25のS I 12に西に隣接した堅穴建物である。方位はN58°Wである。プランは隅丸方形型で、北側の一部は中世溝SD16に切られており、全容は明らかではない。大きさは北西-南東ラインが314cm、北東-南西ラインが458cm以上、深さは地山面から15cm前後である。床面上に多く見られる貼床は、施されていない。南東側と南西側では途切れるが、壁面際には、幅約15~25cm、深さ床面から6~12cmの周溝が巡る。堅穴廃絶後に堆積した主要な土は、3 暗灰色粘質土、2 灰褐色粘質土、1 褐色粘質土の順であるが、堆積土のほとんどは1 褐色粘質土である。

柱穴はP1・2の2本柱で構成されている。P1は直径65cmの略円形をし、床面からの深さ49cmを測る。P2は長径38cm、短径28cmの楕円形をし、床面からの深さは44cmである。

S I 14

J区グリッドG・H-29で確認した堅穴建物である。土層断面等の観察から、当初は五角形プランであったものが、隅丸方形型に縮小して改修したことがわかっている。隅丸方形型における方位はN43°Wである。堅穴内には中世溝SD26が横断し、中世土坑SK11と切りあがりしており、遺存状態はあまりよくない。大きさは五角形型で最大長774cm、隅丸方形型で北西-南東ラインが638cm、北東-南西ラインが590cmで、地山面からの深さが28~32cmを測る。貼床は中央部の一角で、一部確認することができた。五角形型及び、隅丸方形型でも壁面際には周溝が全周している。幅は、五角形型が20~45cm、隅丸方形型が8~18cm、深さは床面より5~15cmを測る。

隅丸方形型堅穴の廃絶後に堆積した主要な土は、8 褐灰色粘質土、7 暗灰褐色粘質土、6 暗褐色粘質土の順である。五角形型堅穴の廃絶後に堆積した主要な土は、16 淡褐色粘質土、20 褐色粘質土、22 褐灰色粘質土がある。

柱穴は五角形型がP1~P5の5本柱、隅丸方形型はP2・P3・P6・P7の4本柱で構成されている。P1は直径42cmの略円形をし、床面からの深さ63cmを測る。P2は直径45cmの円形をし、床面からの深さは53cmである。P3はSD26に切られているため、全体の形状は不明である。長径48cm、短径38cm、床面からの深さ52cmを測る。P4は長径44cm、短径32cm、床面からの深さは53cmである。P5は直径40cmの略円形をし、床面からの深さは42cmである。P6は長径42cm、短径33cm、床面からの深さ34cmを測る。P7は長径45cm、短径40cmで、床面からの深さは38cmである。

S I 15

I区グリッドI-28・29で確認した方形型の堅穴建物で、方位はN5°Wである。北東側の一部には中世堅穴状遺構S I 29に切られており、一部削平を受けている。大きさは、南北ラインが635cm、東西ラインが658cmとはほぼ正方形のプランとなり、深さは地山面から25~35cmである。貼床は厚さ5cm前後で、全面に施されていた。壁面際には、幅20~32cm、深さは床面から10cm前後の周

溝が全周する。堅穴廃絶後に堆積した主要な土の順番は、8 灰黄褐色粘質土、7 暗灰褐色粘質土、5 黒色粘質土、4 黒灰色粘質土で、徐々に堆積していったようである。前述した堆積土からは、土器を主体とした遺物が多く見ついている。中でも堅穴南面西寄りの壁際で見つかった 144 布留式甕と 150 東海系パラストタイプの甕は、両者とも完形品で祭祀土器と考えられる。この他にも堅穴中央部南寄りで 140 甕、中央部西寄りで 145 甕が一個体分つぶれた状態で出土している。柱穴は P 1～4 の 4 本柱で構成されている。P 1 は北東部に中世のビットと切りあっている。長径 40 cm、短径 37 cm、床面からの深さ 40 cm を測る。P 2 は長径 43 cm、短径 28 cm の楕円形をし、穴内には床面からの深さ 8 cm の三日月型テラスがある。穴の最深部は床面から 25 cm である。P 3 は長径 32 cm、短径 26 cm の楕円形である。深さは床面から 27 cm を測る。P 4 は中央のテラスを挟んで 2 基の小穴を確認した。2 基の小穴は、堅穴改修の際、柱の位置を変えて使用した痕跡と思われる。ただし、前後関係はわからない。長径 73 cm、短径は北西側ビットで 42 cm、南東側ビットで 36 cm、深さは北西側ビットが 45 cm、南東側ビットが 42 cm である。南側壁面際には大型の P 5 が存在する。プランは隅丸方形をし、内部には 2 段のテラスがある。穴の大きさは、長辺 95 cm、短辺 84 cm、床面からの深さは 29 cm を測る。P 5 の周囲には、S I 3 と同様、P 5 を囲むかのように幅約 15 cm、高さ 5 cm ほどの手状遺構を巡らせている。

S I 16

I 区グリッド I - 27 で確認した隅丸方形型の堅穴建物である。南東側 3 分の 2 以上は調査区外へと延びるため詳細な様相はわからない。方位は N 66° W である。北東 - 南西ラインが 360 cm 以上、北西 - 南東ラインが 210 cm 以上、深さは遺構面から 30 cm である。貼床は厚さ 5 cm 前後で、全面に施されている。壁面際には、幅 20～30 cm、深さは床面から 7 cm 前後の周溝が巡る。堅穴廃絶後に堆積した主要な土は、11 暗褐色粘質土、9 暗灰褐色粘質土、10 灰褐色粘質土、4 黒灰色粘質土の順である。前述した堆積土からは、土器を主体とした遺物見ついている。堅穴内部で P 1 を検出した。P 1 は、長径 45 cm、短径 27 cm、床面からの深さ 8 cm を測る。P 1 は深度が浅いことから、柱穴とは考えにくい。

S I 17

B 区グリッド E - 20 で確認した隅丸長方形型の堅穴遺構である。後述する S I 18 とは切り合っており、土層断面の観察から S I 17 の方が新しいことがわかっている。方位はほぼ真北を向く。大きさは南北ラインが 470 cm、東西ラインが 380 cm、地山面からの深さは 23～28 cm を測る。床面上には断片的であるが、貼床が施されていた。貼床の厚さは約 10 cm を測る。また、上層断面の観察から、堅穴内で改修を行った形跡が認められた。この断面状況から、この遺構は A～C の 3 基の小規模な堅穴の集合体になる可能性がある。A の規模は約 200 cm 四方の正方形型、B は約 200 × 150 cm の長方形型、C は約 200 × 400 cm の長方形型となる。A～C の堆積した主要な土は、A が 4 灰褐色粘質土、3 黄褐色ブロック土混り灰褐色粘質土、B は 2 黄褐色ブロック土混り褐灰色粘質土、1 褐灰色粘質土、C は 3 黄褐色ブロック土混り灰褐色粘質土、4 灰褐色粘質土である。

S I 18

B 区グリッド E - 20 で確認した隅丸正方形型の堅穴遺構である。前述した S I 17 とは切り合っており、土層断面の観察から S I 18 が古いことが判明している。方位はほぼ真北を向く。大きさは南北ラインが 258 cm、東西ラインが 240 cm、地山面からの深さ 20～24 cm を測る。貼床は確認されていない。堆積した主要な土は、2 黄褐色ブロック土混り褐灰色粘質土、1 褐灰色粘質土、4 灰褐色粘質土の順番であるが、3 黄褐色ブロック土混り灰褐色粘質土を有した土坑状遺構が S I 18 内で掘削し直されている。また、S B 20 の柱穴が本堅穴のコーナー四隅に配置していることから、S I 18 は S B 20 の内部に取り付く遺構と考えられる。

S I 19

D区グリッドC-25で確認した東西に長い略長方形型の堅穴状遺構である。弥生時代の堅穴建物S I 5内に所在する。方位はN 6° Eである。長辺250 cm、短辺225 cm、深さは約10 cmである。貼床は確認されていない。穴内からは39 珠洲焼壺や342 珠洲焼播鉢、553 鉄製刀子などの陶磁器片や鉄製品が散在して見つかった。覆土は2 炭大量混り暗灰褐色粘質土、1 炭混り暗灰褐色粘質土の順に堆積するが、土層の様相と遺物の出土状況から、本遺構の覆土は炭化物と一緒に前述した遺物を意図的に廃棄したものと考えられる。

S I 20

D区グリッドB-25で確認した方形型の堅穴状遺構である。弥生時代の堅穴建物S I 5内に所在する。方位はN 64° Wである。長辺275 cm、短辺260 cm、深さは約10 cmである。貼床は確認されていない。遺構内とその周りには大小様々なピット状遺構が複数存在する。P 1は、弥生堅穴建物S I 5の支柱穴であることが判明しており、その他は中世以降のものと思われる。ただし、これらのピットがS I 20に付随するかはわからない。

S I 21

D区グリッドD-23で確認した方形型の堅穴状遺構である。方位はN 3° Wであるが、ほぼ真北に近い。本遺構の南西隅は弥生時代の堅穴建物S I 6と切りあい、東側は調査区外へと延びるため、全容は明らかでない。南北244 cm、東西120 cm以上、深さは地山面から約7～8 cmである。貼床は確認されていない。遺構内に2基のピットを検出しており、P 1は中世掘立柱建物S B 27の柱穴であることが判明している。ただし、この建物と本遺構が同時併存するかは不明である。

S I 22

G区グリッドE-25で確認した方形型の堅穴状遺構である。方位はN 2° Eであるが、ほぼ真北に近い。S K 9とは切り合っており、平面検出の観察から本遺構が新しいことが判明した。南北214 cm、東西414 cm、深さは地山面から28～42 cmである。貼床は確認されていない。主要な堆積覆土は、6 褐灰色粘質土、5 暗灰色粘質土、3 暗灰褐色粘質土の順番で埋まり、覆土の堆積状況及び平面プランの構造から、AとBに分かれると思われる。Aの大きさは、南北170 cm、東西長60 cmの正方形型、Bの大きさは南北213 cm、東西260 cmの長方形型となる。なお、A・B両遺構の新旧関係については、土層観察してもわからなかった。堅穴北壁面に接するP 1及びP 2は中世掘立柱建物S B 28の柱穴にあたる。S I 22は、S B 28の柱穴と柱穴の間に配置されており、この建物の方位とほぼ同じ軸であることから、本遺構はS B 28の建物内に取り込まれて併存したと考えられる。

S I 23

G区グリッドE-24で確認した方形型の堅穴状遺構である。方位はN 2° Eであるが、ほぼ真北に近い。大きさは南北216 cm、東西196 cm、深さは地山面から40 cm前後を測る。貼床は確認されていない。堅穴廃絶後に堆積する主要な覆土は、16 暗灰色粘質土、15 褐灰色粘質土、14 淡黄色粘質土、6 灰黄色粘質土、5 暗灰褐色粘質土、4 暗褐色粘質土である。堆積状況は、北西側から順に埋まっており、人為的に土を入れた可能性がある。また、北西部を除くコーナーにはピット状遺構(P 1～P 3)が見られる。P 1は長径65 cm、短径50 cm、地山面からの深さ69 cmである。P 2は長径78 cm、短径52 cm、地山面からの深さ54 cmである。P 3は長径38 cm、短径30 cm、地山面からの深さ50 cmである。これらのピットは、本遺構に敷設する建物などの柱穴になる可能性があるが、決手に欠ける。

S I 24

G区グリッドF-25で確認した長方形型の堅穴状遺構である。方位はN 2° Wであるが、ほぼ真北に近い。大きさは南北250 cm、東西680 cm、深さは地山面から17～23 cmを測る。貼床は確認されていない。堅穴廃絶後に堆積する主要な覆土は、16 褐灰色粘質土、9 暗灰色粘質土、5 暗褐色粘質土、15 褐灰色粘質土である。覆土の堆積状況及び平面プランの構造から、A～Dの4基の小規模な堅穴の

集合体になる可能性がある。Aの大きさは南北230cm、東西220cmの正方形型、Bは南北225cm、東西145cmの長方形型、Cは南北・東西240cmの正方形型、Dは北東-南西140cm、北西-南東180cmの長方形型となる。A～Cは同一方向となるが、DはN22°Wと大きく西方に傾く。土層断面の観察から、D→A及びC→Bの順番で造り替えがなされたようである。本遺構内には複数のピット状遺構がみられる。P1はCの北側壁面際に掘られた穴で、長辺103cm、短辺88cm、深さ地山面から46cmの深さをもつ。この穴の性格はわからない。P2～4は中世掘立柱建物の柱穴にあたる。柱穴の位置関係から、Bの竪穴状遺構と併存する可能性がある。

S I 25

D区グリッドH-26で確認した方形型の竪穴状遺構である。方位はN28°Wである。本遺構の西側は調査区外へと延びるため、全容は明らかでない。南北ライン210cm、東西200cm以上、深さは遺構面から24～30cm、地山面からは6～15cmである。貼床は床全面に施されていた。厚さは3cm前後である。竪穴廃絶時に堆積する覆土は、8黄褐色ブロック土混り黒灰色粘質土、6黒灰色粘質土、5暗灰褐色粘質土の3層がレンズ状に埋まっていった。本遺構内から、2基のピットとテラスを確認した。ピットについては、中世の時期と考えているが、本遺構に伴うものかはわからない。テラスは北側に存在する。深さは地山面から6cmを測る。

S I 26

H区グリッドH-25で確認した略方形型の竪穴状遺構である。方位はN5°Wである。大きさは南北200cm、東西189cmのほぼ正方形に近いプランである。深さは地山面から17cmを測る。貼床は確認されていない。竪穴廃絶後に堆積する主要な覆土の類は、4暗灰色粘質土、3褐灰色粘質土、2暗灰褐色粘質土、1暗灰色粘質土で、徐々に埋まっていったようである。

S I 27

H区グリッドJ-24で確認した略方形型の竪穴状遺構である。方位はN23°Wである。大きさは北東-南西が220cm、北西-南東が206cmとほぼ正方形に近いプランである。深さは地山面から15cm前後を測る。貼床は確認されていない。竪穴廃絶後に堆積する主要な覆土は、3暗灰褐色粘質土1層である。北西側に畝溝の遺構がみられる。溝は土層断面の観察から、本遺構廃絶後に掘られたことが判明した。このS I 27を取り込むようにS B 15が建っている。また、S I 27とS B 15の土軸が同じであることから、両遺構は併存した関係であったと考えられる。

S I 28

I区グリッドI-27・28で確認した方形型の竪穴状遺構である。方位はN7°Eである。大きさは南北ライン356cm、東西368cmとほぼ正方形に近い。深さは地山面から12～18cmである。貼床は床全面に施されていた。厚さは3cm前後である。竪穴廃絶時に堆積する覆土は、4黄褐色ブロック土混り灰褐色粘質土、3石礫・黄褐色ブロック土混り灰褐色粘質土、2灰褐色粘質土、1橙褐色土混り灰褐色粘質土の順である。本遺構内からは複数のピット状遺構を確認した。ピットについては、中央を南北方向に並ぶP1～P3は中世掘立柱建物の柱穴の可能性があるが、本竪穴状遺構と併存するかはわからない。P1は長径38cm、短径25cm、地山面からの深さ36cmを測る。P2は2基の穴が併合したものである。南北辺54cm、東西辺40cm、地山面からの最深部44cmである。P3は直径52cmの略円形をしたピットで、穴内には地山面からの深さ48cmのテラスがある。地山面からの最深部は64cmを測る。

S I 29

I区グリッドI-28で確認した方形型の竪穴状遺構である。古墳時代初頭の竪穴建物S I 15と切り合い、北側は調査区外へと延びるため詳細な様相はわからない。方位はN6°Eである。大きさは南北ライン303cm以上、東西252cmと南北に長い長方形プランである。深さは地山面から30～35cmである。貼床は床及び壁面全域に渡って施されていた。厚さは3cm前後である。竪穴廃絶時に堆積する覆土は、1暗灰褐色粘質土、5黄褐色ブロック土混り灰褐色粘質土、2黄褐色ブロック土混り暗灰褐

色粘質土、4 黄灰褐色粘質土が北側から交互に堆積している。土層の状況から北側の方から人為的に埋めたものと解釈する。本遺構内からは複数のピット状遺構を確認した。P 1 は古墳時代初頭の堅穴建物 S I 15 の柱穴であることが明らかになっており、その他は中世時期のピットであると思われる。ただし、これらの遺構が本堅穴状遺構と併存するかはわからない。

S I 30

K区グリッドJ-28で確認した方形型の堅穴状遺構である。西側壁面際に、畝溝4の溝1条が走っており、本遺構の詳細な規模などはわからない。方位はN7°Wである。大きさは南北210cm、東西が231cmとほぼ正方形に近いプランである。深さは地山面から10～13cmを測る。貼床は確認されていない。本遺構の中にはP1が存在する。P1は中世樹立柱建物SB41の北西端の柱穴になるが、両遺構が併存する関係かはわからない。

S I 31

K区グリッドJ・K-28で確認した長方形型の堅穴状遺構である。方位はN7°Eである。大きさは南北454cm、東西が240cm、深さは地山面から28～47cmを測る。貼床は確認されていない。堅穴廃絶後に堆積する主要な覆土の順は、6 褐灰色粘質土、14 褐灰色粘質土、13 褐灰色粘質土、10 褐色粘質土、9 褐色粘質土、8 灰褐色粘質土、5 灰褐色粘質土である。全般的に北側から流れ込むような堆積状況をしており、人為的に埋めた可能性がある。この堅穴は、覆土の堆積状況及び平面プランの構造から、A～Cの3基の小規模な堅穴の集合体になるとと思われる。北側のAの大きさは南北160cm、東西180cmの長方形型、中央部のBは南北160cm、東西240cmの長方形型、Cは南北130cm、東西250cmの長方形型となる。土層断面の観察からBが最も古く、その後A及びCが造り替えされたようである。本遺構内と周辺には複数のピット状遺構がみられる。P1・P3・P4・P6はSB42、P2・P5はSB41の柱穴となる。この柱穴とS I 31のA～Cの位置関係から、S I 31-BとSB41、S I 31-A・CとSB42とはセットで併存すると考えたい。

S I 32

K区グリッドK-28で確認した方形型の堅穴状遺構である。方位はN3°Eである。大きさは南北188cm、東西が154cmとほぼ正方形に近いプランで、深さは地山面から24cmを測る。貼床は確認されていない。後述するS I 33とは切り合っており、平面検出の観察から本遺構が新しいことがわかった。また、本遺構を取り込むように建っているSB42とは同じ施設として併存すると思われる。

S I 33

K区グリッドK-28で確認した方形型の堅穴状遺構である。方位はN3°Eと前述したS I 32と同方向である。大きさは南北258cm、東西が294cm、深さは地山面から27cmを測る。貼床は確認されていない。前述したようにS I 33とは切り合っており、本遺構が古いことが判明している。堅穴廃絶後に堆積する主要な覆土の順は、4 暗褐色粘質土、3 褐灰色粘質土、2 淡黄色粘質土である。なお、本遺構の内外に掘られているP1～P4はSB42の柱穴である。

S I 34

K区グリッドK-28で確認した方形型の堅穴状遺構である。本遺構の南西側の半分は調査区外へと延び、検出できた箇所は東側にはS I 33が切り合っているため、全体の様相はわからない。方位はN5°Eで、前述したS I 33とは平面検出の観察から、本遺構が古いことがわかった。現状でわかる大きさは、南北330cm以上、東西270cm以上、深さは地山面から17cmである。

S I 35

F区グリッドII-32で確認した略方形型の堅穴状遺構である。方位はN23°Eである。大きさは北東-南西ラインが420cm、北西-南東ラインが410cmとほぼ正方形に近いプランである。深さは地山面から20～30cmである。地山土が締まっていたせいか、貼床は確認できなかった。堅穴廃絶時に堆積する覆土は、3 黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土、2 黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土、

1 黄褐色ブロック土・炭粒混り灰褐色粘質土が堆積している。土層の状況から南東側の方から人為的に埋めたものと考えられる。本遺構内からは複数のピット状遺構を確認した。P 1～P 5 は中世掘立柱 S B 46、P 6・7 も中世掘立柱建物 S B 45 の柱穴であることが明らかになっている。柱穴の配置関係から S B 46 と本竪穴状遺構はセット関係で併存すると考えられる。

S B 1

B区グリッドZ A - 20 で確認した掘立柱建物であり、壁際に位置し全体の様相はわからない。確認可能な規模は北-南ラインが 27.5 cm で、方位は N 20° E である。柱穴は地山面からの深さ 30～65 cm を測る。

S B 2

B区グリッドZ A - 21 で確認した掘立柱建物である。方位は N 35° E である。規模は北東-南西ラインが 515 cm、北西-南東ラインが 300 cm の長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ 25～70 cm を測る。

S B 3

B区グリッドB - 21 で確認した掘立柱建物である。方位は N 15° E である。規模は北-南ラインが 290 cm、西-東ラインが 270 cm のほぼ正方形のプランとなり、柱穴は地山面からの深さ 12～70 cm を測る。

S B 4

B区グリッドC - 21 で確認した掘立柱建物である。方位は N 5° E である。規模は北-南ラインが 300 cm、西-東ラインが 310 cm のほぼ正方形のプランとなり、柱穴は地山面からの深さ 10～60 cm を測る。

S B 5

B区グリッドC - 20 で確認した掘立柱建物である。方位は N 66° E である。規模は北東-南西ラインが 375 cm、北西-南東ラインが 275 cm の長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ 8～30 cm を測る。

S B 6

B区グリッドD - 20 で確認した掘立柱建物である。方位は N 11° W である。規模は北-南ラインが 485 cm、北-南ラインが 330 cm の長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ約 35 cm を測る。

S B 7

B区グリッドG - 20 で確認した掘立柱建物である。方位は N 71° E である。規模は北東-南西ラインが 330 cm、北西-南東ラインが 230 cm の長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ 15～40 cm を測る。

S B 8

D区グリッドA - 23 で確認した掘立柱建物である。方位は N 25° E である。規模は北東-南西ラインが 650 cm で、柱穴は地山面からの深さ約 45 cm を測る。

S B 9

D区グリッドB - 24 で確認した掘立柱建物である。方位は E35° S である。規模は北東-南西ラインが 250 cm、北西-南東ラインが 450 cm の長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ 15～60 cm を測る。

S B 10

D区グリッドC-23で確認した掘立柱建物である。方位はN 5° Eである。規模は北-南ラインが265 cm、西-東ラインが385 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ10～30 cmを測る。

S B 11

D区グリッドC-25で確認した掘立柱建物である。方位はN 0°である。規模は北-南ラインが170 cm、西-東ラインが470 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ10～30 cmを測る。

S B 12

D区グリッドC-25・26で確認した掘立柱建物である。方位はN 57° Eである。規模は北東-南西ラインが450 cm、北西-南東ラインが330 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ15～50 cmを測る。

S B 13

H区グリッドJ-25で確認した掘立柱建物である。方位はN 10 W°である。規模は北-南ラインが270 cm、西-東ラインが485 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ20 cmを測る。

S B 14

H区グリッドJ-24で確認した掘立柱建物である。方位はN 30 W°である。規模は北東-南西ラインが475 cm、北西-南東ラインが270 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ15～45 cmを測る。

S B 15

II区グリッドJ-24で確認した掘立柱建物である。方位はN 10° Wである。規模は北-南ラインが305 cm、西-東ラインが320 cmのほぼ正方形のプランとなり、柱穴は地山面からの深さ12～40 cmを測る。

S B 16

E区グリッドF-29・30で確認した掘立柱建物である。方位はN 0°である。規模は北-南ラインが230 cm、西-東ラインが240 cmのほぼ正方形のプランとなり、柱穴は地山面からの深さ23～43 cmを測る。

S B 17

J区グリッドG・H-28・29で確認した掘立柱建物である。方位はN 0°である。規模は北-南ラインが190 cm、西-東ラインが410 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ12～50 cmを測る。

S B 18

L区グリッドM-33で確認した掘立柱建物である。方位はN 35° Eである。規模は北東-南西ラインが330 cmで、柱穴は地山面からの深さ約30 cmを測る。

S B 19

L区グリッドM-33で確認した掘立柱建物である。方位はN 65° Eである。規模は北東-南西ラインが270 cmで、柱穴は地山面からの深さ約35 cmを測る。

S B 20

B区グリッドE-20で確認した掘立柱建物である。方位はN 0°である。規模は北-南ラインが710 cm、北西-南東ラインが900 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ20～40 cmを測る。

S B 21

B区グリッドE-20で確認した掘立柱建物である。方位はN 0°である。規模は北-南ラインが820 cm、北西-南東ラインが900 cmのほぼ正方形のプランとなり、柱穴は地山面からの深さ20～45 cmを測る。

S B 22

D区グリッドB-25で確認した掘立柱建物である。方位はN 70° Wである。規模は北東-南西ラインが260 cm、北西-南東ラインが510 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ20～35 cmを測る。

S B 23

D区グリッドB-25で確認した掘立柱建物である。方位はN 20° Eである。規模は北東-南西ラインが400 cm、北西-南東ラインが370 cmのほぼ正方形のプランとなり、柱穴は地山面からの深さ35 cmを測る。

S B 24

D区グリッドB-25で確認した掘立柱建物である。方位はN 10° Wである。規模は北-南ラインが600 cm、西-東ラインが370 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ17～30 cmを測る。

S B 25

D区グリッドB-25で確認した掘立柱建物である。方位はN 10° Wである。規模は北-南ラインが630 cm、西-東ラインが550 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ15～30 cmを測る。

S B 26

D区グリッドD-23で確認した掘立柱建物である。方位はN 20° Eである。規模は北-南ラインが700 cm、西-東ラインが430 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ8～40 cmを測る。

S B 27

D区グリッドD-23で確認した掘立柱建物である。方位はN 5° Eである。規模は北-南ラインが410 cm、西-東ラインが230 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ20～35 cmを測る。

S B 28

G区グリッドE-25で確認した掘立柱建物である。方位はN 5° Eである。規模は北-南ラインが900 cm、西-東ラインが230 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ30 cmを測る。

S B 29

G区グリッドE-25で確認した掘立柱建物である。方位はN 5° Eである。規模は北-南ラインが215 cm、西-東ラインが700 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ25～55 cmを測る。

S B 30

G区グリッドE-24で確認した掘立柱建物である。方位はN 10° Wである。規模は北-南ラインが175 cm、西-東ラインが510 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ10～35 cmを測る。

S B 31

G区グリッドF-24で確認した掘立柱建物である。方位はN 10° Wである。規模は北-南ラインが440 cm、西-東ラインが440 cmのほぼ正方形のプランとなり、柱穴は地山面からの深さ10～45 cmを測る。

S B 32

G区グリッドF-24で確認した掘立柱建物である。方位はN 20° Wである。規模は北東-南西ラインが700 cm、北西-南東ラインが515 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ10~45 cmを測る。

S B 33

G区グリッドF-25で確認した掘立柱建物である。方位はN 10° Wである。規模は北-南ラインが405 cm、北西-南東ラインが215 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ10~40 cmを測る。

S B 34

D・G区グリッドII-26で確認した掘立柱建物である。方位はN 20° Wである。規模は北東-南西ラインが410 cm、北西-南東ラインが460 cmのほぼ正方形のプランとなり、柱穴は地山面からの深さ15~30 cmを測る。

S B 35

I区グリッドI-27で確認した掘立柱建物である。方位はN 3° Eである。規模は北-南ラインが760 cm、西-東ラインが700 cmのほぼ正方形のプランとなり、柱穴は地山面からの深さ30~65 cmを測る。

S B 36

I区グリッドI-27で確認した掘立柱建物である。方位はN 5° Eである。規模は北-南ラインが880 cm、西-東ラインが730 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ30~50 cmを測る。

S B 37

J区グリッドH-28で確認した掘立柱建物である。方位はN 5° Eである。規模は北-南ラインが840 cm、西-東ラインが600 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ7~45 cmを測る。

S B 38

J区グリッドH-29で確認した掘立柱建物である。方位はN 17° Eである。規模は北東-南西ラインが590 cm、北西-南東ラインが380 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ15~40 cmを測る。

S B 39

J区グリッドH-30で確認した掘立柱建物である。方位はN 10° Eである。規模は北-南ラインが350 cm、西-東ラインが385 cmのほぼ正方形のプランとなり、柱穴は地山面からの深さ10~35 cmを測る。

S B 40

J区グリッドII-30で確認した掘立柱建物である。方位はN 0° である。規模は北-南ラインが620 cm、西-東ラインが700 cmのほぼ正方形のプランとなり、柱穴は地山面からの深さ20~50 cmを測る。

S B 41

K区グリッドJ-28で確認した掘立柱建物である。方位はN 0° である。規模は北-南ラインが490 cm、西-東ラインが650 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ12~40 cmを測る。

S B 42

K区グリッドJ-28で確認した掘立柱建物である。方位はN 5° Eである。規模は北-南ラインが925 cm、西-東ラインが650 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ20~30 cmを測る。

S B 43

I・K区グリッドJ-29で確認した掘立柱建物である。方位はN 10° Eである。規模は北-南ラインが450 cm、西-東ラインが490 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ20~60 cmを測る。

S B 44

F区グリッドG-32で確認した掘立柱建物である。方位はN 22° Eである。規模は北東-南西ラインが450 cm、北西-南東ラインが220 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ10~30 cmを測る。

S B 45

F区グリッドH-32で確認した掘立柱建物である。方位はN 15° Eである。規模は北東-南西ラインが240 cm、北西-南東ラインが430 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ20~25 cmを測る。

S B 46

F区グリッドH-32で確認した掘立柱建物である。方位はN 20° Eである。規模は北東-南西ラインが460 cm、北西-南東ラインが390 cmの長方形プランとなり、柱穴は地山面からの深さ20~65 cmを測る。

S E 1

D区グリッドB-24で確認した井戸状遺構である。北-南310 cm、東-西310 cm、地山面からの深さ186 cm以上を測る。堆積覆土は大別して褐灰色粘質土、暗灰粘質土の2層で人頭大の石礫が混じる。

S E 2

D区グリッドC-24で確認した井戸状遺構である。北東-南西220 cm、北西-南東が確認可能な範囲で60 cm、地山面からの深さ188 cm以上を測る。堆積覆土は暗灰褐粘質土、灰黄褐粘質土、暗灰褐粘質土などで、下層で礫混じりの層が見られる。

S E 3

G区グリッドG-25で確認した井戸状遺構である。直径200 cmで円形を呈し、地山面からの深さ214 cmを測る。堆積覆土は黒灰粘質土、暗灰褐粘質土、灰褐シルトが主として堆積している。

S E 4

F区グリッドG-31・32で確認した井戸状遺構である。直径400 cmで円形を呈し、地山面からの深さ200 cm以上を測る。堆積覆土は灰褐粘質土、黄褐粘質土、黄灰褐シルトが主として堆積している。

S E 5

J区グリッドJ-30で確認した井戸状遺構である。直径140 cmで円形を呈し、地山面からの深さ160 cm以上を測る。堆積覆土は灰褐粘質土、褐色粘質土、褐色石礫土が主として堆積している。

S E 6

M区グリッドM-34で確認した井戸状遺構である。北-南300 cmを測り、地山面からの深さ140 cm以上を測る。

SE7

M区グリッドN-35で確認した井戸状遺構である。直径200cmで円形を呈し、地山面からの深さ140cm以上を測る。堆積覆土は灰褐礫土、灰褐粘質土、灰色シルト、暗灰シルトが主として堆積している。

SE8

M区グリッドO-36で確認した井戸状遺構である。直径160cmで円形を呈し、地山面からの深さ130cm以上を測る。堆積覆土は淡灰砂土、灰色シルト、灰黄砂土、暗灰シルトが主として堆積している。

SK1

B区グリッドZ-22で確認した土坑である。北西-南東に長い楕円形に近い形状をしている。北西-南東方135cm、北東-南西方100cm、地山面からの深さ23cmを測る。南東隅に深さ9cmの半円形のテラスがある。堆積覆土は、灰褐色粘質土、暗灰褐色粘質土の2層で、暗灰褐色粘質土からは156～159などの弥生土器が多量に出土した。

SK2

B区グリッドZ-21で確認した土坑である。分胴型のような形状をしており、複数の土坑が接した可能性もある。東西180cm、南北150cm、地山面からの深さ15cmを測る。穴内部には、直径15～40cmのビットが4基存在する。堆積覆土は、灰褐色粘質土、暗灰褐色粘質土の2層で、暗灰褐色粘質土からは160などの弥生土器が多量に出土した。

SK3

B区グリッドD-20で確認した土坑である。東西に長い不定形な形状をし、隅丸方形と思われる複数の穴が接しているような形状をしている。但し、切り合い関係はわからない。東西245cm、南北60～135cm、地山面からの深さ10cm前後を測る。堆積覆土は暗灰褐色粘質土で、中からは162～164などの弥生土器が多量に出土した。

SK4

D区グリッドB-24で確認した土坑である。大小の方形プランの穴が合わさったような形状をし、土層の観察から、別の遺構が切り合っていたことがわかった。大規模の方は南西側にあり、一辺約260cmの隅丸方形型のプランをしている。地山面からの深さは約30cmを測る。堆積覆土は黄灰褐色粘質土、灰褐色粘質土、暗灰褐色粘質土の3層である。小規模の方は北西側にあり、北東-南西に長い隅丸長方形プランをする。規模は北東-南西が205cm、北西-南東が105cm、地山面からの深さ18cm前後を測る。堆積覆土は灰黄褐色粘質土、灰褐色粘質土の2層である。小規模の長方形プランの方からは165などの土器が多量に出土した。

SK5

D区グリッドB-24で確認した土坑である。東西に長い不定形な土坑で、複数の穴が接していたかもしれない。北端にはSD13が走っており全体の形状はわからない。東西168cm、南北128cm以上、地山面からの深さ18cmである。堆積覆土は、黄褐色ブロック上混り暗灰褐色粘質土1層である。

SK6

D区グリッドG-24で確認した土坑である。南北に長い隅丸長方形のプランをしている。規模は南北122cm、東西72cm、地山面からの深さ45cmを測る。堆積覆土は黒灰褐色粘質土、黄褐色ブロック上混り灰褐色粘質土、黄褐色ブロック上混り暗灰褐色粘質土の3層である。北端には45×30cm、深さ45cmのビットが存在する。上層断面からこのビットよりも本遺構の方が新しい。

SK 7

E区グリッドF-29で確認した土坑である。北東-南西方の溝に切られていることから、やや不定形な形状をしているが、楕円形プランを呈している。規模は長辺130cm、短辺110cm、地山面からの深さ約75cmを測る。堆積覆土は黒灰色粘質土、暗灰褐色粘質土をベースとして7層ある。

SK 8

D区グリッドF-23で確認した土坑である。北側と南側の土坑が2基合わさったプランをしている。南端はS17によって様相がわからなくなっている。北側の土坑は南北が70cm以上、東西が200cm、地山面からの深さ10cm前後、南側の土坑は南北が86cm以上、東西が188cm、地山面からの深さ15cm前後、北側と南側の前後関係はわからない。堆積覆土は黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土である。中世の竪穴状遺構になるかもしれない。

SK 9

G区グリッドE-25で確認した土坑である。方形プランと思われるが、北側は調査区外、南側はS122に切られており、全容はわからない。方位はN6°Eで、東西長132cm、南北長110cm以上、地山面からの深さ約25cmを測る。

SK 10

G区グリッドF・G-25・26で確認した方形土坑である。方位はN15°Wで、南北長250cm、東西長240cmとほぼ正方形に近い。地山面からの深さ約90cmを測る。穴内には35×20cm、10cmの深さを有するピットが1基存在している。本遺構は竪穴状遺構になる可能性もあるが、近隣で確認している竪穴状遺構よりもプランが規格的で、著しく穴が深いことから土坑とした。

SK 11

J区グリッドH-29で確認した土坑である。南北に長い隅丸長方形のプランをし、方位はN7°Eである。南北長135cm、東西長110cm、地山面からの深さ約15cmを測る。S114や畝溝4と切り合い、いずれの遺構よりも新しく掘られていることから、中世以降の遺構と考えられる。

SK 12

J区グリッドH-29で確認した土坑である。南北に長い隅丸長方形のプランをし、方位はN13°Eで、隣接するSD26と同じ方向をもつ。南北長205cm、東西長102cm、地山面からの深さ約30cmを測る。

SK 13

I・J区グリッドI-29で確認した土坑である。方形、楕円形などの複数の土坑が接しているような形状している。但し、切り合い関係はわからない。東西長238cm、南北長230cm、地山面からの深さ10～15cmを測る。堆積覆土は黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土で、穴内には直径22～45cm、深さ15～30cmのピット3基を検出している。

SK 14

I区グリッドI-27・28で確認した土坑である。北側半分は平成22年度町営住宅建設に伴う発掘調査業務で確認している。歪ながらも東西に長い方形プランである。東西長122cm、南北82cm、地山面からの深さ10cm前後を測る。堆積覆土は黄褐色ブロック土・炭粒混り灰褐色粘質土である。

SK 15

M区グリッドO-37で確認した土坑である。北東-南西が長い長方形プランで、方位はN19°Eである。北東-南西ラインが393cm、北西-南東ラインが163cm、地山面からの深さ約90cmを測る。覆土は灰色粘質土を基本とした土が何層にも渡って堆積している。堆積覆土と中から近世陶磁器が出土していることから、本遺構は江戸時代と考えられる。

SD1

A区北端で検出した東西に走る溝で、方位はW4°Nである。調査区内で確認できた長さは約3.8m、幅は約56～64cm、深さ地山面から約25cmを測る。流路となるような高低差は見られない。堆積覆土は厩灰粘質土1層である。

SD2

A区、B区グリッドA-20、B-20、C-20・21、D-21、E-21と、D区グリッドF22・23、G-23と、H区G-23、H-24、I-24・25、J-25・26、K-26を通る北東-南西を基軸とした溝である。A・B区では、N11°Eであるが、D・G区ではN38°Eと、大きく西方に傾く。

なお、遺構の様相については、小区毎に説明していく。

A区では、区内で確認できた長さが約5.4m、幅は約163～182cm、深さ地山面から約60～65cmを測る。両側には幅18～25cm、深さ地山面から2～12cmのテラスが存在する。

B区では、区内で確認できた長さが約48m、幅は約125～200cmである。グリッドD-21で東西溝SD3やS字に屈曲するSD4と合流する。深さはSD3との合流地点より北側で約50～64cm、SD3との合流地点より南側で27～48cmを測る。溝の両側には複数のピットやテラスが不規則に掘られている。ピットの形状は、円形・楕円形・不定形と様々で、長辺10～80cm、深さ約10～40cmを測る。溝の護岸用の穴になる可能性もあるが、決め手に欠ける。

D区では、区内で確認できた長さは約9.6m、幅は約128～200cm、深さは地山面から12～23cmである。北岸には溝のラインと同じ方位をとるピット列が存在する。ピットは円形及び楕円形をし、直径25～40cm、深さは地山面から13～29cmを測る。ピットとピットの間隔は120cm前後を測り、溝の保護及び、境界を示すような櫛列であったかもしれない。南岸にあたる溝の掘り方は直線上にはならず歪に屈曲する。

E区では、区内で確認できた長さは約51m、幅は約130～180cm、深さは地山面から30～40cmである。本溝は、グリッドJ・K26で二手に分かれる。一方の溝は、W13°Nの東西溝で、幅170cm、地山面からの深さ38～40cmを測る。もう一方の溝はN62°Eとさらに西寄りとなる。溝幅は170cm、地山面からの深さ54cmを測る。

溝底の深さは、最も北端にあたるA区で13.77m、B区グリッドB-20で14.07m、B区グリッドE-21で14.47m、D区グリッドF-22で14.80m、H区グリッドH-24で14.87m、H区グリッドK-26で14.97mと比高差は約1.2mを数え、わずかながら南端から北端に向かって低くないっていく。

SD3

B区グリッドD-21、D区グリッドC・D-23で検出した東西に走る溝で、方位はW11°Nである。確認できた長さは、B区とD区の間にある約15mの未調査区分を含めて約27.5m、幅は約100cm、深さ地山面から約35～46cmを測る。流路となるような高低差は見られなかった。D区西方の延長線となるグリッドC-25では、同様な規模を有した溝は確認できなかったため、調査区外で途中方向を変えたか、途切れたかと想定される。B区グリッドD-21では、SD2と合流する。本溝は、SD2の溝幅や深さとほぼ同じで、溝の両側に不規則な形状のピットが掘られている様相も似ている。また、土層堆積の状況で、両溝は同時に埋没していたことが判明したことから、SD2と3は同時期に機能していたようである。

SD4

B区グリッドD-20・21で確認した溝である。SD2から派生し、当初は約3m南東方向に走るが、途中南方に向きが変わる。南方に1.5m進むと、再び南東方向に向きが戻る。そこから南東方へ4mほど進むと、再び南方に向きが変わり、約1.5m進んだところで途切れる。幅は20～30cm、深さは地山面から約10cmを測る。周囲には壁穴状遺構SI17・18や掘立柱建物SB20・21が存在しており、これらの遺構に関係する溝かもしれない。

SD5

B区グリッドF-20・21で確認した東西溝で、方位はW8°Nである。後述するSD6と並走するが、約85m東方へ進んだところで、北方に向きを変える。北方の方位はN18°Eである。約25m北へ進んだところで、S I 17とぶつかつて終焉する。幅は東西方のときは65cm前後であるが、南北方では25cm前後と狭くなる。深さは地山面より3～15cmを測る。遺構の配置状況から、本溝はS I 17から派生する排水溝の可能性がある。

SD6

B区グリッドF-19～21で検出した東西に走る溝で、方位はW8°Nである。前述したSD5の東西溝とは途中まで並走する。調査区内で確認できた長さは約13.4m、幅は約45～66cm、深さは地山面から30～37cmを測る。覆土は黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土である。

SD7

B区グリッドF-19～21で検出した東西に走る溝で、方位はW4°Nである。調査区内で確認できた長さは約13.6m、幅は約180cm、深さは地山面から約25cmを測る。覆土は暗灰色粘質土1層である。SD6とは切りあっており、堆積土の様相から、本溝の方が新しいことがわかっている。

SD8

B区グリッドG・H-19で確認した南北に走る溝で、方位はN10°Wである。調査区内で確認した長さは約6.2m、溝幅は40～58cm、深さは地山面から26～34cmを測る。南端では、東西溝SD9と合流して終焉する。堆積覆土は、3黒灰色粘質土、1暗灰褐色粘質土である。SD9とは土層断面の切り合いから時間幅をもつ可能性もあるが、両溝の幅や深さがほぼ同じで、方位の角度が直角に近いことから同一時期と考えられる。

SD9

B区グリッドH-19・20で検出した東西溝で、方位はW14°Nである。調査区内で確認した長さは約16.8m、溝幅は44～60cm、深さは地山面から21～28cmを測る。堆積覆土は、2黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土、1暗灰褐色粘質土である。前述したSD8と合流し、溝の規模が同一であること、方位の角度が直角に近いことなどから同時期のものと考えられる。

SD10

B区グリッドH・I・J-19で確認した南北に走る溝で、方位はN7°Wである。調査区内で確認した長さは約22.3m、幅は25～40cm、深さは地山面から8～15cmで、所々60cmと100cm分途切れる箇所がある。堆積覆土は暗灰褐色粘質土である。本溝の東と西の側に同規模の溝が複数並走しており、耕作用の畝溝と想定される。畝溝の概要については後述する。

SD11

D区グリッドA-22で確認した南北に走る溝で、方位はN5°Eである。調査区内で確認した長さは約9.4m、幅は80～122cm、深さは地山面から22～36cmである。堆積覆土は黄褐ブロック土混り暗灰色粘質土と褐灰色粘質土の2層である。溝の両岸にはSD2やSD3と同様、不定形なテラスやピット群が不規則に掘られている。なお、平成22年度発掘調査では、本溝の北と南側の延長部を確認している。北側はこのまま15.5m同方向に延びていき、更に北方へと進んでいく。南側は約5m延びたところで終焉する。

SD12

D区グリッドA・B-23で確認した南北に走る溝で、方位はN10°Wである。調査区内で確認した長さは約8.2m、幅は40～50cm、深さは地山面から10～21cmである。堆積覆土は黄褐ブロック土混り暗灰褐色粘質土と褐灰色粘質土の2層である。平成22年度発掘調査では、本溝の北と南側の延長部を確認している。北側はこのまま14m同方向に延びていき、更に北方へと進んでいく。南方は約

5m 延びたところで東西溝 S D 13 と合致して終焉する。

S D 13

B区グリッドB・C-21、D区グリッドB-23～26で確認した東西に走る溝で、方位はW^{3°}Nである。B区グリッドC-21が東端となり、西方へと進む。平成22年度発掘調査でも本溝を確認しており、その調査地箇所を含んだ長さは約46.8m、幅は28～85cm、深さは地山面から6～30cmを測る。堆積覆土は黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土と褐色粘質土の2層である。前述した南北溝 S D 12 とは同時併存したと思われる。時期は中世で、途中 S E 1 と切り合うが、土層断面から S E 1 の方が新しいことがわかっている。

S D 14

D区グリッドC-25・26で確認した東西溝で、方位はW^{5°}Nで、S D 13 と並走する。本溝は S I 5 の検出によって、その様相は不明となる。確認できた長さは約1.8m、幅は65～72cm、深さは地山面から19～24cmを測る。堆積覆土は灰褐色粘質土である。本溝の東方延長線上に位置する S D 3 と合致するかはわからない。

S D 15

D区グリッドE-22・23で確認した東西に走る溝である。方位はW^{2°}Nである。確認した長さは約8.3m、幅は100～110cm、深さは地山面から42～57cmを測る。堆積覆土は黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土、灰褐色粘質土の2層である。溝幅や深さの規模から、B区 S D 2、G区 S D 16 とは合致する可能性がある。

S D 16

G区グリッドE-24～26で確認した東西に走る溝であるが、グリッドE-24で北方へと直角に曲がる。方位はW^{4°}Nである。長さは東西方向が約15.7m、南北方向が約6.6m、幅は122～185cm、深さは地山面から60～85cmを測る。堆積覆土は暗褐色粘質土、褐色粘質土を主とした複数の層土を確認することができる。

S D 17

H区グリッドH-J-25・26で確認した溝で、S D 2 と並走する北東-南西の方位をもつ。但し、グリッドI-25で北西-南東方へとほぼ直角に向きが変わる。長さは北東-南西方で約15.3m、北西-南東方で約9.4m、幅は25～40cm、深さは地山面から6～17cmを測る。南東端は S D 2 に切られている。

S D 18

H区グリッドH-J-23～25、で確認した北東-南西に走る溝で、方位はN^{35°}Eである。長さは約29.7m、幅は25～65cm、深さは地山面から11～33cmを測る。切り合いから畝溝2よりも新しい。本溝の延長線上には複数の細長いピットが確認でき、これらは溝の残存部にあたると考えられ、溝の距離はもう少し延びていたようである。

S D 19

H区グリッドI-K-23・24で確認した北西-南東に走る溝で、方位はN^{22°}Wである。長さは約16.4m、幅は22～40cm、深さは地山面から5～14cmを測る。切り合いから畝溝2よりも新しい。本溝の北西端は S D 18 から派生しており、両溝は同時併存していたかもしれない。

S D 20

E区グリッドD・E-28とI区グリッドH・I-27で検出したやや西に振る南北溝である。方位はN^{14°}Wである。E区とI区との間には平成22年度に町営住宅建設に係る発掘調査が行われ、その際、本溝の一部が確認されている。溝の長さはE区と平成22年度調査分、I区までの総延長で約48.5m、幅は70～133cm、地山面からの深さが22～39cmを測る。E区では S D 21 と複合しており、切り

合いから本溝が新しいことがわかった。堆積覆土は灰褐色粘質土である。

S D 21

E区グリッドE-28で見つかった北西-南東ラインの溝である。方位はN 78°Wである。本溝は南東方に進むとS D 20とぶつかり、そのままS D 20と同じ方位を向いて南方へと進んでいく。溝の長さは北西-南東ラインで約6.4m、南北ラインで約2.8m、幅は98~120cm、地山面からの深さは10cm前後を測る。S D 20との新古関係は、切り合いの状況から本溝の方が古いことがわかっていいる。堆積覆土は黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土、灰褐色粘質土の2層である。

S D 22

E区グリッドE-27で見つかった南北ラインの溝である。方位はN 10°Wで、西側に位置するS D 20とはほぼ同方位を示している。E区内に溝の北端が見え、そのまま南下して調査区外へと進んでいく。溝の長さは約3.6m、幅は約125cm、地山面からの深さは6~23cmである。堆積覆土は暗灰褐色粘質土である。

S D 23

E区グリッドE-28・29で見つかった北西-南東方向の溝である。方位はN 72°Wで、本溝の北方に位置するS D 21とは、ほぼ同方位をとっている。溝の長さは約9.2m、幅は約38~50cm、地山面からの深さは15cm前後である。北西端部ではS D 24・26と合流しており、溝の形状は大きく変わる。堆積覆土は暗灰褐色粘質土である。

S D 24

E区グリッドE・F-28・29で確認した北西-南東方向の溝である。方位はN 25°Wである。本溝の北方に位置するS D 21とは、ほぼ同方位をとっている。溝の長さは約7.5m、幅は約90~125cm、地山面からの深さは5~10cmである。堆積覆土は黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土である。北西端部ではS D 23・26と合流し、その箇所だけ上坑状の深い大穴が掘られている。規模は140×80cm、地山面からの深さ45cmで、暗灰褐色シルト、明灰褐色シルト、灰褐色シルトの3層が堆積し、他の溝とは覆土を大きく異とする。各溝から流出する水を貯める施設になるかもしれない。

S D 25

E区グリッドE・F-28~30で検出した東西方向の溝である。方位はW 15°Sである。溝の長さは約18.6m、幅は約50~70cm、地山面からの深さは12~27cmである。堆積覆土は灰白色ブロック土混り暗灰褐色粘質土、黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土、暗灰褐色粘質土の3層である。本溝はS D 23・24・26と切り合っており、検出作業観察や土層断面の状況から、本溝が他の溝よりも新しいことがわかった。

S D 26

E区グリッドE・F-29とJ区グリッドG~I-29で確認した南北方向の溝である。E区における方位はN 6°Eで、J区ではより東側に傾き、N 16°Eとなる。E区北端ではS D 23・24と合流し、その箇所には長方形の上坑状遺構が掘られている。溝の長さはE区とJ区を合わせると約41.5m、溝幅は約40~113cm、地山面からの深さは22~74cmである。堆積覆土は黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土、灰褐色粘質土の2層である。E区でS D 25と交差しており、土層断面観察から本溝が先行して掘られていたことがわかっていいる。

S D 27

I区グリッドI-27~29とJ区グリッドI-29で確認した東西方向の溝である。方位はW 3°Nで、後述するS D 28とはほぼ同方位をとる。溝の長さはI区とJ区を合わせて約17.0m、溝幅は30~50cm、地山面からの深さは10cm前後である。堆積覆土は黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土である。

SD 28

I区グリッドJ-28・29とJ区グリッドI-29で確認した東西方向の溝である。方位はW3°Nで、同方位であるSD 27は本溝より北方約1mに存在する。I区グリッドJ-28で本溝の東端となるが、そのまま南方へクランクするような形状を見せている。但し、南方の延長線上にあるK区では同様の規模を有した溝状遺構は見られないので、実際に本溝がクランクするかはもう少し検討を要する。溝の長さはI区とJ区を合わせて約17.0m、溝幅は25～58cm、地山面からの深さは9～19cmである。堆積覆土は黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土である。畝溝4とは交差するが、検出作業状況から本溝の方が新しいことがわかった。

SD 29

I区グリッドI・J-28とK区グリッドJ-28で確認した南北方向の溝である。畝溝4のひとつに挙げられ、方位はN7°Wである。溝の北端はI区の北隣で行われた平成22年度調査地となり、南端はK区S I 31に切られて終焉する。溝の長さは平成22年度調査地も含めて約15.5m、溝幅は18～28cm、地山面からの深さは6～12cmである。堆積覆土は灰褐色粘質土である。

SD 30

F区グリッドG-31・32で確認した東西方向の溝であるが、東端で北方に向きが変わる。東西ラインの方位はW5°Nで、南北ラインの方位は真北に近い。溝の長さは東西ラインで約10.5m、南北ラインで6.6m、溝幅は30～50cm、地山面からの深さは7～16cmである。堆積覆土は黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土、暗灰褐色粘質土の2層である。

SD 31

F区グリッドG・H-32で確認したやや東方に振る南北方向の溝である。方位はN16°Eである。溝の長さは約5.7m、溝幅は100～160cm、地山面からの深さは35～50cmである。堆積覆土は灰褐色粘質土である。本溝の東岸には、直径30～60cm、深さ10～20cmの不定形な穴が複数にわたって不規則に掘られている。護岸用の杭穴になるかもしれない。

SD 32

F区グリッドH・I-31・32で検出した北西-南東ラインの溝である。方位はN69°Wである。溝の長さは約12.8m、溝幅は50～80cm、深さは地山面から18～33cmを測る。堆積覆土は暗灰褐色粘質土である。なお、グリッドH・I-32の一角には、不定形な土坑状遺構が掘られ、本溝の様相が一部わからなくなっている。土坑状遺構の規模は240×125cm、深度約50cmを測る。

SD 33

F区グリッドI・J-30～32とI区グリッドJ・K-29・30で検出した溝である。F区では北西-南東ラインとなるが、I区で向きを南西方に大きく変えていく。方位は、北西-南東ラインがN70°Wで、向きが大きく区変わる北西-南東ラインがN18°Eである。溝の長さは北西-南東ラインが約25.5m、北東-南西ラインが約7.8m、溝幅は92～180cm、深さは地山面から60～73cmを測る。堆積覆土は黄褐色ブロック土混り褐灰色粘質土、褐灰色粘質土の2層である。F区ではSD 34と交差し、土層断面観察から本溝の方が新しいことがわかった。

SD 34

F区グリッドI・J-30～32で確認した溝である。方位はN53°Wである。溝の長さは約24m、溝幅は45～70cm、深さは地山面から20～30cmを測る。堆積覆土は暗灰褐色粘質土、灰褐色粘質土の2層である。交差するSD 33とは、土層断面観察から本溝の方が古いことがわかった。

SD 35

L区グリッドK・L-31・32で確認した北西-南東ラインの溝である。方位はN70°Wである。溝の長さは約9.6m、溝幅は102～123cm、深さは地山面から12～21cmを測る。堆積覆土は灰褐色

粘質土と粘性の強い灰白色粘質土の2層である。グリッドL-32ではSD36が本溝と直交する。本溝とSD36が交わる箇所には200×150cmの長方形をした土坑状遺構が存在する。この遺構の深さは地山面から15cm前後、覆土は灰褐色粘質土である。なお、この土坑状遺構の際では本溝の幅が60cmと狭くなる。

SD36

L区グリッドL・M-32で確認した北東-南西ラインの溝である。方位はN25°Eである。北東端はSD35と交わり終焉する。溝の長さは約11m、溝幅は80～130cm、深さは地山面から7～24cmを測る。堆積覆土は黄褐色ブロック土混り灰褐色粘質土と粘性の強い灰褐色粘質土の2層である。

SD37

L区グリッドL・M-32・33で確認した北西-南東ラインの溝である。方位はN70°Wで、同区の北東方12mに存在するSD35とは同方位となる。溝の長さは約9.6m、溝幅は115～145cm、溝の深さは地山面から40～47cmを測る。溝内の北東側には、幅50～60cmのテラスが設けられている。深さは地山面から20～28cmを測る。堆積覆土は、粘性の強い黄褐色ブロック土混り灰褐色粘質土と褐色粘質土の2層である。

SD38

L区グリッドM-33・34で確認した東西ラインの溝である。方位はW7°Nである。SB18・19付近で、東方と南方に分岐するような構造を見せているが、複数の遺構が錯綜しているため、実態はよくわからない。溝の長さは約10.4m、溝幅は60～80cmであるが、SB18・19付近では約40cmとやや狭くなる。溝の深さは地山面から12～21cmを測る。交差するSD39とSD40は土層断面観察から、本溝が最も新しいことが判明している。堆積覆土は、粘性の強い暗灰褐色粘質土と褐灰色粘質土の2層である。

SD39

L区グリッドM-33・34で確認した北東-南西ラインの溝である。方位はN23°Eで、東方約11mにあるSD36と同方位となる。溝の長さは約8.9m、溝幅は71～100cm、溝の深さは地山面から30～35cmを測る。交差するSD38とは土層断面観察から、本溝が切られていることがわかっている。堆積覆土は、粘性の強い暗灰褐色粘質土、暗灰褐色粘質土、灰褐色粘質土の3層である。

SD40

L区グリッドM-33・34で確認した北東-南西ラインの溝である。方位はN13°Eである。北端はSD38と直交する。土層断面観察から本溝はSD40よりも古いことがわかっている。南端も溝状遺構によって様相がわからなくなっている。溝の長さは約6.1m、溝幅は38～42cm、溝の深さは地山面から6～10cmを測る。堆積覆土は、黄褐色ブロック土混り灰褐色粘質土である。

SD41

M区グリッドN-35・36で確認した北西-南東ラインの溝である。方位はN42°Eで、ゆるく蛇行する。南端は古墳1の周溝によって様相がわからなくなっている。溝の長さは約9.2m、溝幅は38～60cm、溝の深さは地山面から約20cm前後を測る。堆積覆土は褐色粘質土の1層である。

畝溝1

B区グリッドH-K-19で確認した溝群である。溝は4条検出した。北端はグリッドH-19から、南は調査区外となるため、更に延びていくと思われる。方位はN7°Wである。溝の長さは最大長約31mで、北から9m、19m、26mの箇所まで溝が途切れる。途切れる箇所の溝と溝の間の長さは約1mと約3.5mである。溝の幅は20～40cm、溝の深さは地山面から5～15cmを測る。溝と溝の幅は110～140cmである。堆積覆土は暗灰褐色粘質土が主体であるが、灰褐色粘質土も入っている。

畝溝 2

D区グリッドF・G-24・25とG区グリッドF-24・25で確認した溝群である。溝は5条検出した。北端はグリッドF-24・25からで、南端はグリッドG-24・25で終焉する。方位はN4°Eである。溝の長さは最大長約125mで、溝の幅は25～40cm、溝の深さは地山面から5～15cmを測る。溝と溝の幅は130～180cmである。なお、本溝群と畝溝3とは1.5～2mの間隔で離れている。堆積覆土はほとんどが暗灰褐色粘質土であるが、黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土も一部堆積している。

畝溝 3

D区グリッドG・H-24～26とII区グリッドG～K-23～26で確認した溝群である。溝は18条検出した。北端はグリッドG-23～26からで、南は調査区外となるため、更に延びていく。方位はN5°Wである。溝の長さは最大長約36.5mで、北から約18mと約25mの箇所では、溝の一部が途切れるか、ゆるい蛇行が見られる。途切れる箇所の溝と溝の間の長さは20～100cmである。溝の幅は20～50cm、溝の深さは地山面から5～15cmを測る。溝と溝の幅は120～240cmである。覆土は暗灰褐色粘質土、褐灰色粘質土、暗褐色粘質土が主として堆積している。

畝溝 4

I区グリッドH～J-26～29、J区グリッドG～I-29・30、K区グリッドJ・K-27・28及び、平成22年度町営住宅建設に係る発掘調査で確認した溝群である。溝は21条検出した。北端はグリッドG-26～30からで、南は調査区外となるため、更に延びていく。方位はN4°Wである。溝の長さは最大長約39.5mで、北から約11mと約34mの箇所では溝の一部が途切れる。途切れる箇所の溝と溝の間の長さは約1m前後である。溝の幅は20～45cm、溝の深さは地山面から5～15cmを測る。溝と溝の幅は60～155cmである。なお、本溝群と畝溝3とは約4mの間隔で離れている。堆積覆土はほとんどが暗灰褐色粘質土であるが、黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土や黄褐色ブロック土混り灰褐色粘質土も一部堆積している。

鞍部

F区グリッドJ-30・31とL区グリッドK-30・31で確認した自然の谷地である。幅は約11m、最深部は地山面から65cmを測る。堆積土は粘性の極めて強い黒色及び暗灰褐色粘質土が主体であることから、降雨等の時のみ流水する湿地状態のような様相を見せていたと思われる。黒色及び暗灰褐色粘質土の埋土から弥生土器や土師器が出土しており、当該時期は谷地であったようである。

SX1

D区グリッドF-22・23で確認した遺構である。南北に細長い土坑状遺構で、南北約278cm、東西約93cm、地山面からの深さ5cm前後と比較的浅いが、中央部から北寄りに不定形で深度のあるピットが存在する。ピットは中央部では円形で、北側では南北に長い形状をしている。円形は直径35cm、地山面からの深さ36cm、南北に長い方は70×30cm、地山面からの深さ約10cmを測る。堆積覆土は暗灰褐色粘質土である。177の甕をはじめとする弥生土器片が多く出土した。本遺構より約4m西方にはS17が存在する。本遺構とS17の遺物は同時期に近く、プランの向きもほぼ同方位であることから、両遺構は密接な関係にあると思われる。

SX2

E区グリッドJ-22・23で確認した北西-南東方が長い溝に近い落ち込み遺構である。本遺構の東端は調査区外となるため、全体の様相はわからない。規模は、北西-南東方が約608cm、北東-南西ラインが約144cmを測り、地山面からの深さは約15cmを測る。堆積覆土は灰褐色粘質土である。178の甕などの土器片が散在して出土した。形状などから、B区S14に水が入り込まないように囲む遺構になるかもしれない。

SX3

D区グリッドG-25で確認した溝が一周する周溝状遺構である。溝の幅は38～47cm、地山面からの深さ10cm前後を測る。堆積覆土は灰褐色粘質土である。図示できるものはなかったが、弥生土器片が数点出土している。周溝内の規模は北西-南東方で190cm、北東-南西方で140cmと楕円形のような形状をしている。本遺構は、北陸地方の弥生時代集落でよく見られる。本遺跡近隣の弥生時代集落遺跡である三日市A遺跡、御経塚遺跡ツカダ地区、押野ウマワタリ遺跡、高橋セボネ遺跡なども検出している。この周溝状遺構は、1集落に対して1基もしくは2基程度存在し、本遺跡でもこのSX3のみの確認である。この遺構の性格は、「ニオ（稲積）」状の施設の説があるが、確定には至っていない。

SX4

J区グリッドH-30で確認した南北に長い溝のような遺構である。南北方222cm、東西方30～40cm、地山面からの深さ13cmを測る。東方約1.5mにあるS14の外周の方位とほぼ合致することから、両遺構は密接な関係にあると考えられる。

SH1

M区グリッドM-0-34～36で確認した古墳である。方位はN28°Wで、東南側の周溝を確認した。この古墳の形状を確認するため、M区北西方に16m×2m、8m×2m、7m×2mのトレンチを設けた。結果、各トレンチから周溝と思われる覆土を確認することができ、本遺構は方墳であることが判明した。古墳の規模は、墳丘が北西-南東長が約17.5m、北東-南西長が約15.5m、周溝を含むと北西-南東長が約25.5m、北東-南西長が約23mとなる。東南面の週溝の幅は約4.5m、墳丘面からの最深部約90cmで、北東面の週溝の幅は約3.6m、墳丘面からの最深部約140cm、南西面の週溝の幅は約3.2m、墳丘面からの最深部約150cmを測る。東コーナー部では、溝幅が約2.5mと狭くなる。周溝の堆積覆土は、下層でシルト質の土が入るが、基本は黒灰色粘質土など粘性のある土である。様々な土がレンズ状に埋まっているので、自然堆積と考えられる。主体部は確認できなかった。

SH2

M区グリッドM-38で確認した方墳である。方位はN8°Wで、南側と東側の一部の周溝を確認した。古墳の規模はほとんどが調査区外となるため、全容は明らかでない。周溝を含むと、南北長4.2m以上、東西長6m以上である。南面の週溝の幅は約1m、墳丘面からの最深部は83cmである。周溝の堆積覆土は、黒色粘質土、黒褐色粘質土などの層が自然に堆積している。また、溝の形状は、墳丘側は緩傾斜で、外側は急傾斜となる。溝の中からは579の壺が出土した。主体部は確認できなかった。

SH3

M区グリッドO・P-36・37で確認した方墳である。方位はN21°Wで、北側と南側の一部を除く周溝を検出した。古墳の規模は、墳丘が南北約8.4m、東西約7.6mで、周溝を含むと南北約10.9m、東西約10.3mを測る。週溝の幅は1～1.4m、墳丘面からの最深部は約100cmである。周溝の堆積覆土は、黒色粘質土や黒灰色粘質土などで、極めて粘性の強い土層が堆積している。主体部は確認できなかった。

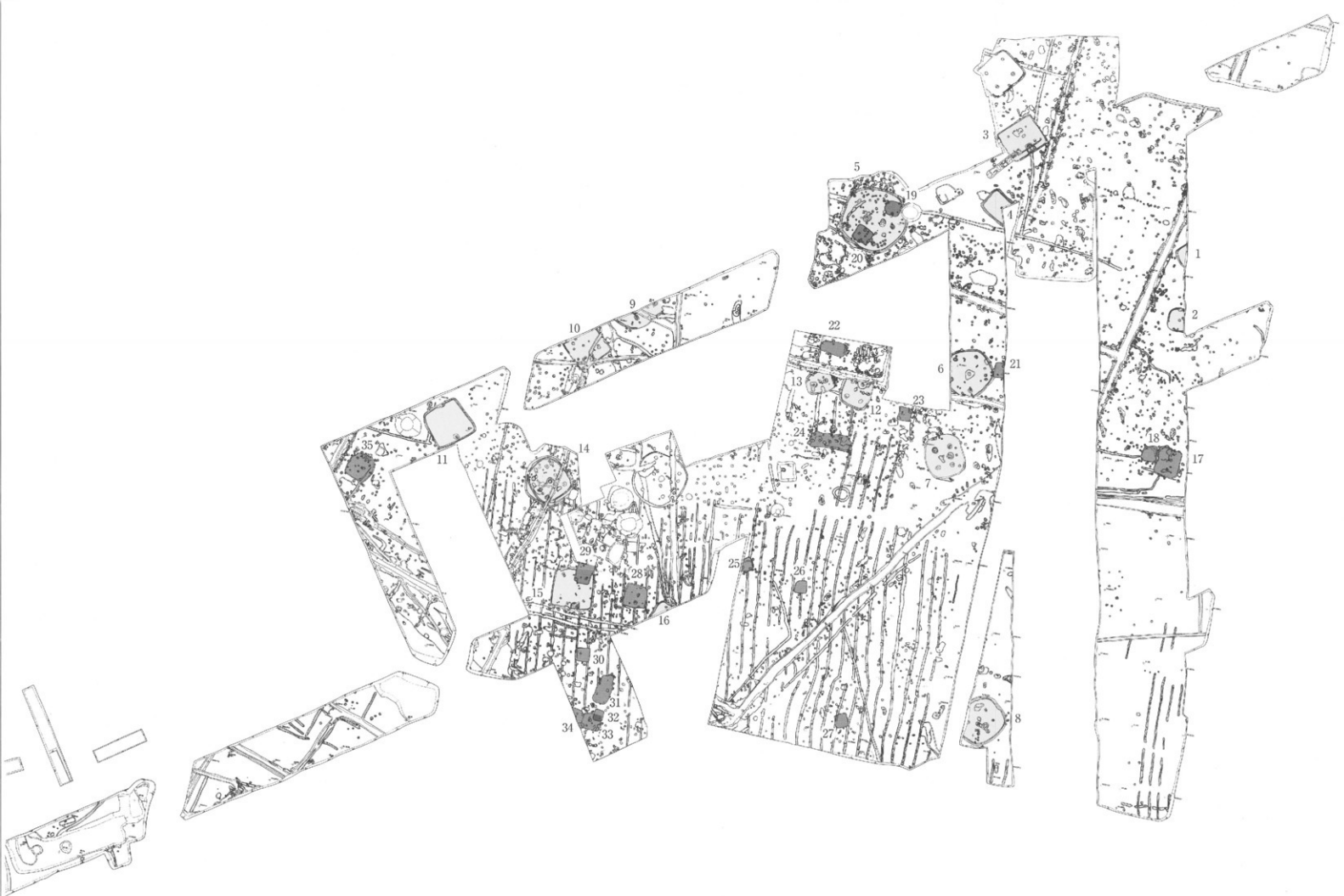
SH4

M区グリッドN-Q-37～39で確認した方墳である。方位はN14°Wで、南側と東側の周溝を確認した。古墳の規模は、墳丘が南北長約18.5m、東西長15.5m以上、周溝を含むと南北長27.5m、東西長20m以上を測る。東面の週溝の幅は約4.3～4.9m、墳丘面からの最深部135cmで、南面の週溝の幅は4.8～5.6m、墳丘面からの最深部約80cmを測る。また、北面は北東のコーナー部しか確認できていないが、墳丘面から浅くなる傾向にある。このことから、周溝は東側が最も深く掘られていたと想定される。なお、最も浅く掘られていた箇所は南面の西端部で、70cmであった。また、東側の周溝内からは供献用と思われる580の壺片が見つかった。周溝の覆土は下層で明青灰色のシルト質の

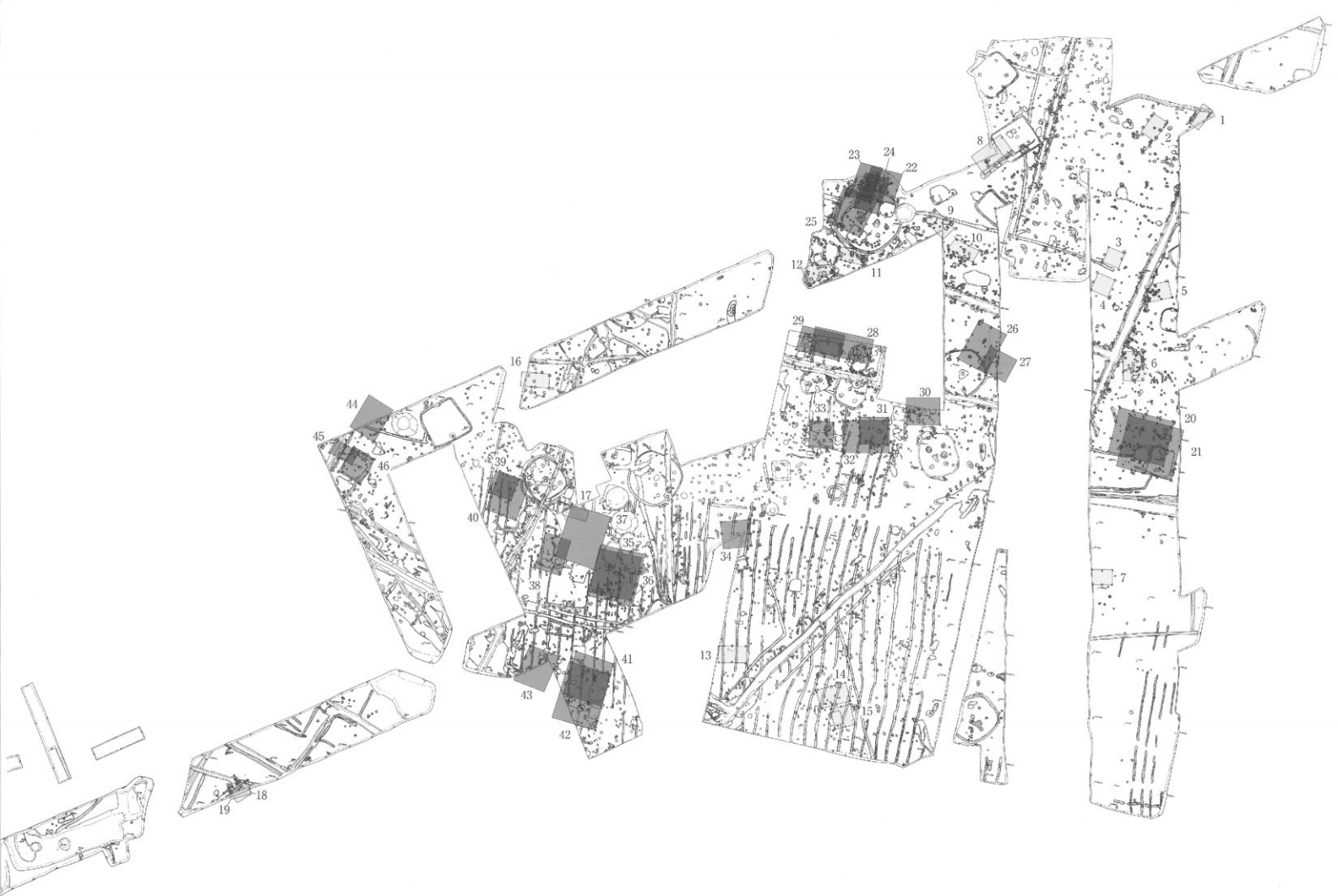
土が入るが、基本は粘性の強い黒色粘質土などを基本とした土がレンズ状に堆積する。主体部は確認できなかった。

SH5

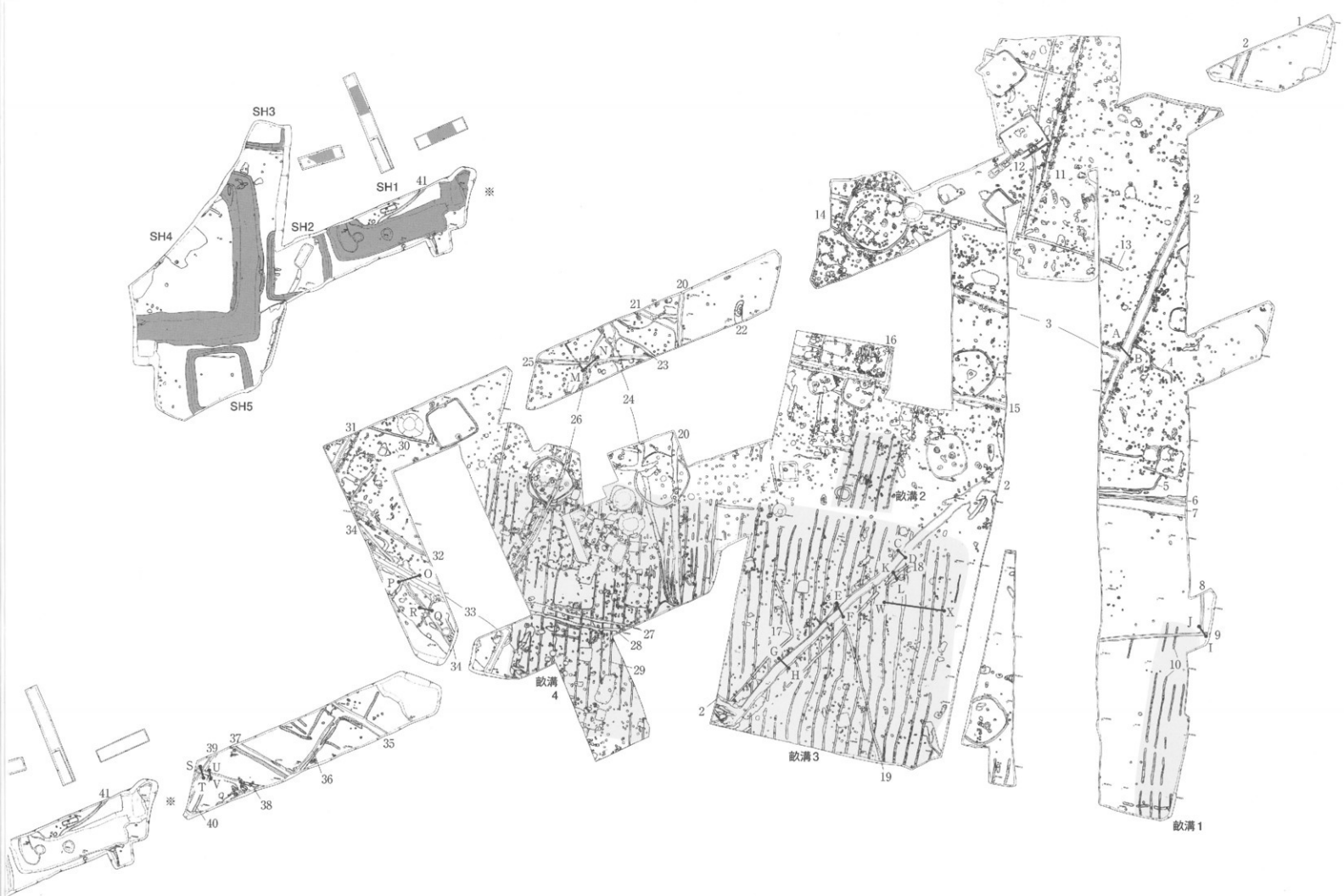
M区グリッドQ-37・38で確認した方墳である。方位はN15°Wで、SH4と同方位である。南側を除く東・北・西面で周溝を確認した。古墳の規模は、墳丘が南北約8m、東西約7.2mで、周溝を含むと南北約10.2m、東西約10.3mを測る。週溝の幅は北面が約60cm、東面が約140cm、西面が約160cmと、北面がSH4の周溝に規制されているためか、東西面よりも狭い。墳丘面からの最深部は約86cmの北東コーナー部であった。最も浅い箇所は南西コーナー部で52cmであった。周溝の堆積覆土は、黒色粘質土や暗灰褐色粘質土などで、粘性の強い土が多い。レンズ状に堆積しており、自然に埋まっていったようである。主体部は確認できなかった。



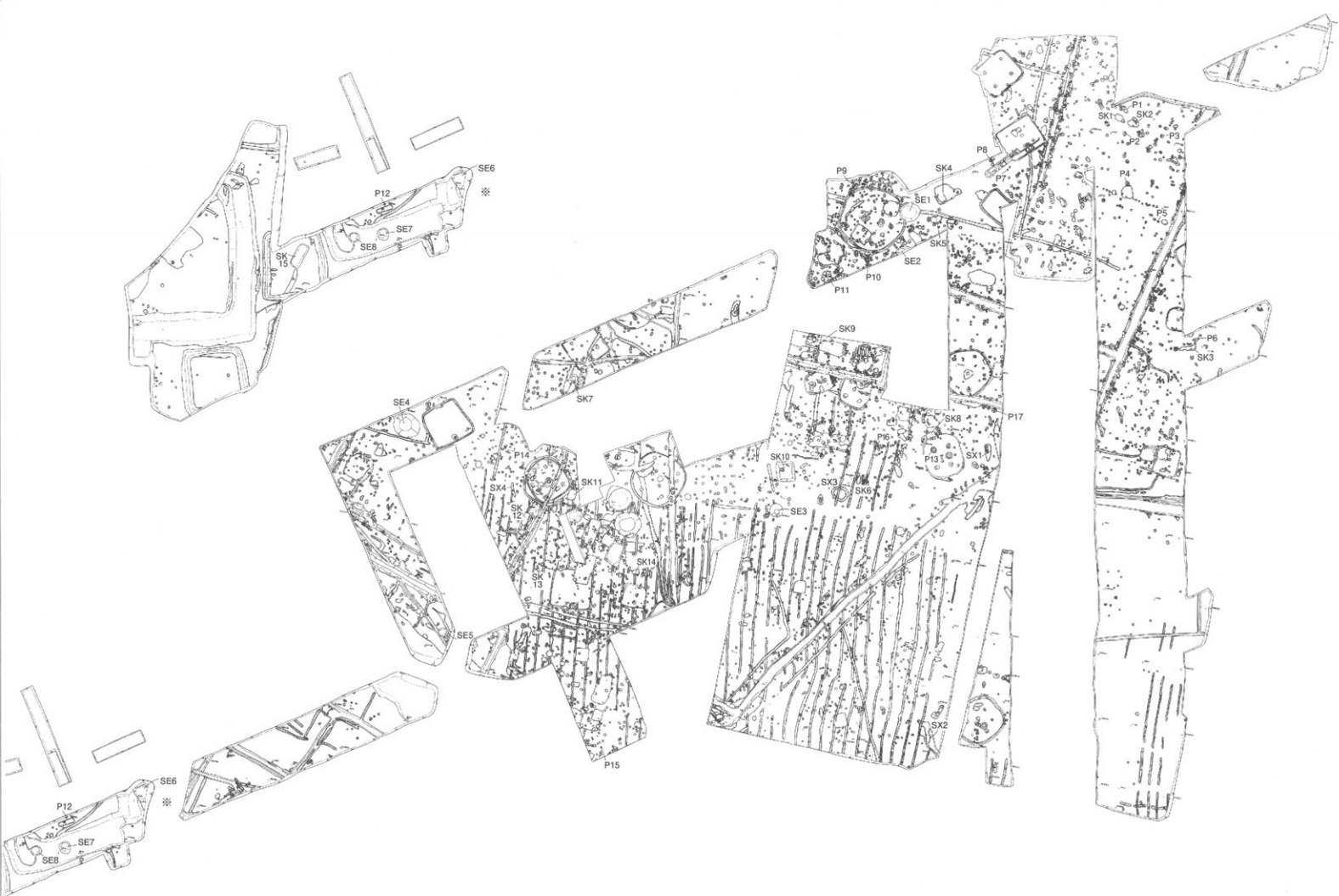
第7圖 SI位置圖(1~16 彌生・古墳時代□ 17~35 中世■)



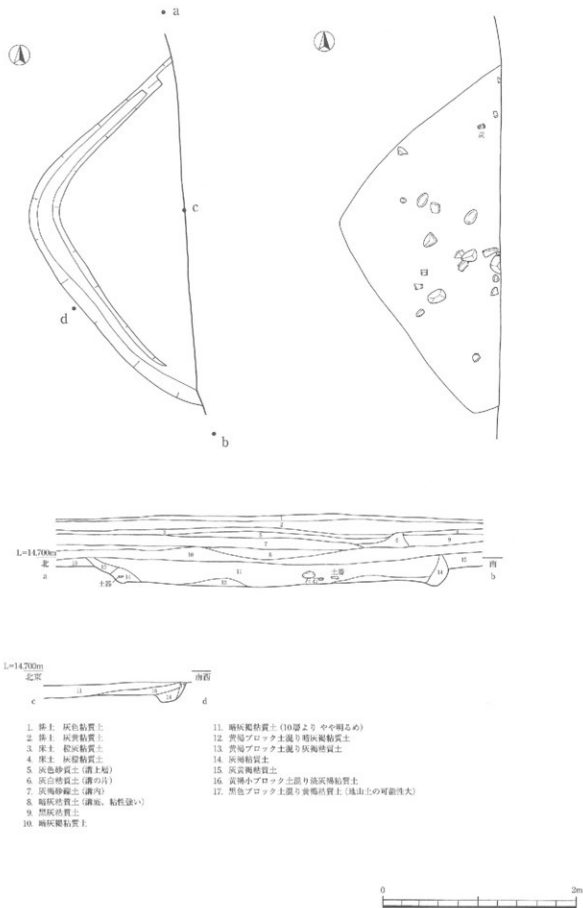
第8圖 SB位置圖(1~19 燕生·古墳時代□ 20~46 中世■)



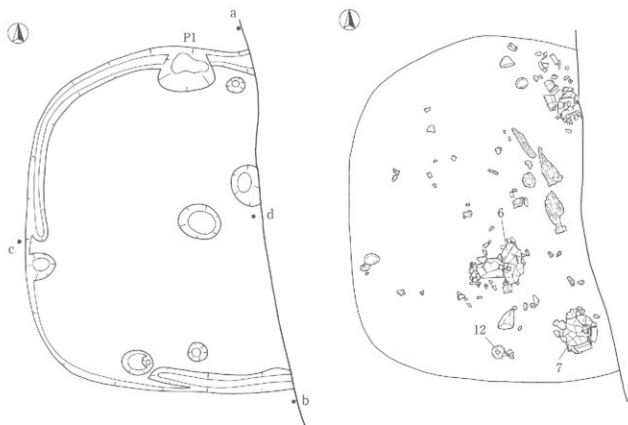
第9圖 溝・古墳位置圖 (S=1/500)



第10圖 SE、SK、P、SX位置圖



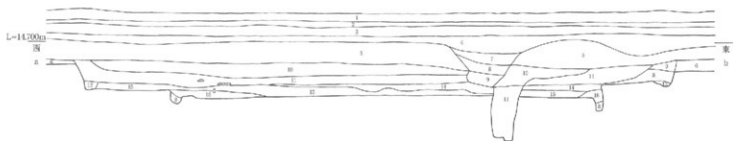
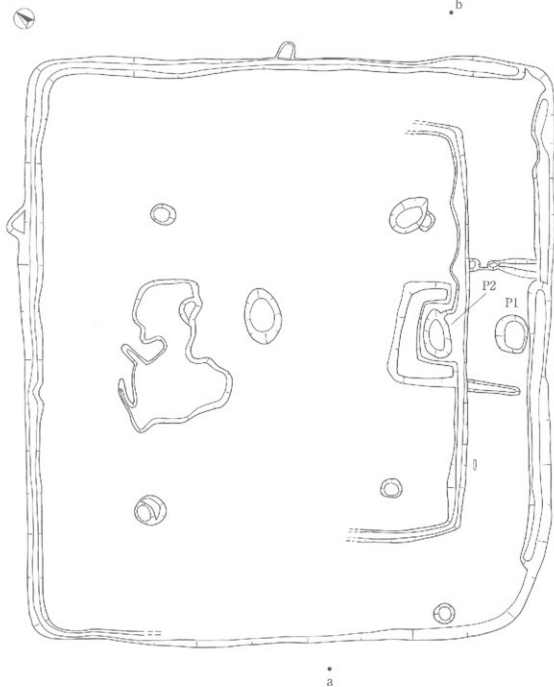
第11図 SII 遺構図・遺物出土状況図・土層断面図 (S=1/40)



- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1. 緑灰色粘質土 | 6. 包含物 灰青黒粘質土 |
| 2. 灰黒粘質土 | 7. 包含物 緑灰色粘質土 (1層よりやや締め) |
| 3. 黄褐色ブロック土混り暗灰黒粘質土 | 8. 床土 機懸土混り黒灰粘質土 |
| 4. 灰黒粘質土 | 9. 締土 灰色粘質土 |
| 5. 炭灰黒粘質土 | 10. 床土 機懸粘質土 |



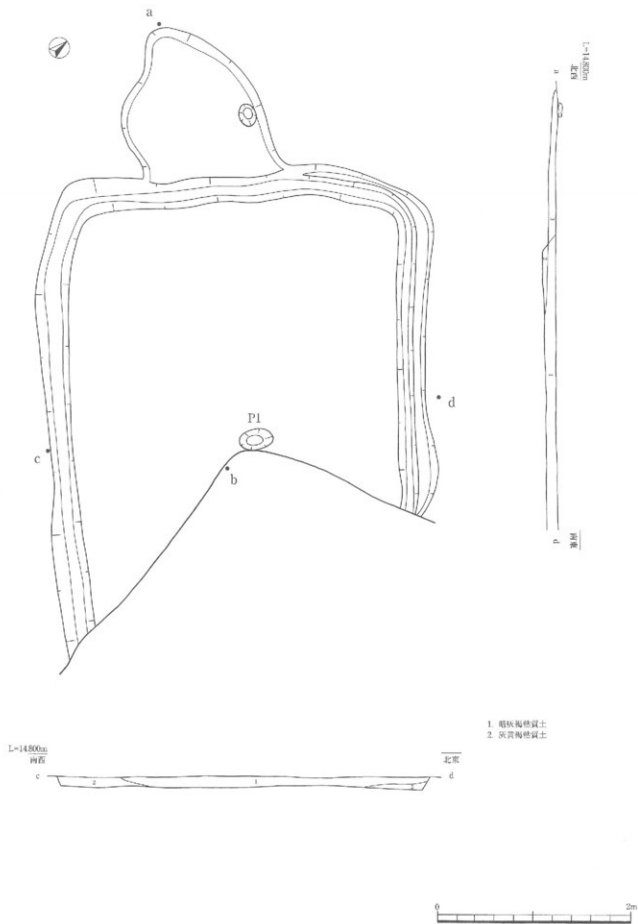
第12図 SI2 遺構図・遺物出土状況図・土層断面図 (S=1/40)



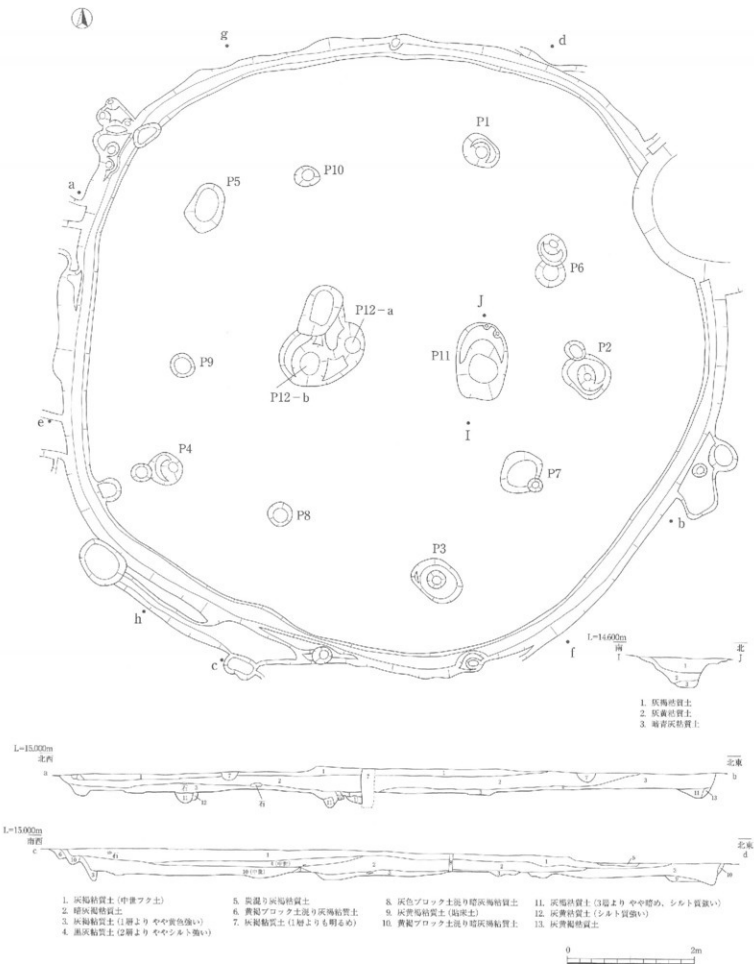
- | | | |
|-------------------------|-------------------------|----------------------------------|
| 1. 漆土 灰色粘質土 | 7. 焼灰粘質土 | 13. 漆灰粘質土 (粘性強い) |
| 2. 灰土 焼灰粘質土 | 8. 灰層粘質土 | 14. 漆灰 焼灰層ブロック土混り黄褐色粘質土 |
| 3. 白練土 灰色粘質土 (土層よりやや硬め) | 9. 黄褐色ブロック土混り焼灰層粘質土 | 15. 漆灰 黄褐色ブロック土混り焼灰層粘質土 (シルト質強い) |
| 4. 灰層粘質土 (灰分含む) | 10. 灰黄褐色粘質土 (シルト質強い) | 16. 焼灰層粘質土 |
| 5. 包合層 黄褐色粘質土 | 11. 焼灰層粘質土 (5層よりシルト質強い) | |
| 6. 包合層 黄褐色粘質土混り焼灰層粘質土 | 12. 灰層粘質土 (5層よりシルト質強い) | |



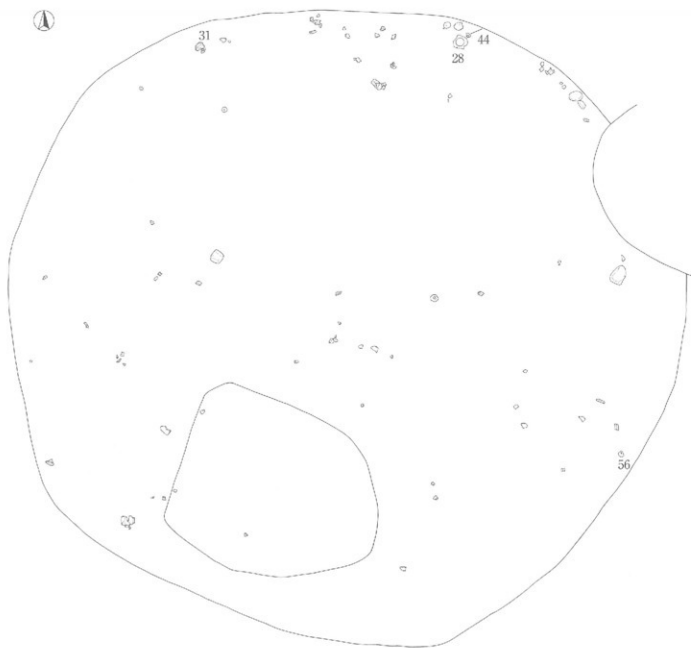
第13図 S13 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



第14図 S14 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



第15図 SI5 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



L=15000
北西



L=15000
北



0 2m

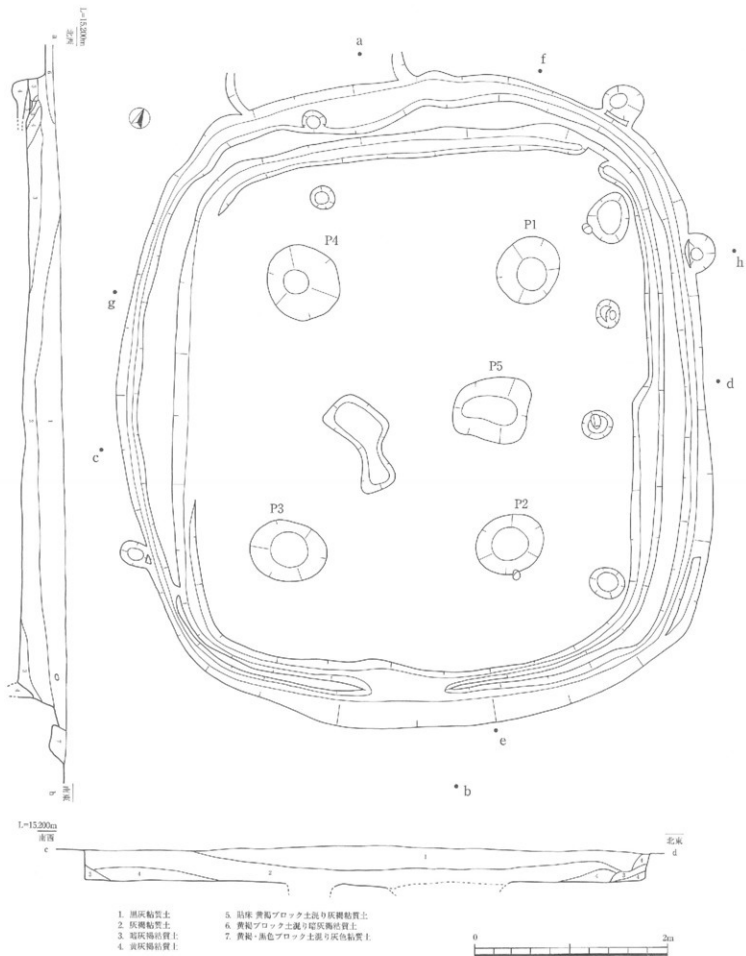
第16图 SI5 遺物出土状況図・断面図 (S=1/60)



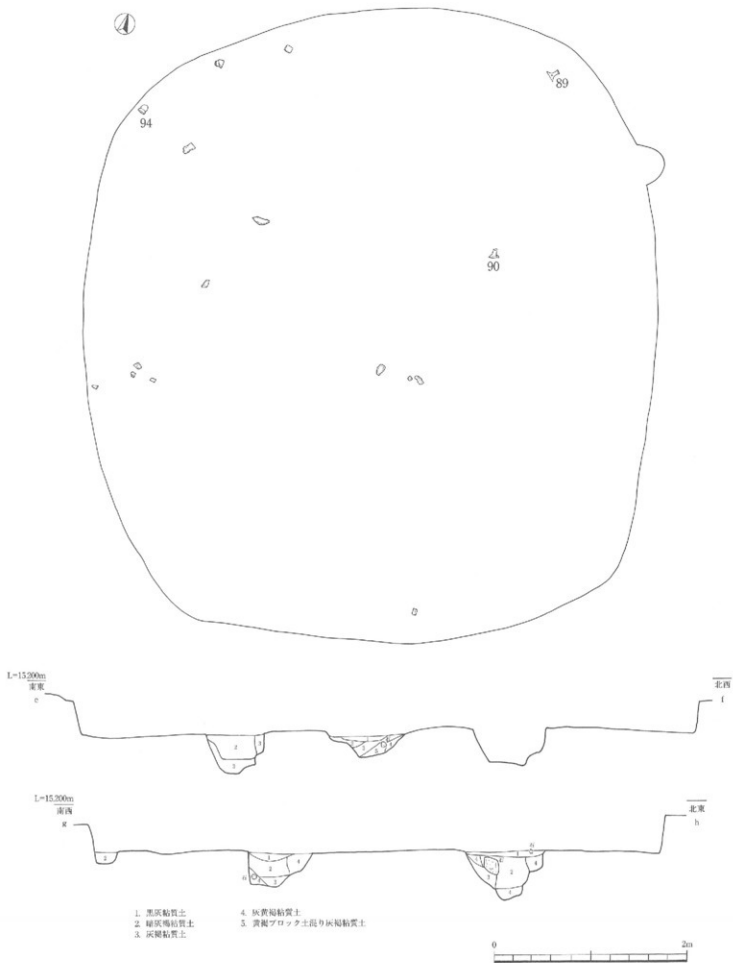
第17图 SI6 遺構図 (S=1/40)



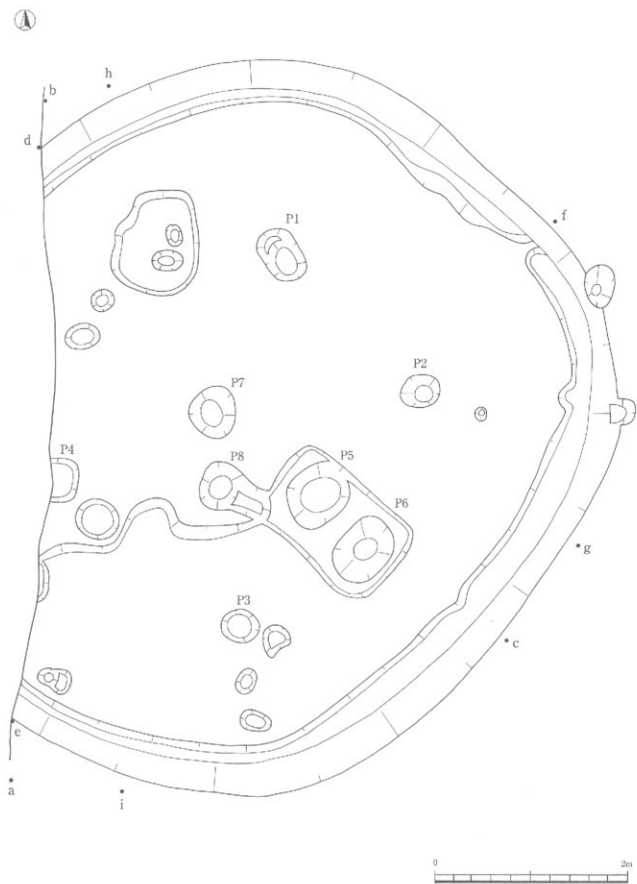
第18図 SI6 遺物出土状況図・土層断面図 (S=1/60)



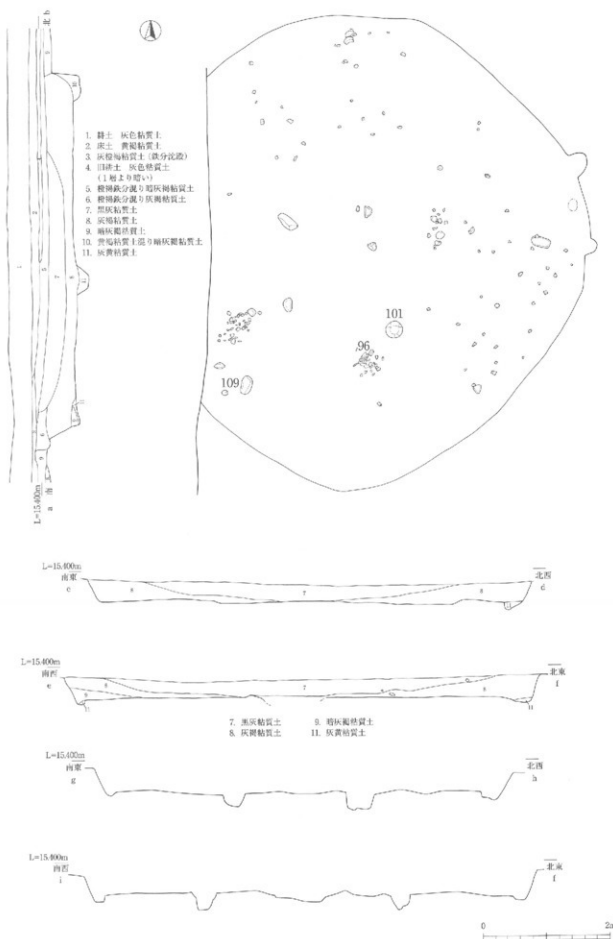
第19図 SI7 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



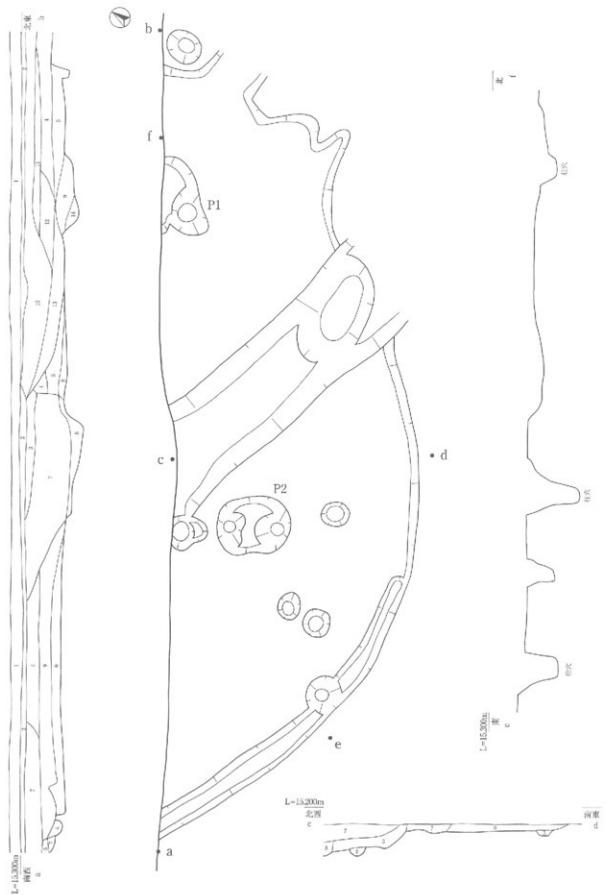
第20図 SI7 遺物出土状況図・土層断面図 (S=1/40)



第21圖 SI8 遺構圖 (S=1/40)



第22圖 SI8 遺物出土狀況圖・土層断面圖 (S=1/60)

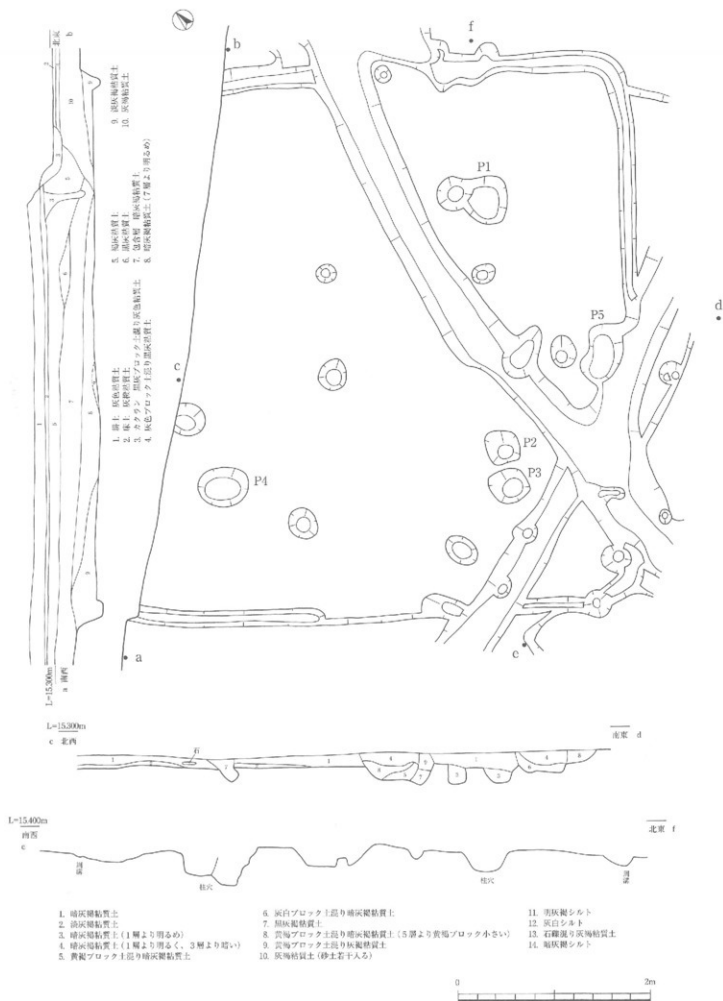


1. 埴土 灰色粘質土
2. 灰色アコック土盛り黒灰粘質土
3. 黒灰粘質土
4. 黒灰粘質土
5. 埴土黒粘質土

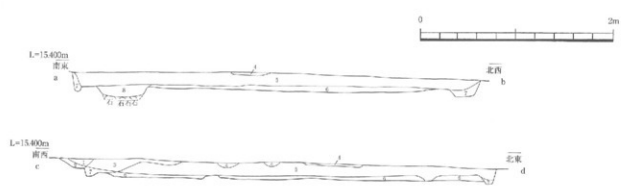
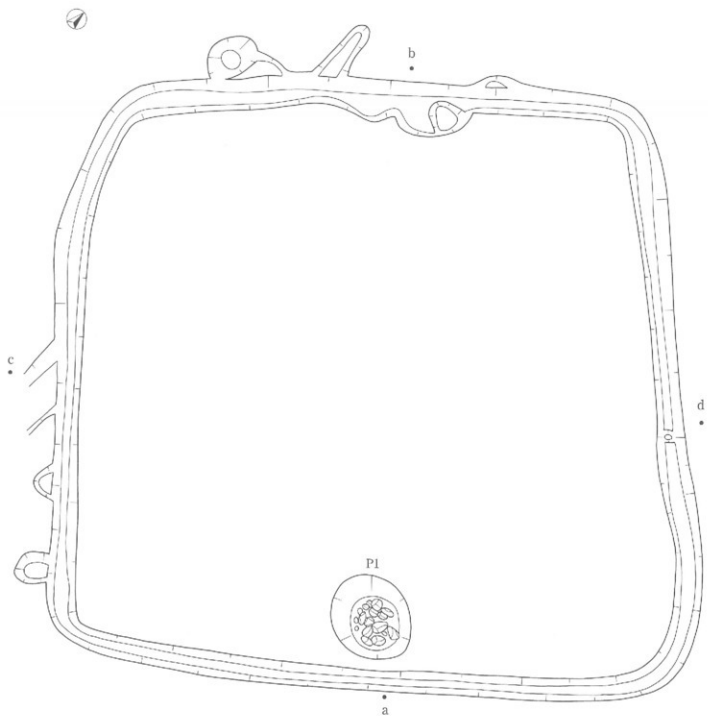
6. 淡灰黒粘質土
7. 灰褐色粘質土
8. 黄褐色アコック土盛り黒灰粘質土
9. 黒灰粘質土
10. 灰褐色粘質土

11. 灰褐色粘土
12. 灰褐色粘土
13. 灰白粘質土
14. 淡灰粘質土

第23図 S19 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



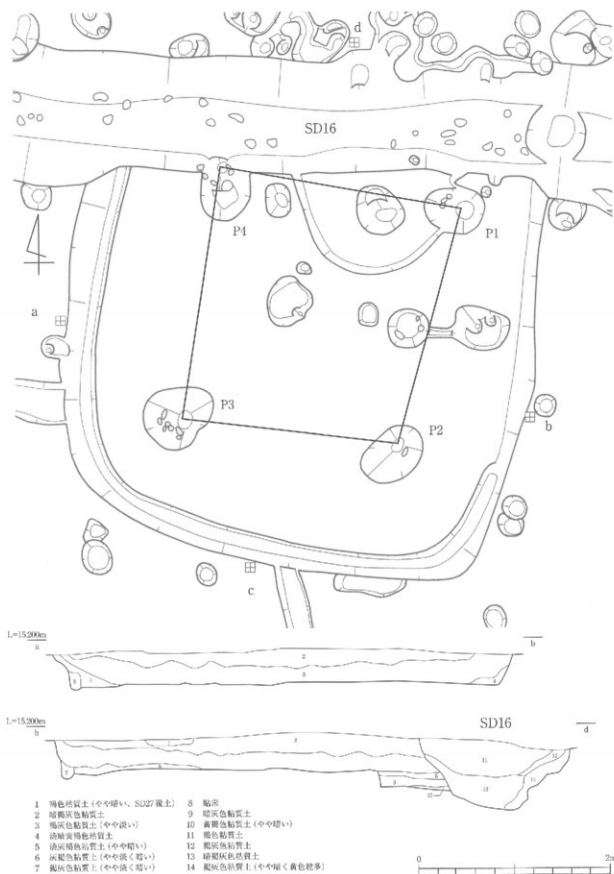
第24図 SI10 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



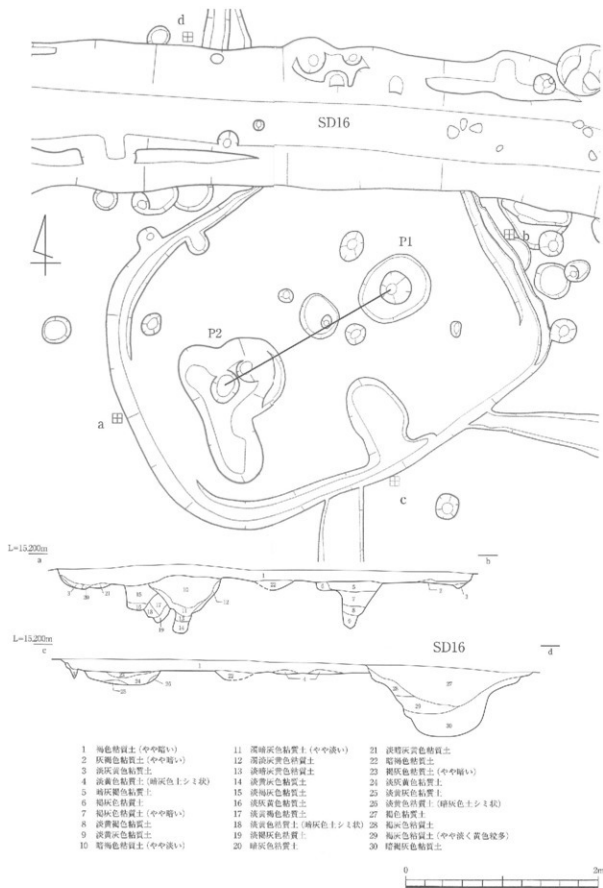
- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 灰層粘質土 | 5. 層灰層粘質土 |
| 2. 礫層ブロック土混り灰層粘質土 | 6. 灰質粘質土 (東面中) |
| 3. 礫層粘質土 | 7. 流石層粘質土 |
| 4. 灰層粘質土 (1層より薄い) | 8. 黒泥粘質土 |



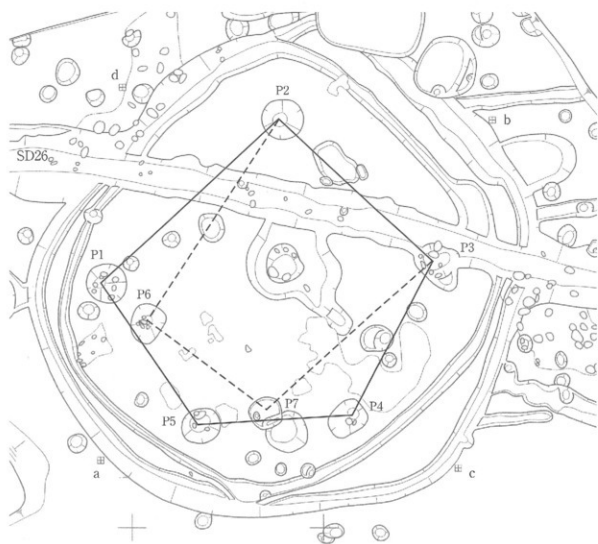
第25図 SI11 遺構図 (S=1/40)・土層断面図 (S=1/60)



第26図 SI12 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



第27図 S113 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



第28図 SI14・SX4 遺構図 (S=1/60)

SI14

L=15,000m
3

SD26



- 1 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 2 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 3 褐色粘質土 (褐色土層-7.5%)
- 4 褐色粘質土
- 5 褐色粘質土
- 6 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 7 褐色粘質土
- 8 褐色粘質土
- 9 褐色粘質土
- 10 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 11 褐色粘質土
- 12 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 13 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 14 褐色粘質土
- 15 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 16 褐色粘質土
- 17 褐色粘質土
- 18 褐色粘質土
- 19 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 20 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 21 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 22 褐色粘質土 (含少量鉄)

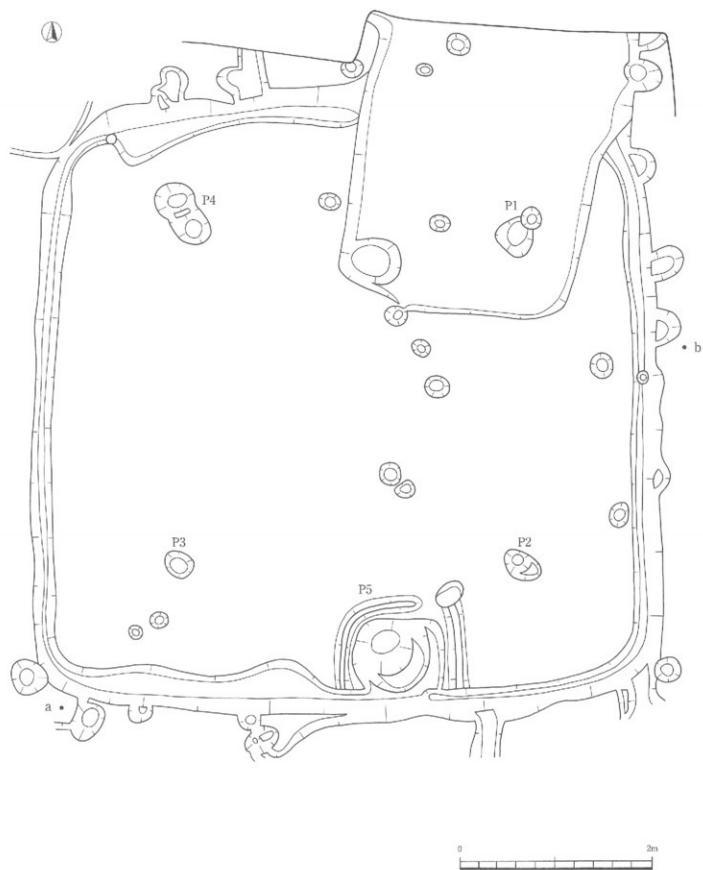
L=10,200m
c

- 1 褐色粘質土
- 2 褐色粘質土
- 3 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 4 褐色粘質土
- 5 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 6 褐色粘質土
- 7 褐色粘質土
- 8 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 9 褐色粘質土
- 10 褐色粘質土
- 11 褐色粘質土
- 12 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 13 褐色粘質土
- 14 褐色粘質土
- 15 褐色粘質土
- 16 褐色粘質土
- 17 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 18 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 19 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 20 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 21 褐色粘質土
- 22 褐色粘質土
- 23 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 24 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 25 褐色粘質土
- 26 褐色粘質土 (含少量鉄)
- 27 褐色粘質土

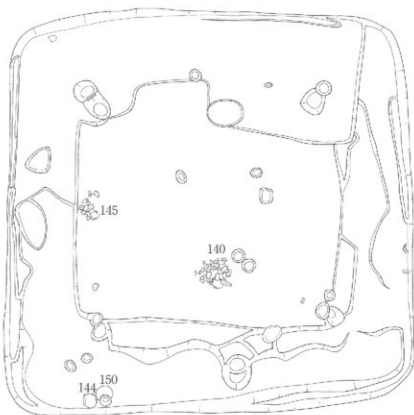
SX4

L=5,000m
e

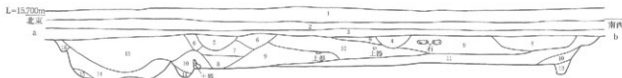
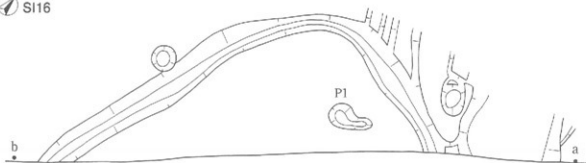
第29図 SI14・SX4 土層断面図 (S=1/40)



第30図 S115 遺構図 (S=1/40)



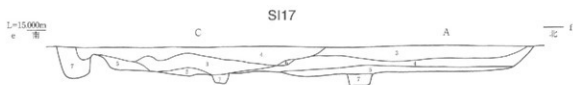
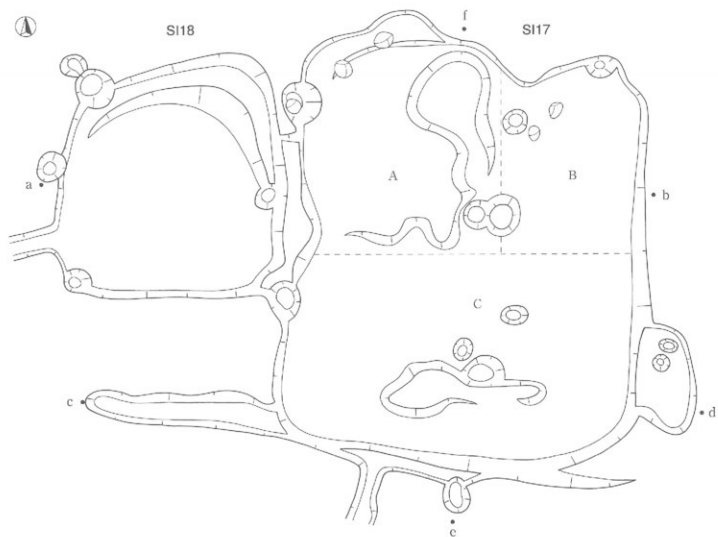
- | | | |
|--------------|----------|----------------------------|
| 1. 耕土 灰色粘質土 | 5. 黒色粘質土 | 9. 灰層粘質土 |
| 2. 床土 黄灰粘質土 | 6. 黒粘質土 | 10. 黒物ブロック土混り灰層粘質土 |
| 3. 瓦倉層 黄灰粘質土 | 7. 暗灰粘質土 | 11. 黄物ブロック土混り黒灰粘質土 (中世ワタ土) |
| 4. 黒灰粘質土 | 8. 灰黄粘質土 | |



- | | | | |
|----------------------|------------------|-----------|--------------------|
| 1. 耕土 黄灰粘質土 | 5. 黒灰粘質土 | 9. 暗灰粘質土 | 13. 黒灰粘質土 |
| 2. 床土 灰黄粘質土 | 6. 淡灰粘質土 | 10. 灰黄粘質土 | 14. 灰黄粘質土 |
| 3. 灰層粘質土 | 7. 緑灰ブロック土混り灰粘質土 | 11. 暗粘質土 | 15. 黄物ブロック土混り黒灰粘質土 |
| 4. 黄物・灰色ブロック土混り暗灰粘質土 | 8. 灰白粘質土 | 12. 淡灰粘質土 | 16. 黄物ブロック土混り暗灰粘質土 |



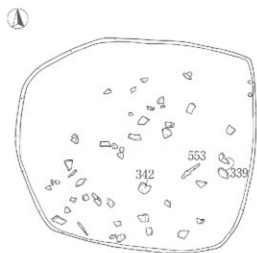
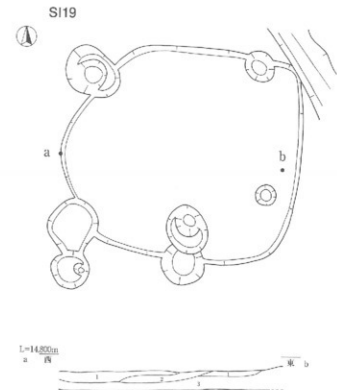
第31図 SI15 遺物出土状況図・土層断面図 (S=1/60)、SI16 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



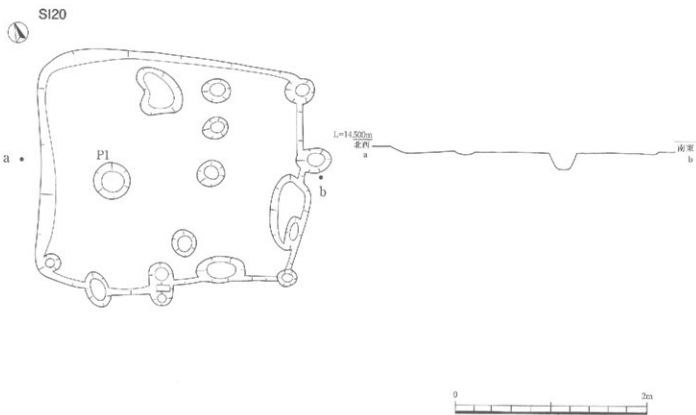
- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1. 凝灰粘質土 | 5. 黄緑ブロック土盛り埋戻し粘質土 (図16) |
| 2. 黄褐ブロック土盛り凝灰粘質土 | 6. 黄緑粘質土 |
| 3. 黄褐ブロック土盛り灰褐粘質土 | 7. 緑灰粘質土 |
| 4. 灰褐粘質土 | |



第32図 SI17、18 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

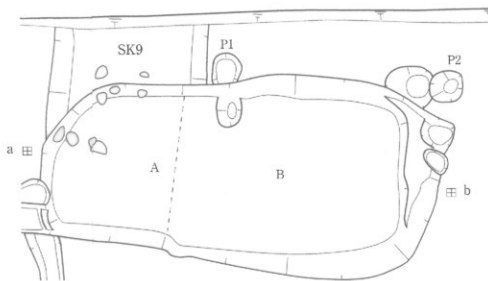


1. 安曇り期灰燼層土 (中世フタ土)
2. 安曇り期前段灰燼層土 (中世フタ土)
3. 灰燼粘質土 (新中世フタ土)



第33図 SI19、20 遺構図・遺物出土状況図・土層断面図 (S=1/40)

SI22

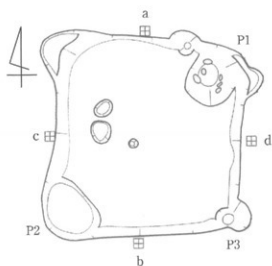


L=15,100cm



- 1 褐色粘質土(ビツト)
- 2 暗褐色粘質土(黄色腔中)
- 3 暗灰色粘質土(黄色ブロック中)
- 4 暗灰色粘質土(断崖状)
- 5 暗灰色粘質土(黄色ブロック多)
- 6 暗灰色粘質土(やや暗く黄色腔少)
- 7 黒色粘質土(黄色腔少)
- 8 灰褐色粘質土(やや暗く黄色腔まだら)

SI23



L=13,200cm



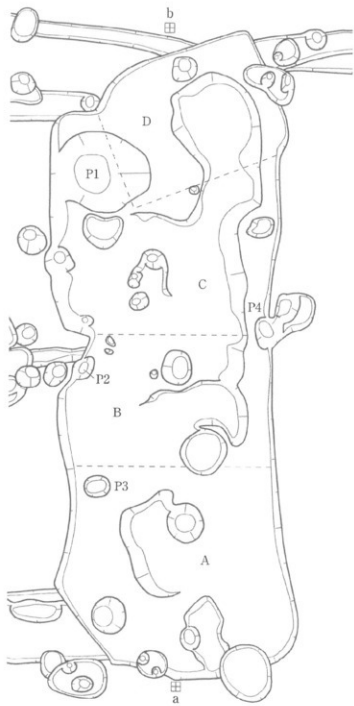
L=15,200cm



- 1 褐色粘質土(やや暗い)
- 2 暗褐色粘質土(灰色土マーブル状)
- 3 暗灰色粘質土(黄色腔中)
- 4 暗褐色粘質土
- 5 暗褐色粘質土(黄色土マーブル状)
- 6 灰黄色粘質土(暗灰色凝状)
- 7 陶灰色粘質土(やや暗く)
- 8 淡黄色粘質土(暗灰色土塊状)
- 9 暗灰色粘質土(黄色腔マーブル状)
- 10 暗褐色粘質土(黄色腔中)
- 11 淡黄色粘質土(龜山質)
- 12 淡黄色粘質土(龜山質)
- 13 暗灰色粘質土
- 14 淡黄色粘質土(龜山質)
- 15 陶灰色粘質土(黄色腔中)
- 16 暗灰色粘質土(黄色腔マーブル状)
- 17 暗灰色粘質土(黄色腔マーブル状)
- 18 淡黄色粘質土(灰色土塊状)



第34図 SI22、23 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



L=13.30m



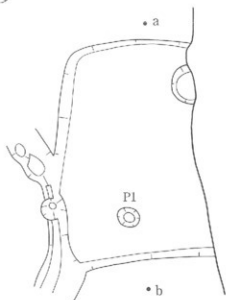
- 14 褐色色粘質土 (褐色土まだら)
- 15 褐色色粘質土
- 16 褐色色粘質土 (やや細く、褐色色中)
- 17 褐色色粘質土
- 18 褐色色粘質土 (褐色土ニヤープル状)
- 19 褐色色粘質土
- 20 褐色色粘質土 (褐色土ニヤープル状)
- 21 褐色色粘質土 (褐色土ニヤープル状)
- 22 褐色色粘質土
- 23 褐色色粘質土
- 24 褐色色粘質土
- 25 褐色色粘質土 (褐色プロック)

- 1 褐色色粘質土 (やや濃い)
- 2 褐色色粘質土 (褐色中)
- 3 褐色色粘質土 (褐色粘中)
- 4 褐色色粘質土
- 5 褐色色粘質土
- 6 褐色色粘質土 (褐色粘少)
- 7 褐色色粘質土 (褐色プロック)
- 8 褐色色粘質土 (褐色粘状)
- 9 褐色色粘質土
- 10 褐色色粘質土
- 11 褐色色粘質土 (褐色粘少)
- 12 褐色色粘質土 (褐色粘少)

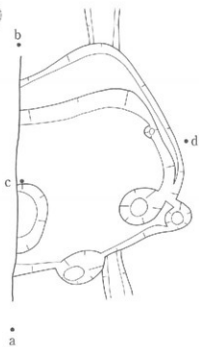


第35図 SI24 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

SI21



SI25

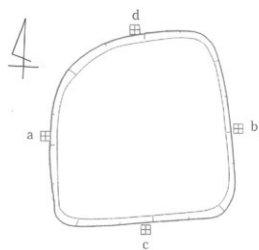


1. 礫土 灰色粘質土
2. 凍土 黄灰粘質土
3. 旧礫土 灰色粘質土
4. 実埋海積質土 (有機物沈殿)
5. 腐灰海積質土
6. 黒灰粘質土
7. 包合礫 黄褐色質土混り腐灰海積質土
8. 黄褐ブロック土混り黒灰粘質土



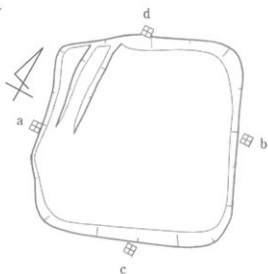
第36図 SI21、25 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

SI26



- 1 暗灰色粘質土
- 2 暗灰色粘質土(黄色砂)
- 3 褐色粘質土(黄色砂)
- 4 暗灰色粘質土(黄色砂)
- 5 暗灰色粘質土(黄色砂+マール状)
- 6 暗灰色粘質土
- 7 暗灰色粘質土

SI27

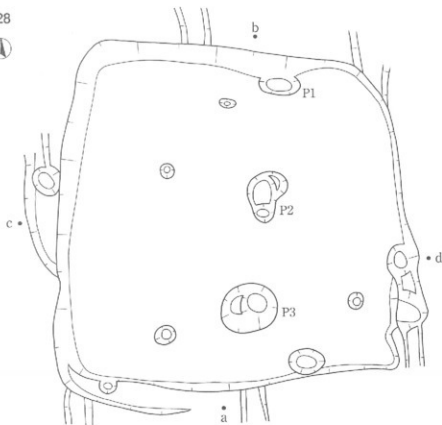


- 1 暗褐色粘質土
- 2 暗灰色粘質土(黄色土+まがら)
- 3 暗灰色粘質土
- 4 暗灰色粘質土(やや流し)
- 5 淡黄褐色粘質土

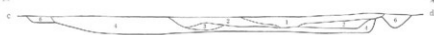


第37図 SI26、27 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

SI28

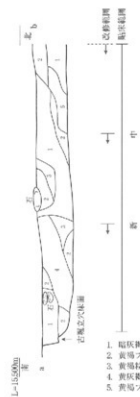
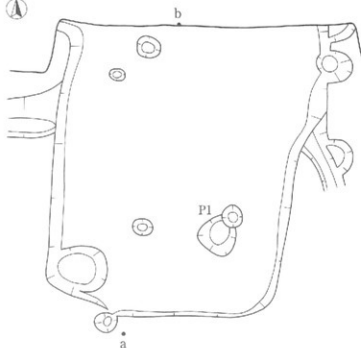


L=15.200m
P1



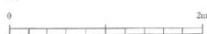
1. 黄褐色土盛り灰黒粘質土
2. 灰黒粘質土
3. 右側黄褐色ブロック土盛り灰黒粘質土
4. 黄褐色ブロック土盛り灰黒粘質土
5. 灰色粘質土
6. 緑灰色粘質土

SI29



L=15.200m
P1

1. 灰黒粘質土
2. 黄褐色ブロック土盛り暗灰褐色粘質土
3. 黄褐色土盛り暗灰褐色粘質土(褐色強い)
4. 黄褐色粘質土
5. 黄褐色ブロック土盛り灰黒粘質土

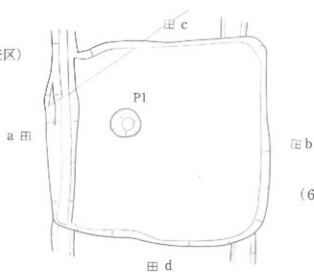


第38図 SI28、29 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

SI30



(1次調査区)



(6次調査区)

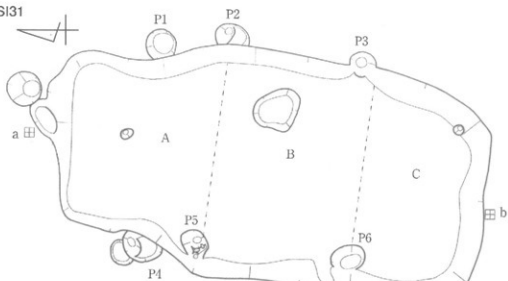
L=15,800m



L=15,800m



SI31



L=15,700m

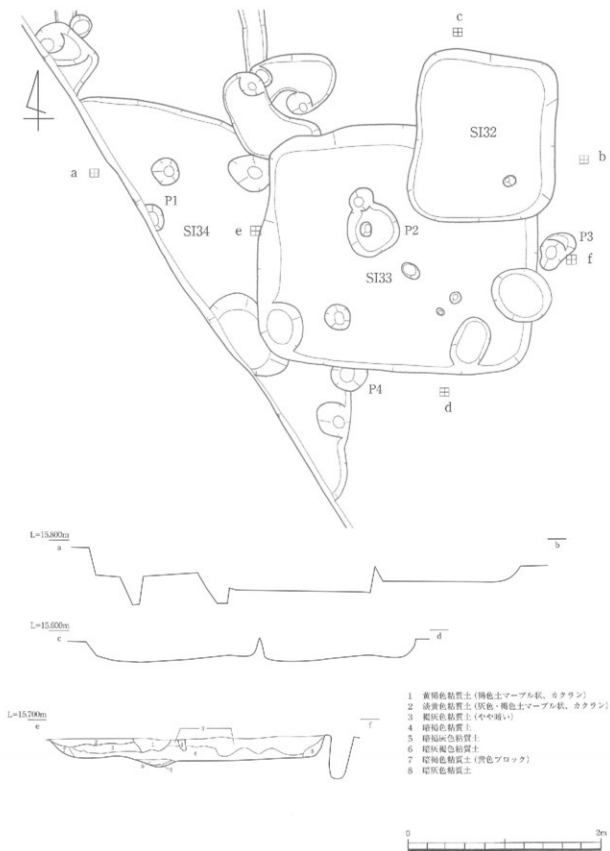


- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 褐色粘質土(やや暗い) | 8 灰褐色粘質土(やや暗い) |
| 2 褐色粘質土(黄色ブロッコ) | 9 褐色粘質土(やや暗い) |
| 3 灰褐色粘質土(黄色土部状) | 10 褐色粘質土(黄色土部状) |
| 4 褐色粘質土(やや暗い) | 11 灰褐色粘質土(やや暗い) |
| 5 灰褐色粘質土 | 12 暗褐色粘質土 |
| 6 褐色粘質土 | 13 褐色粘質土(黄色部中) |
| 7 灰褐色粘質土(やや暗い) | 14 灰褐色粘質土(やや暗い) |

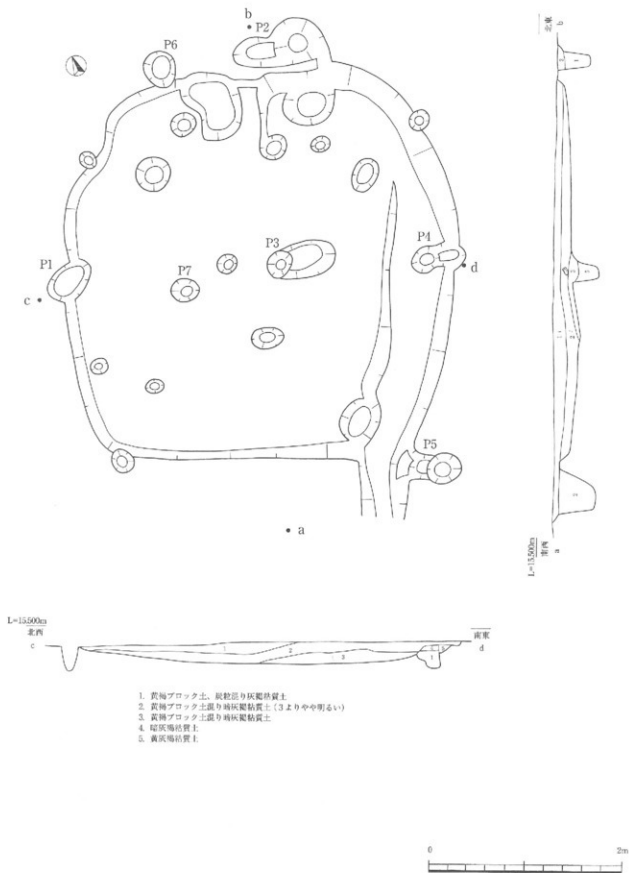


第39図 SI30、31 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

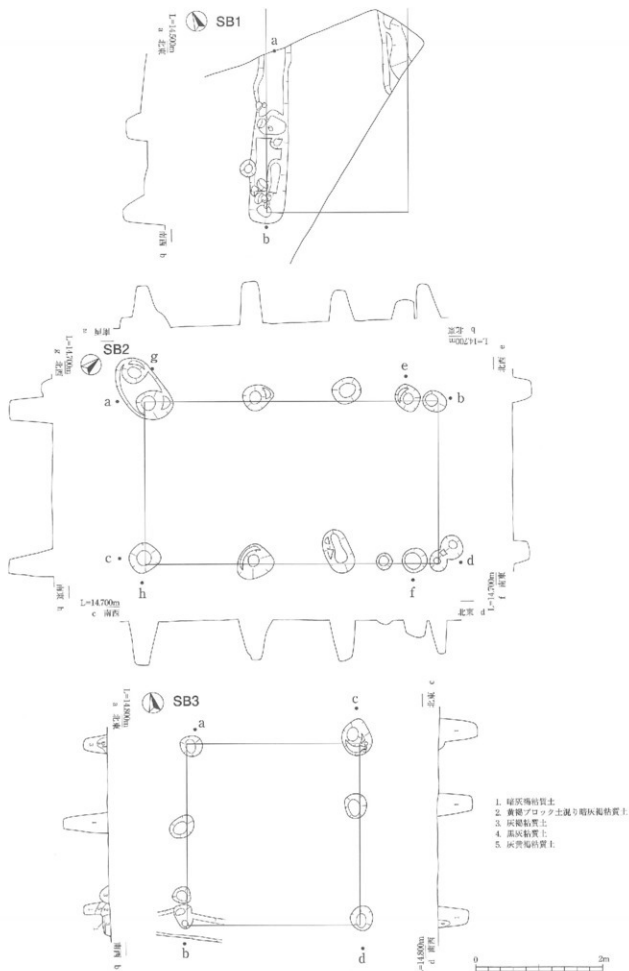
SI32 ~ 34



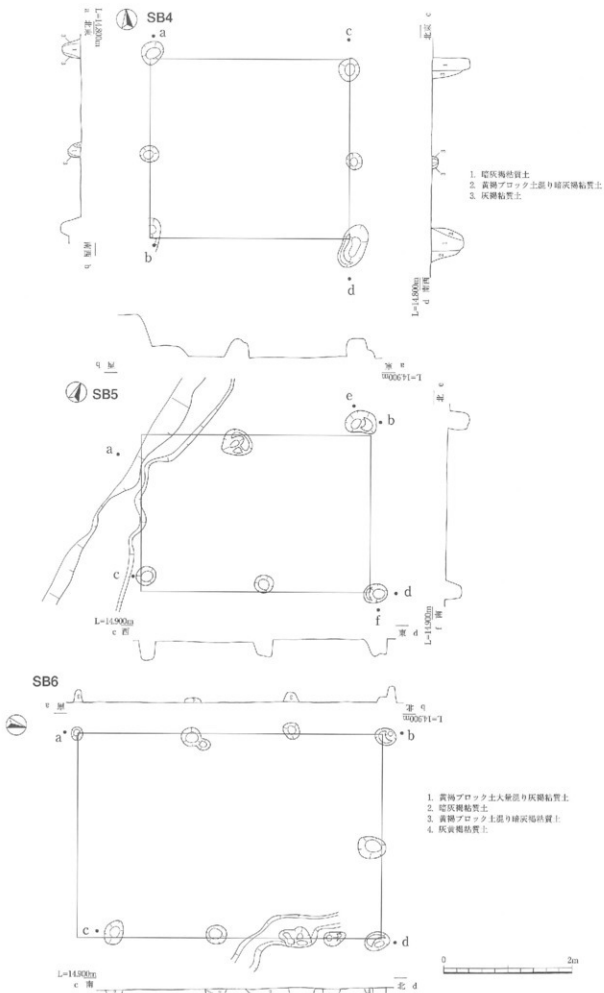
第40図 SI32 ~ 34 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



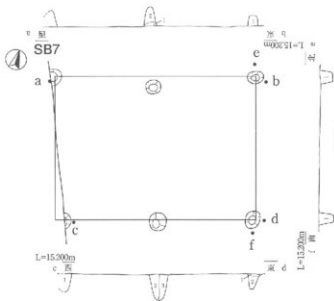
第41図 SI35 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



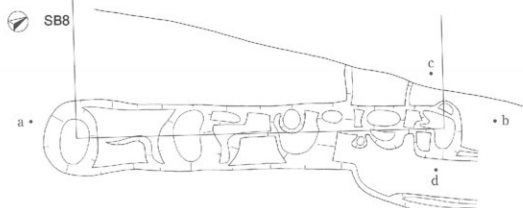
第42図 SB1~3 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



第43図 SB4~6 遺構図・土層断面図 (S=1/60)

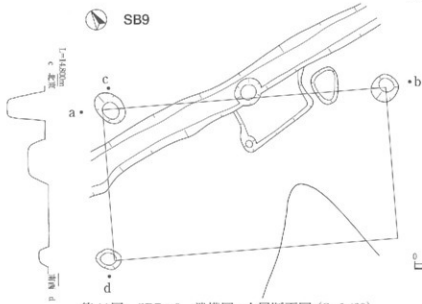


1. 硝灰陶粘質土
2. 黄褐色ブロック土(小) 混り硝灰陶粘質土(ブロック径2-3cm)
3. 黄褐色ブロック土(大) 混り硝灰陶粘質土(ブロック径5cm前後)

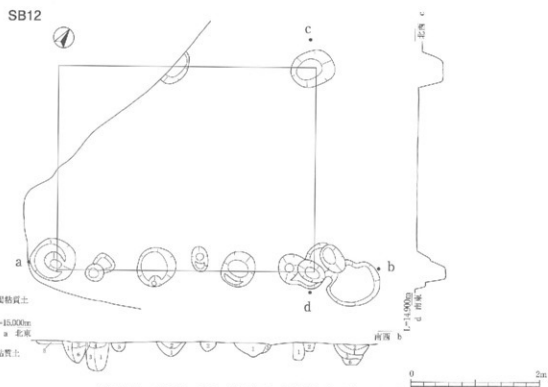
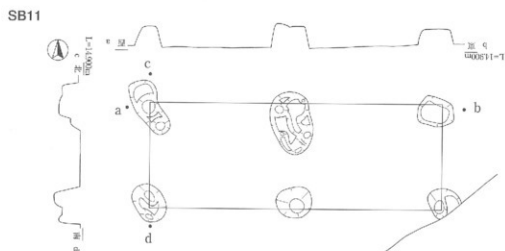
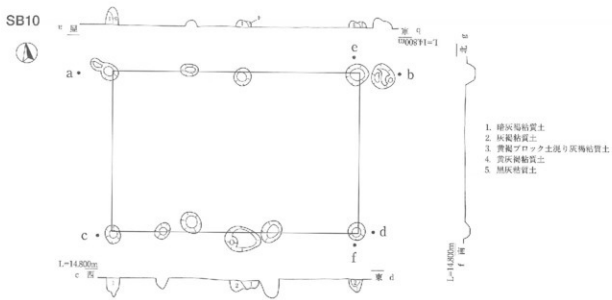


北東 b

1. 黄褐色・灰色ブロック土混り灰陶粘質土
2. 灰陶粘質土
3. 黄褐色粘質土
4. 黄褐色ブロック土混り硝灰陶粘質土
5. 硝灰陶粘質土(シルト質強い)
6. 硝灰陶粘質土混り黄褐色粘質土
7. 灰陶粘質土
8. 黄褐色粘質土
9. 灰色ブロック土混り灰陶粘質土
10. 灰陶粘質土
11. 灰褐色粘質土
12. 黄褐色ブロック土混り灰陶粘質土
13. 黄褐色ブロック土大量混り硝灰陶粘質土

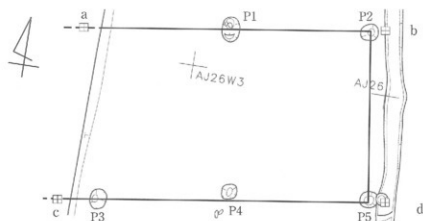


第44図 SB7~9 遺構図・土層断面図 (S=1/60)

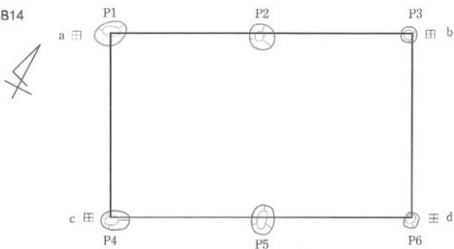


第45図 SB10~12 遺構図・土層断面図 (S=1/60)

SB13

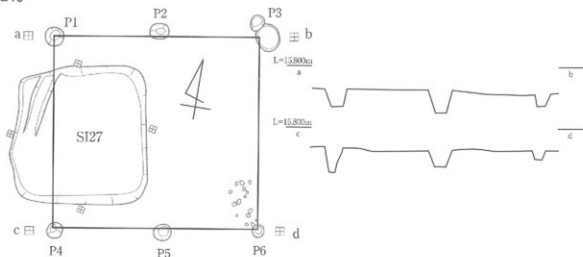


SB14

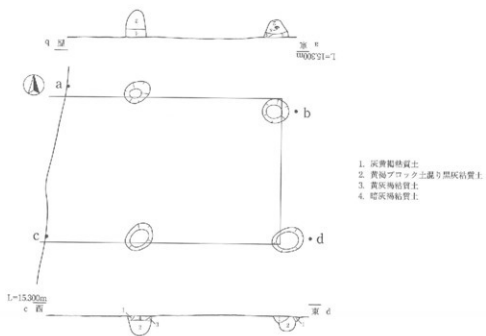


第46図 SB13、14 遺構図・土層断面図 (S=1/60)

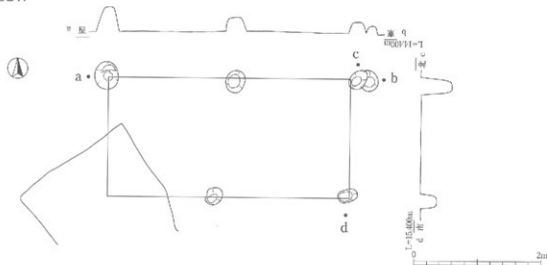
SB15



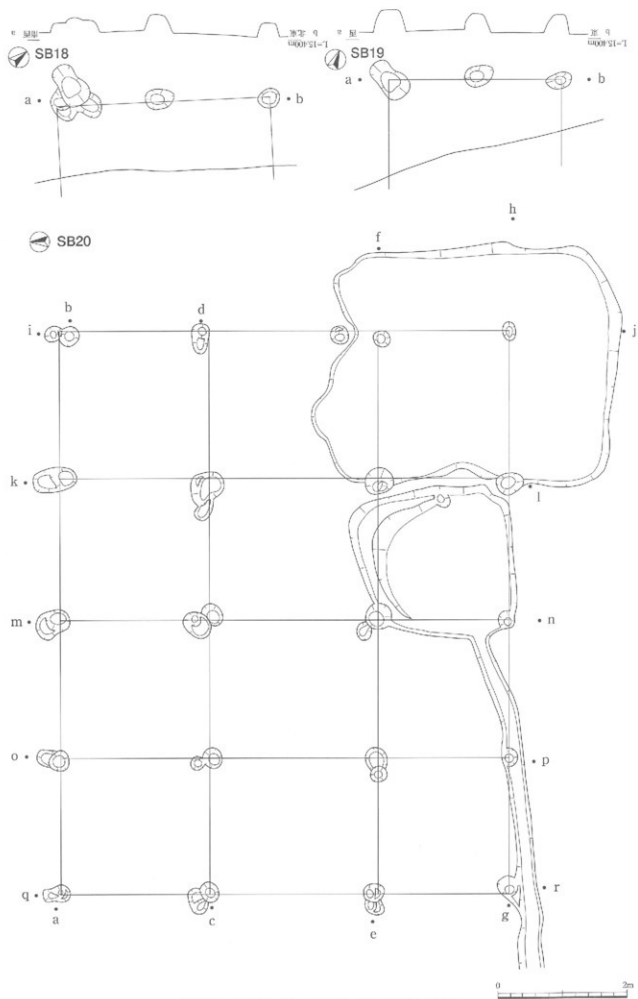
SB16



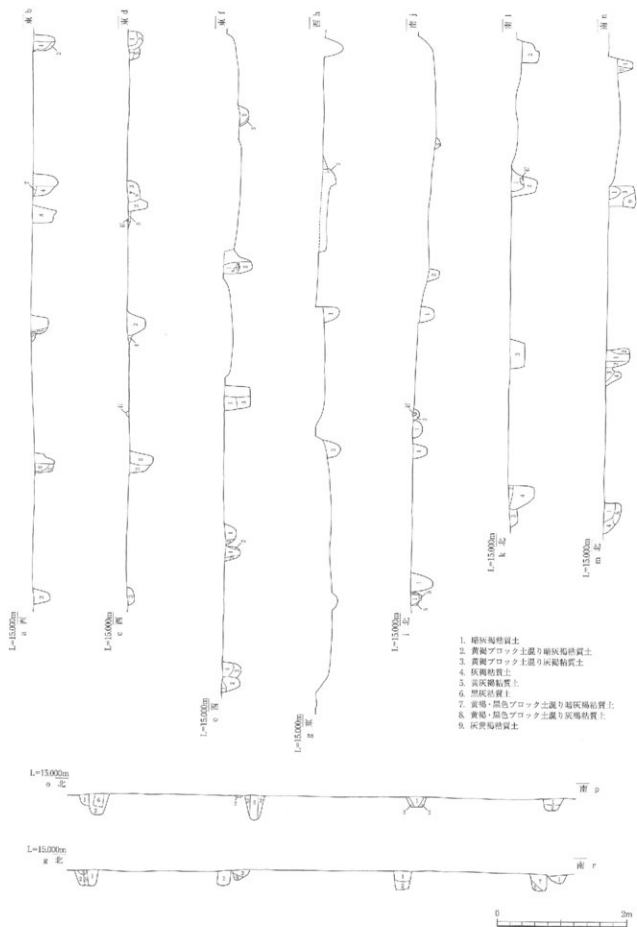
SB17



第47図 SB15~17 遺構図・土層断面図 (S=1/60)

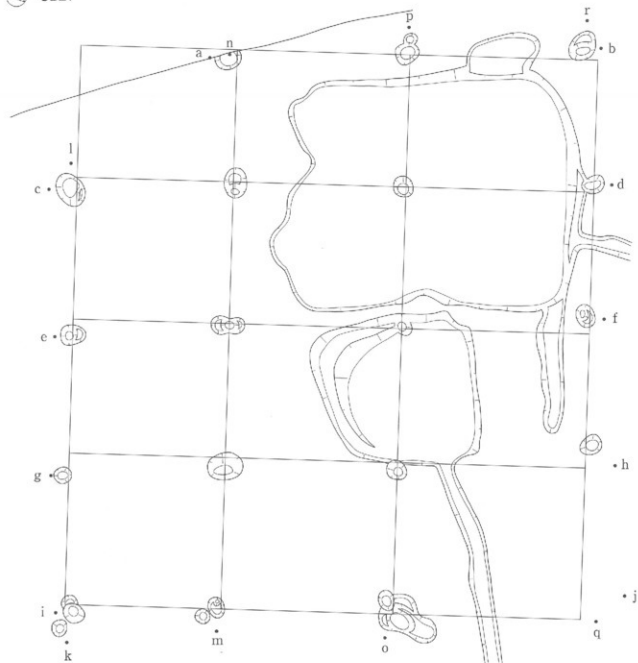


第48図 SB18~20 遺構図・断面図 (S=1/60)



第49図 SB20 土層断面図 (S=1/60)

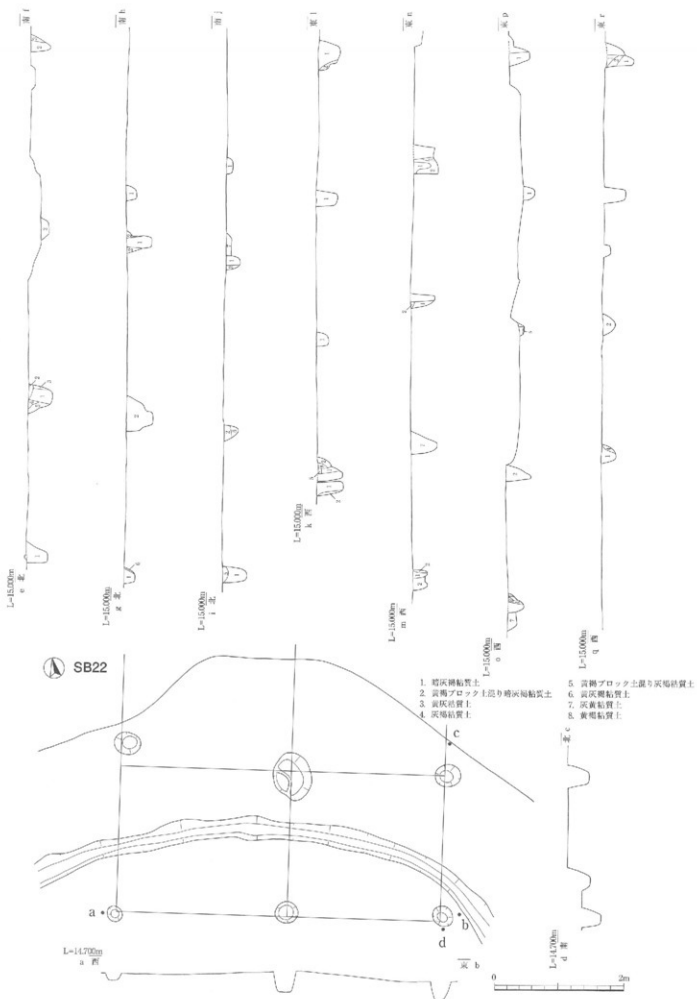
SB21



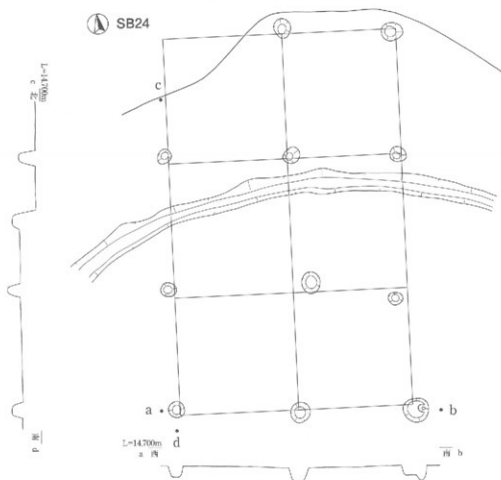
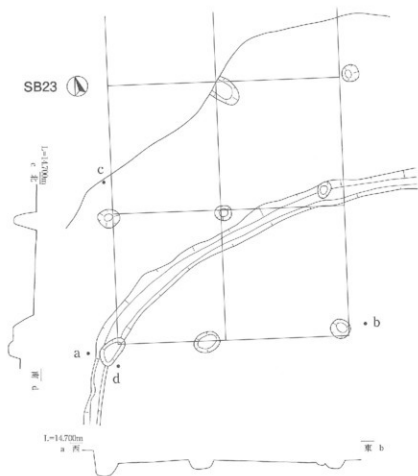
1. 海浜礫質土
2. 黄緑ブロック土盛り区間礫質土
3. 黄緑ブロック土盛り区間粘質土



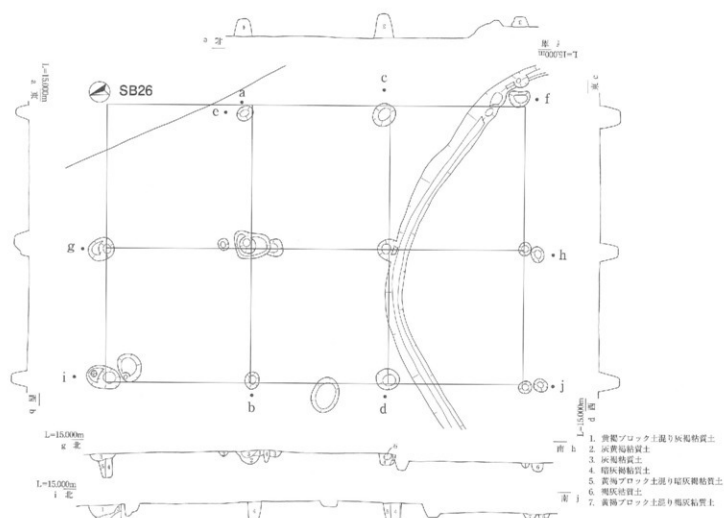
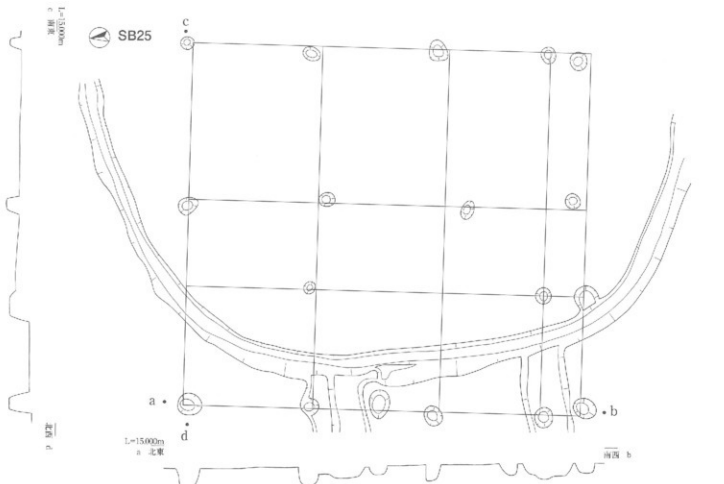
第50図 SB21 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



第51図 SB21 土層断面図、SB22 遺構図・断面図 (S=1/60)

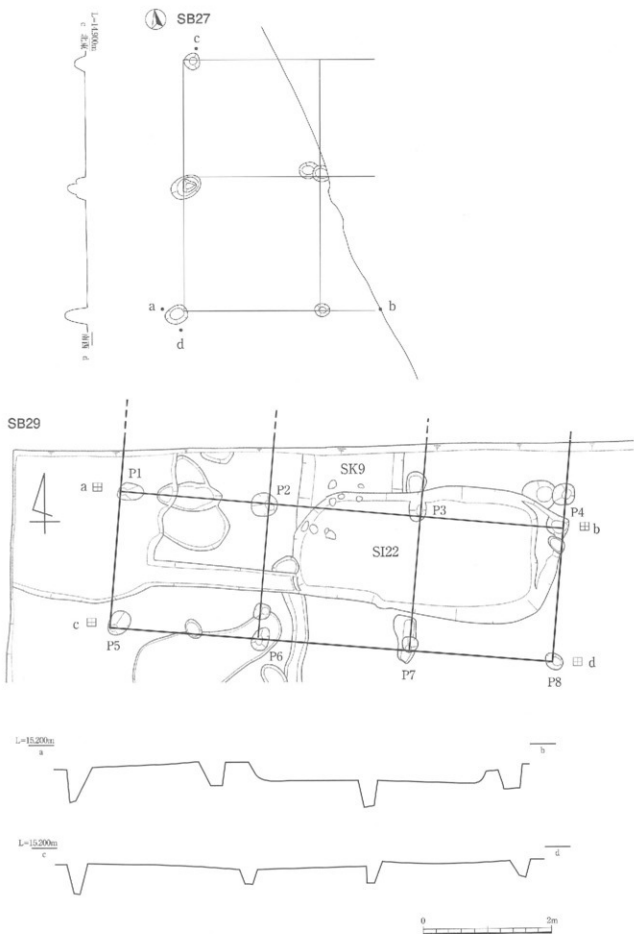


第52図 SB23、24 遺構図・断面図 (S=1/60)

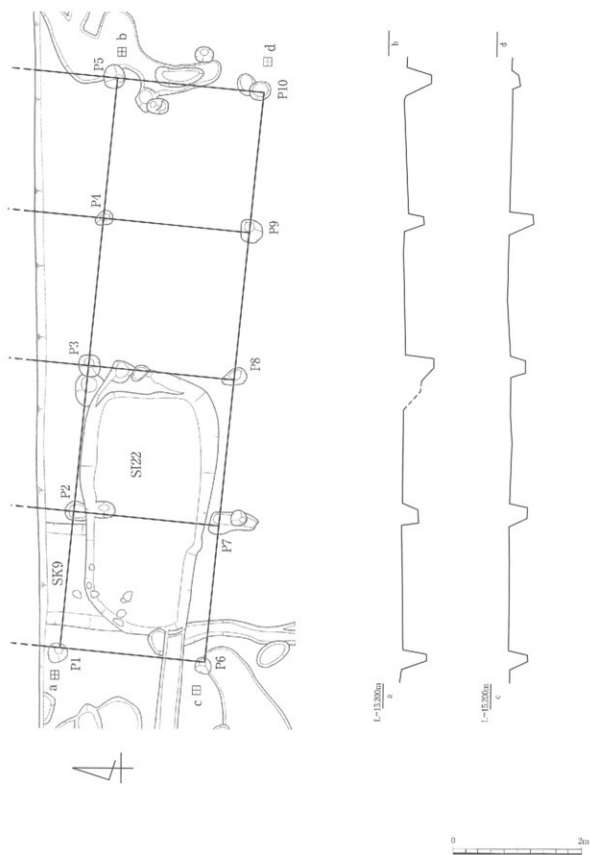


第53図 SB25、26 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



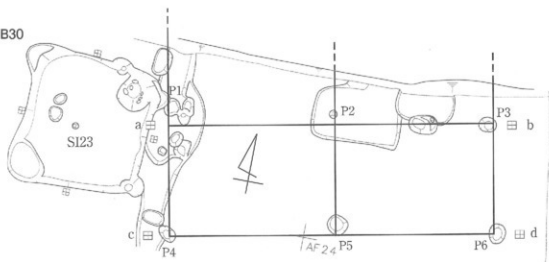


第54図 SB27、29 遺構図・断面図 (S=1/60)



第55图 SB28 遺構図・断面図 (S=1/60)

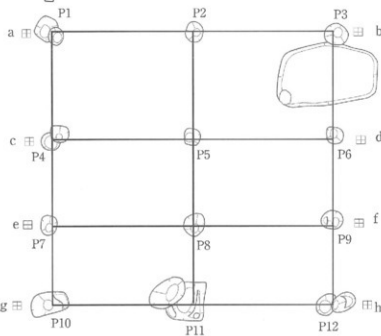
SB30



L=15,200m
a

L=15,200m
c

SB31



L=15,400m
a

L=15,400m
c

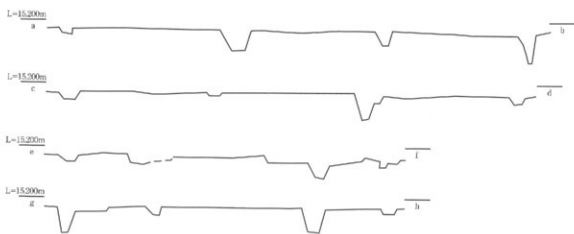
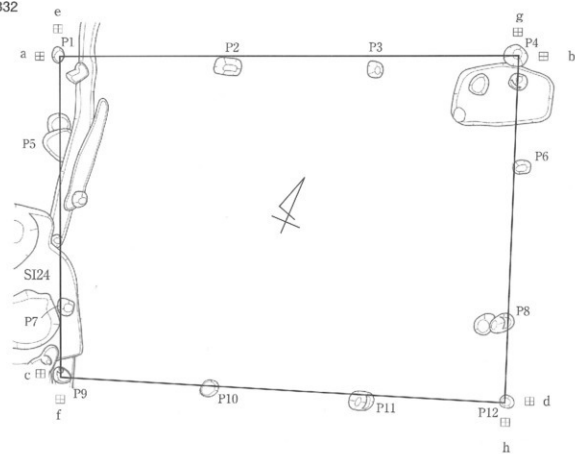
L=15,400m
e

L=15,400m
g

第56图 SB30、31 遺構図・断面図 (S=1/60)

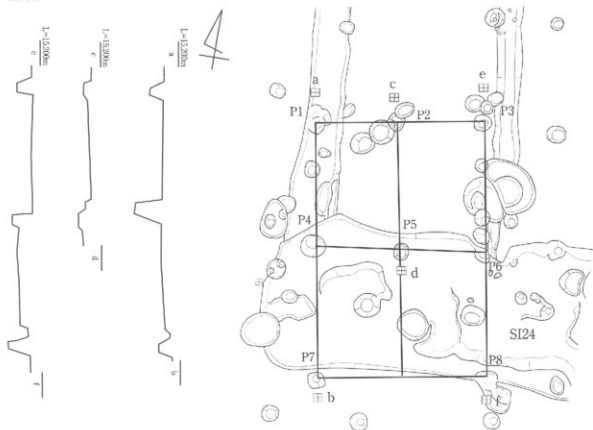


SB32

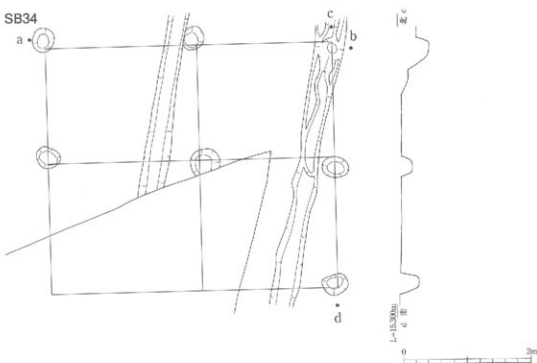


第57图 SB32 遺構図・断面図 (S=1/60)

SB33

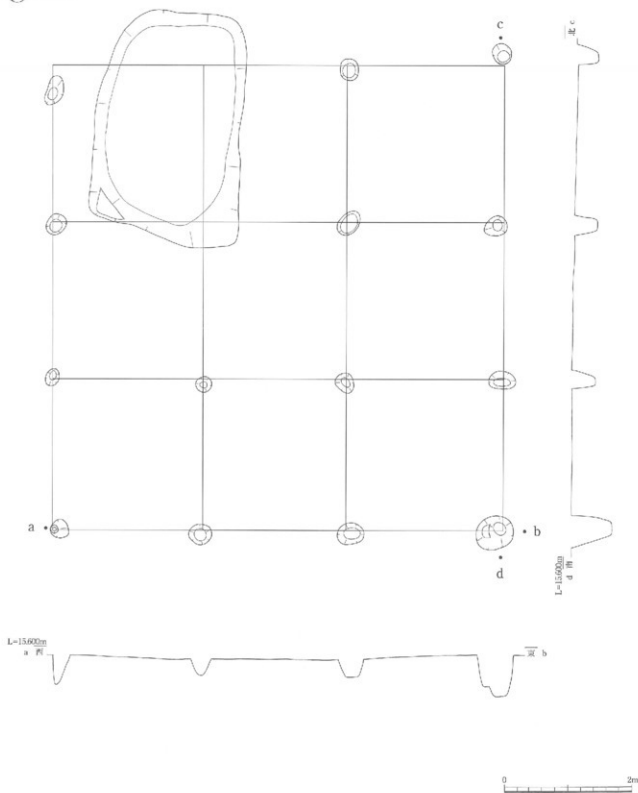


SB34



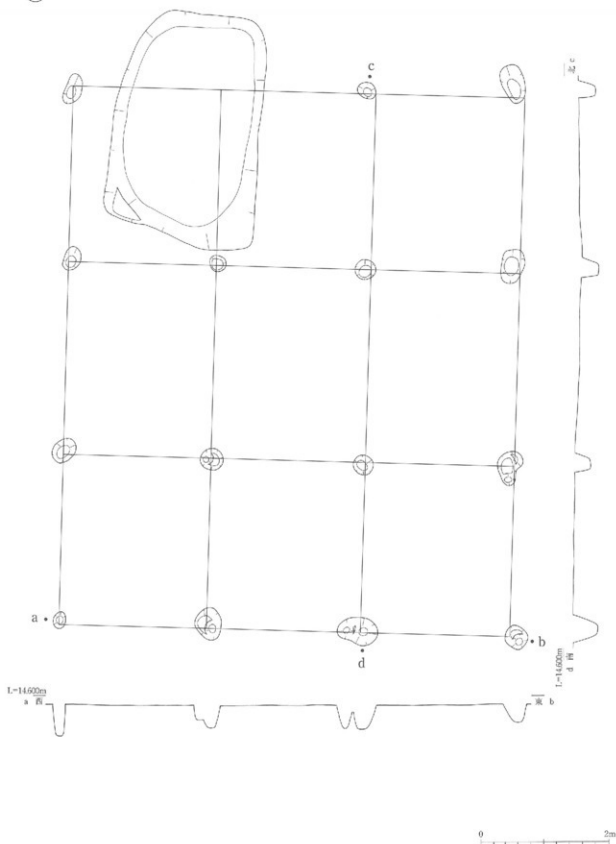
第58図 SB33、34 遺構図・断面図(S=1/60)

SB35



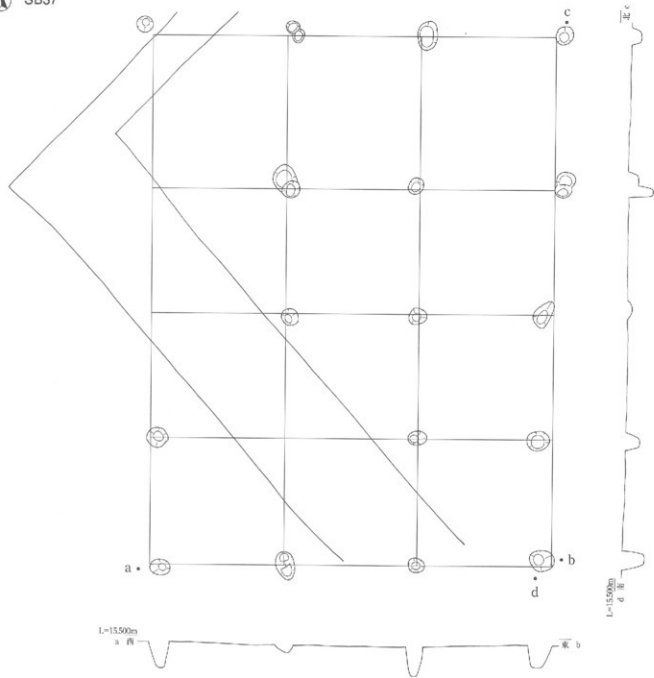
第59图 SB35 构造图·断面图 (S=1/60)

SB36



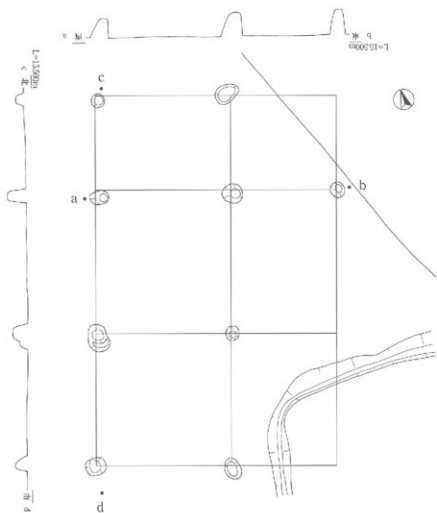
第60图 SB36 遗構図・断面図 (S=1/60)

SB37

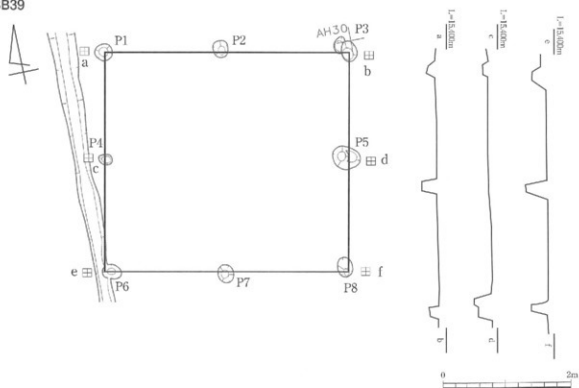


第61图 SB37 遺構図・断面図 (S=1/60)

SB38

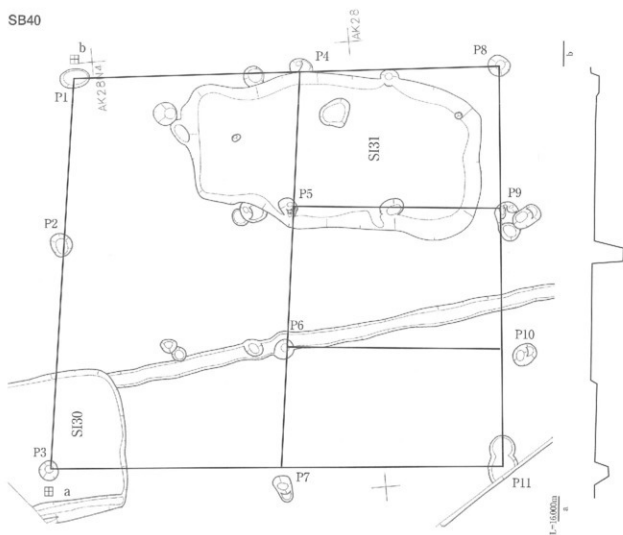


SB39

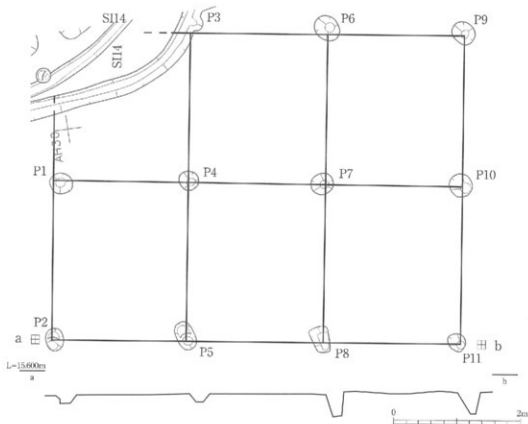


第62图 SB38、39 遺構図・断面図 (S=1/60)

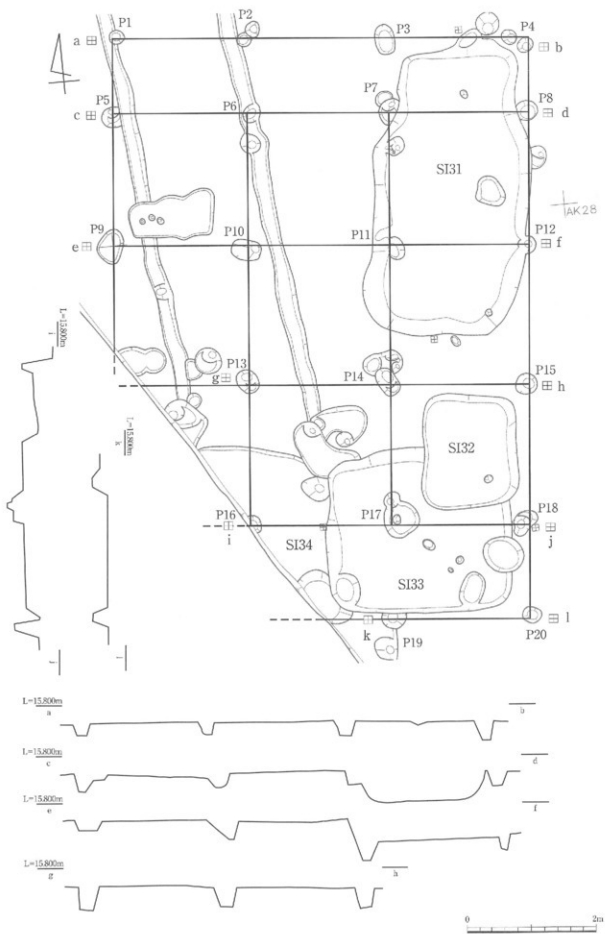
SB40



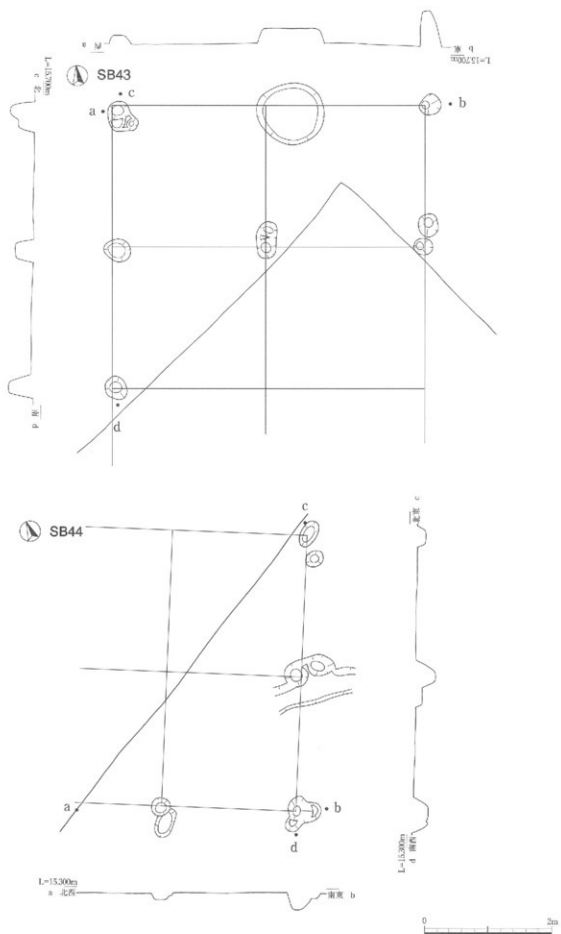
SB41



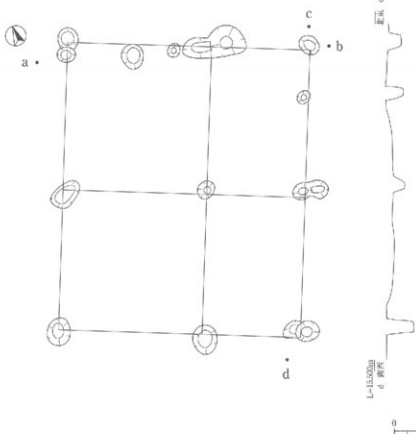
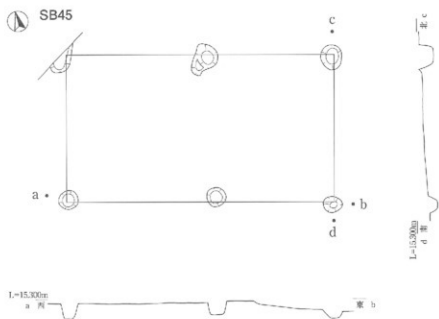
第63图 SB40、41 遺構図・断面図 (S=1/60)



第61図 SB42 遺構図・断面図 (S=1/60)

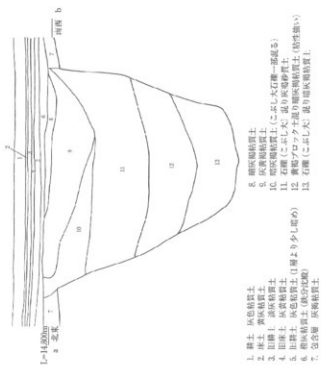
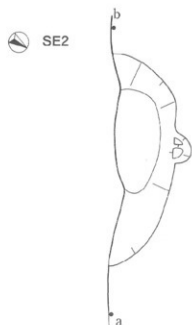
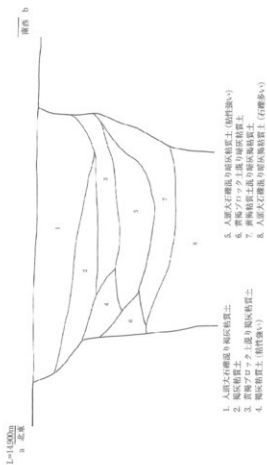
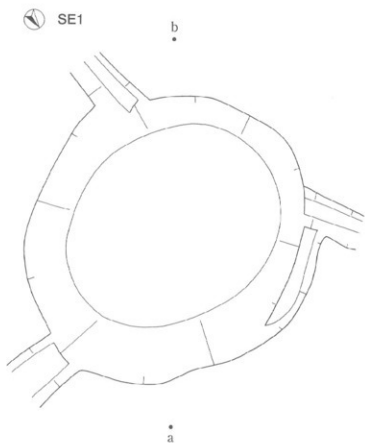


第65图 SB43、44 遗構図・断面図 (S=1/60)

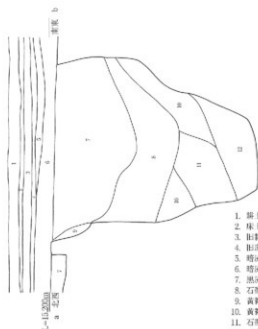
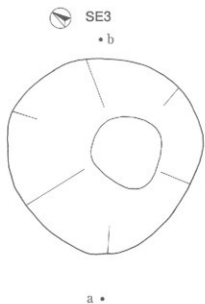


1. 期灰地層質土
2. 雲母ブロック土盛り
3. 期灰地層質土
4. 灰地層質土

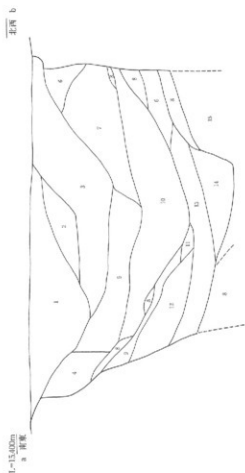
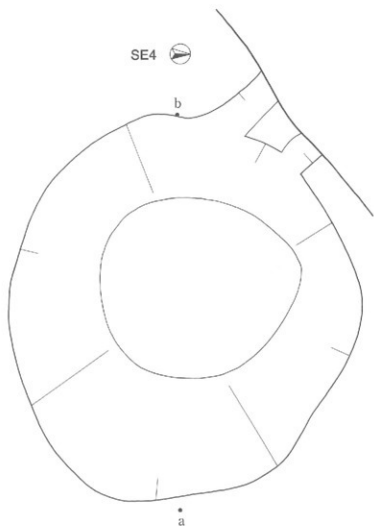
第66図 SB45、46 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



第67図 SE1、2 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



1. 埴土 灰色粘質土
2. 埴土 黄灰粘質土
3. 埴土 赤灰粘質土
4. 埴土 黄灰粘質土
5. 埴土粘質土
6. 埴土粘質土
7. 埴土粘質土
8. 石壁残り灰粘質土 (右端は人頭大、粘性強い)
9. 黄褐色ブロック土残り埴土粘質土
10. 黄褐色ブロック土残り灰褐色シルト
11. 石壁 (人頭大) 残り灰褐色シルト
12. 石壁 (人頭大) 残り灰褐色粘土 (粘性強い)



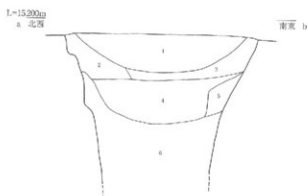
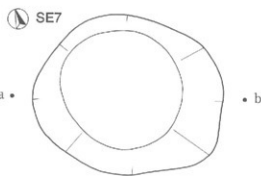
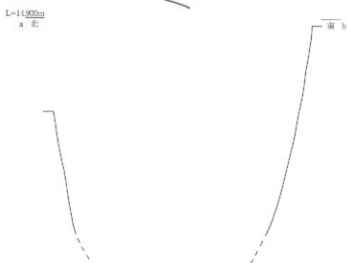
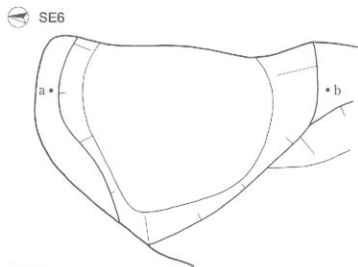
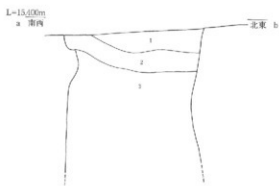
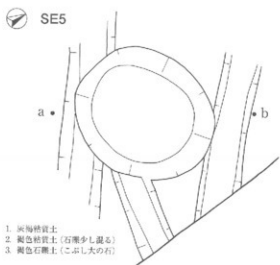
1. 灰褐色粘質土 (小礫、泥、少量混る)
2. 黄褐色ブロック土残り灰褐色粘質土
3. 灰褐色粘質土
4. 黄褐色ブロック土残り灰褐色粘質土 (ブロック土少量)
5. 灰褐色粘質土 (粘性強い)

6. 黄褐色ブロック土残り灰褐色粘質土 (ブロック土大きく、多い)
7. 石壁 (こぶし大) 残り灰褐色粘質土
8. 黄褐色粘質土
9. 灰褐色シルト
10. 石壁 (こぶし大) 残り灰褐色粘質土 (粘性強い)

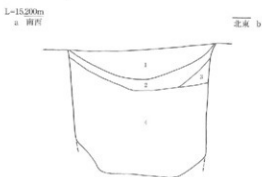
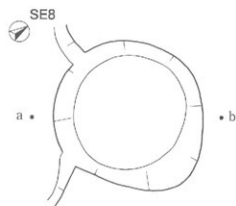
11. 小礫残り灰褐色粘質土
12. 灰褐色シルト
13. 石壁 (こぶし大) 残り黄褐色シルト
14. 石壁 (直径5~20cm) 残り褐色シルト
15. 石壁 (直径5~20cm) 残り灰褐色シルト



第68図 SE3, 4 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



1. 灰褐色土
2. 灰褐色粘質土 (粘性強い)
3. 灰白粘土ブロック張り灰褐色粘質土 (粘性強い)
4. 大顆大石礫張り褐色粘質土 (粘性強い)
5. 灰色シルト
6. 褐色シルト

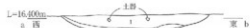
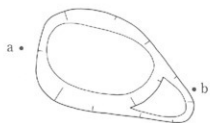


1. 淡灰砂土
2. 灰色シルト
3. 灰質砂土
4. 褐色シルト



第69図 SE5-8 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

SK1

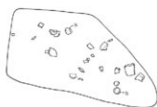


1. 菊灰層粘質土 (土器多く混入)
2. 灰層粘質土

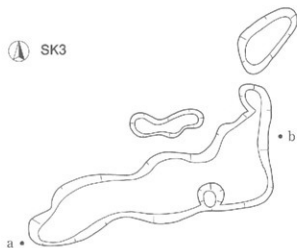
SK2



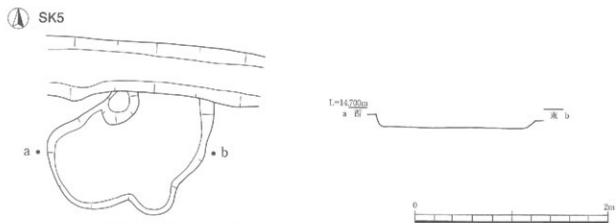
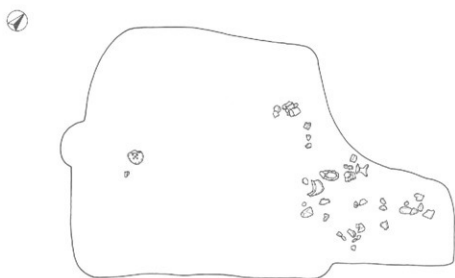
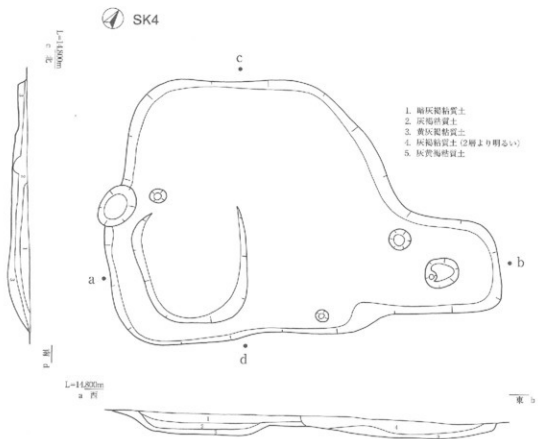
1. 菊灰層粘質土 (土器大量に含む)
2. 灰層粘質土
3. 灰黄層粘質土



SK3

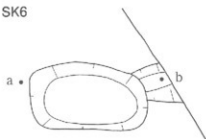


第70図 SK1~3 遺構図・土層断面図・遺物出土状況図 (S=1/40)



第71图 SK4、5 遺構図・土層断面図・遺物出土状況図 (S=1/40)

SK6

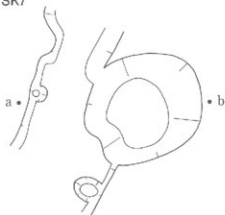


L=15,200m
a 南



1. 黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土
2. 黄褐色ブロック土混り灰褐色粘質土
3. 黒灰粘質土
4. 暗灰褐色粘質土
5. 黒色粘質土

SK7

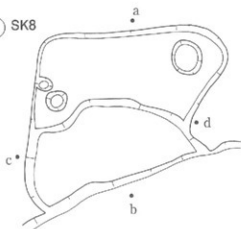


L=15,300m
a 西



1. 灰褐色粘質土
2. 黄褐色ブロック土混り黒灰粘質土
3. 黄褐色ブロック土混り灰褐色粘質土
4. 暗灰褐色粘質土
5. 黒灰粘質土
6. 黄褐色ブロック土混り暗灰褐色粘質土
7. 黄褐色ブロック土、石礫混り暗灰褐色粘質土

SK8



L=15,100m
a 北西

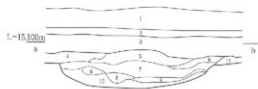
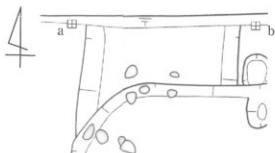


L=15,100m
c 南西



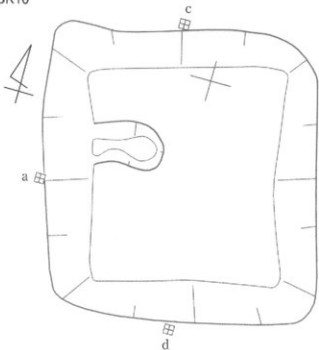
第72図 SK6-8 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

SK9

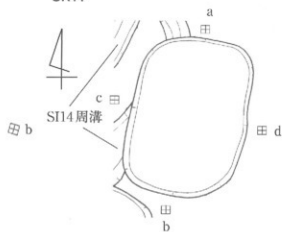


- 1 耕作土
- 2 淡灰黄色粘土(灰土)
- 3 暗灰色粘质土
- 4 灰黄色粘质土(黄色粒少)
- 5 暗灰色粘质土(中不暗<黄色粒少)
- 6 褐色粘质土
- 7 暗褐色粘质土(黄色土质状)
- 8 暗褐色粘质土(黄色粒中)
- 9 暗灰色粘质土(纯土·灰·黄色粒)
- 10 暗灰色粘质土
- 11 暗褐色粘质土

SK10



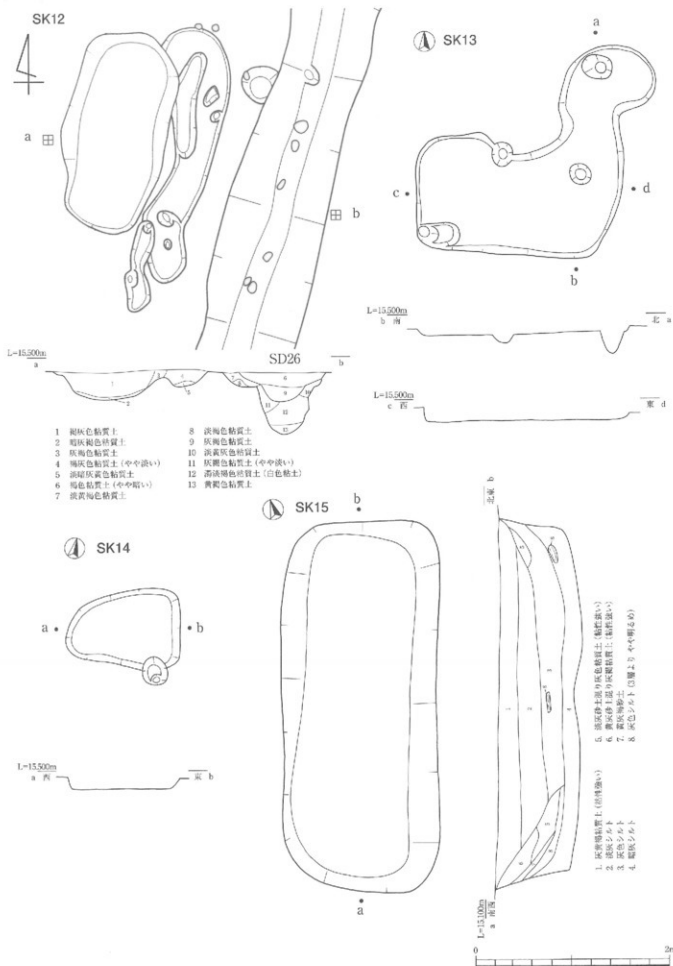
SK11



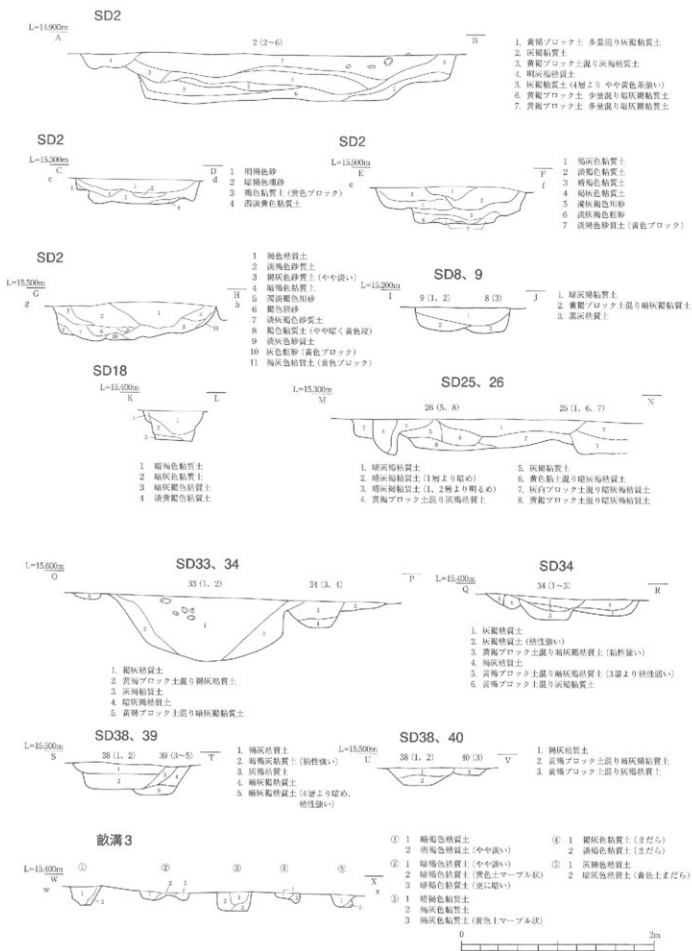
- 1 暗灰色粘质土
- 2 淡灰白色粘土
- 3 暗褐色粘质土
- 4 淡灰褐色粘土
- 5 暗褐色粘质土
- 6 暗灰色粘质土
- 7 暗褐色粘质土(黄色粒多)
- 8 暗褐色粘质土(中不暗<·)
- 9 暗褐色粘质土
- 10 淡暗褐色粘质土



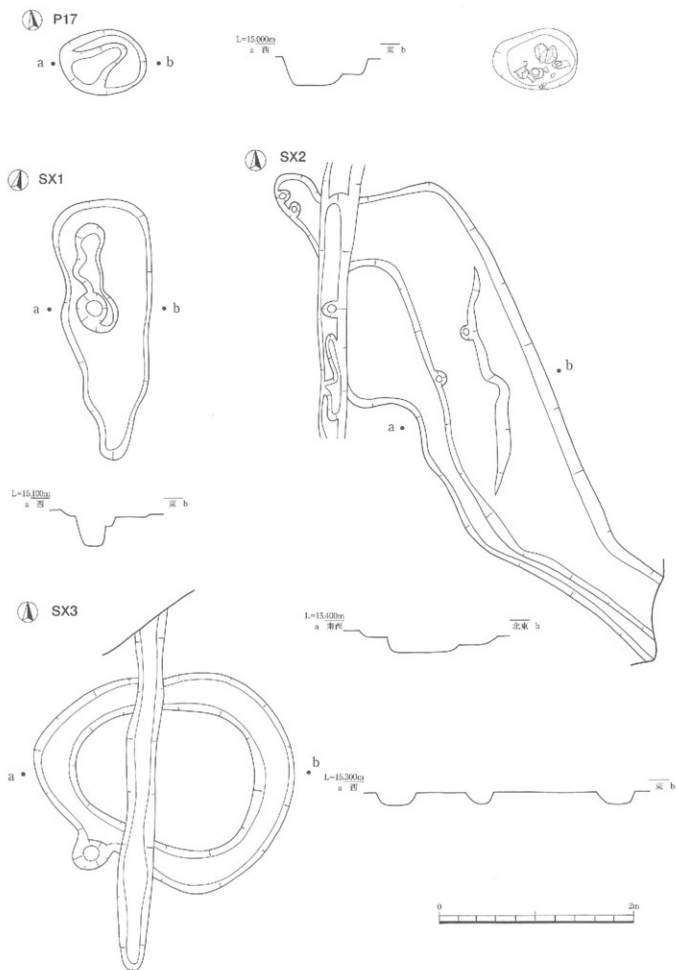
第73图 SK9~11 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



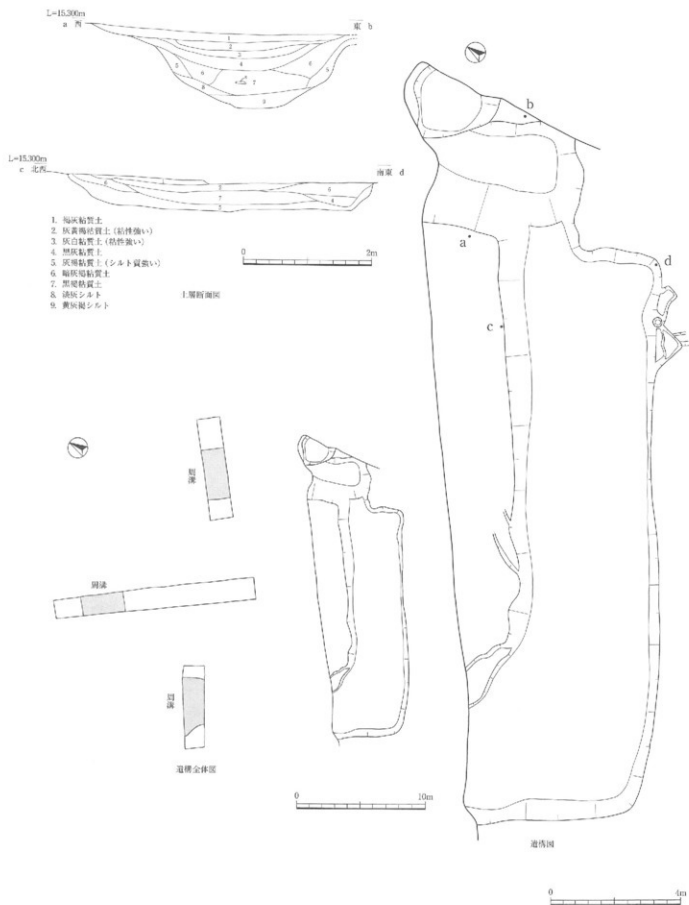
第74図 SK12~15 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



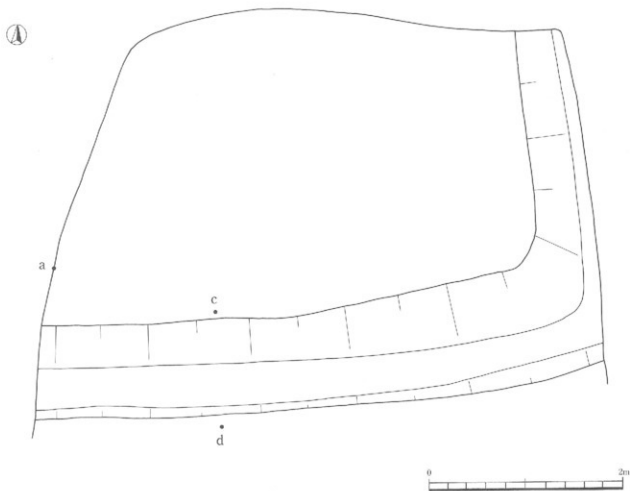
第75図 SD 土層断面図 (S=1/40) 第9図参照



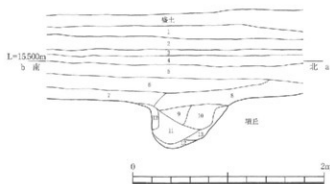
第76图 P17、SX1~3 遗物图·断面图 (S=1/40)



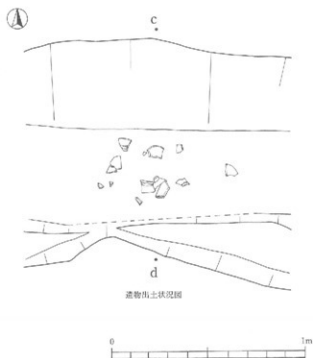
第77図 SH1 遺構図 (S=1/120)、土層断面図 (S=1/60)、遺構全体図 (S=1/300)



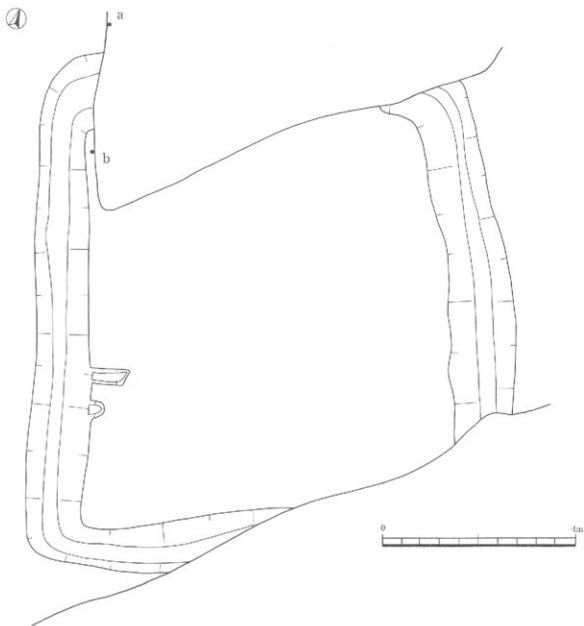
b *



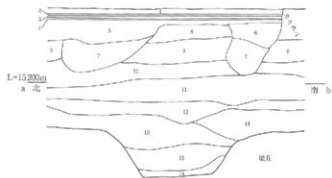
1. 緑土 明青灰粘質土
2. 灰土 薄灰粘質土
3. 灰粘結質土(若干砂粒混る)
4. 淡黄粘質土(粘性強い)
5. 暗灰粘質土(粘性強い)
6. 黄灰粘質土
7. 黄褐色分混り黒色粘質土
8. 暗灰粘結質土
9. 黒褐色質土
10. 暗灰粘結質土(砂粒多く含む)
11. 黒色粘質土
12. 灰黄粘結質土
13. 黄褐色ブロック土混り灰粘結質土



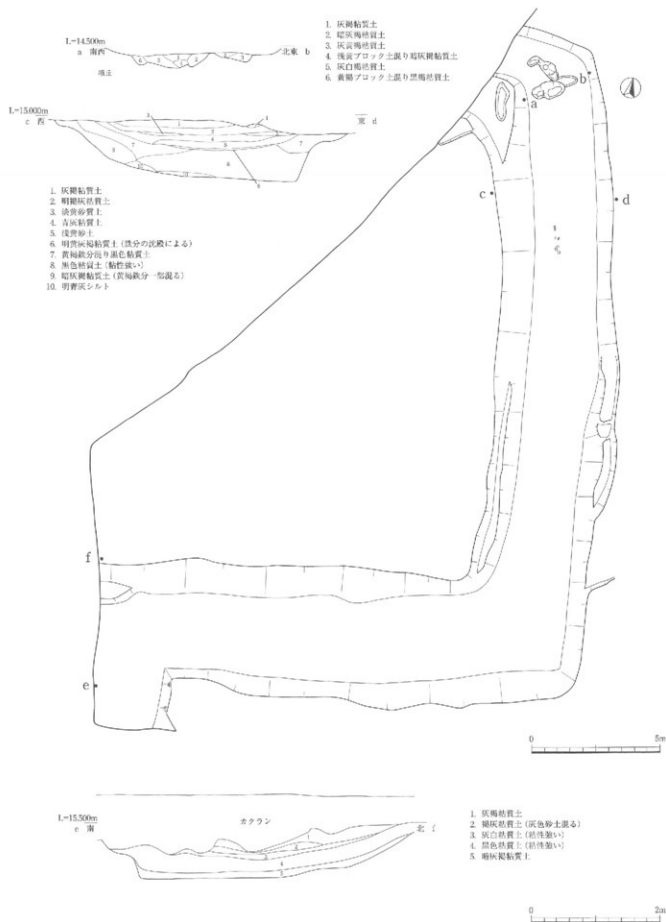
第78図 SH2 遺構図・土層断面図(S=1/40)、遺物出土状況図(S=1/20)



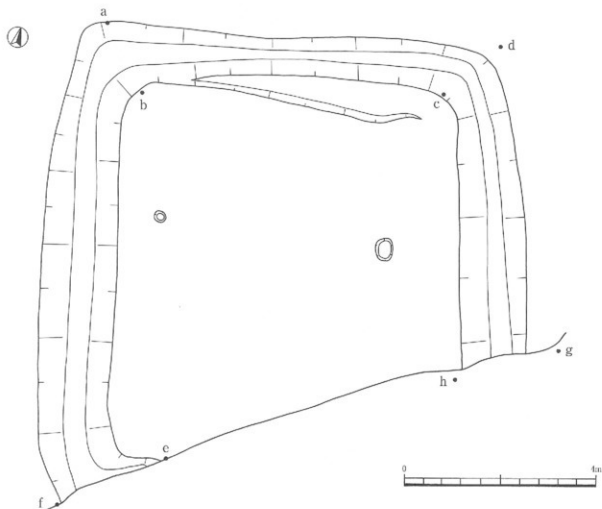
1. 礎土 明礬灰粘質土
2. 礎土 塊黄礫灰粘質土
3. 礎土 明礬灰粘質土
4. 床土 緑灰粘質土
5. 灰地粘質土 (若干砂粒混入)
6. 黄灰粘質土 (若干砂粒混入)
7. 橙黄色分混り青灰粘質土 (若干砂粒混入)
8. 灰黄砂質土
9. 灰黄粘質土 (粘性強)
10. 緑灰粘質土 (粘性強)
11. 明礬灰粘質土
12. 黄灰粘質土
13. 黄礫灰分混り黒色粘質土
14. 緑灰地粘質土
15. 黒灰粘土 (粘性極めて強い)
16. 黒色粘土混り明礬灰シルト



第79図 SH3 遺構図 (S=1/80)、土層断面図 (S=1/40)



第80図 SH4 遺構図 (S=1/50)、土層断面図 (S=1/60)



L=15.600m

a 南東

北西 b

L=15.600m

c 南西

北東 d



L=15.600m

e 東

西 f

L=15.600m

g 東

西 h

1. 粘土 灰色粘質土
2. 灰土 浅黄粘質土
3. 灰白黄粘質土
4. 灰粘質土

5. 黑粘質土
6. 暗灰粘質土
7. 暗灰粘質土 (微褐色鉄分混る)
8. 黑色粘質土 (暗赤褐色鉄分混る)

9. 暗灰粘質土 (一部黄褐色ブロック土混る)
10. 黄灰粘質土
11. 灰黄粘質土



第81圖 SH5 遺構図 (S=1/80)、土層断面図 (S=1/40)

第5節 遺物

遺物は縄文時代から近世にかけての土器・陶磁器、土製品、石製品、鉄製品が出土した。実測図は第82図～第130図までを掲載している。

縄文時代

主要な遺構は確認できなかったが、D・G・H区で、縄文時代後晩期の土器片数点が出土した。第107図398～401を図示した。

弥生～古墳時代

本調査で最も多く発見した遺物は、弥生時代後期後半～古墳時代前期の土器である。器種は甕・壺・高坏・器台・鉢・蓋である。甕は、弥生時代では7・28など有段口縁に擬凹線をもつものが多い。古墳時代では、144・145など口縁端部が肥厚する布留甕が多く見られる。壺は、82・94の有段口縁壺・81長頸壺・短頸壺など多種にわたる。また、150のような東海系の壺も見つかっている。高坏は、3・225・397のような脚部より強く屈曲して開く坏底部に、大きく外反して口縁部が伸びるものが主体となる。また、43のように小さな塊形の坏部をもつものもある。44は拙手が付く。器台は高坏のタイプが主流であるが、46・47・78のような特殊器台も見つかっている。

古代

本調査では出土量は少ない。須恵器坏・瓶・蓋などを確認している。第96図246～251を図示した。

中世

土師器皿、国産陶器、中国製磁器などを確認した。土師器皿は口径6～8cmの小型と10～12cmの大型に大別され、口縁端部に大きな変化はなく、口縁部に一段のヨコナデを施すAタイプと、口縁部は外反し、体部下半にヨコナデに後をもつEタイプが多い。国産陶器は珠洲焼・加賀焼・越前焼の甕・壺・すり鉢が出土している。また、図示はしていないが、瀬戸焼の天目茶碗なども確認している。

近世

図示はしていないが、陶磁器を中心とした遺物が出土している。

土製品

第107図402～406の土鍬がある。402は古代以降、その他は弥生～古墳時代と思われる。

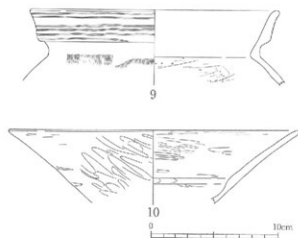
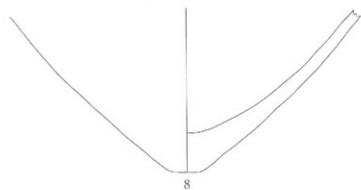
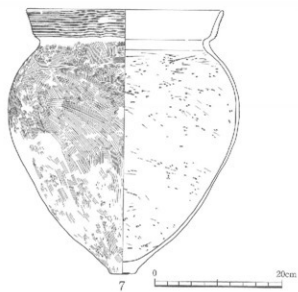
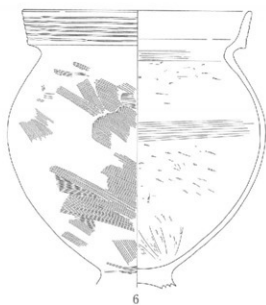
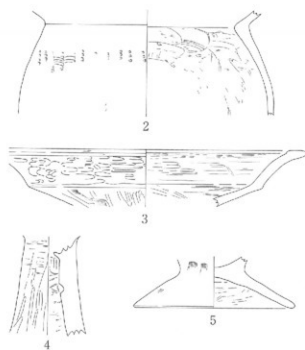
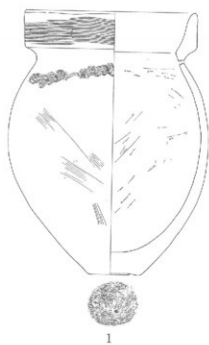
石製品

縄文～古墳時代にかけての打製石斧・磨石・叩石・砥石・石鏃・管玉と管玉未成品・勾玉と中世の砥石・火打石・炉石などが出土している。打製石斧は、長方形の板状となるAタイプ（短冊型）、基部から刃部へ向かって幅を広げていくBタイプ（撥型）、基部から刃部へ広げていくが、中ほどで括れるCタイプ（分銅型）に分かれる。ほとんどは、使用により刃部が欠損したり、中央部が折れたりしている。管玉未成品は荒削り・形削り・穿孔と、製作過程の様相を示すものを見ることができる。中世においては、炉石などの他に、煤が付着した自然石を多くみることができる。煤付着の自然石は加賀地域の集落遺跡に多い傾向がある。砥石は中砥石と仕上げ砥石が見られる。

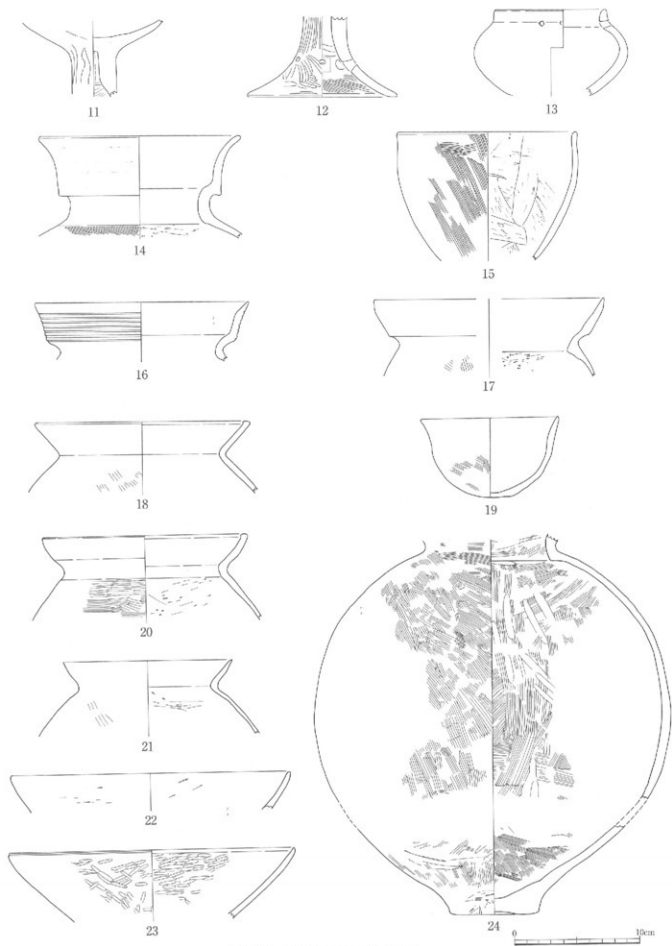
鉄・銅製品

鉄製品は刀子や釘が多く、鉄滓も見られる。銅製品は銭貨のみである。

なお、上記の遺物の詳細については、別表の遺物観察表を参照されたい。



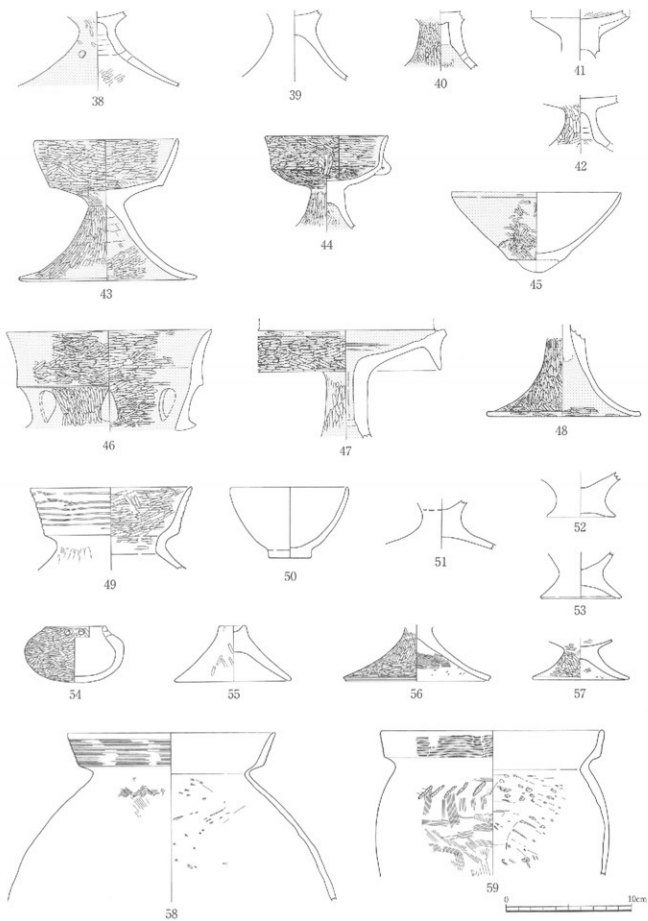
第82図 土器実測図1 (S=1/3、7のみS=1/6)



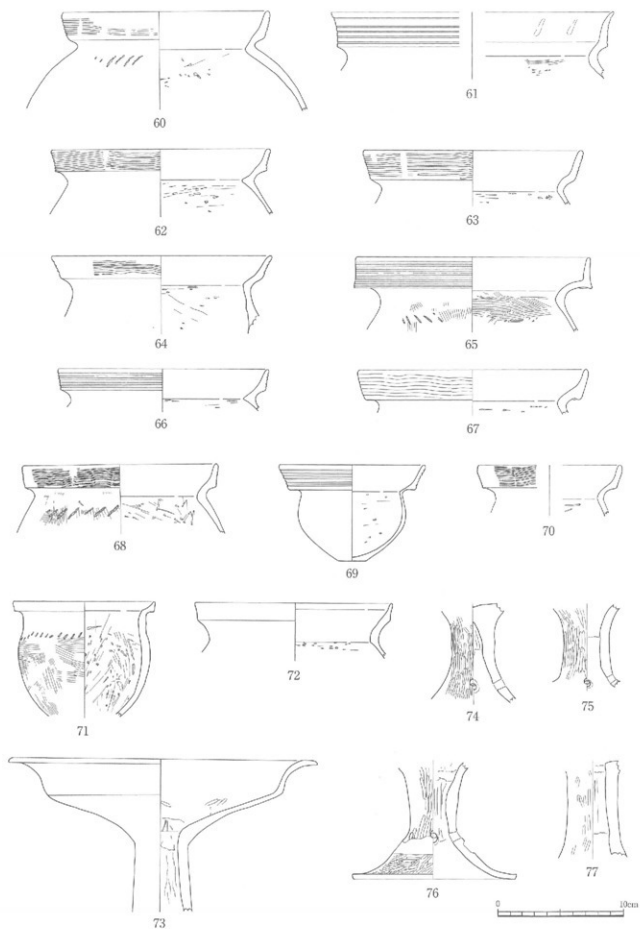
第83图 土器実測图2 (S=1/3)



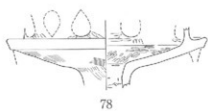
第84图 土器実測図3 (S=1/3)



第85图 土器実測图4 (S=1/3)



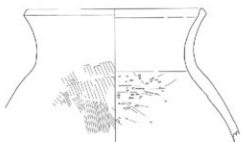
第86图 土器実測図5 (S=1/3)



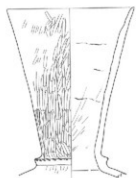
78



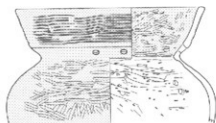
79



80



81



82



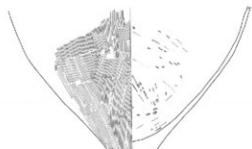
83



84



85



86



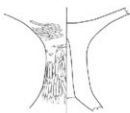
87



88



89



90



91



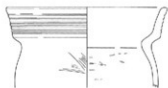
92



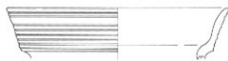
93



94



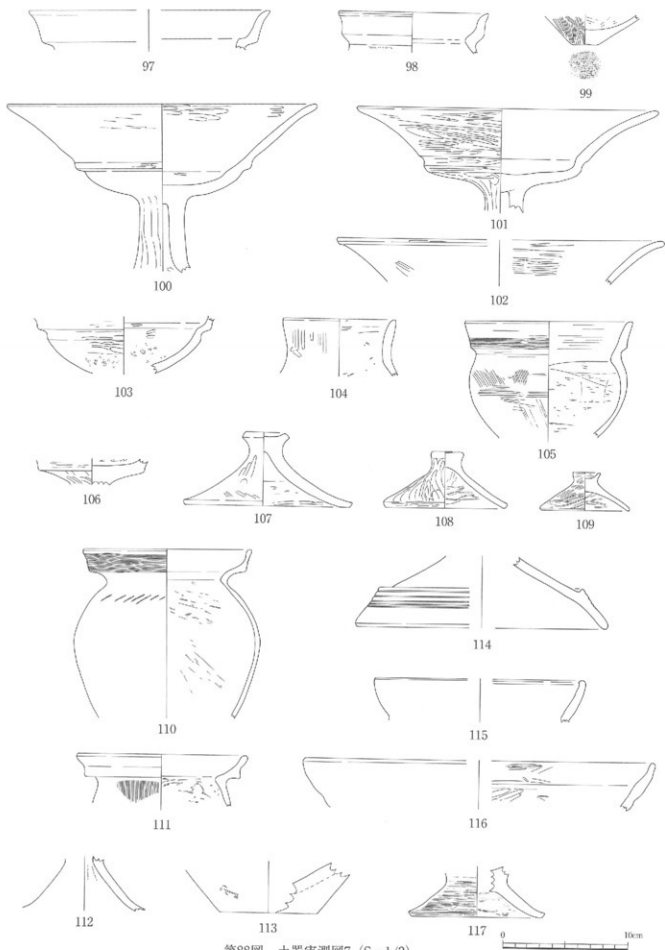
95



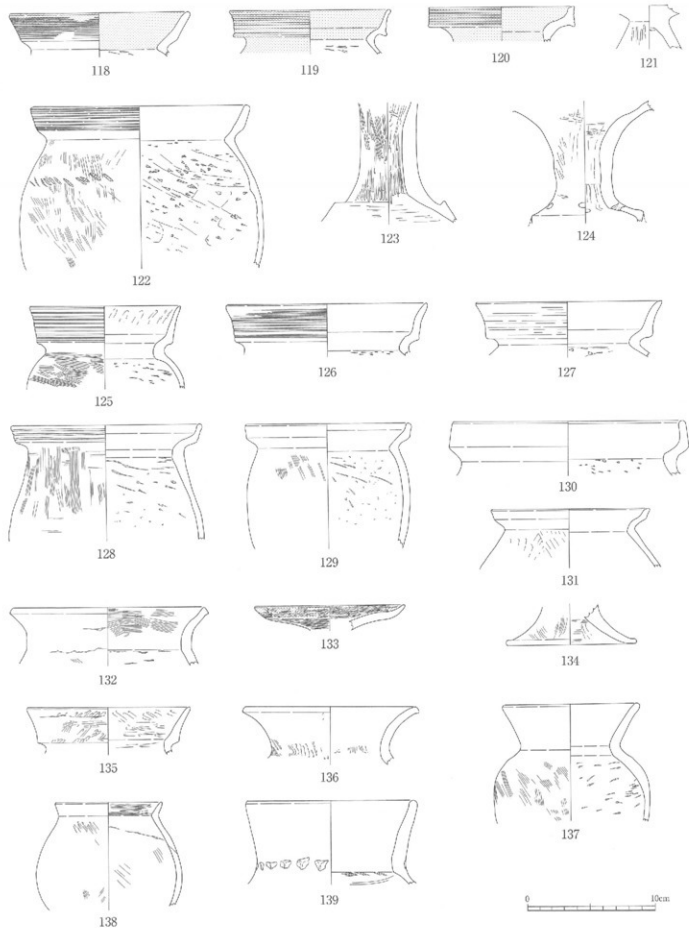
96



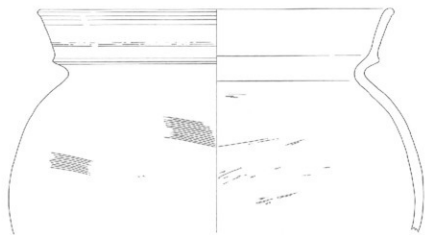
第87图 土器実測图6 (S=1/3)



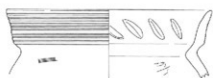
第88图 土器实测图7 (S=1/3)



第89图 土器实测图8 (S=1/3)



140



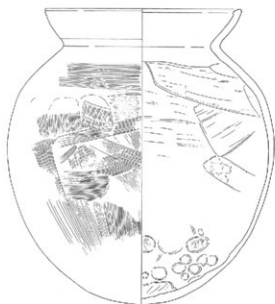
141



142



143



144



145



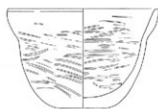
148



146



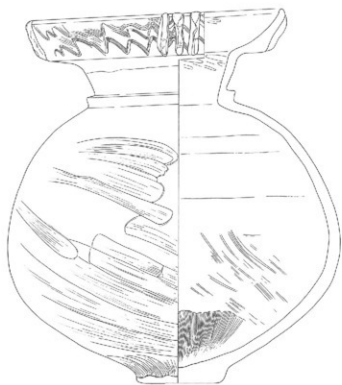
147



149



第90图 土器实测图9 (S=1/3)



150



151



152



153



154



155



156



157



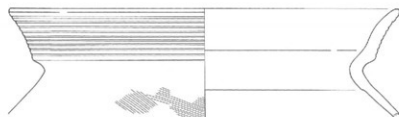
158



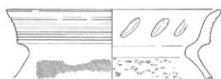
159



160



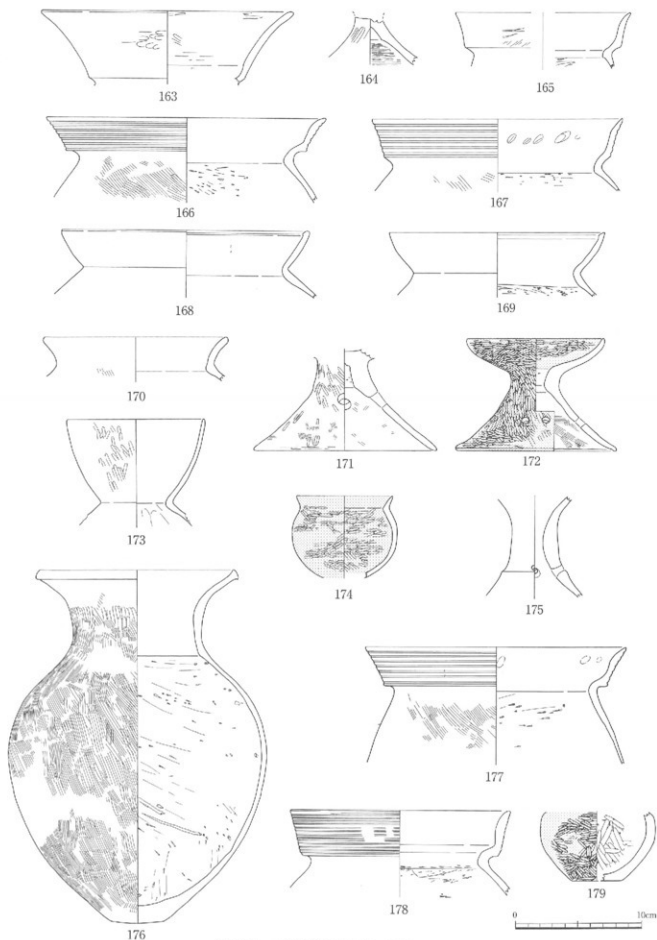
161



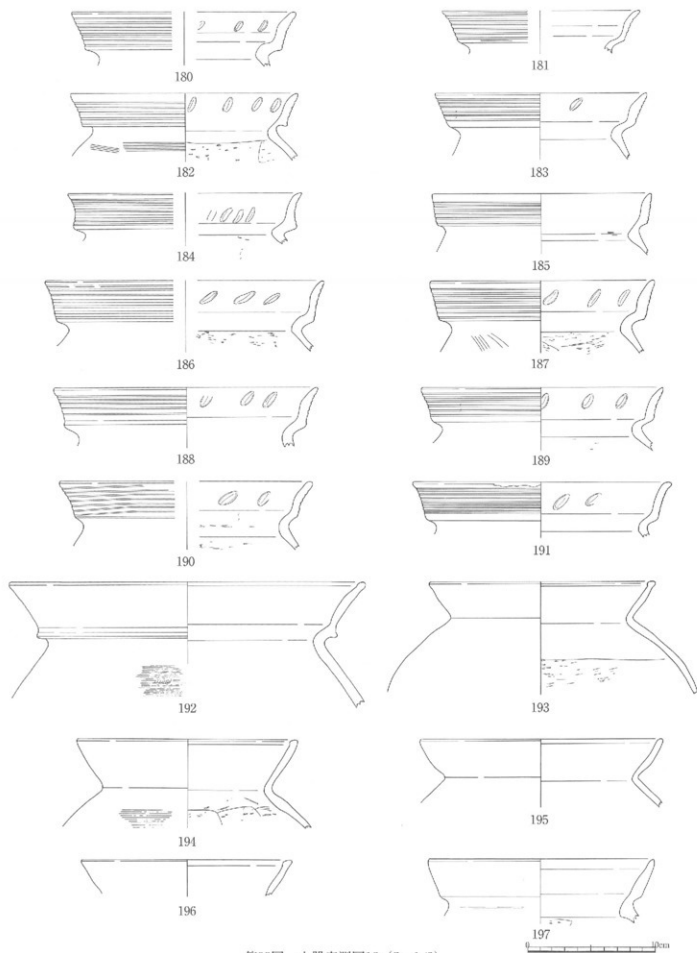
162



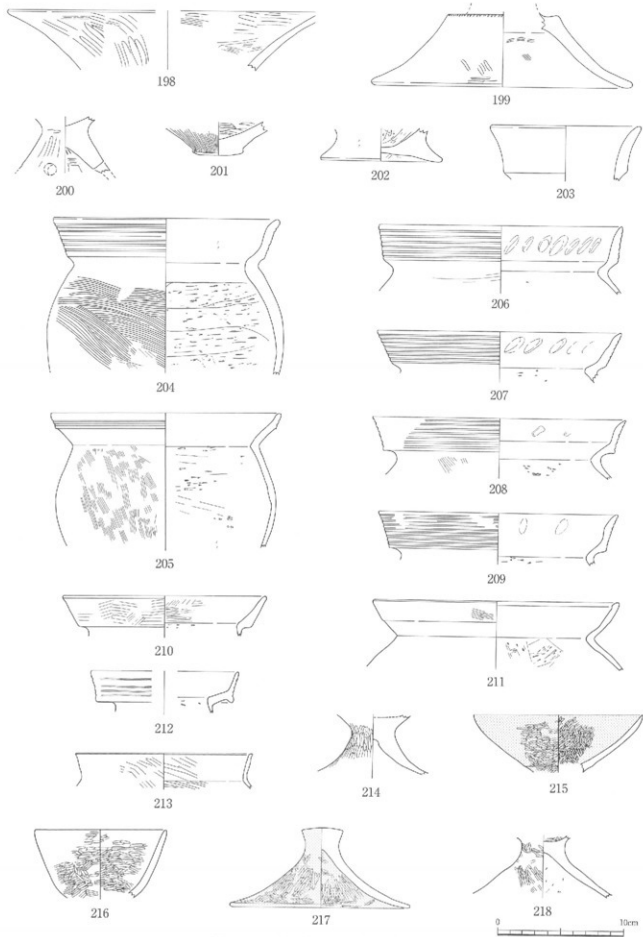
第91图 土器実測图10 (S=1/3)



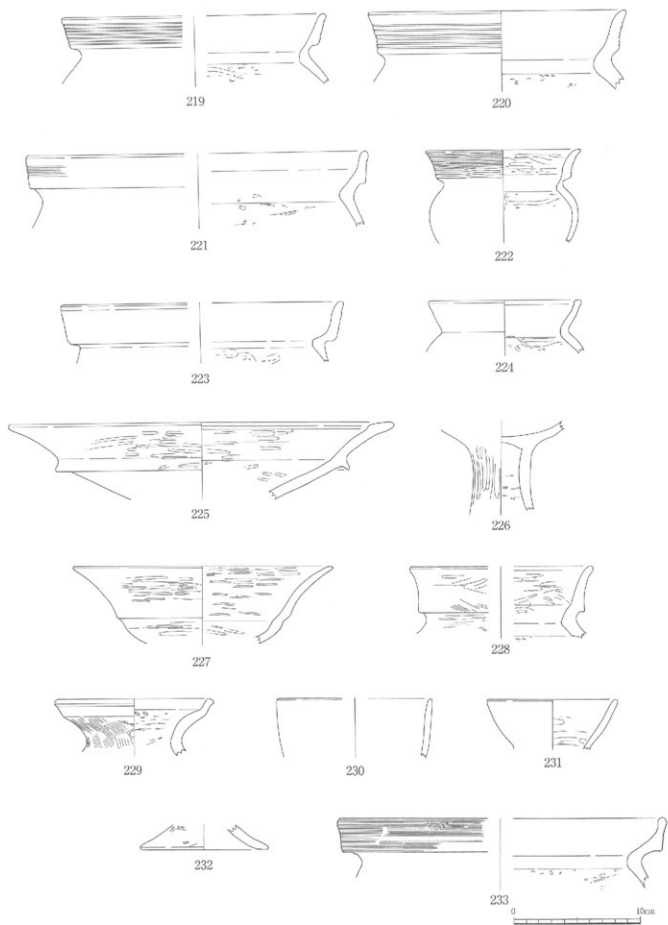
第92图 土器实测图11 (S=1/3)



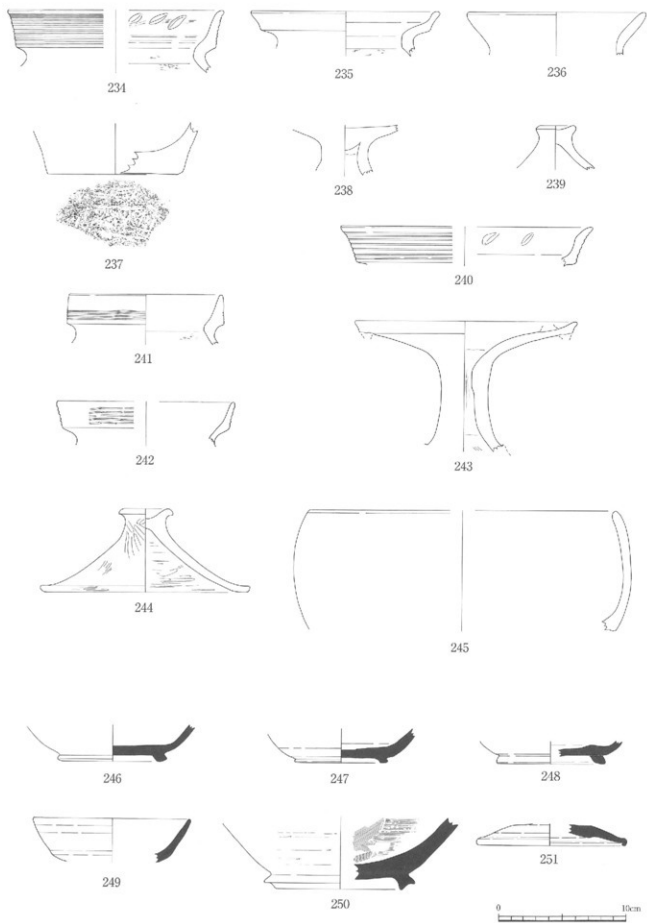
第93图 土器実測図12 (S=1/3)



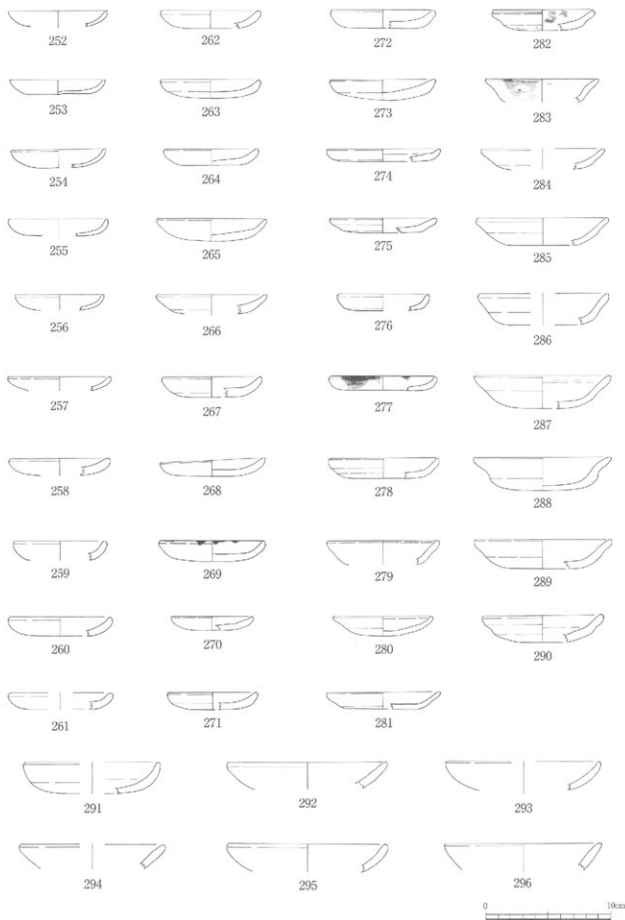
第94图 土器实测图13 (S=1/3)



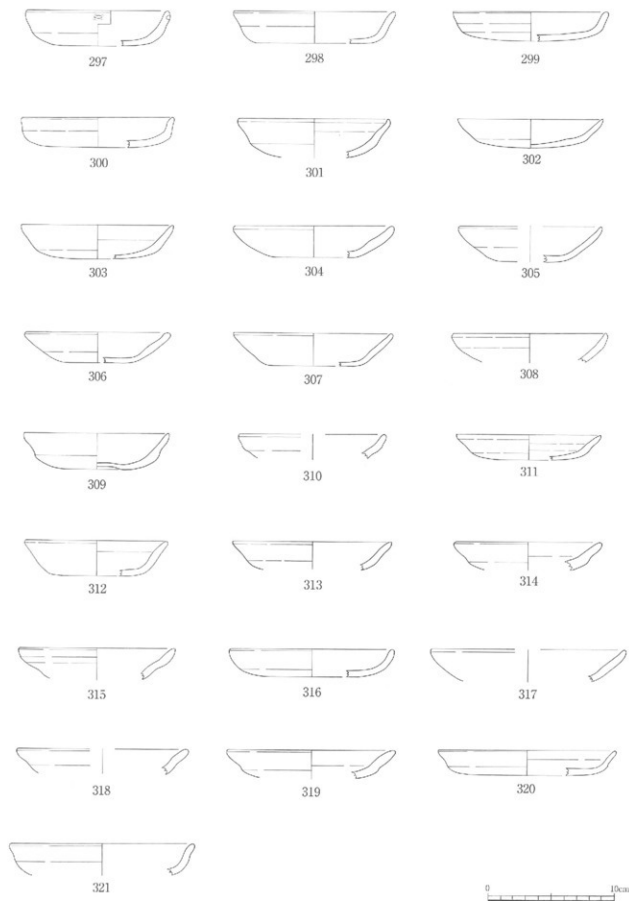
第95图 土器尖测图14 (S=1/3)



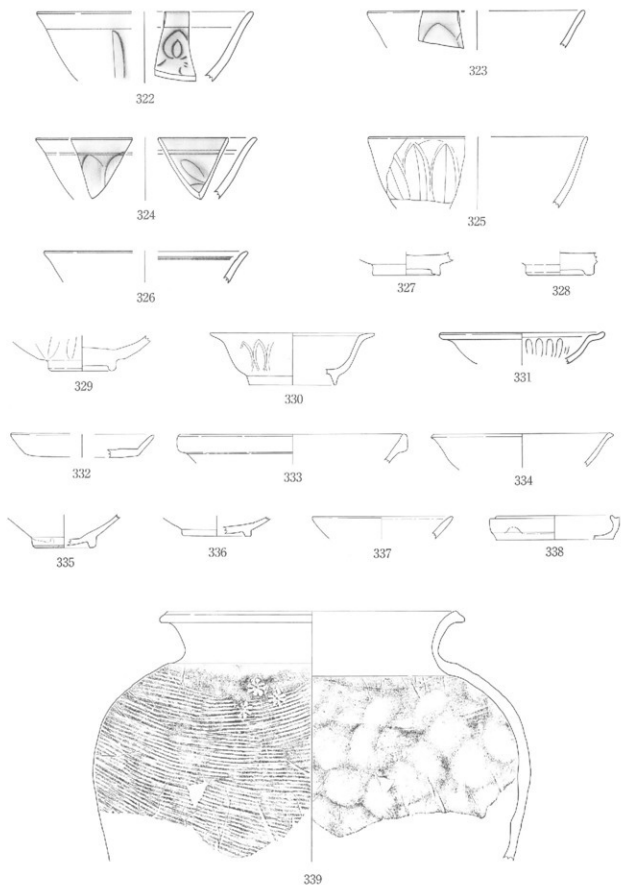
第96图 土器実測図15 (S=1/3)



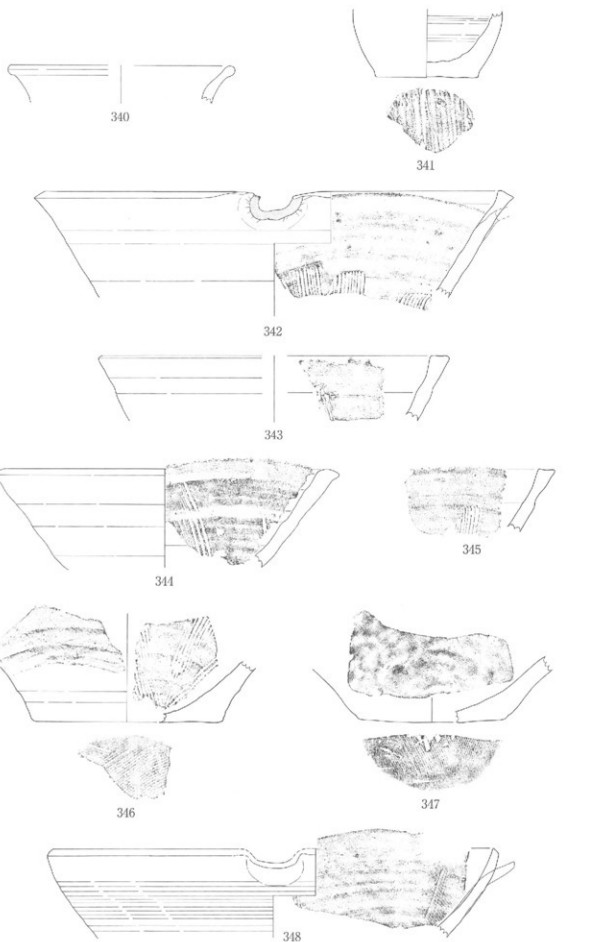
第97图 土器実測図16 (S=1/3)



第98图 上器实测图17 (S=1/3)

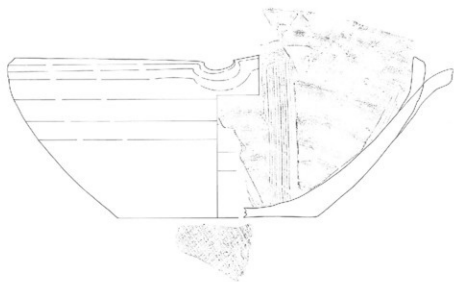


第99图 陶磁器实测图18 (S=1/3)



第100图 陶磁器实测图19 (S=1/3)

0 10cm



349



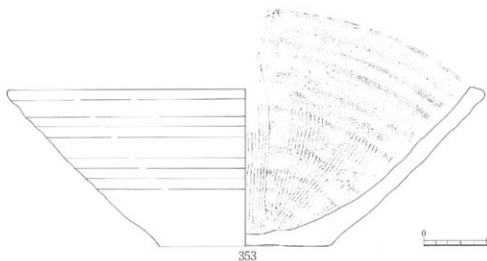
350



351



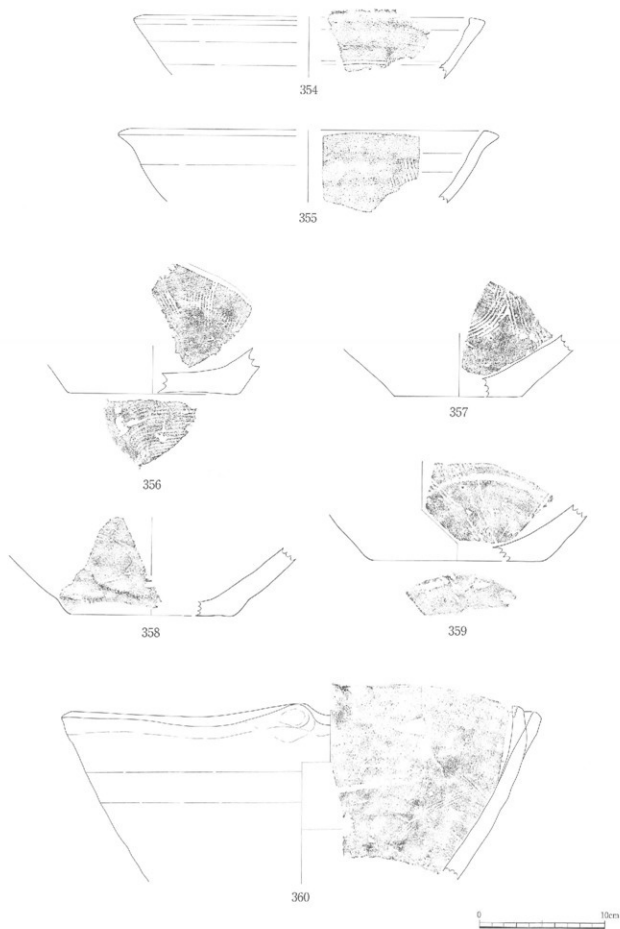
352



353



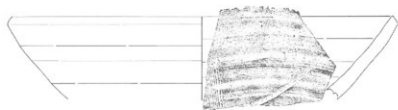
第101图 陶器实测图20 (S=1/3)



第102図 陶器実測図21 (S=1/3)



361



362



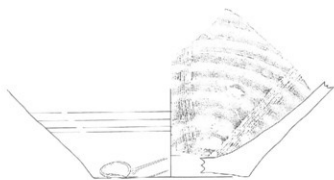
363



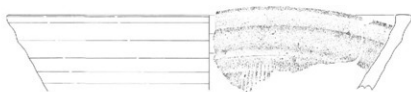
364



365



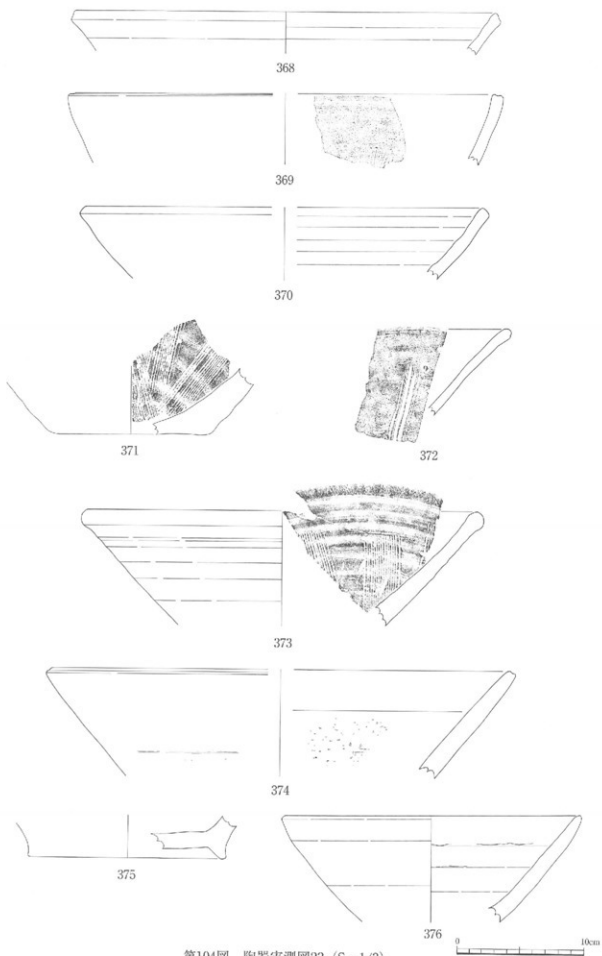
366



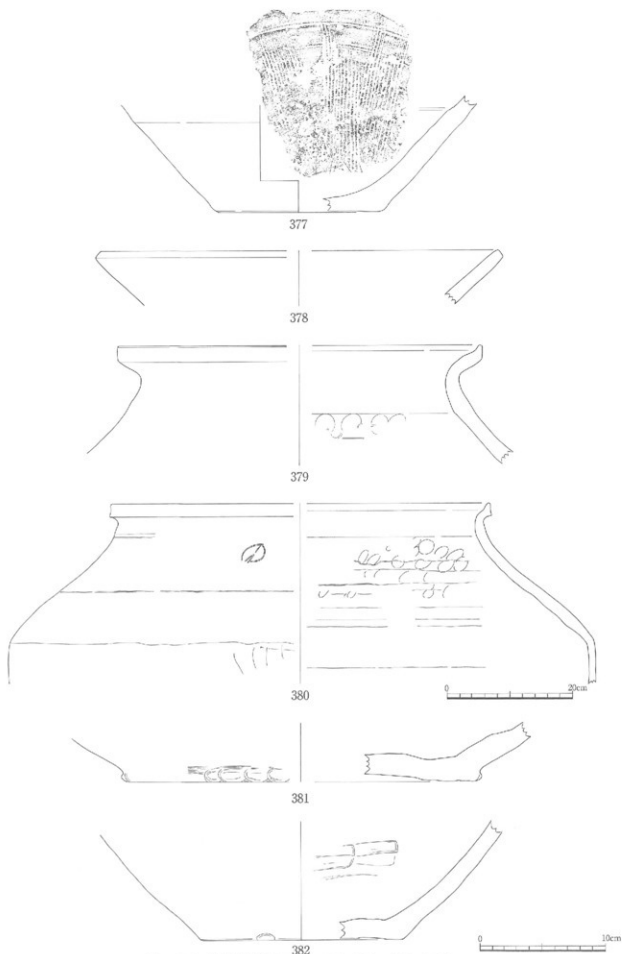
367



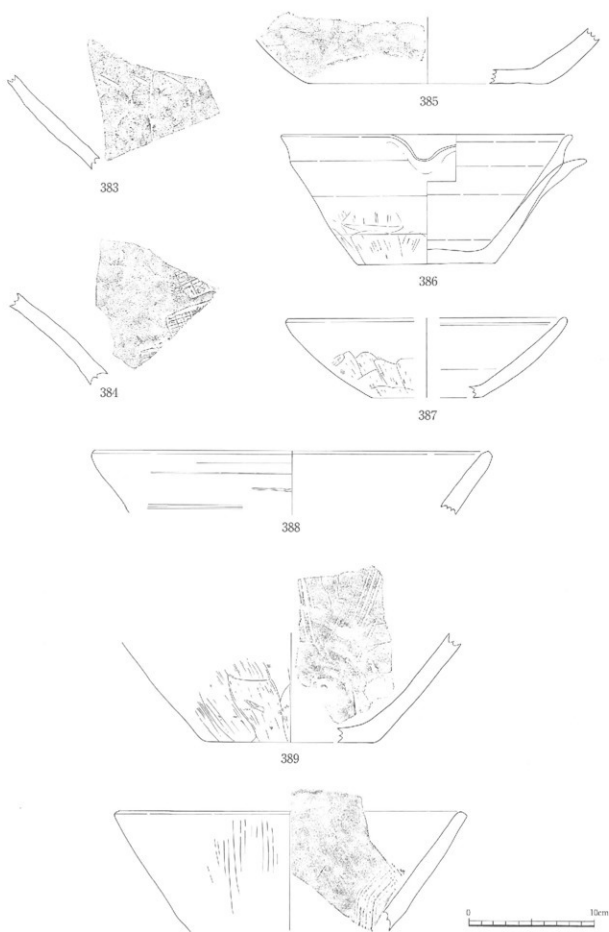
第103图 陶器实测图22 (S=1/3)



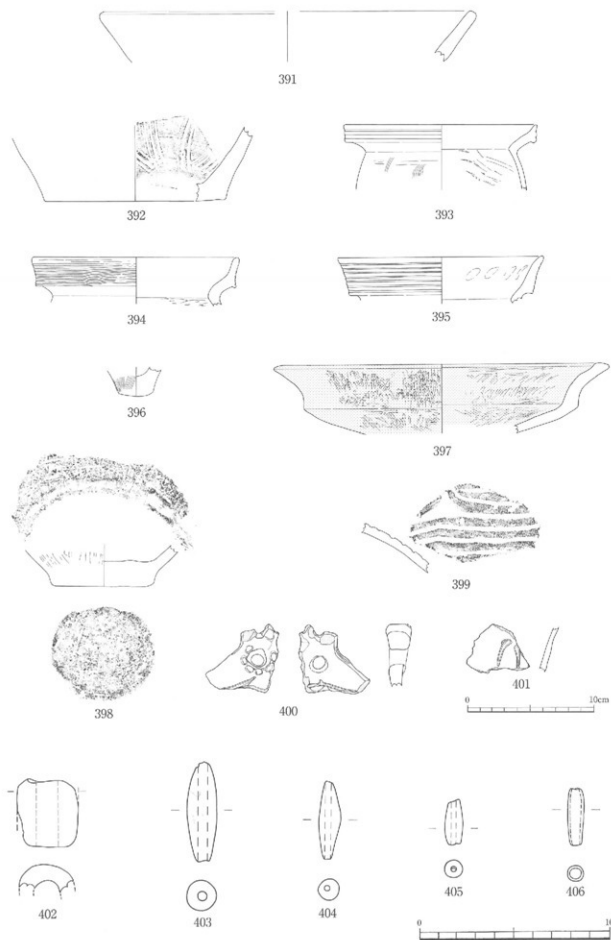
第104图 陶器实测图23 (S=1/3)



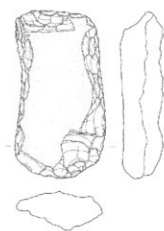
第105図 陶器実測図24 (S=1/3、380のみS=1/6)



第106图 陶器实测图25 (S=1/3)



第107图 土器・土製品実測図26 (土器391~401 S=1/3、土製品402~406 S=1/2)



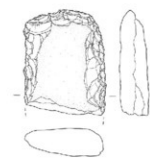
407



408



409



410



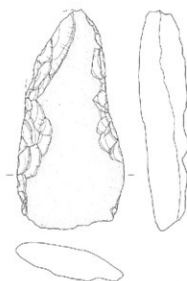
411



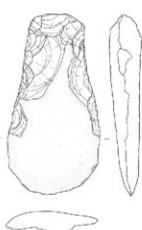
412



413



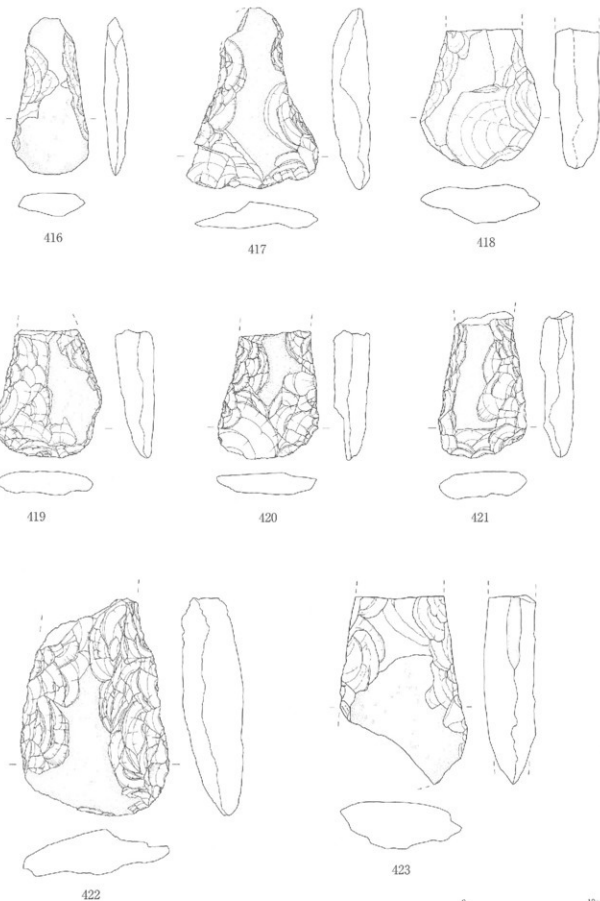
414



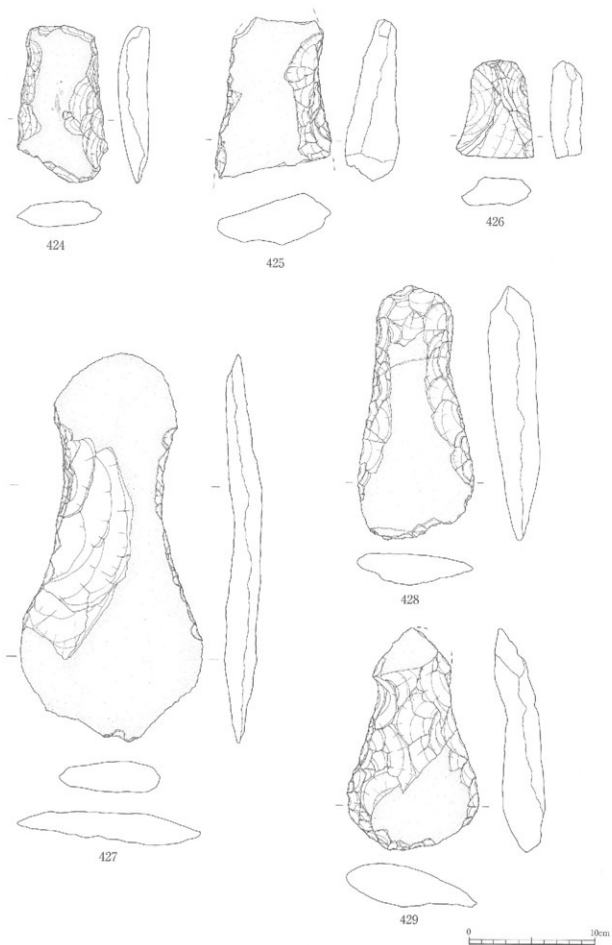
415



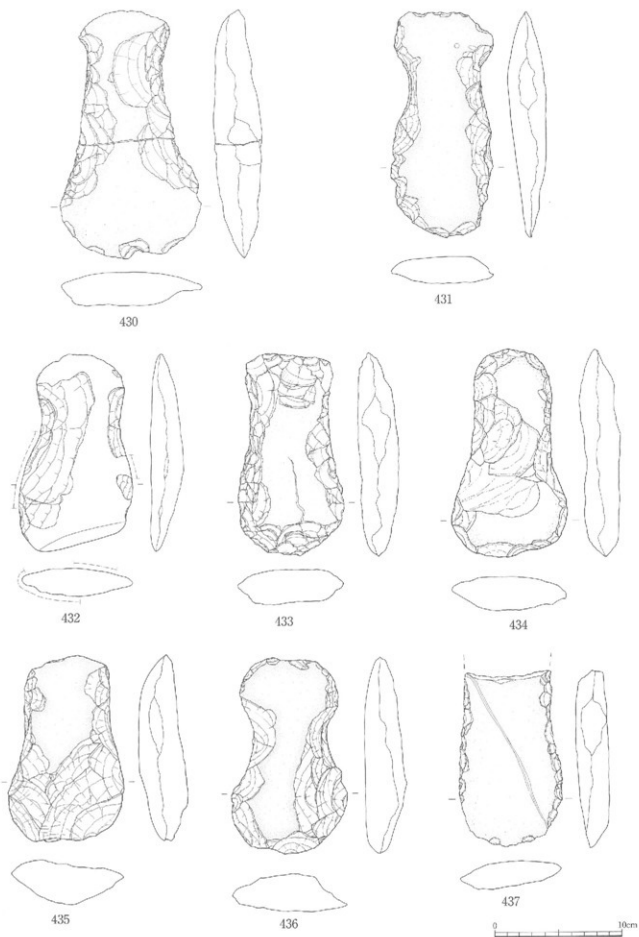
第108图 石製品実測図27 (S=1/3)



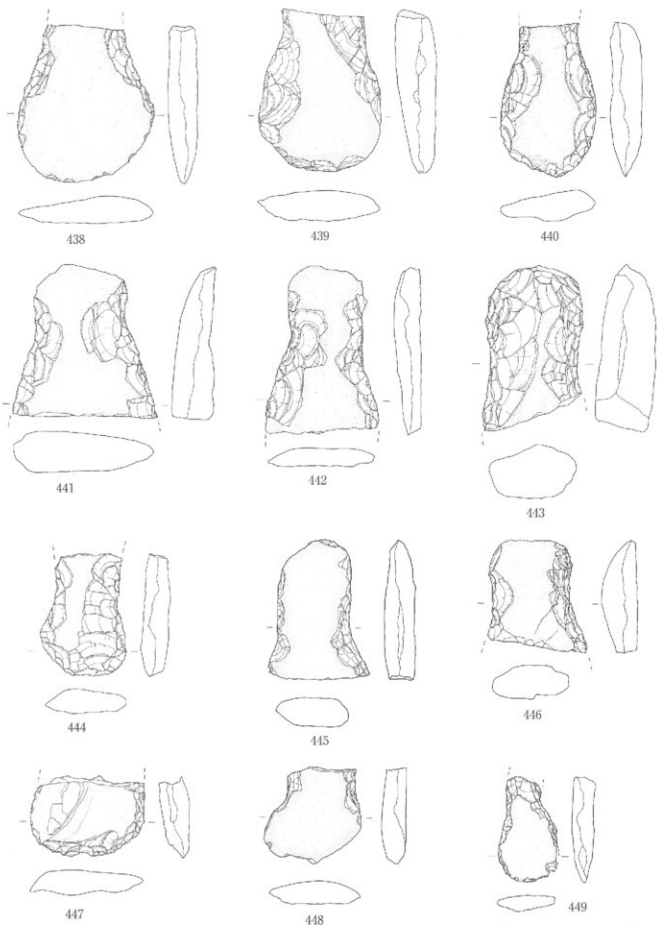
第109図 石製品実測図28 (S=1/3)



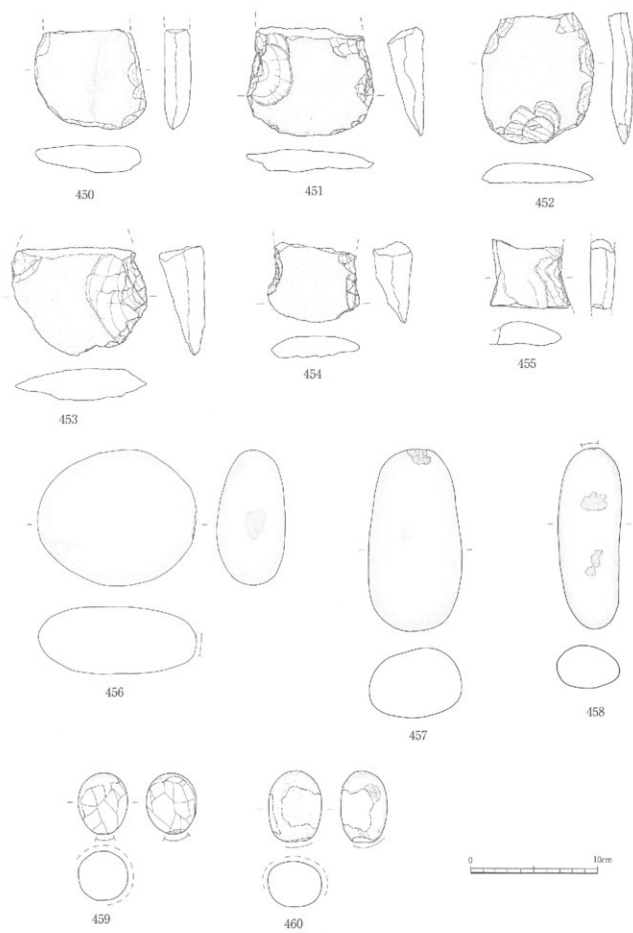
第110図 石製品実測図29 (S=1/3)



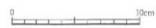
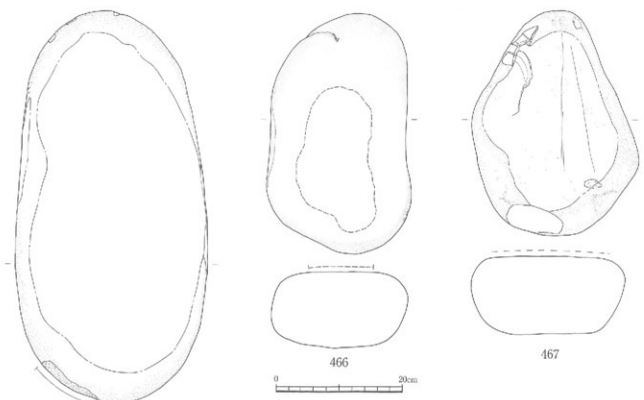
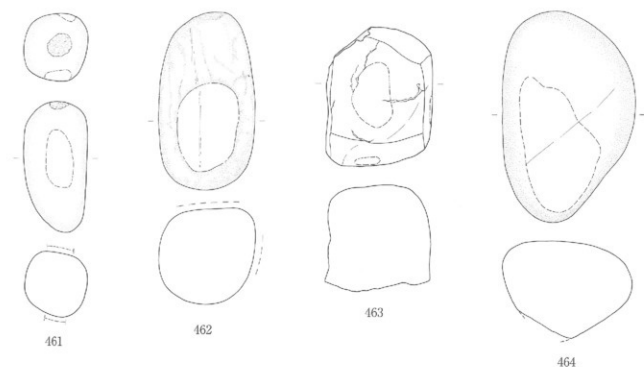
第111图 石製品実測図30 (S=1/3)



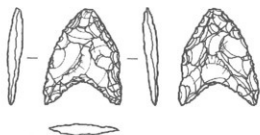
第112图 石製品実測図31 (S=1/3)



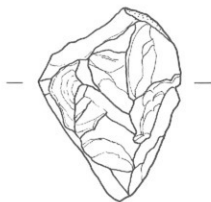
第113图 石製品実測図32 (S=1/3)



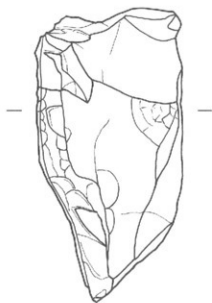
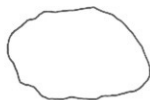
第114図 石製品実測図33 (S=1/3、466のみS=1/6)



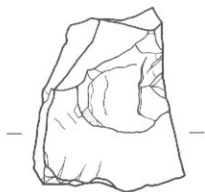
468



469



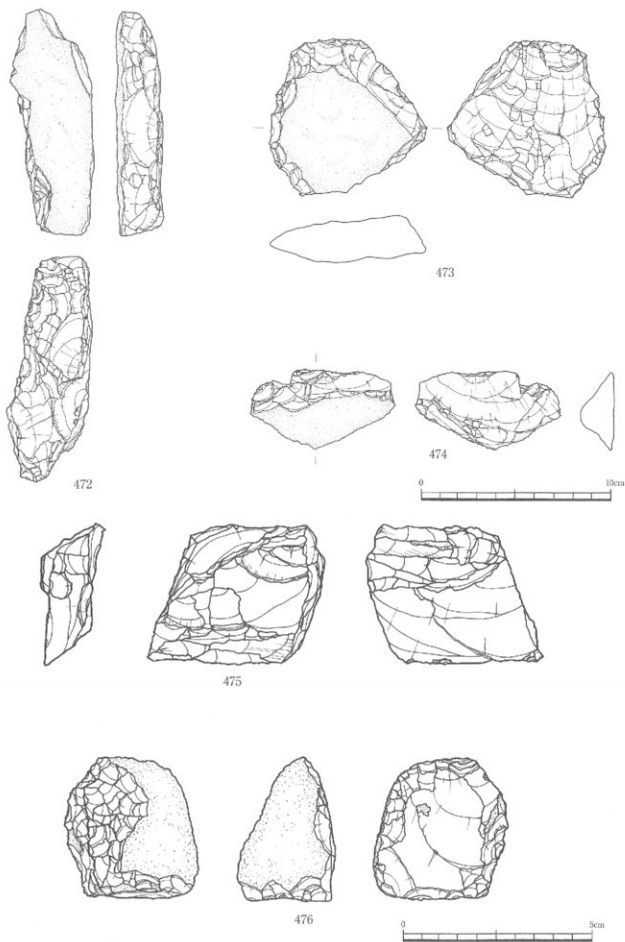
470



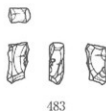
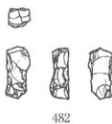
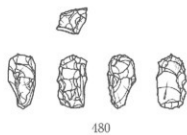
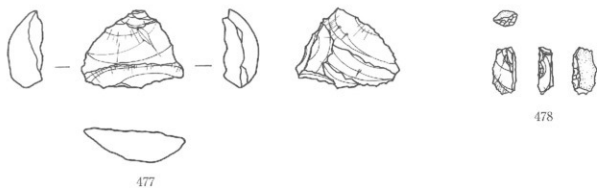
471



第115图 石製品実測図34 (S=1/1)



第116图 石製品実測図35 (472~474 S=1/2、475・476 S=1/1)



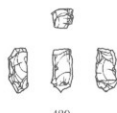
第117图 石製品実測図36 (S=1/1)



487



488



489



490



491



492



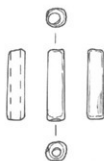
493



494



495



496



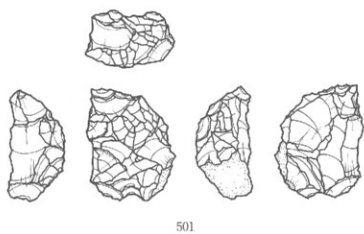
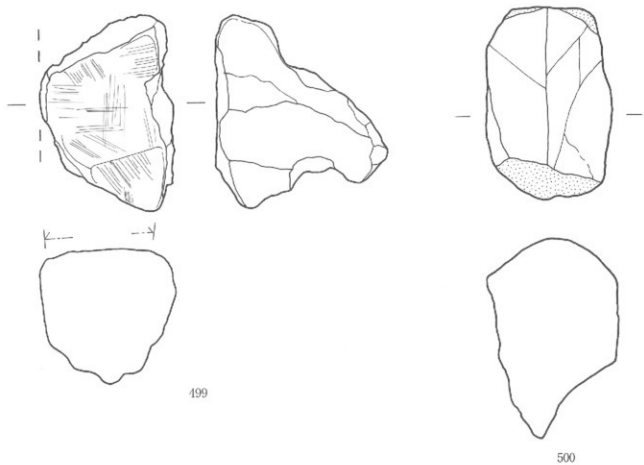
497



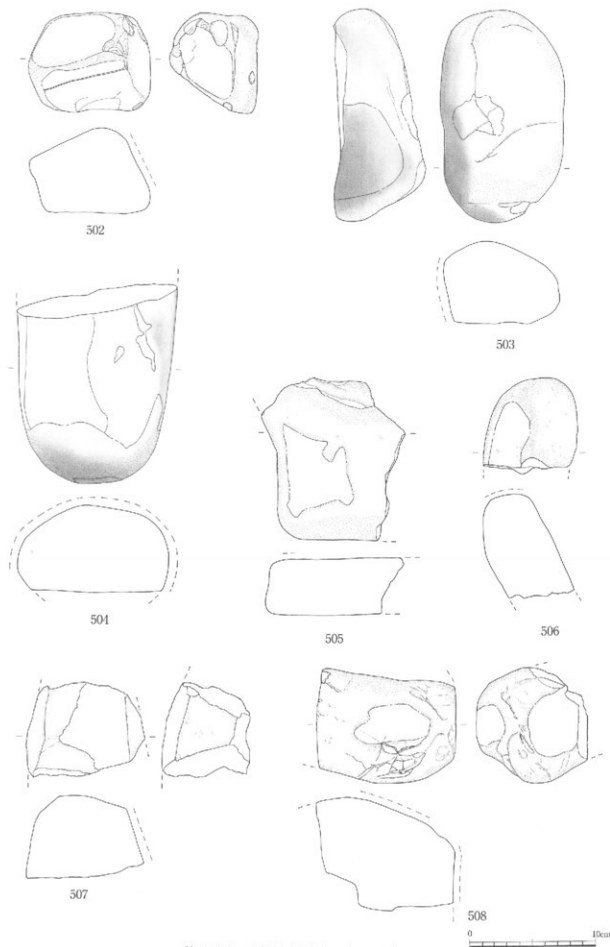
498



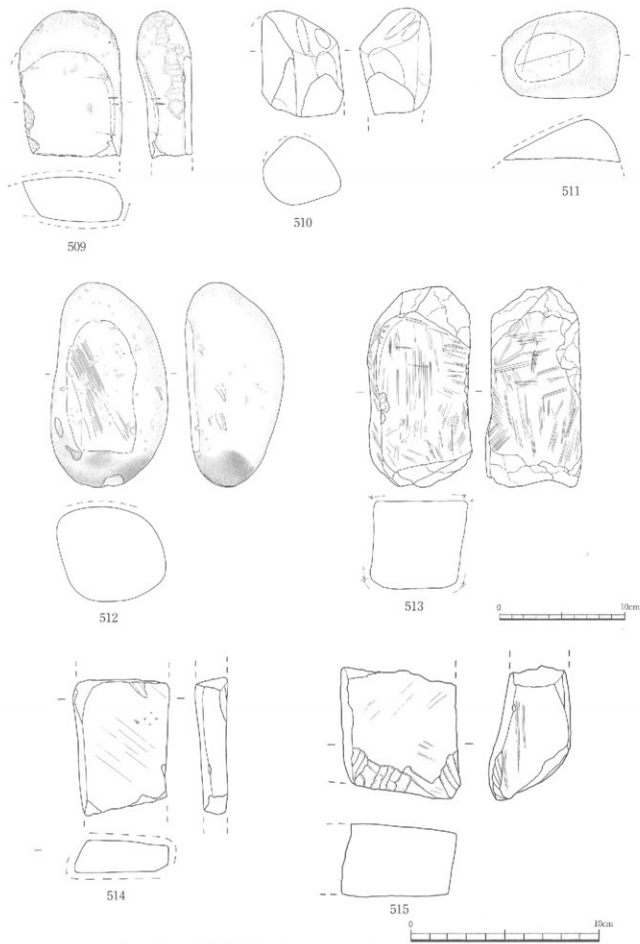
第118图 石製品実測図37 (S=1/1)



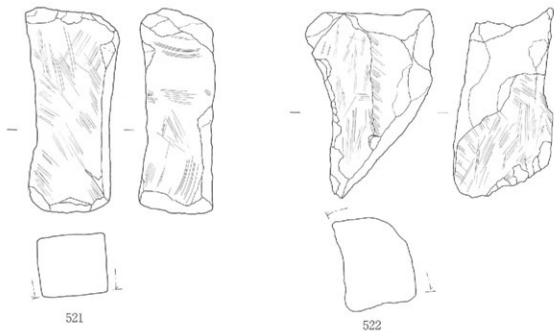
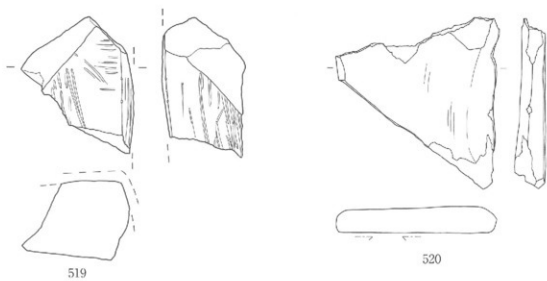
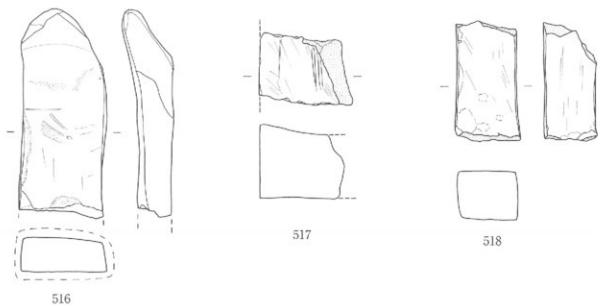
第119図 石製品実測図38 (S=1/1)



第120图 石製品実測図39 (S=1/3)



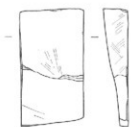
第121图 石製品実測图40 (509~513 S=1/3、514、515 S=1/2)



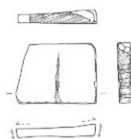
第122図 石製品実測図41 (S=1/2)



523



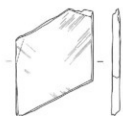
524



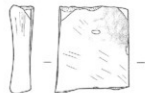
525



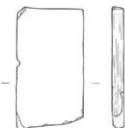
526



527



528



529



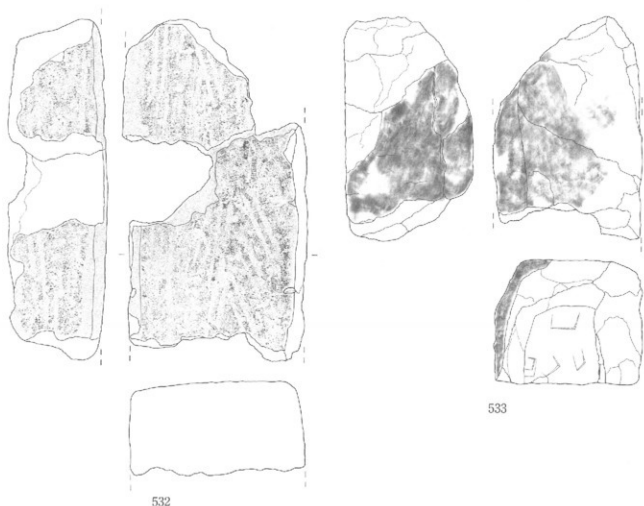
530



531

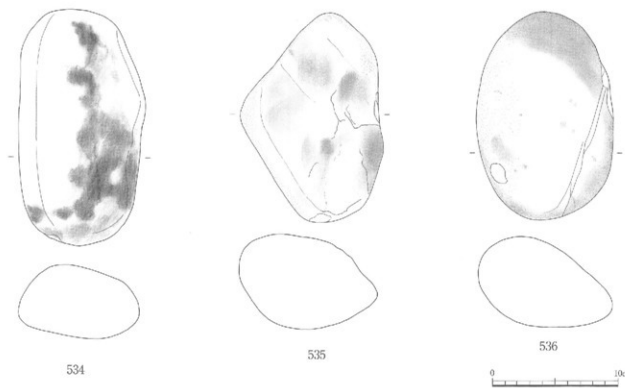


第123图 石製品実測図42 (S=1/2)



533

532



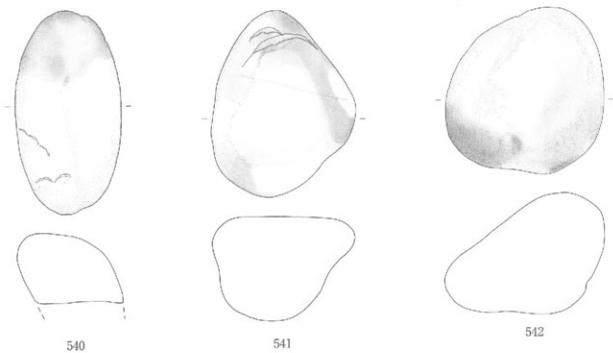
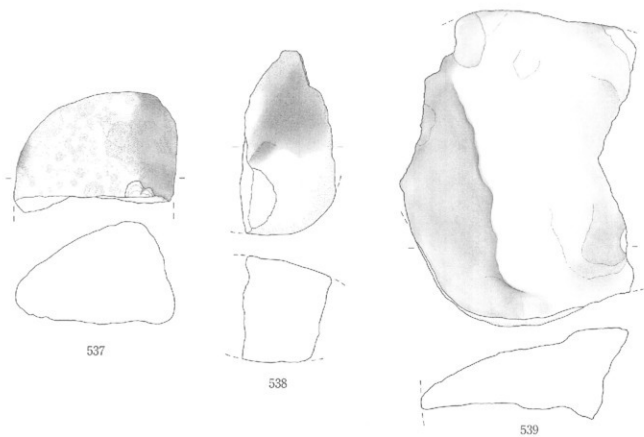
534

535

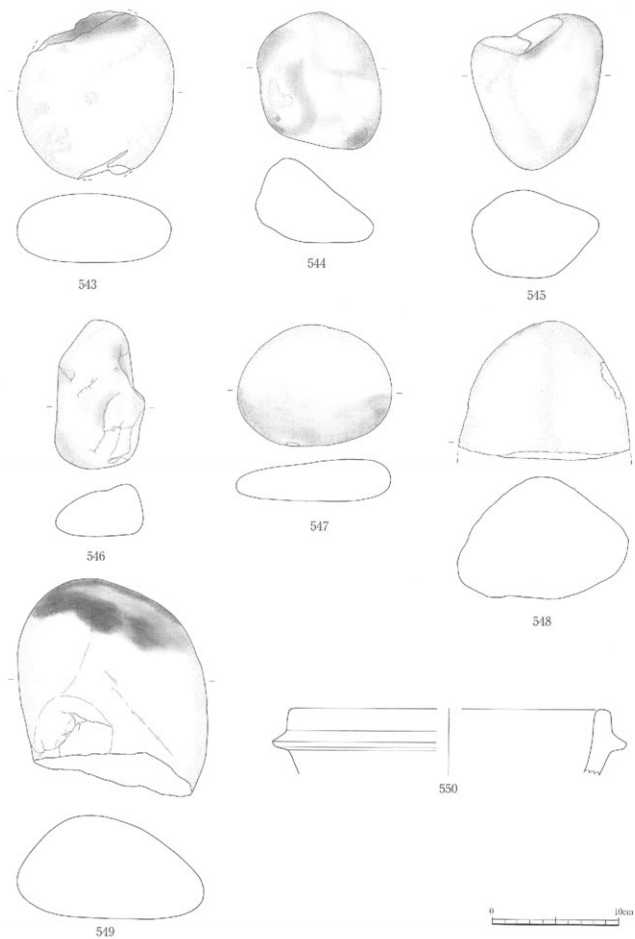
536



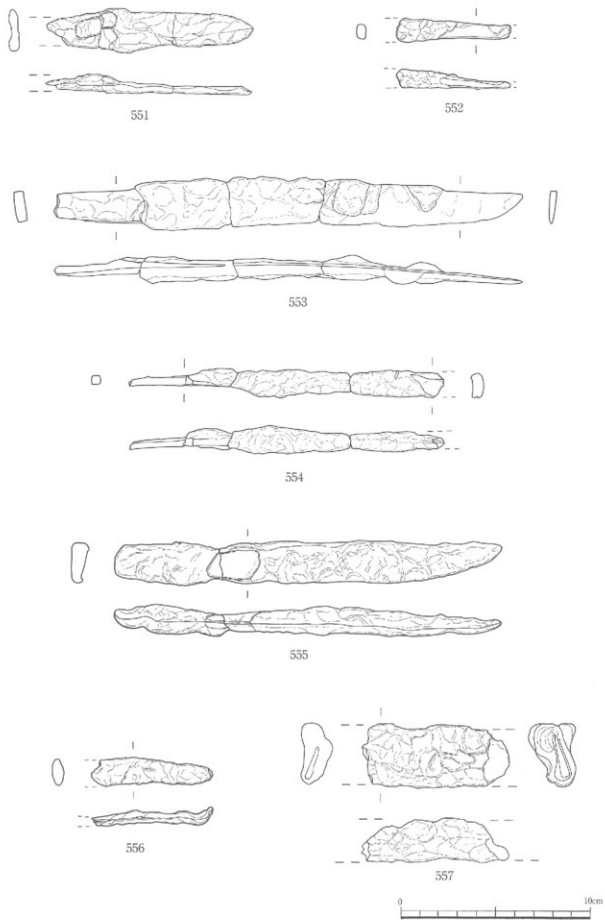
第124図 石製品実測図43 (S=1/3)



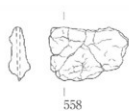
第125図 石製品実測図44 (S=1/3)



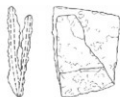
第126图 石製品実測図45 (S=1/3)



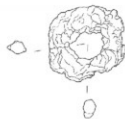
第127图 鉄製品実測図46 (S=1/2)



558



559



560



561



562



563



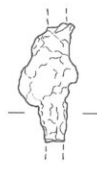
564



565



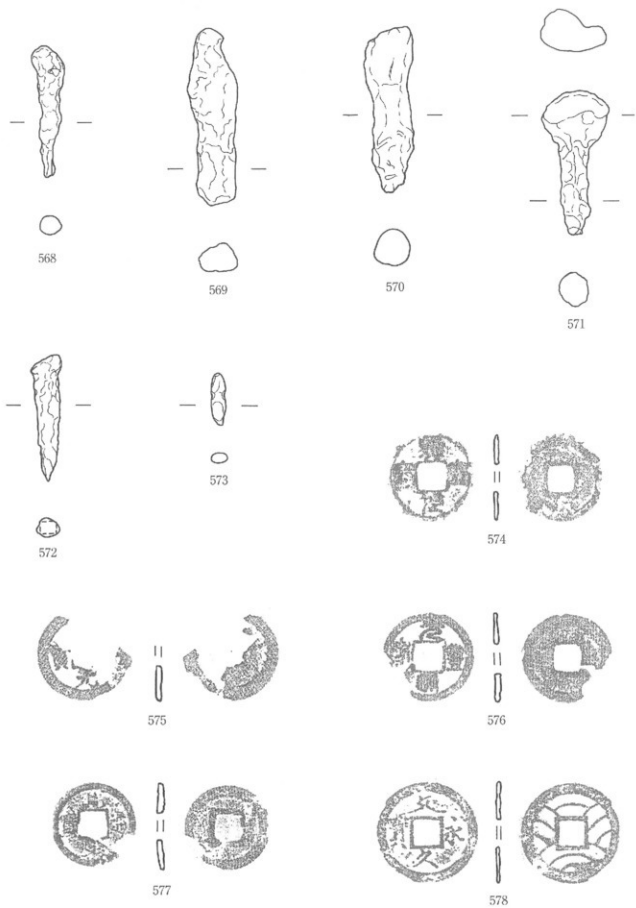
566



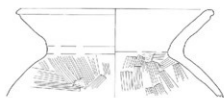
567



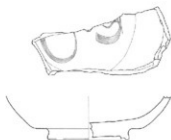
第128图 鉄製品実測図47 (558~563 S=1/2、564~567 S=1/1)



第129図 鉄製品・銅銭実測図48 (S=1/1)



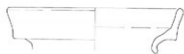
579



582



580



581



583



第130图 SH周溝出土遺物実測図49 (S=1/3)

第4章 総括

本調査地で縄文時代から近世にかけての遺構や遺物を発見することができた。以下は、時代毎に様相を説明していく。

縄文時代

主要な遺構は確認できなかったが、D・G・H区で、縄文時代後晩期の土器片数点が出土した。

弥生～古墳時代

本調査では、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、布掘建物跡、土坑、古墳などを確認した。調査地の東側にあたるA～K区は集落域になり、F区南西端とL区北西端で検出した鞍部を挟んだ西側は、複数の古墳を設営した墓域となる。このように、集落域と墓域が谷地により明確に区分された構造を見ることができた調査事例はほとんどない。今後、弥生から古墳時代における集落構造を考えていく上で、貴重な情報を提供できたと考える。

今回の調査で、当該時期の竪穴建物を16棟確認した。この竪穴の中から出土した土器の様相や竪穴のプランから、以下のように大きく3時期にわかれることが想定される。

弥生時代後期後半～終末期	S I 1	S I 6	S I 9	S I 12	S I 13	S I 14	S I 16
弥生時代終末期	S I 2	S I 5	S I 7	S I 8			
古墳時代前期前半	S I 3	S I 4	S I 10	S J 11	S I 15		

但し、竪穴建物の中には、弥生後期・終末期・古墳前期と想定される土器が混在して出土しているものも見られ、今後検討する必要がある。

古代～中世

畝溝1～4は耕作のための溝群である。特に、畝溝3は長さ約35m以上まで延びる広大な耕作地で、近隣の調査では見られない規模をもつ。グリッドGの辺りで溝は一旦途切れることから、ここに東西方向の小道が存在していたと想定される。時期は中世の遺物が溝内に入り込んでいるが、本遺跡や三日市A遺跡など周辺の調査状況から古代までさかのぼると考える。

中世

掘立柱建物、竪穴状遺構、井戸などで構成される、13～14世紀にかけての集落跡である。B区グリッドE・F 20、D区グリッドB-24・25、F区グリッドH-32、G区グリッドE・F-24・25、J区グリッドH-29、K区グリッドK-28などで、掘立柱建物、竪穴状遺構、井戸の主要遺構が密集しており、当該地が生活空間にあたると思われる。周辺には宅地割りや排水機能をもったとされる南北・東西の溝が巡っており、計画的な村立がなされていたようである。

掘立柱建物や溝などの方位軸から、複数回の集落配置の変更があったと想定される。

近世

M区で方形大型土坑1基を確認した以外は、目立った遺構・遺物は見つかっていない。現在存在する集落は近世から成立したと考えられ、本調査地及び周辺は農耕地であったと思われる。

参考文献

- 垣内光次郎 1999 「石の文化誌」『中世北陸の石文化Ⅰ』北陸中世考古学研究会
- 河合忍 安英樹 1999 「石鍬雑考」『石川県考古資料調査・集成事業報告書 農工具』石川考古学研究会
- 柿田祐司 2006 「加賀・能登の様相」『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』北陸中世考古学研究会
- 田中照久・木村宏一郎 2005 「越前」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～実行委員会
- 田嶋明人 1986 「IV考察 漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター
- 永井久美男編 1994 『中世の出上銭－出上銭の調査と分類－』
- 藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- 藤田邦夫 1997 「中世加賀国の土師器様相」『中近世の北陸－考古学が語る社会史－』桂書房
- 宮下幸夫 1997 「在地窯「加賀窯」」『中近世の北陸－考古学が語る社会史－』桂書房
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 2011 『二日市イシバチ遺跡1』野々市町教育委員会
- 2012 『二日市イシバチ遺跡2』野々市市教育委員会

第2表 出上土器・陶磁器観察表

番号	タリッド 遺構	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整(外)		色調(外)		残存率	備考	実測 番号
						調整(内)	調整(内)	色調(内)	色調(内)			
1	B-20	壺	13.5	(20.8)	4.0		ナデ、ハケ	にぶい黄橙	口径 全周	縦凹線10条 体部に底状文 外面に黒・炭化物付着	15	
	SI 1						ナデ、ケズリ	にぶい黄橙	体部 2/3			
2	B-20	壺	16.0	19.9			ナデ	橙	頸部径 1/2		1	
	SI 1						ナデ、ケズリ	にぶい黄橙～灰黄				
3	B-20	高坏	24.8				ミガキ	にぶい橙～にぶい黄橙	口径 1/5		2	
	SI 1						ミガキ	にぶい黄橙				
4	B-20	脚部			12.6		ミガキ	灰褐	脚部 1/2弱		3	
	SI 1							灰褐				
5	C-20	底部					ハケ、ナデ	にぶい黄橙～褐灰	上部 全周		9	
	SI 2						ナデ、ケズリ	にぶい黄橙	底部のみ3/4			
6	C-20	壺	18.0	15.0	3.5		ハケ、ナデ	にぶい褐色、にぶい黄橙	口頸部 全周	縦凹線6～7条	12	
	SI 2						ナデ、ハケ、ケズリ	にぶい褐色、にぶい黄橙～灰黄	肩台くびれ部 全周			底部の内外面に炭化物付着
7	C-20	壺	30.7	26.2	4.0		225	にぶい橙	70%	外側に黒付着	692	
	SI 2						ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙				
8	C-20	壺			3.0		ナデ	浅黄橙	底部 全周	赤色粒含む	14	
	SI 2						ナデ	浅黄橙				
9	C-20	壺	19.6	16.6			ナデ、ハケ	灰褐～にぶい褐	口頸部 2/3	縦凹線6～7条 外面に炭化物付着	11	
	SI 2						ヨコナデ、ケズリ	明褐色～灰褐				
10	C-20	高坏	22.6				ミガキ	橙	坏部 2/3		10	
	SI 2						ミガキ	橙				
11	C-20	高坏		3.5	11.8		ミガキ	浅黄橙	柱状部 全周		8	
	SI 2						ハケ	浅黄橙				
12	C-20	高坏		3.4	11.8		ミガキ	にぶい黄橙	脚部 3/5		7	
	SI 2						ハケ、ナデ	にぶい黄橙	柱部 全周			
13	C-20	小型壺	8.7	8.8	12.0		ナデ	にぶい橙	頸・胴部 1/4	穿孔2孔	5	
	SI 2						ナデ	にぶい橙				
14	C-20	壺	16.0	11.0			ナデ、ハケ	にぶい橙	口頸部 ほぼ全周	内外面に黒付着	4	
	SI 2						ナデ、ケズリ	にぶい橙				
15	C-20	鉢	14.1		14.1		ハケ	にぶい橙	口縁・体部		6	
	SI 2						ケズリ	にぶい橙	1/8弱			
16	A-23	壺	16.8	12.8			ナデ	明黄褐	1/8		606	
	SI 3						ナデ	橙				
17	A-23	壺	(14.0)	14.0			ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙	1/9		582	
	SI 3						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙				
18	A-23	鉢	10.8	6.4			ナデ	橙	ほぼ定形	赤色粒含む	605	
	SI 3						ナデ、ハケ	橙				
19	B-24	壺	17.0	13.2			ナデ、ハケ	にぶい黄橙	1/7		504	
	SI 4						ナデ	にぶい黄橙				
20	B-24	壺	16.2	12.8			ヨコナデ、ハケ、ナデ	にぶい黄橙、にぶい橙	ほぼ全周	黒帯母、赤色粒少量含む	506	
	SI 4						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙、橙				
21	D-24	壺	13.4	11.0			ナデ、ハケ	にぶい橙、褐	1/3	石葉、窓黒、海綿骨針 少々含む	505	
	SI 4						ケズリ、ナデ	にぶい橙、褐				
22	B-24	高坏	22.0				ケズリ、ナデ	灰黄、黄灰	1/8	黒帯母少々含む	508	
	SI 4						ケズリ、ナデ	浅黄橙				
23	B-24	高坏	22.4				ミガキ	にぶい橙、褐灰	1/6	赤色粒多く含む 海綿骨針少量含む	507	
	SI 4						ミガキ	にぶい橙				
24	A-23	壺	10.2	28.0	7.0		ハケ	にぶい黄橙	1/2		583	
	SI 3						ハケ	にぶい黄橙	頸部 1/3			
25	B-23	壺	16.4	13.4			ミガキ	にぶい黄橙	1/8	内外面に赤彩痕 赤色粒、石英質粒含む	503	
	SI 4						ミガキ、ケズリ	にぶい黄橙				
26	B-23	裝飾器台			15.8		ミガキ	橙、にぶい黄橙	1/7	外面に赤彩痕	501	
	SI 4						ミガキ	にぶい黄橙				
27	B-23	底部			8.5		ハケ	にぶい橙、浅黄橙	全周	赤色粒少量含む	509	
	SI 4							灰				
28	C-25	壺	17.2	15.2	17.2		ナデ	にぶい黄橙	口縁 80%	縦凹線7条 指頸正裏 外面に黒付着	604	
	SI 5						ナデ、ケズリ	にぶい黄橙				
29	B-25	壺	20.7	17.6			ナデ、ハケ	橙	全周	縦凹線7条 指頸正裏 外面に黒付着	670	
	SI 5						ナデ、ケズリ	橙				
30	B-25	壺	16.9	12.0			ナデ、ハケ	橙	1/6	縦凹線5条 指頸正裏	668	
	SI 5						ナデ、ケズリ	橙				

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整 (外)		色調 (外)		残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)					
31	B-25	壺	112	頸部径 10.3	体部径 12.2	ナデ、ハケ	にぶい地	口縁部 3/4 体部 1/2	縦凹線10条	赤色粒含む	603	
	ナデ、ケズリ					澄						
32	B-26	壺	(144)	頸部径 (L)		ナデ	にぶい地	1/9	縦凹線9条	海面骨針多く含む	638	
	ナデ、ケズリ					澄						
33	C-25	甗	191	頸部径 16.6		ナデ、ハケ	澄	1/6	外面に黒付着	赤色粒含む	651	
	ナデ、ケズリ					澄						
34	B-25	壺	172	頸部径 13.1		ヨコナデ、ハケ	澄	1/4	海面骨針含む		397	
	ヨコナデ、ケズリ					澄						
35	C-25	高坏	(185)			ミガキ	澄	1/9	内外面に赤彩痕	赤色粒含む	652	
	ミガキ					にぶい黄緑						
36	C-25	高坏	(196)			ミガキ	にぶい黄緑	1/12			650	
	ミガキ					にぶい黄緑						
37	B-25	高坏	206				澄	1/8	赤色粒含む		663	
	ミガキ					澄						
38	B-25	高坏			柱部径 2.9	ミガキ	澄	全周	外面に赤彩痕	赤色粒含む	667	
	ミガキ					澄						
39	B-25	高坏			脚部径 3.4		にぶい地	全周	海面骨針含む		665	
	ミガキ					にぶい黄緑						
40	C-25	高坏			脚部径 3.2	ミガキ	明赤黒	全周	透孔 3箇所		649	
	ミガキ、ケズリ					澄						
41	B-25	高坏			柱部径 3.0	ミガキ	浅黄緑	1/2	赤色粒含む		660	
	ミガキ					にぶい黄緑						
42	B-25	高坏			柱部径 2.4	ケズリ、ハケ	浅黄緑	全周	透孔 1箇所		664	
	ミガキ					にぶい黄緑、澄						
43	B-25	高坏	114	112	14.0	ミガキ	にぶい黄緑、澄	3/4	内外面に赤彩痕	外面に黒斑	602	
	ミガキ					にぶい黄緑						
44	B-25	高坏	98		脚部径 2.6	ミガキ	澄	全周	内外面に赤彩痕		666	
	ミガキ、ケズリ					澄						
45	C-25	高坏	134			ミガキ	浅黄緑、澄	坏部は全周 (口縁部は1/8)	外面に赤彩痕	海面骨針多く含む	617	
	ミガキ					澄、赤彩						
46	B-25	裝飾器台	162			ミガキ	明赤黒	3/4	内外面に赤彩痕		600	
	ミガキ					明赤黒						
47	B-25	裝飾器台			柱部径 3.3	ミガキ	澄	1/2	内外面に赤彩痕	赤色粒含む	601	
	ハケ					澄						
48	C-25	高坏			12.2	ミガキ	澄	全周	内外面に赤彩痕	赤色粒含む	646	
	ミガキ、ナデ					澄						
49	B-25	甗	127	頸部径 8.6		ナデ	澄	全周	赤色粒含む		669	
	ミガキ					澄						
50	B-25	鉢	94	56.5	34		澄		摩耗著しい		659	
	ミガキ					澄						
51	B-25	壺			脚部径 3.0	ナデ	にぶい地	全周	赤色粒含む		671	
	ナデ					浅黄緑						
52	C-25	甗部			5.1	ナデ	にぶい黄緑	ほぼ全周	赤色粒多く含む		620	
	ナデ					にぶい黄緑						
33	B-25	甗部			6.4		にぶい黄緑	全周	赤色粒含む		661	
	ミガキ					澄						
54	C-25	小瓶土器	4.7	4.5	0.6	ミガキ	にぶい黄緑	ほぼ全周	赤色粒含む	口縁部透孔4箇所	653	
	ナデ					澄						
35	C-25	甗	葦任 9.2	つまみ径 2.2		ミガキ	にぶい地	3/4	赤色粒含む		621	
	ナデ					にぶい黄緑						
56	C-25	甗	葦任 11.6			ミガキ	明赤黒	1/3	海面骨針含む		648	
	ハケ、ケズリ					澄						
57	B-25	甗部			7.6	ミガキ	澄	全周			662	
	ケズリ、ナデ、ミガキ					澄						
58	D.F-23	甗	16.1			ナデ、ハケ	澄	口縁部 1/4	縦凹線10条	体部に波状文	560	
	ナデ、ケズリ					澄						
59	D.E-23	甗	17.6	頸部径 15.2	体部径 18.4	ナデ、ハケ	にぶい黄緑	1/5	縦凹線8条	体部に刺突文	583	
	ナデ、ケズリ					にぶい黄緑						
60	D.E-23	甗	16.3	頸部径 13.8		ナデ	にぶい黄緑、澄	1/4	縦凹線5条	体部に刺突文あり	536	
	ナデ、ケズリ					にぶい地						
61	D.E-23	甗	(222)			ナデ	にぶい黄緑	小片	縦凹線5条	表面に赤彩痕	549	
	ナデ、ハケ、ケズリ					にぶい黄緑						

番号	グランド 遺構	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整(外) 調整(内)	色調(外) 色調(内)	残存率	備考	実測 番号
62	D.E-23	甕	17.2	頸部径 15.6		ナデ	橙、にぶい黄緑	1/2	瓶口縁6条	540
	ナデ、ケズリ					にぶい黄緑				
63	F-23	甕	17.2	頸部径 14.2		ナデ	にぶい橙	全周	瓶口縁6条	555
	ナデ、ケズリ					橙				
64	D.E-23	甕	17.3	頸部径 13.9		ナデ	にぶい橙、橙	1/4	瓶口縁5条	554
	ナデ、ケズリ					橙				
65	D.E-23	甕	18.4	頸部径 14.4		ハケ	にぶい橙	2/3	瓶口縁8条 体部に刺突文	539
	ナデ、ハケ、ケズリ					にぶい橙				
66	D.E-23	甕	16.6	頸部径 14.5		ナデ	にぶい黄緑	1/6	瓶口縁5条 外面に條付着	547
	ナデ、ケズリ					にぶい黄緑				
67	D.E-23	甕	18.2	頸部径 14.6		ナデ		ほぼ全周	瓶口縁3条 外面に條付着	542
	ナデ、ケズリ									
68	D.E-23	甕	15.4	頸部径 13.5		ナデ、ハケ	にぶい黄緑	1/5	瓶口縁9条 体部に刺突文 外面に條付着	532
	ナデ、ケズリ					灰黄緑				
69	D.E-23	甕	11.6	頸部径 10.0	10.6	ナデ	明黄緑、浅黄緑	全周	瓶口縁6条	537
	ナデ					明黄緑、にぶい黄緑				
70	F-23	甕	(11.4)			ハケ、ケズリ	灰黄緑、にぶい黄緑	1/12	瓶口縁9条 外面に條付着	531
	ナデ					にぶい黄緑				
71	D.E-23	甕	11.1	頸部径 9.6	10.4	ナデ、ハケ	橙	1/4	体部に刺突文あり (口縁部は1/6)	530
	ナデ、ケズリ					橙				
72	E-23	甕	15.6			ナデ	橙、にぶい黄緑	1/3	外面に條付着	533
	ナデ、ケズリ					橙、明黄緑				
73	D.F-23	器台	24.2		柱部径 4.2		橙	全周	摩耗著しい	581
	ナデ					橙				
74	D.E-23	高坏				ミガキ	にぶい黄緑	1/3	透孔 1箇所	559
	ナデ					にぶい黄緑				
75	D.E-23	器台				ミガキ	にぶい黄緑	全周	透孔 3箇所	548
	ナデ					にぶい黄緑				
76	D.E-23	器台				ミガキ	にぶい黄緑	3/4	透孔 2箇所	545
	ナデ					にぶい黄緑				
77	D.F-23	器台			柱部径 4.0	ミガキ	明緑	2/3		546
	ナデ					にぶい橙				
78	D.E-23	狭輪器台			柱部径 3.6	ミガキ、ハケ	にぶい黄緑	1/3		557
	ナデ					にぶい黄緑				
79	D.E-23	脚部			輪部径 8.8	ミガキ、ナデ	にぶい黄緑	1/5	瓶口縁12条	558
	ナデ					にぶい黄緑				
80	E-23	壺	14.3	頸部径 12.2		ナデ、ハケ	黒褐色、にぶい黄緑	1/4	内外面に條付着	536
	ナデ、ケズリ					にぶい黄緑、濁灰				
81	D.F-23	甕	9.9	頸部径 4.6(5.4)		ハケ、ミガキ	明黄緑	2/3		544
	ナデ					明黄緑				
82	D.E-23	壺	14.8	頸部径 10.8		ナデ、ミガキ		1/3	内外面に條・赤彩痕 ひも通し孔1箇所	551
	ケズリ、ミガキ					橙				
83	D.E-23	壺	11.3	11.1	2.5	ナデ、ハケ	橙、にぶい黄緑	1/3	体部に刺突文 内面に條、外面に黄化物付着	538
	ナデ、ケズリ					灰黄緑				
84	D.E-23	底部			3.8	ナデ	にぶい黄緑	全周		562
	ミガキ					にぶい黄緑				
85	D.E-23	底部			1.6	ハケ	灰黄緑	1/6	外面に條付着	561
	ケズリ					にぶい橙				
86	E-23	底部			3.6	ハケ	にぶい黄緑	全周	外面に條、黄化物付着	541
	ケズリ					にぶい黄緑				
87	D.F-23	底部			4.8	ハケ、ナデ	にぶい黄緑	1/3		543
	ケズリ					にぶい黄緑				
88	D.E-23	底部			4.3	ハケ	明黄緑、黒	全周	外面に條付着	535
	ケズリ					黄灰				
89	F-23	高坏			12.6	ナデ、ケズリ、ミガキ	にぶい黄緑	瓶部 3/4 柱状部 全周	透孔 3箇所	572
	ミガキ					橙				
90	F-23	高坏			3.8	ミガキ	橙	柱状部 全周		373
	ナデ					橙、明緑				
91	F-23	甕	15.8			ナデ	にぶい黄緑	1/6	瓶口縁7条 外面に條付着	370
	ハケ					にぶい黄緑				
92	F-23	底部			6.0	ハケ	にぶい黄緑	1/8		375
	ケズリ					灰黄緑				

番号	グリッド 機種	器種	L径 (cm)	器高 (cm)	口径 (cm)	調整 (外)		現存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)			
93	F-23	底部			1.8		にぶい貴粉	全周	赤色粒含む	571
	ケズリ					にぶい貴粉				
94	F-23	小型盤	8.9	7.7	1.3		ミガキ、ナデ	定形		574
	ミガキ、ケズリ					にぶい貴粉				
95	J-22	蓋	12.9	10.3	11.1	体部径	ハケ	L径部 1/3	縦凹線6条 外面に煤付着	36
						ナデ、ケズリ				
96	J-22	夾	17.5				ナデ	L径部 1/5	縦凹線7条	26
						ナデ				
97	J-22	夾	(190)				ナデ	小片		28
						ナデ				
98	J-22	蓋	11.8				ヨコナデ、ハケ	L径部 1/4強		27
						ナデ、ケズリ				
99	J-22	底部			20		ハケ	全周		37
						ケズリ				
100	J-22	高坪	24.4				ミガキ	口径 2/3		24
						ミガキ				
101	J-22	高坪	25.8				ミガキ	環溝 全周		25
						にぶい貴粉				
102	J-22	高坪	(26.0)				ミガキ	L径部 1/9		30
						ミガキ				
103	J-22	高坪			13.7	体部径	ミガキ	1/3		33
						ミガキ				
104	J-23	蓋	8.9	8.3	8.3		ミガキ	L径部 1/5		29
						ケズリ、ナデ				
105	J-22	蓋	13.2	11.4	12.4	体部径	ナデ、ハケ	L径部 3/4	縦凹線4条	23
						ナデ、ケズリ				
106	J-22	高坪			8.4	体部径	ミガキ			32
						ケズリ、ミガキ				
107	J-22	蓋	13.4	5.9	3.7	つまみ径	ミガキ、ヨコナデ	つまみ部 全周 底部 1/4		31
						ナデ、ミガキ				
108	J-22	蓋	9.7	4.5	2.5	つまみ径	ミガキ	ほぼ定形		34
						ケズリ、ミガキ				
109	J-22	蓋	7.2	3.1	2.2	つまみ径	ミガキ	ほぼ定形		33
						ミガキ				
110	E-28	蓋	13.3	9.4	14.6	体部径	ナデ	縦凹線7条、体部に刺突文 内外面に煤、炭化物付着		81
						ナデ、ケズリ				
111	E-28	蓋	13.5	10.0			ナデ、ハケ	L径部 1/5	外面に煤付着	84
						ナデ、ケズリ				
112	E-28	脚部			3.0	柱部径	ナデ	部分的に全周	中孔大きい	83
						ナデ				
113	E-28	底部			7.8		ナデ	底部 1/3		82
						ナデ				
114	E-29	器台		(199)			ナデ	底部 1/12	縦凹線5条	86
						ナデ				
115	G-31	蓋	(16.5)				ナデ	1/12	外面に煤付着	120
						ナデ				
116	G-31	蓋	(27.7)				ナデ	小片	内面に煤付着	121
						ケズリ、ナデ				
117	G-31	底部			10.7		ミガキ	底部 1/5		122
						ナデ				
118	E-25	蓋	14.2				ナデ	1/8	内外面に赤彩痕 縦凹線12～13条	M31
						ナデ、ハケ				
119	E-25	蓋	12.7				ヨコナデ	小片	内外面に赤彩痕 縦凹線4条	M33
						ヨコナデ、ケズリ				
120	E-25	蓋	11.4				ヨコナデ	小片	内外面に赤彩痕 縦凹線6条	M32
						浅黄粉、橙				
121	B-25	高坪			3.0	柱部径	ミガキ	柱状部 定形		M85
						ナデ				
122	E-25	夾	17.7				ハケ、ナデ	1/5	体部に刺突文 外側に煤、縦凹線9～10条	M28
						ヨコナデ、ケズリ				
123	E-25	器台			4.4	柱部径	ミガキ	柱状部 1/2		M30
						ハケ、しほり目				

番号	グリーッド 遺構	形状	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整 (外)		色調 (外)		残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	調整 (内)	色調 (内)	色調 (内)			
124	E-23	器台				柱部径 4.7		灰白	柱状部 完形		透孔 6箇所 赤色粒含む	M27
	SI 13						しほり目	灰白				
125	G・H-29	壺	11.7					ハケ	1/3		瓶口線10条 指痕1度	M77
	SI 14						ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙				
126	G・H-29	壺	15.9					ナデ	1/10		瓶口線13条	M83
	SI 14						ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙				
127	G・H-29	壺	14.5					ナデ	1/7		瓶口線5条 赤色粒含む	M81
	SI 14						ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙				
128	G・H-29	壺	15.0					ナデ、ハケ	1/3		内面に煤、炭化物付着 瓶口線3条	M91
	SI 14						ヨコナデ、ケズリ、ナデ	淡赤橙				
129	G・H-29	壺	13.1					ヨコナデ、ハケ、ナデ	1/2		外面に煤付着 赤色粒、石灰質粒含む	M90
	SI 14						ヨコナデ、ケズリ、ナデ	にぶい黄橙、褐灰				
130	G・H-29	壺	18.2					ヨコナデ	1/8			M90
	SI 14						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙、褐灰				
131	G・H-29	壺	12.4					ヨコナデ、ハケ、ナデ	1/5		赤色粒含む	M79
	SI 14						ヨコナデ、ケズリ	灰白				
132	G・H-29	壺	15.5					ヨコナデ、ハケ	1/8			M82
	SI 14						ハケ、ナデ、ケズリ	にぶい橙				
133	G・H-29	高坏	11.8					ミガキ	1/2		内外面に赤彩痕	M88
	SI 14						ミガキ	淡赤橙、にぶい橙				
134	G・H-29	脚部				脚部径 10.2		ハケ、ナデ	1/4		赤色粒含む	M87
	SI 14						ハケ、ナデ	橙				
135	G・H-29	壺	12.8					ミガキ	1/8		外面に煤付着	M84
	SI 14						ミガキ	にぶい橙				
136	G・H-29	壺	14.0					ヨコナデ、ハケ	1/3		内外面に煤付着	M86
	SI 14						ヨコナデ、ハケ、ナデ	にぶい黄橙				
137	G・H-29	壺	8.8					ヨコナデ、ハケ、ナデ	1/4		赤色粒含む	M91
	SI 14						ナデ、ケズリ	にぶい橙				
138	G・H-29	痰	8.4					ヨコナデ、ミガキ	1/4			M78
	SI 14						ハケ、ナデ	褐灰、にぶい黄橙				
139	G・H-29	壺	13.6					ナデ	1/8		頸部に刺突文 赤色粒含む	M92
	SI 14						ナデ、ハケ、ケズリ	橙、褐灰				
140	I-28	壺	28.0	頸部径 23.2	体部径 32.5			ナデ、ハケ	口縁部 全周		外面に煤付着	94
	SI 15						ナデ、ケズリ	浅黄橙				
141	I-28	壺	16.2	頸部径 13.8				ナデ、ハケ	口縁部 1/6		瓶口線7条 指痕1度	103
	SI 15						ナデ、ケズリ	明黄褐				
142	I-28	壺	16.5					ナデ	口縁部 1/8強		瓶口線3条	95
	SI 15						ナデ	橙				
143	I-28	壺	(19.2)					ナデ	口縁部 1/9		瓶口線1条	102
	SI 15						ナデ、ケズリ	にぶい橙				
144	I-29	壺	15.4	23.5	頸部径 12.3			ナデ、ハケ	3/4		外面に煤付着	196
	SI 15						ナデ、ケズリ	にぶい黄橙				
145	I-28	壺	17.6	頸部径 13.5	体部径 21.5			ナデ、ハケ	口径 1/4 頸部 全周			195
	SI 15						ナデ、ケズリ	にぶい橙				
146	I-28	脚部				脚部径 (17.2)		ハケ、ナデ	1/12			104
	SI 15						ナデ	にぶい黄橙				
147	I-29	脚部				脚部径 21.6		ナデ	底部 1/12			96
	SI 15						ナデ	浅黄橙				
148	I-28	脚部				脚部径 14.4		ミガキ	底部 1/7弱		透孔 1箇所	100
	SI 15						ハケ、ナデ	明黄褐				
149	I-28	鉢	11.9	7.9				ミガキ、ナデ	2/3強			98
	SI 15						ミガキ、ナデ	橙				
150	I-29	壺	20.0	29.8	6.8			ナデ、ハケ	ほぼ定形		成状部縁紋 突帯紋 (3箇所)	119
	SI 15						ミガキ、ケズリ、ナデ	浅黄橙				
151	I-28	壺	16.3					ナデ	口縁部 1/8強		瓶口線5条 内面に煤付着	97
	SI 15						ナデ	にぶい橙				
152	I-28	壺	(25.8)					ナデ	小片			99
	SI 15						ケズリ	にぶい橙				
153	I-27	壺	(17.7)	頸部径 (14.6)				ナデ	1/9		瓶口線4条	109
	SI 16						ナデ、ケズリ	にぶい橙				
154	I-27	壺	16.2	頸部径 12.9				ナデ	口縁部 1/9 頸部 1/6		瓶口線5条 外面に煤付着	108
	SI 16						ナデ、ケズリ	橙				

番号	グリッド 番号	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整 (外)		色調 (外)		残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)	色調 (内)	色調 (内)			
153	I-27	壺		24.8			ナデ、ハケ	にふい橙	腹部 1/8	襷目線5条	110	
	ナデ、ケズリ						浅黄橙					
156	Z-21 SK 1	美	(26.2)	23.3			ナデ、ケズリ	にふい黄橙	口縁部 1/16	襷目線6条 折頸仕	40	
	ナデ						にふい黄橙					
157	Z-21 SK 1	金	15.2	40.6			ナデ、ケズリ	浅黄橙	口縁部 1/6		41	
	ナデ						浅黄橙					
158	Z-21 SK 1	壺	つまみ径 3.5	41	10.8		ナデ	橙	つまみ部 全周 底部 1/3		42	
	ナデ						橙					
159	Z-21 SK 1	舞部				舞部径 12.3	ミガキ	にふい橙	1/6		45	
	ハケ、ナデ						灰黄濁					
160	Z-21 SK 2	美	(18.3)				ナデ	にふい橙	口縁 1/10弱		43	
	ナデ						にふい橙					
161	C-20 SK 3	壺	30.8	頸部径 25.2			ナデ、ハケ	にふい橙	口縁部 1/6強	襷目線9条	75	
	ナデ、ケズリ						にふい橙					
162	D-20 SK 3	美	16.8	頸部径 13.2			ナデ、ハケ	にふい橙	1/4強	襷目線5条、折頸仕 外面に黒付着	76	
	ナデ、ケズリ						にふい橙					
163	D-20 SK 3	高坏	19.8				ミガキ	浅黄橙	口縁部 1/2		78	
	ミガキ						浅黄橙					
164	D-20 SK 3	高坏				柱部径 2.2	ミガキ	にふい橙	柱状部 全周		77	
	細いハケ						にふい橙					
165	B-24 SK 4	美	(13.8)	頸部径 (10.8)			ヨコナデ、ナデ	にふい黄橙	1/10		676	
	ナデ、ハケ						にふい黄橙					
166	B-24 SK 4	美	22.0	頸部径 16.8			ナデ、ハケ	橙	1/7	襷目線7条 赤色粒含む	679	
	ナデ、ケズリ						橙					
167	B-24 SK 4	壺	19.6	頸部径 16.4			ヨコナデ、ハケ	にふい橙	1/7	襷目線6条 指痕付あり	689	
	ヨコナデ、ケズリ						にふい黄橙					
168	B-24 SK 4	壺	19.4	頸部径 16.0				橙	1/7	摩耗著しい	683	
							橙					
169	B-24 SK 4	美	16.9	頸部径 12.6			ナデ、ケズリ	にふい黄橙	1/3		675	
	ヨコナデ						にふい黄橙					
170	B-24 SK 4	美	14.6	頸部径 12.3			ナデ	橙	1/4		677	
	ナデ						橙					
171	B-24 SK 4	高坏		柱状部 3.9	14.4		ハケ、ミガキ	橙	舞部 90%	透孔 4箇所 赤色粒含む	688	
	ケズリ、ハケ、ナデ						橙					
172	B-24 SK 4	器台	10.9	9.0	12.7		ミガキ	赤濁	全体の80%	透孔 3箇所 内外面に赤彩痕	680	
	ミガキ、ケズリ、ハケ						赤濁、黒濁					
173	B-24 SK 4	壺	10.8	頸部径 5.6			ミガキ	明黄濁	口縁部 1/7 頸部 1/2	海輪骨針多く含む 内面体部に仕痕	678	
	ナデ						明黄濁					
174	B-24 SK 4	小型壺	7.6	(6.8)	頸部径 7.05		ナデ、ミガキ	橙	口縁部 1/3	内外面に赤彩痕	682	
	ナデ、ミガキ						橙					
175	B-24 SK 4	器台		柱部径 3.6				橙	全周	透孔 2箇所	681	
							橙					
176	I-23 SK 6	壺	15.9	28.0	4.0		ヨコナデ、ハケ	にふい濁	口縁・底部 全周 体部 1/4		308	
	ヨコナデ、ケズリ						にふい濁					
177	F-23 SX 1	壺	20.4	頸部径 16.0			ナデ、ハケ	灰黄濁	1/2	外面に黒付着 指痕付	564	
	ナデ、ケズリ						にふい黄橙					
178	K-22 SX 2	美	17.4	頸部径 14.0			ナデ	にふい濁	口縁部 1/4弱 頸部 1/6	襷目線14条 外面に一部黒付着	80	
	ナデ、ケズリ						にふい濁					
179	A-23 SB 1	壺		体部径 8.9	3.8		ケズリ、ミガキ	灰黄濁	1/4	外面に赤彩痕	608	
	ケズリ、ミガキ						灰黄濁					
180	A-20 包含層	壺	(17.5)	頸部径 (13.2)			ナデ	橙	口縁部 1/9	襷目線7条 指痕仕	62	
	ナデ、ケズリ						にふい橙					
181	A-20 包含層	壺	(15.5)	頸部径 (11.1)			ナデ	にふい黄橙	口縁部 1/10	襷目線5-7条	63	
	ナデ						にふい橙					
182	A-21 包含層	美	17.7	頸部径 14.4			ナデ、ハケ	黄橙	口縁部 1/6	襷目線5条 指痕付あり	52	
	ナデ、ケズリ						浅黄橙					
183	A-21 包含層	壺	16.6	頸部径 12.6			ナデ	にふい黄橙	口縁部 1/8弱	襷目線6条 指痕付	55	
	ナデ、ケズリ						灰黄濁					
184	A-21 包含層	壺	(18.3)	頸部径 (15.5)			ナデ	にふい橙	口縁部 1/9	襷目線9条 指痕仕	33	
	ナデ、ケズリ						にふい橙					
185	A-21 包含層	美	17.1	頸部径 15.1			ナデ	橙	口縁部 1/6	襷目線6条	56	
	ナデ						橙					

番号	グリップ 透標	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整 (外)		色調 (外) 色調 (内)	残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)					
186	A-21 包含層 C-19 包含層	壺	(22.0)	頸部径 (18.3)			ナデ ナデ、ケズリ	にぶい澄 明褐色	口縁部 1/9	縦門線7条 指環7条	51
187	C-19 包含層 C-19 包含層	壺	17.7	頸部径 14.1			ナデ、ハケ ナデ、ケズリ	にぶい澄 にぶい澄	口縁部 1/4弱	縦門線7条 指環7条	69
188	A-21 包含層	壺	(20.8)	頸部径 (16.8)			ナデ	浅黄緑 明黄緑	口縁部 1/6 口径 1/12	縦門線5条 指環7条	70
189	A-21 包含層 C-19 包含層	壺	19.0	頸部径 15.6			ナデ ナデ、ケズリ	にぶい黄澄 にぶい黄澄	口縁部 1/8	縦門線6条 指環7条	54
190	包含層 C-19 包含層	壺	(20.0)	頸部径 16.1			ナデ、ハケ ナデ、ケズリ	黒褐 にぶい澄	口縁部 1/11 頸部 1/7	縦門線7条 指環7条	73
191	包含層 C-19 包含層	壺	20.4	頸部径 16.5			ナデ	灰褐 にぶい澄	口縁部 1/7	縦門線9条 指環7条	68
192	A-21 包含層	壺	28.0	頸部径 21.8			ナデ、ハケ、ヨコナデ ナデ	オリーブ黒 にぶい澄	口径部 1/6	外面に集付着	57
193	A-21 包含層	壺	17.6	頸部径 14.3			ナデ ナデ、ケズリ	浅黄緑 浅黄緑	口縁部 1/8		59
194	A-20 包含層	壺	17.4	頸部径 13.3			ナデ、ハケ ナデ、ケズリ	にぶい澄 にぶい澄	口縁部 1/6強		64
195	A-21 包含層	壺	19.1	頸部径 15.2			ナデ ナデ	澄 にぶい澄	口縁部 1/7		60
196	A-21 包含層	壺	16.6				ナデ ナデ	黒褐 にぶい黄澄	口縁部 1/7弱	外面に集付着	58
197	A-21 包含層 A-30 包含層	壺	17.6	頸部径 14.4			ヨコナデ ヨコナデ、ケズリ	浅黄緑 浅黄緑	口縁部 1/7強		197
198	包含層 C-19 包含層	高坏	(25.3)				ハケ、ミガキ ハケ、ミガキ	にぶい黄澄 にぶい黄澄	口縁部 1/17		65
199	包含層 C-19 包含層	脚部	20.5				ミガキ ナデ	にぶい澄 にぶい澄	口径 1/8		72
200	A-21 包含層	高坏			柱部径 3.6		ミガキ ハケ	浅黄緑 浅黄緑	柱状部 全周	透孔 3箇所(推定)	61
201	A-30 包含層	底部			4.0		ハケ、ナデ ハケ	明黄緑 明灰	底部 1/2弱		66
202	C-19 包含層 Z-21 包含層	底部			9.6		ヨコナデ ケズリ	にぶい澄 にぶい澄	底部 1/3		71
203	包含層 C-23 包含層	壺	12.0				ナデ ナデ	にぶい黄澄 にぶい黄澄	口縁部 1/3		50
204	包含層 D-23・24 包含層	壺	17.5	頸部径 14.4	体部径 18.5		ナデ、ハケ ナデ、ケズリ	にぶい黄澄 にぶい黄澄	口縁部 1/2 頸部 1/3	縦門線6条	584
205	C-23・24 包含層	壺	18.0	頸部径 14.7			ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ケズリ	明黄緑 にぶい黄澄	1/8	縦門線2条 外面に集付着	518
206	C-23・24 包含層 C-23 包含層	壺	19.0	頸部径 16.8			ナデ、ハケ ナデ、ケズリ	にぶい黄澄 にぶい黄澄	1/4	縦門線6条 指環7条	639
207	包含層 C-23・24 包含層	壺	19.2	頸部径 15.4			ナデ ナデ、ケズリ	にぶい黄澄 にぶい黄澄	1/3	縦門線5条 赤色粒含む	指環7条 640
208	C-23・24 包含層 F-22 包含層	壺	20.0	頸部径 16.0			ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ケズリ	明黄緑 明黄緑	1/8	縦門線7条	517
209	包含層 C-23・24 包含層	壺	18.8				ナデ ナデ、ケズリ	にぶい黄澄 にぶい黄澄	1/7	外面に集付着 指環7条 海刺骨針	565
210	包含層 B-23・24 包含層	壺	16.1				ハケ、ナデ ハケ、ナデ、ケズリ	澄 澄	1/6		638
211	包含層 B-23・24 包含層	壺	19.4	頸部径 15.4			ヨコナデ、ハケ ヨコナデ	にぶい黄澄 にぶい黄澄	1/4		656
212	包含層 A・B-22-24 包含層	壺	(11.4)				ナデ ナデ、ケズリ	にぶい澄 にぶい澄	1/9	縦門線4条	657
213	包含層 C-23 包含層	高坏	14.0	頸部径 13.0			ハケ、ナデ ハケ	澄 澄	1/6		600
214	C-23 包含層 C-23・24 包含層	高坏			柱部径 3.4		ミガキ ナデ	にぶい黄澄 にぶい黄澄	全周	赤色粒含む	641
215	包含層 C-23 包含層	高坏	13.1				ミガキ ミガキ	澄 澄	1/5	内外面に赤影痕 赤色粒含む	615
216	包含層 C-23 包含層	壺	10.4				ミガキ ミガキ	にぶい黄澄 にぶい黄澄	1/2	外面に黒斑	643

番号	グッド 遺構	図種	口径 (cm)	器高 (cm)	口径 (cm)	調整 (外) 調整 (内)	色割 (外) 色割 (内)	残存率	備考	実測 番号
217	C-23 包含層	壺	14.4		つまみ径 3.3	ミガキ ミガキ	明赤色 明赤色	ほぼ完形	内外面に赤彩	642
218	F-22 包含層	壺			つまみ径 3.1	ミガキ ケズリ	壺 壺	全周		566
219	C-26・27 包含層	壺	(20.8)	頸部径 (17.7)		ナデ	浅黄緑	1/13	胴部縮7条 赤色粒含む	88
220	C-26・27 包含層	壺	19.5	頸部径 17.1		ナデ、ケズリ	浅黄緑 浅黄緑 にぶい橙	口縁部 1/6強	胴部縮6条	87
221	C-D-26・27 包含層	壺	(26.9)	頸部径 (24.3)		ナデ	壺	口縁部 1/12	胴部縮4条	91
222	J-K-21 包含層	壺	12.1	頸部径 9.2	11.6	ナデ ミガキ、ケズリ	ナデ	口縁部 1/2 底部 1/4	胴部縮5条	38
223	J-19 包含層	壺	22.0	頸部径 19.1		ナデ	浅黄緑	口縁部 1/9		18
224	C-E-26・27 包含層	壺	12.0	頸部径 9.9		ナデ	壺	口縁部 1/7		89
225	C-D-26・27 包含層	高坏	30.5			ナデ、ケズリ ミガキ	浅黄緑 ミガキ にぶい黄緑	口縁部 1/5		92
226	C-D-26・27 包含層	高坏			柱部径 4.4	ミガキ	にぶい橙、暗灰黄 にぶい橙	柱状部 全周		93
227	J-K-21 包含層	高坏	20.5			ミガキ ミガキ	ミガキ	口縁部 1/4		39
228	C-E-26・27 包含層	壺	(14.4)	頸部径 (11.7)		ミガキ ミガキ	にぶい黄緑 にぶい黄緑	1/10		90
229	G-24 包含層	壺	12.6	頸部径 7.5		ナデ、ハケ ナデ、ケズリ	にぶい黄緑 にぶい黄緑	1/5		636
230	I-28 包含層	壺	(12.4)			ナデ ナデ	壺 にぶい橙	1/9		117
231	H-1-26・28 地山直上	壺	10.2			ナデ ミガキ	にぶい黄緑 にぶい黄緑	口縁部 1/2弱		105
232	J-K-29・30 地山直上				脚部径 10.1	ハケ、ナデ ナデ	壺 にぶい橙	底部 1/6		106
233	J-30・31 輪部	壺	(25.9)	頸部径 (22.0)		ナデ	浅黄緑	1/10	胴部縮14～15条	135
234	J-30・31 輪部	壺	(17.0)	頸部径 (14.0)		ナデ ナデ、ケズリ	にぶい橙 にぶい橙	口縁部 1/9	胴部縮10条 指頭圧痕	156
235	J-30・31 輪部	壺	14.7	頸部径 10.6		ナデ	浅黄緑	口縁部 1/3		157
236	J-30・31 輪部	壺	13.9	頸部径 10.4		ナデ	灰黄	口縁部 1/6		158
237	L-31 SD 43	底部			10.7	ケズリ、ナデ	明褐灰	底部 1/3弱		176
238	D-21 SD 3	高坏			柱部径 3.6	ナデ ミガキ、ナデ	浅黄緑 灰黄	柱状部 全周		16
239	C-20・21 SD 3	壺			つまみ径 3.0	ナデ	にぶい黄緑	つまみ部 1/5欠損		19
240	C-20 P 6	壺	(19.7)			ナデ ナデ	にぶい黄緑 浅黄緑	口縁部 1/11	外面に薬付者、胴部縮7条 指頭圧痕	49
241	A-21 P 4	壺	12.1	頸部径 10.8		ナデ	にぶい橙	口縁部 1/7	胴部縮4条	17
242	F-23 P 13	壺	(14.0)	頸部径 10.8		ナデ	にぶい黄緑	1/9	胴部縮5条	567
243	C-20 P 6	器台	17.2		柱部径 3.7	ナデ、ケズリ	にぶい橙～浅黄緑	柱状部 全周		74
244	Z-21 P 1	壺	16.5	口径 16.5	つまみ径 4.3	ナデ、ケズリ、ハケ ミガキ	壺	つまみ部 全周		47
245	Z-21 P 2	鉢	(30.4)	(9.5)		ナデ	浅黄緑	口縁部 1/9弱		48
246	I-28 包含層	須恵系 有台坏			8.6	ロクロナデ	灰	高台部 全周		116
247	D-21 SD 3	須恵系 有台坏			7.3	ロクロナデ	灰白 灰	底部 1/7		22

番号	グリップ 機種	器械	口径 (cm)	器高 (cm)	軌径 (cm)	調整 (外)		残存率	備考	実用 番号
						調整 (内)	色調 (内)			
248	G-31	弾薬器			8.5		ロクロナデ	灰	1/4	190
	SE 4	有台环					ロクロナデ	灰		
249	D-23・21	弾薬器	12.4				ロクロナデ	灰白、灰黄	1/8	319
	包含層	無台环					ロクロナデ	灰黄		
250	G-31	弾薬器			9.9		ケズリ、ナデ	灰	1/3強	139
	SE 4	短筒型					ナデ	灰		
251	4K	弾薬器	11.7				ロクロナデ	灰	1/6	254
	SD 35	巻					ロクロナデ	灰		
252	B・C 25	十脚器	7.8				ナデ	にぶい橙	1/5	655
	SI 5	皿					ナデ	橙		
253	C-24	土脚器	7.6	1.2	5.0		ナデ	橙	ほぼ定形	624
	P 10	皿								
254	C-25	土脚器	7.5	1.45			ナデ	浅黄橙	1/8	595
	包含層	皿						ナデ		
255	C-25	土脚器	7.8	1.4			ナデ	橙	1/8	583
	包含層	皿						ナデ		
256	C-25	土脚器	7.0				ナデ	橙	1/8	585
	包含層	皿					ナデ	橙		
257	C-25	土脚器	8.2				ナデ	にぶい橙	1/8	594
	包含層	皿					ナデ	にぶい橙		
258	H-32	土脚器	8.0	1.3	(40)		ナデ	浅黄橙	1/7	165
	SI 35	皿								
259	G-31	土脚器	(8.2)	1.3	(6.0)		ナデ	浅黄橙	1/12	134
	SE 4	皿								
260	G-31	土脚器	8.2	1.5	4.0		ナデ	にぶい黄橙	1/6	128
	SE 4	皿								
261	G-31	土脚器	7.4				ナデ	浅黄橙	1/8	133
	SE 4	皿					ナデ	浅黄橙		
262	G-31	土脚器	7.8	1.4	4.2		ナデ	にぶい黄	1/6	130
	SE 4	皿								
263	G-31	土脚器	7.7	1.5	5.0		ナデ	浅黄橙	1/4強	129
	SE 4	皿								
264	C-20・21	土脚器	7.3	1.3	4.8		ナデ	浅黄橙	1/5	20
	SD 2	皿								
265	D-35	土脚器	8.6	1.8			ナデ	淡橙	8/10	赤色粒含む
	SD 26	皿						ナデ		
266	T31・32	土脚器	8.6	(1.5)	(5.0)		ナデ	浅黄橙	1/8	163
	SD 33	皿								
267	L-32	土脚器	7.8	1.6	5.0		ナデ	浅黄橙	1/5	178
	SD 35	皿								
268	L-31	土脚器	8.2	1.5	4.5		ナデ	淡赤橙	3/4	173
	SD 35	皿								
269	G-30	土脚器	8.3	1.6			ナデ	淡橙、淡赤橙	ほぼ定形	灯心油漬 赤色粒含む
	P 11	皿						ナデ		
270	J・K 27・28	土脚器	6.4	1.1			ナデ	にぶい橙	1/8	赤色粒含む
	包含層	皿						ナデ		
271	J区	土脚器	7.0	1.35	4.0		ナデ	浅黄橙	1/6	191
	断面	皿								
272	G・H-29	土脚器	8.2	1.4			ナデ	浅黄橙	1/3	赤色粒含む
	包含層	皿						ナデ		
273	N-35	土脚器	8.3	1.7	3.0		ナデ	橙	金属	186
	包含層	皿								
274	G-31	土脚器	8.9	1.0	7.0		ナデ	浅黄橙	1/5	131
	SE 4	皿								
275	E-20	土脚器	8.3	1.1	5.0		ナデ	浅黄橙	1/8	79
	P 3	皿								
276	C-25	土脚器	7.3	1.3	6.2		ナデ	にぶい橙	1/5	赤色粒含む
	包含層	皿								
277	J・K 27・28	土脚器	8.6	1.2			ナデ	にぶい橙、灰黄	1/8	灯心油漬 赤色粒含む
	包含層	皿						ナデ		
278	E・F 23・24	土脚器	8.7	1.6			ナデ	浅黄橙	1/7	赤色粒含む
	包含層	皿						ナデ		

番号	グリッド 建構	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	口径 (cm)	調整 (外)		色調 (外)	色調 (内)	残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	調整 (内)					
279	K-28 SI 32	十脚器 皿	8.9				ナデ	浅黄橙		1/6	赤色粒含む	M72
							ナデ	浅黄橙				
280	E・F23・24 包含層	十脚器 皿	8.0	1.5			ナデ	浅黄橙		ほぼ完形	赤色粒含む	M66
							ナデ	浅黄橙				
281	G-31 SE 4	十脚器 皿	9.0	1.65	6.0		ナデ	橙		1/5		133
							ナデ	橙				
282	D・E-25 SK 9	十脚器 皿	9.1	1.6			ナデ	浅黄橙、褐灰		1/5	内面に保付着 赤色粒含む	M45
							ナデ	浅黄橙				
283	K-28 P 15	十脚器 皿	9.0				ナデ	なぶい黄橙		1/6	灯心油裏	M75
							ナデ	なぶい黄橙				
284	N-35 P 12	十脚器 皿	9.8				ナデ	橙		1/10		190
							ナデ	橙				
285	E・F23・24 包含層	十脚器 皿	10.4	2.2			ナデ	淡橙		1/5	赤色粒含む	M62
							ナデ	なぶい橙				
286	I-28 SI 29	十脚器 皿	(10.3)	(2.5)	(5.0)		ナデ	橙		1/11		113
							ナデ	橙				
287	I-28 SI 29	十脚器 皿	10.8	2.6	5.0		ナデ	なぶい黄橙		1/3弱		111
							ナデ	橙				
288	C20・21 SD 2	十脚器 皿	10.9	2.6	5.5		ナデ	浅黄橙		口縁部 1/8		21
							ナデ	なぶい橙				
289	E-25 SD 16	十脚器 皿	10.9	2.3			ナデ	淡橙		1/4	赤色粒含む	M36
							ナデ	淡橙				
290	L-31 SD 35	十脚器 皿	9.5	2.1	4.0		ナデ	灰白		1/7		175
							ナデ	灰白				
291	G-31 SE 4	十脚器 皿	(10.8)	2.5	(5.5)		ナデ	なぶい橙		1/9		127
							ナデ	なぶい橙				
292	E-25 SI 22	十脚器 皿	12.7				ナデ	浅黄橙		1/7	赤色粒含む	M46
							ナデ	浅黄橙				
293	I-28 SI 29	十脚器 皿	(12.1)				ナデ	なぶい橙		1/10		114
							ナデ	なぶい橙				
294	H-32 SI 35	十脚器 皿	(11.5)				ナデ	浅黄橙		口縁部 1/14		167
							ナデ	浅黄橙				
295	I-27・28 SK 14	十脚器 皿	12.7				ナデ	なぶい橙		1/4強		115
							ナデ	なぶい橙				
296	M・N31・36 包含層	十脚器 皿	12.3				ナデ	橙		1/8		187
							ナデ	橙				
297	G-31 SE 4	十脚器 皿	(11.3)	2.8			ナデ	なぶい黄橙		口縁部 1/11 体部 1/6		132
							ナデ	なぶい黄橙				
298	I-28 SI 29	十脚器 皿	12.7	2.5	9.0		ナデ	なぶい橙		1/7		112
							ナデ	橙				
299	L-32 SD 35	十脚器 皿	12.1	2.3	9.0		ナデ	淡橙		1/5		179
							ナデ	淡橙				
300	G・H29 包含層	十脚器 皿	12.0	1.4			ナデ	浅黄橙		1/6	赤色粒含む	M107
							ナデ	浅黄橙				
301	B-23 SI 4	十脚器 皿	12.0				ナデ	明黄橙		1/6		502
							ナデ	明黄橙				
302	B-25 SI 19	十脚器 皿	11.4	2.3	8.4		ナデ	なぶい橙		1/6	赤色粒含む	687
							ナデ	なぶい橙				
303	B-25 SI 19	十脚器 皿	12.0	2.7	9.6		ナデ	なぶい黄橙		1/3	赤色粒含む	686
							ナデ	なぶい黄橙				
304	G-31 SE 4	十脚器 皿	(12.6)	2.5	(6.0)		ナデ	なぶい黄橙		1/9強		123
							ナデ	なぶい黄橙				
305	G-31 SE 4	十脚器 皿	(11.3)	2.8	(5.0)		ナデ	なぶい橙		1/12		125
							ナデ	なぶい橙				
306	G-31 SE 4	十脚器 皿	11.5	2.4	5.8		ナデ	橙		1/4強		121
							ナデ	橙				
307	E-22・23 SD 15	十脚器 皿	12.5	2.6	7.6		ナデ	明黄橙		1/4		530
							ナデ	明黄橙				
308	E-25 SD 16	十脚器 皿	12.2				ナデ	浅黄橙		1/6	赤色粒含む	M37
							ナデ	浅黄橙				
309	B-25 SI 19	十脚器 皿	11.4	2.85	6.2		ナデ	なぶい黄橙		1/3	赤色粒含む	685
							ナデ	なぶい黄橙				

番号	グリップ 遺構	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	口径 (cm)	調整 (外)		色調 (外)		残存率	備考	実照 番号
						調整 (内)	色調 (内)					
310	H-32	土師器 皿	(11.6)				ナデ	浅黄緑	口縁部 1/14			164
	SI 35					ナデ	浅黄緑					
311	C・D-23	土師器 皿	11.4	2.0			ナデ	橙	1/6	赤色粒含む		324
	SD 3					ナデ	橙					
312	2K	土師器 皿	11.3	2.8			ナデ	浅黄緑	1/3	赤色粒含む		M35
	SD 16					ナデ	浅黄緑					
313	C-25	土師器 皿	12.5				ナデ	にぶい黄緑	1/8			585
	包含層					ナデ	灰青緑					
314	B-20	土師器 皿	11.6				ナデ	にぶい黄緑	1/8			67
	包含層					ナデ	にぶい黄緑					
315	G-31	土師器 皿	12.3				ナデ	にぶい橙	1/6			126
	SR 4					ナデ	にぶい橙					
316	L-31	土師器 皿	13.0	2.2	8.0		ナデ	浅黄緑	1/5			171
	SD 35					ナデ	浅黄緑					
317	M-N34-36	土師器 皿	(15.3)				ナデ	浅黄緑	1/9			188
	包含層					ナデ	浅黄緑					
318	M-34	土師器 皿	(13.6)				ナデ	にぶい橙	1/10			189
	SF 6					ナデ	にぶい橙					
319	B-20	土師器 皿	13.3				ナデ	浅黄緑	1/6弱			46
	SD 2					ナデ	浅黄緑					
320	L-31	土師器 皿	14.0	2.0	11.0		ナデ	にぶい橙	1/7			174
	SD 35					ナデ	にぶい橙					
321	L-31	土師器 皿	14.5				ナデ	にぶい橙	1/6			172
	SD 35					ナデ	にぶい橙					
322	I-28	青磁 碗	(17.0)					明オリーブ灰	小片	外面 蓮弁文 内面 刻花文		101
	SI 29						明オリーブ灰					
323	G-31	青磁 碗	(17.0)					オリーブ灰	小片	蓮弁文		148
	SE 4						オリーブ灰					
324	G-31	青磁 碗	(17.3)					明オリーブ灰	1/10	蓮弁文		147
	SE 4						明オリーブ灰					
325	4K	青磁 碗	(17.0)					明オリーブ灰	1/12	蓮弁文		M100
	SD 26						明オリーブ灰					
326	F-28	青磁 碗	16.0					暗オリーブ	口縁部 1/15	内面 辻織2本		85
	SD 21						暗オリーブ					
327	C・D-23	青磁 碗			5.3			灰オリーブ	全周			525
	SD 3						灰オリーブ					
328	Hk	青磁 碗			5.4			オリーブ灰	完全			M2
	SD 19						オリーブ灰					
329	GR	青磁 碗			5.3			灰白	1/2	蓮弁文		M41
	SD 16						灰白					
330	C-25	青磁 皿	13.0	4.1	高台様 6.9			灰オリーブ	1/3	端に踏織描蓮弁文		588
	包含層						灰オリーブ					
331	Hk	青磁 皿	13.0					明緑灰	1/10	端反踏織描蓮弁文		182
	断面						明緑灰					
332	H-32	青磁 皿	(11.3)	(1.5)	(6.4)			灰白	1/16			168
	SI 35						灰白					
333	J・K-27・28	白磁 碗	18.1					灰白	1/10			M71
	包含層						灰白					
334	J・K-27・28	白磁 碗	14.3					灰白	1/12			M76
	包含層						灰白					
335	G-25・26	白磁 碗			高台様 5.1			灰白、浅黄	1/3			634
	SE 3						灰白					
336	C-25	白磁 碗			高台様 5.4			灰白	1/4			587
	包含層						灰白					
337	G・H-32	白磁 皿	11.0					灰白	1/7弱	口毛		169
	SD 31						灰白					
338	I-27・28	青白磁 合子	10.3	1.9	9.3			にぶい黄緑、明緑灰	1/7			407
	SI 28						灰白、明緑灰					
339	B-24	珠洲 壺	24.0					灰	5/6	肩部印花文3個		399
	SI 19						灰					
340	Jk	珠洲 壺	(17.8)					灰白、灰	1/10			192
	断面						灰白					

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調査(外)		残存率	備考	実測 番号
						調査(内)	色調(内)			
341	C・D-23	珠洲 寺			80.0		褐色	1/3	静止糸切痕 赤色粒含む	523
	SD 3						灰黄			
342	B-25	珠洲 ナリ鉢	37.4				灰	5/6		684
	SI 19									
343	B-25	珠洲 ナリ鉢	(27.5)				褐色	1/12		672
	SI 20						褐色			
344	3区	珠洲 ナリ鉢	27.3				褐色	1/6	海綿骨針含む 白色粒含む	M74
	SI 30						褐色			
345	B-24	珠洲 ナリ鉢					黄灰	小片		311
	SE 1						黄灰			
346	B-24	珠洲 ナリ鉢			15.0		灰	1/6		514
	SE 1						灰			
347	G-25・26	珠洲 ナリ鉢			11.6		灰黄	1/3	静止糸切痕 348同	633
	SF 3						黄灰			
348	G-25・26	珠洲 ナリ鉢	35.4				黄灰	1/8	347と同一	632
	SE 3						黄灰			
349	G-31	珠洲 ナリ鉢	(32.7)	13.0	(15.6)		灰黄	胴部 1/5	静止糸切痕	142
	SE 4									
350	G-31	珠洲 ナリ鉢	(31.6)				灰黄	小片		146
	SF 4						灰黄			
351	G-31	珠洲 ナリ鉢	(26.7)				灰	1/13		145
	SE 4						灰			
352	G-31	珠洲 ナリ鉢	(26.0)				黄灰	1/12		144
	SE 4						黄灰			
353	J-30	珠洲 ナリ鉢	(15.5)		13.7		灰	底部 2/3		151
	SE 5						灰			
354	J-30	珠洲 ナリ鉢	(27.5)				灰	口縁部 1/10		150
	SE 5						灰			
355	J-30	珠洲 ナリ鉢	(29.8)				灰	1/15		149
	SE 5						灰			
356	N-36	珠洲 ナリ鉢			13.6		にふい黄橙	1/7	静止糸切痕	183
	SE 7									
357	H区	珠洲 ナリ鉢			10.0		灰白	1/6	黒色粒含む	M4
	SK 10									
358	C・D-23	珠洲 ナリ鉢			12.8		灰	1/6	海綿骨針少量含む	522
	SD 3									
359	C・D-23	珠洲 ナリ鉢			13.6		にふい黄橙、灰白	1/5	内外面に煤付着	521
	SD 3									
360	D-27	珠洲 ナリ鉢	37.9				灰	1/8	白色粒含む	M38
	SD 16						灰			
361	J区	珠洲 ナリ鉢	31.2				褐色	1/12	海綿骨針含む 黒色粒含む	M97
	SD 26						灰白			
362	H区	珠洲 ナリ鉢	30.7				灰	1/12	海綿骨針含む 白色粒含む	M98
	SD 26						灰			
363	G・H-32	珠洲 ナリ鉢			10.3		灰	1/4強	静止糸切痕	170
	SD 31									
364	I-31・32	珠洲 ナリ鉢			12.6		灰	底部 1/2		159
	SD 32									
365	I-31・32	珠洲 ナリ鉢			(9.6)		灰	1/11		161
	SD 33									
366	M-33・34	珠洲 ナリ鉢			12.3		灰	1/8	静止糸切痕	181
	SD 38									
367	G4区	珠洲 ナリ鉢	31.8				灰	1/5	白色粒、黒色粒含む	M64
	包含層						灰			
368	G区	珠洲 ナリ鉢	33.7				灰	1/8	海綿骨針含む	M63
	包含層						灰			
369	H区	珠洲 ナリ鉢	(34.0)				灰	小片		183
	包含層						灰			
370	C-23・24	珠洲 ナリ鉢	(32.2)				褐色黄	小片		637
	包含層						黄灰			
371	J区	珠洲 ナリ鉢			13.0		褐色	1/4	静止糸切痕	M104
	包含層									

序号	グリッド 遺構	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整 (外)		色調 (外)		残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	調整 (内)	色調 (内)	色調 (内)			
372	G-25・26 SE 3	越前 すり鉢	(25.4)					灰	灰	小片		630
373	G-25・26 SE 3	越前 すり鉢	31.6					にぶい黄	にぶい黄	1/8		631
374	N-35 SE 7	越前 すり鉢	(37.0)					浅黄緑	浅黄緑	1/12		181
373	GE SD 16	越前 すり鉢			15.6		ナデ、ケズリ	にぶい橙	明黄灰	1/4	白色粒含む	M40
376	J区 SD 26	越前 すり鉢	23.5				ナデ	にぶい橙、橙	にぶい橙	1/6	白色粒含む	M99
377	I-31・32 SD 33	越前 すり鉢			13.2					1/4		160
378	E-22・23 包含層	越前 すり鉢	(31.8)					にぶい橙	灰黄緑	1/10		529
379	L-32 SD 44	越前 壺	28.6					にぶい橙	にぶい橙	口縁部 小片 肩部 1/8弱		180
380	J-30 SE 5	加賀 壺	(29.0)					にぶい橙、にぶい黄緑	にぶい橙、にぶい黄緑	口縁部 1/8 胴部 1/6	体部に黒文 381と同一	152
381	J-30 SE 5	加賀 壺			(28.3)			にぶい黄緑	にぶい黄緑	1/10	380と同一	153
382	L-32 SD 35	加賀 壺			15.9			にぶい橙	にぶい橙	底部 1/4		177
383	J-30 SE 5	加賀 壺						にぶい黄緑	にぶい黄緑	小片	380、381と同一か 黒文	154
384	I-31・32 SD 33	加賀 壺						にぶい黄緑	にぶい黄緑	小片	格子文	162
385	E-21 SE 1	加賀 すり鉢			19.0			灰	灰	1/7		515
386	F-25 SE 22	加賀 すり鉢	22.9	10.2	11.0		ナデ	灰褐	灰褐	1/4	体部に黒文 381と同一	M47
387	G-31 SE 4	加賀 すり鉢	(22.1)	6.3				灰	灰	口縁部 1/9		138
388	G-31 SE 4	加賀 すり鉢	31.3				ナデ	黄灰	にぶい橙	1/8	体部に黒文 381と同一	143
389	G-31 SE 4	加賀 すり鉢			14.4		ケズリ	にぶい橙	灰褐	1/3強		141
390	GE SD 16	加賀 すり鉢		27.7			ナデ	黄灰	灰黄	1/10	白色粒含む	M39
391	J-29 SD 33	加賀 すり鉢	(29.4)				ナデ、おろし目	にぶい橙	灰黄	小片		118
392	H区 包含層	加賀 すり鉢			14.2		ナデ	灰	灰	1/6	白色粒、黒色粒含む	M8
393	H-30 SX 3	壺	15.1				ヨコナデ、ハケ、ナデ	にぶい橙、浅黄緑	浅黄緑	1/6	胴凹線2条 赤色粒含む	M101
394	J区 包含層	壺	16.2				ナデ	灰褐	灰褐	1/5	胴凹線7～8条	M103
395	H-23 包含層	壺	16.0				ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙	にぶい橙	1/6	胴凹線7条 指頭庄板	M12
396	J区 包含層	底部		2.7			ハケ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	底部 尖形		M108
397	J区 包含層	高坪	26.3				ナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	1/8	赤色粒含む 内外面に赤彩痕	M109
398	H区 包含層	深鉢			7.9		ミガキ	にぶい橙、明赤褐	にぶい橙、明赤褐			M7
399	C区 包含層	深鉢					朱黄文	にぶい黄緑	灰黄緑	小片	縦刺文	M58
400	H-22・23 包含層	縄文					ナデ	灰白	灰白	小片		629-1
401	H-22・23 包含層	縄文								小片	海綿音針含む	629-2
579	M-38～39 SH3埋溝	壺	15.6				ヨコナデ、ナデ、ハケ	にぶい橙、黄	灰褐、黄灰	ほぼ完形	赤色粒、黒色粒含む	T2

番号	グリッド		器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整 (外)		色調 (外)		残存率	備考	実測 番号
	規格						調整 (内)	色調 (内)					
580	O-38	SH4周溝	甕				ナデ	浅黄橙、明赤橙	小片	黒色粒、赤色酸化粒含む 外面に赤彩痕			T5
							ナデ	灰白、浅黄					
581	Q-38	SH4周溝	壺	14.0			ヨコナデ、ナデ	にふい黄橙、橙	1/12	内外面に赤彩痕			T4
							ヨコナデ、ナデ	にふい黄橙、橙					
582	M区	青磁	甕			6.4		浅黄	底部 1/3	内面 胡花文			T1
	硬面												

第3表 土製品観察表

番号	グリッド		器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	色調	備考	実測 番号
	規格								
402	J区	包含型	土鍾	3.5	(3.2)	149	にふい橙		M105
403	G-31	SE 4	土鉢	5.3	1.6	10.3			136
404	G-31	SE 4	土鉢	4.1	1.1	3.5			137
405	J区	硬面	土鍾	2.4	9.5	1.4	赤橙		194
406	A-25	包含型	土鍾	3.1	0.8	1.5			614

第4表 石製品観察表

番号	グリッド 透視	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考	実測 番号
407	G-23 包含層	打製石斧	13.3	7.0	3.4	400	珩岩		T6
408	H-24 包含層	打製石斧	13.7	5.3	2.8	245	粗流凝灰岩		T10
409	C・D-26・27 包含層	打製石斧	14.0	(7.5)	2.7	(300)	凝灰岩		石33
410	E23-F24 包含層	打製石斧	8.3	6.6	2.2	170	凝灰岩		T50
411	G-25 SK 10	打製石斧	8.8	7.5	2.6	205	粗流凝灰岩		T111
412	J-25 包含層	打製石斧	8.65	8.2	3.2	275	凝灰岩		T22
413	Z-22 包含層	打製石斧	18.6	7.5	3.9	459	珩岩	未使用	G16
414	H-25・26 包含層	打製石斧	17.4	8.5	3.9	535	火山礫凝灰岩		T15
415	A-23 D 7	打製石斧	14.3	5.3	2.5	245	砂岩		610
416	A-21 包含層	打製石斧	12.4	5.9	1.9	137	火山礫凝灰岩		G17
417	I-24 軌溝	打製石斧	14.35	10.3	3.0	310	凝灰岩		T3
418	E-28 SD 21	打製石斧	11.1	9.5	3.5	(426)	珩岩		石31
419	J-25 包含層	打製石斧	10.2	8.2	3.1	230	花崗岩片		T21
420	F-25 包含層	打製石斧	10.2	7.9	2.8	270	砂岩		T31
421	H-25 包含層	打製石斧	11.6	7.0	2.6	250	凝灰岩		T13
422	J-24 包含層	打製石斧	17.2	11.2	4.8	920	火山礫凝灰岩		T20
423	C-20・21 SD 11	打製石斧	(14.9)	(1.2)	4.1	(725)	火山礫凝灰岩		石5
424	I-25 包含層	打製石斧	12.5	5.2	2.3	242	凝灰岩		625
425	H-24 包含層	打製石斧	12.9	9.1	4.2	440	火山礫凝灰岩		T9
426	D区 包含層	打製石斧	(7.8)	6.1	2.6	(135)	火山礫凝灰岩		589
427	I-26 包含層	打製石斧	30.7	14.4	2.9	1,000	凝灰岩		T19
428	K-5 包含層	打製石斧	20.1	9.0	4.2	760	火山礫凝灰岩		T24
429	H-25・26 包含層	打製石斧	17.6	10.3	4.2	590	火山礫凝灰岩		T16
430	G-26 包含層	打製石斧	19.75	11.0	3.8	805	粗流凝灰岩	完形	T59
431	B-24 SD 13	打製石斧	17.9	8.0	2.9	515	珩岩		600
432	F-23 SI 7	打製石斧	15.6	8.9	2.5	375	火山礫凝灰岩		432
433	A-1 軌溝	打製石斧	16.1	8.3	3.2	540	火山礫凝灰岩	完形	T1
434	I-32 包含層	打製石斧	16.4	9.0	3.3	505	緑色凝灰岩		石48
435	D-26 包含層	打製石斧	14.8	9.1	3.7	555	火山礫凝灰岩		520
436	B-24 包含層	打製石斧	15.5	9.1	3.3	485	粗流凝灰岩		691
437	F-25 包含層	打製石斧	14.0	8.0	2.7	425	粗流凝灰岩		T52

番号	グリッド 座標	部種	最大長	最大幅	最大厚	重量 (g)	石 材	備 考	実測 番号
			(cm)	(cm)	(cm)				
438	F-25 包含層	打製石斧	12.6	10.7	2.4	360	火山礫凝灰岩		T54
439	H-26 包含層	打製石斧	(12.9)	9.6	3.2	(500)	火山礫凝灰岩		636
440	F-25 包含層	打製石斧	12.3	7.5	2.5	240	火山礫凝灰岩		T56
441	I-23 包含層	打製石斧	12.2	11.1	3.3	478	火山礫凝灰岩		T117
442	G-26 包含層	打製石斧	13.4	8.95	2.2	270	火山礫凝灰岩		T61
443	F-25 包含層	打製石斧	13.2	7.8	4.6	398	火山礫凝灰岩		T33
444	H-25 包含層	打製石斧	9.7	6.9	2.3	170	火山礫凝灰岩		T14
445	B-21 SI 1	打製石斧	11.1	8.0	2.4	260	火山礫凝灰岩		516
446	J-25 包含層	打製石斧	8.8	6.6	2.8	230	凝灰岩		T23
447	I-6 SI 13	打製石斧	6.1	9.0	2.5	165	粗流凝灰岩		T25
448	A-25 包含層	打製石斧	(7.65)	7.7	1.9	(145)	火山礫凝灰岩		611
449	G-23 包含層	打製石斧	8.2	4.8	1.8	78	安山岩		T5
450	C-D-26-27 包含層	打製石斧	(7.9)	8.7	2.2	(203)	火山礫凝灰岩		434
451	I-24 包含層	打製石斧	8.7	9.9	2.9	250	砂岩		T18
452	C-25 SI 5	打製石斧	(10.4)	8.8	1.7	(225)	火山礫凝灰岩		622
453	F-25 包含層	打製石斧	8.6	10.6	3.6	292	火山礫凝灰岩		T55
454	H-24 包含層	打製石斧	6.4	7.2	3.1	125	火山礫凝灰岩		T11
455	F-24 包含層	打製石斧	(5.5)	(6.3)	1.9	(93)	粗流凝灰岩		568
456	C-20 SI 2	礫石	10.7	12.5	5.4	1,048	砂岩		石3
457	C-25 SI 5	礫石	14.4	7.35	5.4	910	粗流凝灰岩		623
458	C-25 SI 5	礫石	14.3	4.9	3.4	365	砂岩		654
459	H-32 包含層	礫石	4.9	3.9	4.0	94	凝灰岩		Z46
460	H-32 包含層	礫石	5.6	4.1	3.6	120	凝灰岩		石45
461	D-E-23 SI 7	礫石	10.4	5.0	3.2	440	凝灰岩		363
462	B-20 P 5	礫石	14.0	7.6	7.6	1,237	安山岩		415
463	B-24 SK 4	礫石	(9.0)	8.3	9.8	(1,250)	火山礫凝灰岩		579
464	H-26 SI 25	礫石	16.7	10.4	(7.7)	(1,725)	砂岩		628
465	J-22 SI 8	礫石	31.0	13.2	6.5	4,720	砂岩		石9
466	B-25 SI 5	礫石	38.0	22.3	12.0	1,760	火山礫凝灰岩		580
467	E-29 SI 10	礫石	17.8	13.0	6.5	2,130	凝灰岩		Z32
468	G-H-29 SI 14	石楯	2.6	2.1	0.4	1.6	黒色頁岩		T117

番号	グレード 造橋	銘柄	最大長	最大幅	最大厚	重量 (g)	石材	備考	実測 番号
			(cm)	(cm)	(cm)				
469	F-20-21 SI 17	管玉未成品	5.1	3.7	2.8	49.1	珉石美	荒削	58
470	A-21 包含解	管玉未成品	7.8	3.9	2.3	85	緑色凝灰岩	荒削	石18
471	F-23 SI 7	管玉未成品	(4.9)	(4.0)	(2.3)	(50)	緑色凝灰岩	光削	576
472	G・H-29 SI 14	管玉未成品	4.45	12.0	2.6	171.7	緑色凝灰岩	荒削 A1	T114
473	G・H-29 SI 14	管玉未成品	8.3	8.3	3.0	200.2	緑色凝灰岩	光削 B1	T115
474	G・H-29 SI 14	管玉未成品	42.5	7.6	1.8	44	緑色凝灰岩	荒削 B1	T113
475	G・H-29 SI 14	管玉未成品	3.8	4.7	1.7	29.1	緑色凝灰岩	荒削 B1	T112
476	G・H-29 SI 14	管玉未成品	3.8	3.6	2.55	39	珉石美	荒削	T116
477	G・H-29 SI 14	管玉未成品	2.1	2.7	0.9	4.3	緑色凝灰岩	形削	T93
478	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.3	0.65	0.4	0.3	緑色凝灰岩	調整 B1	T119
479	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.6	1.1	0.8	0.9	緑色凝灰岩	形削 B2	T133
480	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.45	0.8	0.7	0.7	緑色凝灰岩	形削 B1	T123
481	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.5	0.8	0.5	0.5	緑色凝灰岩	形削 B1	T128
482	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.35	0.65	0.5	0.4	緑色凝灰岩	形削 C2	T120
483	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.1	0.6	0.4	0.3	緑色凝灰岩	形削 B1	T124
484	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.2	0.6	0.5	0.3	緑色凝灰岩	形削 B1	T125
485	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.0	0.6	0.5	0.4	緑色凝灰岩	形削 B1	T126
486	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.25	0.7	0.55	0.5	緑色凝灰岩	形削 C1	T129
487	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.1	0.5	0.45	0.3	緑色凝灰岩	形削 C2	T130
488	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.2	0.55	0.5	0.3	緑色凝灰岩	形削 C1	T131
489	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.2	0.6	0.5	0.3	緑色凝灰岩	形削 B1	T121
490	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.25	0.6	0.45	0.3	緑色凝灰岩	形削 B1	T122
491	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.3	0.6	0.5	0.4	緑色凝灰岩	形削 A1	T132
492	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.5	0.7	0.6	0.8	珉石美	形削	T134
493	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.1	0.5	0.4	0.3	緑色凝灰岩	形削 B1	T127
494	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.25	0.4	0.35	0.2	緑色凝灰岩	穿孔 B1	T135
495	G・H-29 SI 14	管玉未成品	1.1	0.4	0.35	0.2	緑色凝灰岩	穿孔 C2	T136
496	G・H-29 SI 14	管玉	1.9	0.5	0.5	0.6	緑色凝灰岩	成品 C2	T137
497	G・H-29 SI 14	勾玉	1.8	1.1	0.55	1.4	滑石	穿孔	T118
498	B-25 SI 5	勾玉	(1.5)	1.4	6.5	(1.6)	翡翠	成品	石1
499	G・H-29 SI 14	砥石	5.2	3.55	4.5	10	珉石		T89

番号	グリッド 遺構	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量 (g)	石材	備考	実測 番号
			(cm)	(cm)	(cm)				
500	C-25	磁石	5.1	3.3	3.4	(18.1)	軽石		644
	SI 6								
501	F-25 包含層	火打石	2.95	2.35	1.5	10.4	チャート	剥片	T57
	O-20								
502	SI 7	磁石	7.9	9.6	6.7	7.14	凝灰岩		石30
	G-31								
503	SE 4	磁石	16.8	9.8	(7.4)	(1.540)	火山礫凝灰岩	備付着	石38
	G-31								
504	SI 4	磁石	(15.9)	12.7	(7.5)	(2.210)	砂岩		石40
	C-20								
505	SD 2	磁石	(12.8)	(11.3)	(5.0)	(1.089)	火山礫凝灰岩		石12
	D-21								
506	SD 11	磁石	(9.0)	5.5	(7.6)	(5.72)	凝灰岩		石26
	C-20, D-21								
507	SD 2	磁石	(7.5)	(9.4)	(6.8)	(5.85)	火山礫凝灰岩		石25
	C-20, D-21								
508	SD 2	磁石	(9.0)	(11.0)	(8.9)	(1.206)	凝灰岩		石11
	C-20, D-21								
509	SD 2	磁石	(11.6)	(8.2)	4.2	(603)	砂岩		石13
	D-21								
510	SD 2	磁石	(8.5)	(6.5)	5.5	(347)	砂岩		石7
	C-20, D-21								
511	SD 2	磁石	(6.9)	(9.3)	(3.4)	(217)	砂岩		石27
	C-20, D-21								
512	SD 2	磁石	16.2	9.2	7.7	1.513	粗流凝灰岩	備付着	石23
	D-27								
513	SD 16	磁石	15.8	8.2	7.6	1.070	緑色凝灰岩	中磁石	T34
	G-31								
514	SR 4	磁石	(7.3)	5.1	1.7	(801)	凝灰岩	中磁石	石37
	J-30								
515	SE 3	磁石	(7.1)	(6.2)	4.3	(248)	凝灰岩	中磁石	石42
	C-20, D-21								
516	SD 2	磁石	(11.1)	4.6	2.8	(138)	凝灰岩	中磁石	石14
	G-23								
517	SD 2	磁石	(3.9)	(4.9)	3.9	(101.3)	凝灰岩	中磁石	635
	F-22-23								
518	SD 15	磁石	(6.5)	3.4	2.7	(105)	凝灰岩	中磁石	531
	L-31								
519	SD 35	磁石	(7.3)	(5.9)	(4.3)	(141)	凝灰岩	中磁石	石47
	F-24								
520	P 16	磁石	9.0	8.4	1.7	130	砂岩	中磁石	M48
	E-23-F-24 包含層								
521	J-30	磁石	10.9	5.0	3.9	253	凝灰岩	中磁石	T49
	SE 3								
522	J-30	磁石	10.9	5.9	5.2	230	凝灰岩	中磁石	T110
	包含層								
523	A-25	磁石	4.7	5.6	2.7	(61.2)	凝灰岩	中磁石	612
	包含層								
524	B-25	磁石	(6.3)	3.4	1.25	(39)	泥岩	仕上磁石	674
	SI 19								
525	F-25	磁石	3.1	4.3	0.6	149	泥岩	仕上磁石 噴出層	M44
	SI 24								
526	I-28	磁石	(3.8)	(3.8)	0.6	(11.0)	泥岩	仕上磁石	石35
	SI 29								
527	G-31	磁石	4.3	4.1	5.1	145	泥岩	仕上磁石 噴出層	M42
	SD 16								
528	C-25	磁石	(4.7)	3.9	1.3	(29.9)	凝灰岩	中磁石	590
	包含層								
529	A-25	磁石	(6.4)	3.5	0.6	(30)	泥岩	仕上磁石	613
	包含層								
530	J-29	磁石	(3.7)	2.9	0.6	(4.8)	泥岩	仕上磁石	石36
	包含層								

番号	グリップ 遺構	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量 (g)	石 材	備 考	実測 番号
			(cm)	(cm)	(cm)				
531	GF	瓠石	17.0	3.4	1.6	122	泥岩	仕上げ石	T69
	包含層								
532	J-30	炉石	(27.0)	14.1	(8.0)	(1,590)	凝灰岩	煤付着	石41
	SE 5								
533	G区	炉石	17.8	11.8	1.0	1,710	凝灰岩	煤付着 のみ痕あり	T43
	SD 16								
534	B-24	自然石	18.6	9.9	5.9	1,760	火山礫凝灰岩	煤付着	510
	SI 4								
535	D-20	自然石	16.5	11.3	7.5	1,695	砂岩	煤付着	石29
	SI 17								
536	O-20	自然石	16.4	10.8	7.1	1,656	粗流凝灰岩	煤付着	石28
	SI 17								
537	G-31	自然石	(9.6)	12.9	8.1	(1,260)	凝灰岩	煤付着	石39
	SE 4								
538	O-37	自然石	(14.7)	(7.5)	(8.5)	1,198	火山礫凝灰岩	煤付着	石49
	SK 14								
539	O-37	自然石	(18.7)	(18.7)	(7.2)	(3,315)	火山礫凝灰岩	煤付着	石50
	SK 14								
540	C-20, D-21	自然石	16.0	8.4	5.6	987	粗流凝灰岩	煤付着	石21
	SD 2								
541	C-20, D-21	自然石	14.8	11.4	8.3	1,646	火山礫凝灰岩	煤付着	石19
	SD 2								
542	C-20, D-21	自然石	13.1	12.5	9.6	2,082	凝灰岩	煤付着	石10
	SD 2								
543	C-20, D-21	自然石	(13.3)	12.3	5.4	(1,278)	火山礫凝灰岩	煤付着	石24
	SD 2								
544	D 21	自然石	10.8	9.7	6.7	826	凝灰岩	全面煤付着	石6
	SD 2								
545	C-20, D-21	自然石	12.4	10.4	7.0	1,072	火山礫凝灰岩	煤付着	石20
	SD 2								
546	C-20, D-21	自然石	11.8	7.1	4.2	490	凝灰岩	煤付着	石22
	SD 2								
547	I-31・32	自然石	9.7	12.1	3.4	528	砂岩	煤付着	石44
	SD 33								
548	I-31・32	自然石	(11.1)	13.4	(9.7)	(1,678)	火山礫凝灰岩	煤付着	石43
	SD 33								
549	B-24	自然石	(17.2)	14.8	8.0	(2,700)	火山礫凝灰岩	煤付着	578
	包含層								
550	A～E 22～27	石橋	口径			残存率	滑石	色調 地灰	607
	断面		25.2		1.13				
583	Q-38	打製石斧	15.7	7.5	3.6	495	火山礫凝灰岩		T3
	占墳内 遺構								

第5表 玉類の石材類型表

類型	色調	特 徴
A1	濃緑色	硬質
A2	濃緑色	硬質であるが、やや粗め
B1	淡緑色	硬質
B2	淡緑色	軟質
C1	白色	硬質
C2	白色	軟質

第6表 鉄製品・銭貨観察表

番号	グリッド	器種	最大長	最大幅	最大厚	質量 (g)	備考	実測 番号
	遺構		(cm)	(cm)	(cm)			
551	A-23	刀子	10.7	2.4	1.1	13.8		鉄3
	SI 3							
552	B-25	刀子	(6.0)	1.3	1.0	(8.3)		鉄7
	SI 5							
553	B-25	刀子	24.5	2.9	1.6	69.2		鉄4
	SI 19							
554	B-25	刀子	16.4	1.6	1.5	26.7		鉄5
	SI 19							
555	N-35	刀子	20.3	2.4	1.8	71.7		鉄8
	SD 40							
556	B-25	刀子	(6.3)	1.5	1.0	(6.8)		鉄6
	SI 20							
557	N-35	刀子	(7.7)	3.5	2.5	46.9		鉄9
	包含層							
558	H-26	刀子	4.1	2.8	1.2	15.9		627
	SI 25							
559	A-23	刀子	(8.5)	3.4	0.8	(21.9)		619
	包含層							
560	A-25	輪状製品	3.9	3.8	1.0	21		673
	P 9							
561	L-31	鉄洋	7.4	6.5	2.4	93.8	扇形洋	鉄2
	SD 35							
562	C-25	鉄洋	6.9	6.3	2.8	135.0	扇形洋	592
	包含層							
563	A-25	棒状製品	(7.0)	1.8	1.55	(31.7)		618
	包含層							
564	F-23	釘	4.4	1.2	1.0	7.0		569
	SK 8							
565	B-20	釘	2.8	1.9	0.7	2.4		鉄1
	SD 2							
566	C・D-23	釘	(4.4)	1.2	0.8	(6.8)		526
	SD 3							
567	E-22・23	釘	(3.2)	1.5	0.8	(3.9)		532
	SD 15							
568	D-25	釘	3.5	0.9	0.5	1.8		527
	P 11							
569	E-22・23	釘	(47.5)	1.35	0.8	(6.2)		528
	包含層							
570	C-25	釘	4.4	0.3	1.0	8.5		591
	包含層							
571	A-25	釘	(3.8)	1.8	1.1	(5.8)		615
	包含層							
572	A-25	釘	3.3	0.8	0.5	1.7		617
	包含層							
573	A-25	釘	1.4	0.4	0.3	0.2		616
	包含層							
574	H-23	熊掌元貨	2.3	2.3	1.5	1.9		T139
	SD2							
575	F-25	熊掌元貨	(2.3)	(2.6)	(0.2)	1.6		T143
	包含層							
576	K-25	元龜通貨	2.4	2.4	0.2	1.2		T140
	SD2							
577	J-26	宛水通貨	2.3	2.25	0.2	1.4		T141
	SD2							
578	H-23	文久水貨	2.7	2.65	0.1	2.5		T138
	SD2							



A区 (南西から)



D区 (北東から)



B区 (北西から)



D区 (北西から)



B区 (北から)



D区 (北東から)



C区 (南から)



E区 (東から)



F区 (南から)



K区 (南東から)



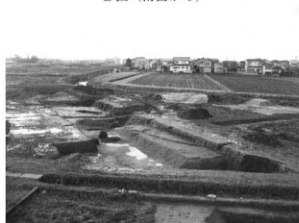
H区 (南から)



L区 (南西から)



I区 (東から)



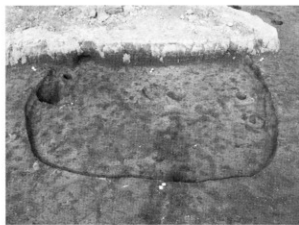
M区 (東から)



J区 (北西から)



B区 S11 (南西から)



B区 SI2 (西から)



D区 SI5 (北西から)



B区 SI2 遺物出土状況 (西から)



D区 SI6 (南東から)



D区 SI3 (北東から)



D区 SI6・7・21 (北東から)



D区 SI4 (北西から)



D区 SI7 土器 94 出土状況 (北東から)



D区 S17 (北西から)



F区 S111 (南東から)



C区 S18 (北東から)



G区 S112 (東から)



E区 S19 (北東から)



G区 S113 (南東から)



E区 S110 (南東から)



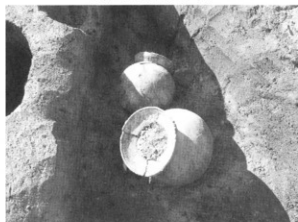
J区 S114 (北東から)



I区 S115 (西から)



D区 S119 遺物出土状況 (西から)



I区 S115 土器 144・150 (東から)



G区 S122 (東から)



I区 S116 (北西から)



G区 S123 (南から)



B区 S117・18 (東から)



G区 S124 (西から)



D区 SI25 (北東から)



I区 SI29 (南から)



H区 SI26 (南から)



K区 SI30 (南から)



H区 SI27 (南東から)



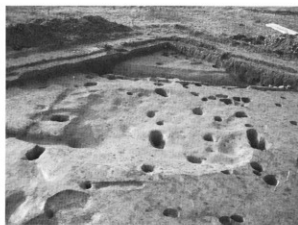
K区 SI31 (東から)



I区 SI28 (南から)



K区 SI32~34 (東から)



F区 S135、SB45・46 (東から)



B区 SB5 (北東から)



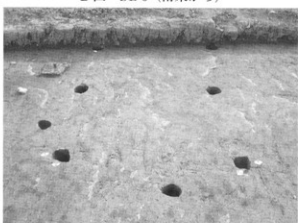
B区 SB1 (北東から)



B区 SB6 (南東から)



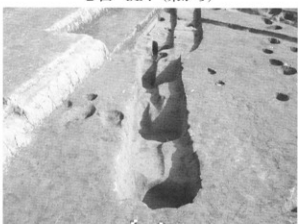
B区 SB2 (南西から)



B区 SB7 (東から)



B区 SB3・4 (北から)



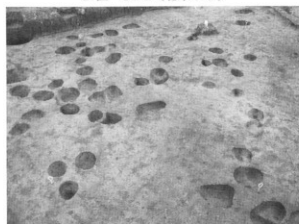
D区 SB8 (南西から)



D区 SB9 (北東から)



D区 SB26・27 (北東から)



D区 SB10 (南東から)



F区 SB45・46、S135 (西から)



L区 SB18・19 (北東から)



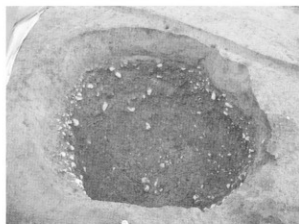
D区 SE1 (北西から)



B区 SB20・21、S117・18 (南から)



D区 SE3 (南東から)



F区 SE4 (北西から)



M区 SE8 (南から)



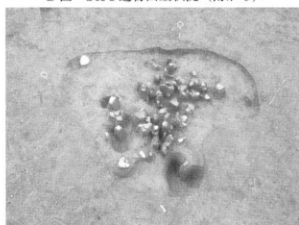
F区 SE5 (北西から)



B区 SK1 遺物出土状況 (南から)



M区 SE6 (南から)



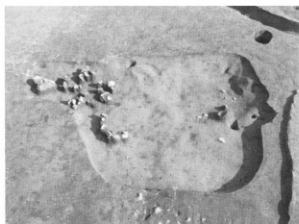
B区 SK2 遺物出土状況 (北から)



M区 SE7 (南から)



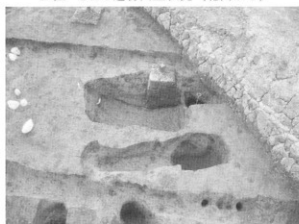
B区 SK3 遺物出土状況 (南東から)



D区 SK 4 遺物出土状況 (北西から)



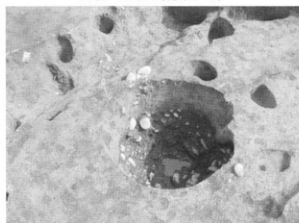
G区 SK 10 (南東から)



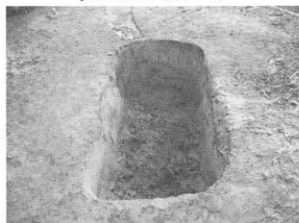
D区 SK 6 (北東から)



J区 SK 13 (南東から)



E区 SK 7 (北西から)



M区 SK 15 (北東から)



G区 SK 8 (南から)



B区 SD 2 (南東から)



B区 SD5~7 (西から)



L区 SD37 (南東から)



G区 SD16 (東から)



B区 溝1 (北から)



J区 SD26 (南西から)



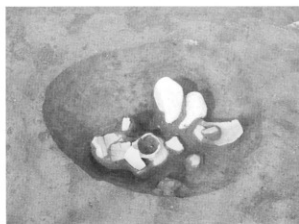
H区 溝3 (南から)



I区 SD27・28 (西から)



D区 溝間道路 (東から)



D区 P17 遺物出土状況 (南から)



M区 SH1・2 (西から)



D区 SX2 (南東から)



M区 SH3 (南東から)



D区 SX3 (南西から)



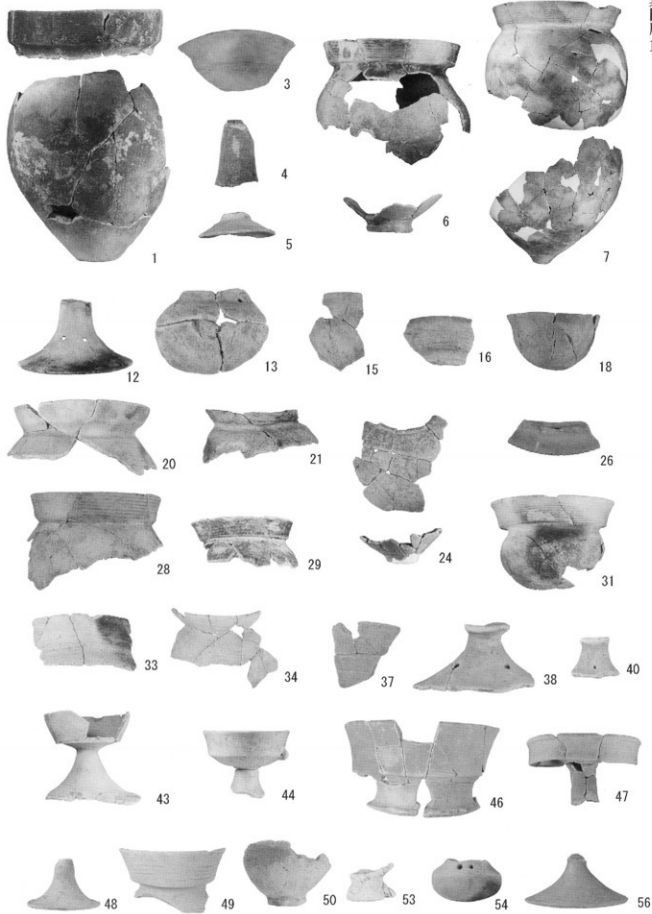
M区 SH4 (南から)

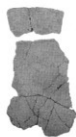


M区 SH1 (南西から)



M区 SH5 (北東から)





58



59



62



63



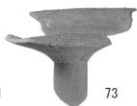
67



68



71



73



76



78



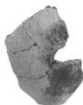
81



82



83



86



89



91



94



95



96



101



103



105



107



108



109



110



111



117



119



121



122



123



124



125



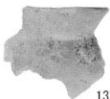
128



130



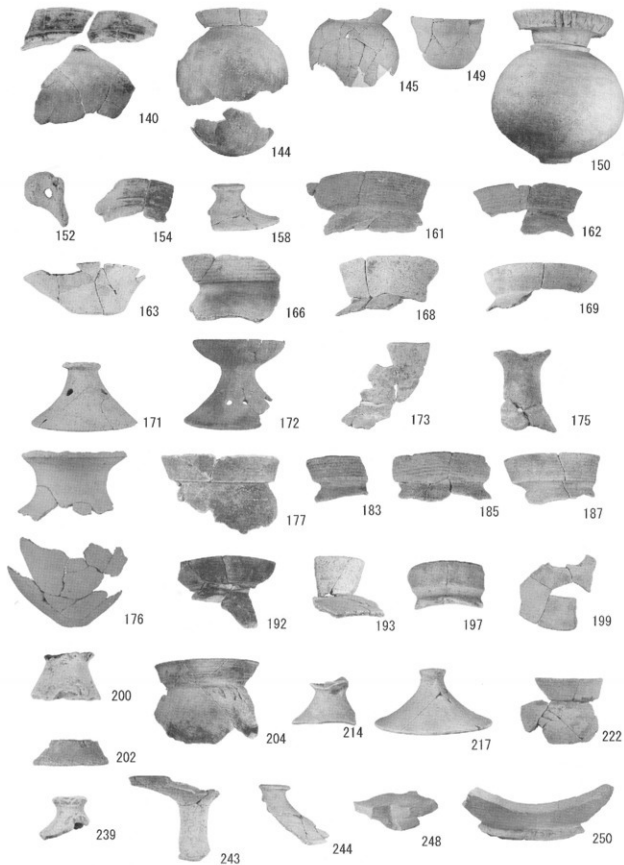
132

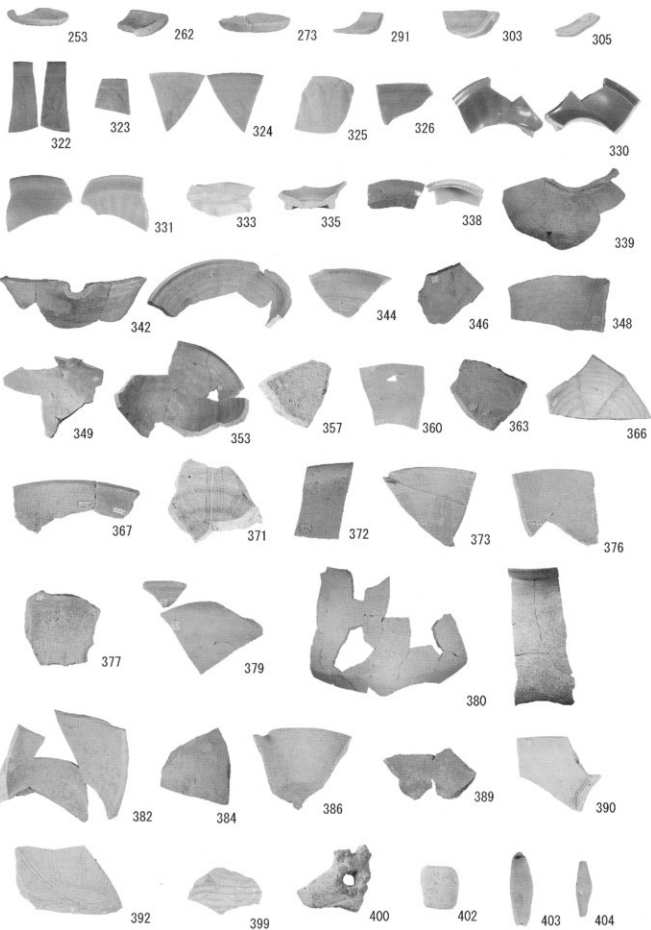


137

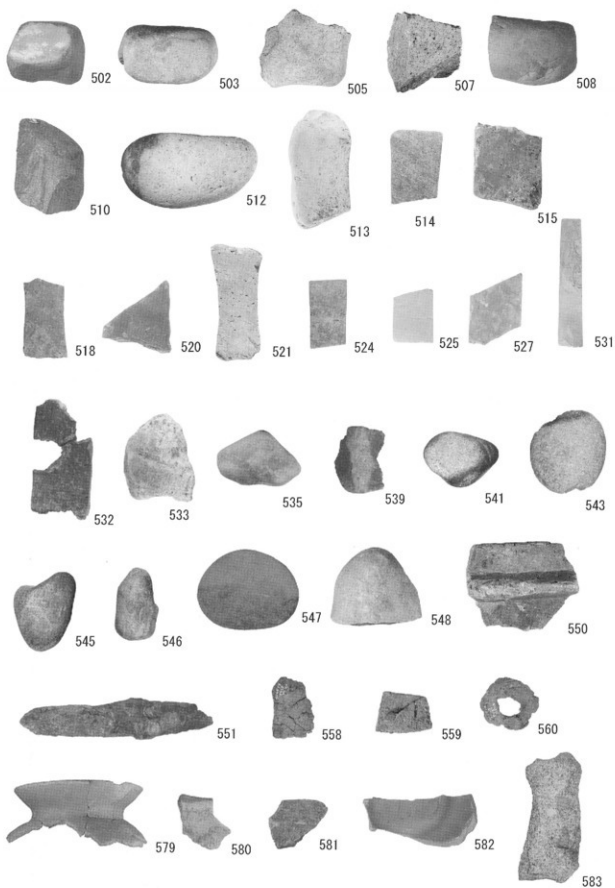


138









報告書抄録

ふりがな 書名	ふつかいちいしばちいせき							
副書名	二日市イシバチ遺跡3							
シリーズ名	北西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	8							
編著者名	田村昌宏							
編集機関	野々市市教育委員会							
所在地	〒921-8510 石川県野々市市三納一丁目1番地 TEL076-227-6122							
発行年月日	西暦 2013年3月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
ふつかいち 二日市イシバチ 遺跡 1次調査	いしかけん 石川県 ののしち 野々市市 ふつかいち 二日市町	17314	16024	36° 32′ 17″	136° 35′ 38″	20060508 ～ 20070116	7,849	記録保存 調査
二日市イシバチ 遺跡 5次調査	いしかけん 石川県 ののしち 野々市市 ふつかいち 二日市町	17344	16024	36° 32′ 13″	136° 35′ 32″	20080715 ～ 20030905	565	記録保存 調査
二日市イシバチ 遺跡 6次調査	いしかけん 石川県 ののしち 野々市市 ふつかいち 二日市町	17344	16024	36° 32′ 15″	136° 35′ 37″	20090413 ～ 20090828	2,130	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
二日市イシバチ 遺跡 1次調査	集落 古墳	弥生 古墳 中世	竪穴建物、掘立柱建物、 井戸、土坑 溝、古墳		弥生土器、土師器、 中世陶磁器、打製石斧			
二日市イシバチ 遺跡 5次調査	古墳	古墳	古墳		土師器			
二日市イシバチ 遺跡 6次調査	集落	弥生 中世	竪穴建物、掘立柱建物、 井戸、土坑、溝		弥生土器、土師器、 中世陶磁器、打製石斧			
要約	<p>弥生時代後期後半～古墳時代初期の集落跡と古墳を確認した。主要な遺構は、竪穴建物16棟、掘立柱建物17棟、布掘建物2棟、古墳5基である。竪穴建物には直径11mの五角形プランや、布掘建物には桁行6.5m×梁行4.5mといった各遺構に大型タイプのものが見られ、本調査地が集落の中心エリアになると想定される。竪穴建物S I 15からは、完形の甕と壺が1個体分出土しており、土器祭祀が行われたとみられる。確認した古墳は全て方墳で、集落域から鞍部を挟んだところで設置されている。中世においては集落跡を確認した。主要な遺構は竪穴状遺構19棟、掘立柱建物27棟、井戸8基である。竪穴状遺構、掘立柱建物、井戸は近接しており、そのエリアが生活空間であったようである。主要遺構の周囲には宅地割りや排水機能に使用したとされる溝が巡る。調査区の一角に諏溝群が見られる。古代の耕作溝と思われる。</p>							

2013年3月28日 発行

北西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 8

二日市イシバチ遺跡 3

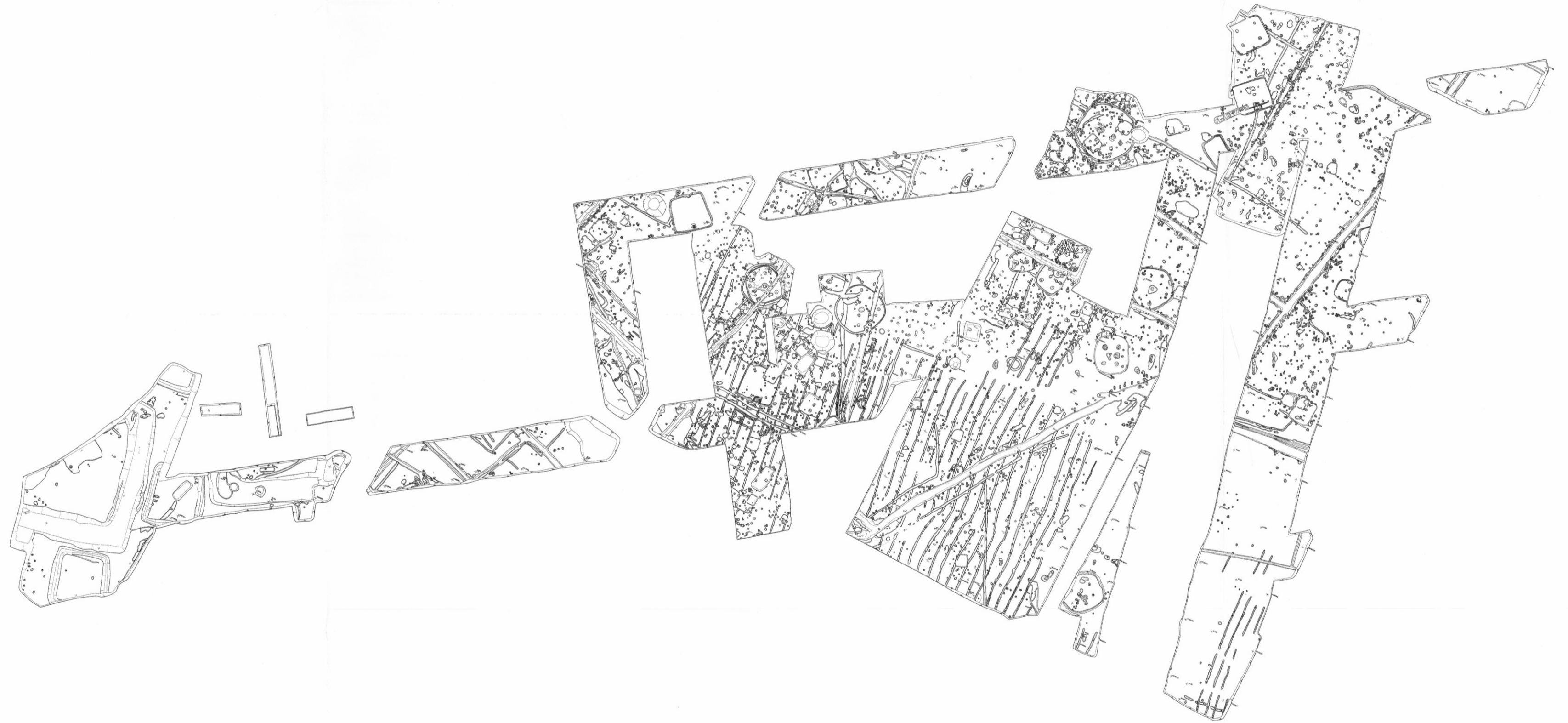
著作権所有 石川県野々市市三納一丁目1番地

発行者 野々市市教育委員会

印刷者 石川県金沢市八日市4丁目265番地4

前山印刷株式会社

二日市イシバチ遺跡遺構全体図 (第1・5・6・8・9次)



1:300

0 20 40 60 80 m

